

平成26年度

吳市民意識調査結果報告書

吳市

< 目 次 >

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の内容	1
3	調査の設計	1
4	回収結果	1
5	調査地区	1
6	集計・分析上の注意事項	2
7	回答者属性	3
II	調査結果の詳細	4
1	呉市の住みやすさについて	4
2	呉市の主要課題に対する意識について	24
(1)	健康づくり	24
(2)	少子化対策・高齢化対策	29
(3)	人権尊重	32
(4)	男女共同参画社会の推進	36
(5)	次世代育成	38
(6)	教育	40
(7)	市民協働	44
(8)	安全・安心	54
(9)	観光・交流	59
(10)	農水産業	64
(11)	ものづくり	69
(12)	環境	72
(13)	公共施設	76
(14)	空き家対策	81
(15)	高次都市機能	85
3	合併後の呉市のまちづくりについて	89
4	呉市の政策全般に対する満足度・重要度	92
(1)	行政サービスの満足度	93
(2)	行政サービスの重要度	96
(3)	行政サービスのニーズ度(重要度－満足度)	99
5	自由意見	102
◇	呉市民意識調査 調査票	106

I 調査の概要

1 調査の目的

市民の呉市に対するイメージや生活にかかわるさまざまな分野についての意見・評価などを探ることにより、今後の市政運営の参考資料とする。

2 調査の内容

- | | | |
|------------------|---------|-------------|
| (1) 呉市のイメージ・住みよさ | ⑥ 市民協働 | ⑫ 公共施設 |
| (2) 地域の主要課題 | ⑦ 安全・安心 | ⑬ 空き家対策 |
| ① 健康づくり | ⑧ 観光・交流 | ⑭ 高次都市機能 |
| ② 人権尊重 | ⑨ 農水産業 | (3) 満足度・重要度 |
| ③ 男女共同参画社会の推進 | ⑩ ものづくり | (4) 自由意見 |
| ④ 次世代育成 | ⑪ 環境 | (5) 回答者の属性 |
| ⑤ 教育 | | |

3 調査の設計

- | | |
|------------|----------------------------------|
| (1) 調査地域 | 呉市全域 |
| (2) 調査対象 | 呉市に居住する満 20 歳以上男女個人 |
| (3) 標本数 | 4,000 |
| (4) 抽出方法 | 層化無作為抽出法(住民基本台帳からの抽出) |
| (5) 調査方法 | 郵送配布・郵送回収 |
| (6) 調査実施期間 | 平成 26 年 12 月 8 日(月)～12 月 26 日(金) |

4 回収結果

- (1) 有効回収数 2,307 票
- (2) 有効回収率 57.7%

5 調査地区

市内を市役所支所管轄区域および支所を置いていない中央部の区域により、次の 18 地区に区分した。

- | | | |
|---------|----------|---------|
| (1) 中央 | (7) 宮原 | (13) 音戸 |
| (2) 吉浦 | (8) 天応 | (14) 倉橋 |
| (3) 警固屋 | (9) 昭和 | (15) 蒲刈 |
| (4) 阿賀 | (10) 郷原 | (16) 安浦 |
| (5) 広 | (11) 下蒲刈 | (17) 豊浜 |
| (6) 仁方 | (12) 川尻 | (18) 豊 |

6 集計・分析上の注意事項

(1) 図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入したものであり、端数処理のため、合計は必ずしも100%にならない場合がある。なお、複数回答は100%にはならない。

(2) 対象者の抽出は、各地区ともに同一の抽出率で抽出すると調査対象数が非常に少なくなる地区がある。そのため、各地区ごとに原則100を調査対象者とし、特に人口が多い地区には人口規模に応じて調査対象者を追加した。このため、回収されたデータと母集団(調査対象)の構成比をほぼ同じにするため、ウェイトバック(サンプル補正)集計を行った。

なお、ウェイトバック集計により、報告書内に記載する集計上のサンプル数と前述4の有効回収数とは異なる。

■地区別回収数及び補正後サンプル数

(単位：人，%)

	人口	構成比	配布数	回収数	ウェイト	補正後サンプル数
中央	44,758	22.8	660	368	1.432	527
吉浦	8,927	4.6	210	135	0.779	105
警固屋	4,482	2.3	100	67	0.788	53
阿賀	13,318	6.8	270	155	1.012	157
広	36,535	18.7	550	288	1.494	430
仁方	5,698	2.9	170	96	0.699	67
宮原	6,712	3.4	180	115	0.687	79
天応	3,599	1.8	100	69	0.614	42
昭和	28,061	14.3	450	289	1.143	330
郷原	3,689	1.9	100	61	0.712	43
下蒲刈	1,470	0.8	100	45	0.385	17
川尻	7,564	3.9	190	116	0.768	89
音戸	10,818	5.5	230	141	0.904	127
倉橋	5,305	2.7	170	78	0.801	62
蒲刈	1,765	0.9	100	70	0.297	21
安浦	9,724	5.0	220	121	0.946	115
豊浜	1,494	0.8	100	36	0.489	18
豊	1,979	1.0	100	57	0.409	23
合計	195,898	100.0	4,000	2,307		2,305

※ウェイト値＝地区の人口÷回収数×(回収数合計÷人口合計)

7 回答者属性

F1 性別

項目	件数	割合 (%)
男性	892	38.7
女性	1,328	57.6
無回答	85	3.7
サンプル数 (全体)	2,305	100.0

F2 年齢

項目	件数	割合 (%)
20歳代	153	6.6
30歳代	231	10.0
40歳代	264	11.5
50歳代	321	13.9
60～64歳代	251	10.9
65歳以上	1,002	43.5
無回答	83	3.6
サンプル数 (全体)	2,305	100.0

F3 職業

項目	件数	割合 (%)
農林水産業の自営・家族従業者	41	1.8
商工販売サービス業の自営・家族従業者	70	3.0
自由業(開業医, 弁護士等の個人事業者)	38	1.6
会社員・団体職員	423	18.4
会社役員・団体役員	36	1.6
公務員	118	5.1
学生	20	0.9
家事専業	348	15.1
パート・アルバイト	310	13.4
無職	729	31.6
その他	75	3.3
無回答	97	4.2
サンプル数 (全体)	2,305	100.0

F4 家族構成

項目	件数	割合 (%)
1人世帯	304	13.2
1世代家族 (夫婦のみ)	695	30.2
2世代家族 (親と子)	1,008	43.7
3世代家族 (親と子と孫)	171	7.4
その他	28	1.2
無回答	99	4.3
サンプル数 (全体)	2,305	100.0

F5 家族構成〔複数回答〕

項目	件数	割合 (%)
0～2歳児	87	3.8
3～5歳児	106	4.6
小学生	188	8.2
中学生	138	6.0
高校生	137	5.9
大学生	84	3.6
65歳以上の方	762	33.1
1～6の該当者はいない	1,373	59.6
無回答	102	4.4

F6 市内在住年数

項目	件数	割合 (%)
2年未満	51	2.2
2年以上	40	1.7
5年以上	56	2.4
10年以上	158	6.9
20年以上	1,900	82.4
無回答	100	4.3
サンプル数 (全体)	2,305	100.0

F7 通勤・通学先

項目	件数	割合 (%)
呉市内	866	37.6
呉市外	219	9.5
なし	1,114	48.3
無回答	106	4.6
サンプル数 (全体)	2,305	100.0

F8 居住形態

項目	件数	割合 (%)
1戸建て持ち家	1,604	69.6
1戸建て借家	101	4.4
分譲マンション	169	7.3
賃貸マンション・アパート	186	8.1
社宅・官舎・寮	55	2.4
公営住宅	61	2.6
その他	28	1.2
無回答	101	4.4
サンプル数 (全体)	2,305	100.0

II 調査結果の詳細

1 呉市の住みよさについて

◇呉市を『住みよい』と感じている人	⇒ 70%
◇呉市に『愛着』を感じている人	⇒ 70%
◇住んでいる地域での人口変化に不安を感じている人	⇒ 41%
◇今の居住地にこれからも『住み続けたい』と思う人	⇒ 64%

問1 あなたは、呉市を「住みよい」まちだと思いますか。(〇は1つ)

呉市の住みよさについては、「住みよい」が22.5%、「どちらかといえば住みよい」が47.0%で「住みよい」と感じている人は合わせて69.5%と約7割を占める。

なお、平成21年度の前回調査と比較すると、「住みよい」(前回26.0%)がやや減少し、「どちらかといえば住みよい」(同43.9%)が増加しているため、合計での「住みよい」(同69.9%)はほぼ同水準であった。

<性別・年齢別>

性別で見ると、「住みよい」と感じている人(「どちらかといえば住みよい」含む)は、『男性』67.5%、『女性』72.1%で、『女性』の方が4.6ポイント高い。

年齢別で見ると、「住みよい」と感じている人(「どちらかといえば住みよい」含む)は、『60歳以上』が73.4%で最も多く、概ね年齢が上がるほど多くなっている。

図1-1 呉市の住みよさ

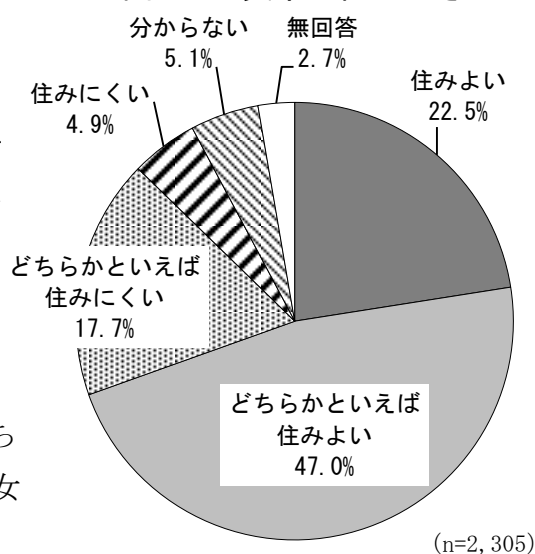
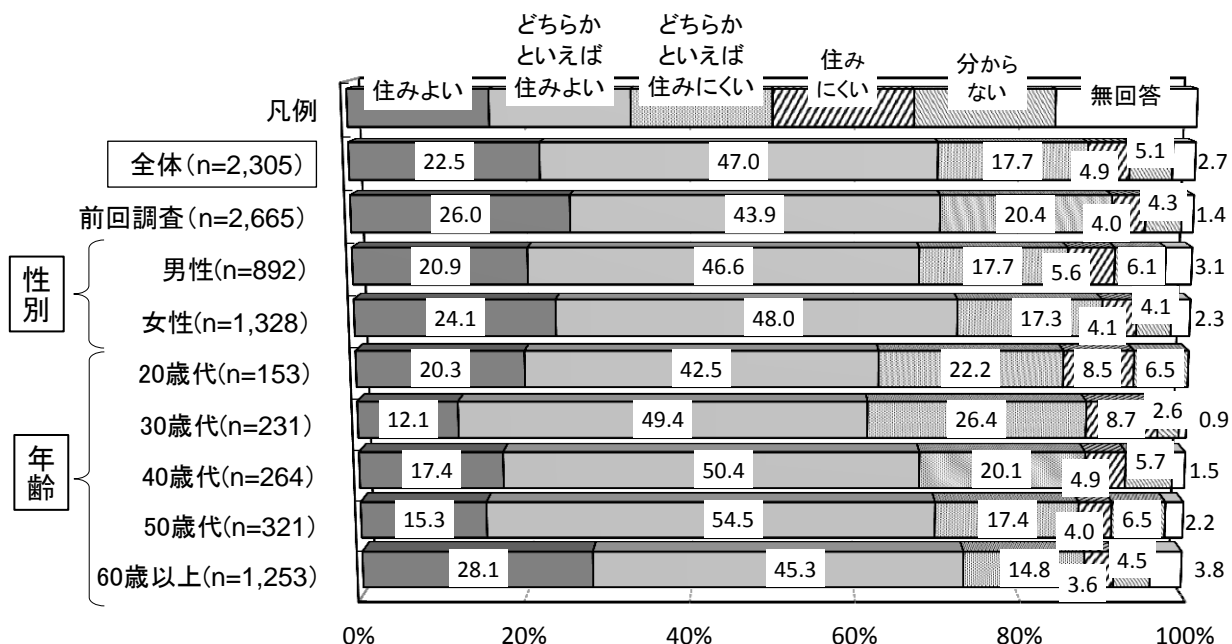


図1-2 呉市の住みよさ<性別・年齢別>

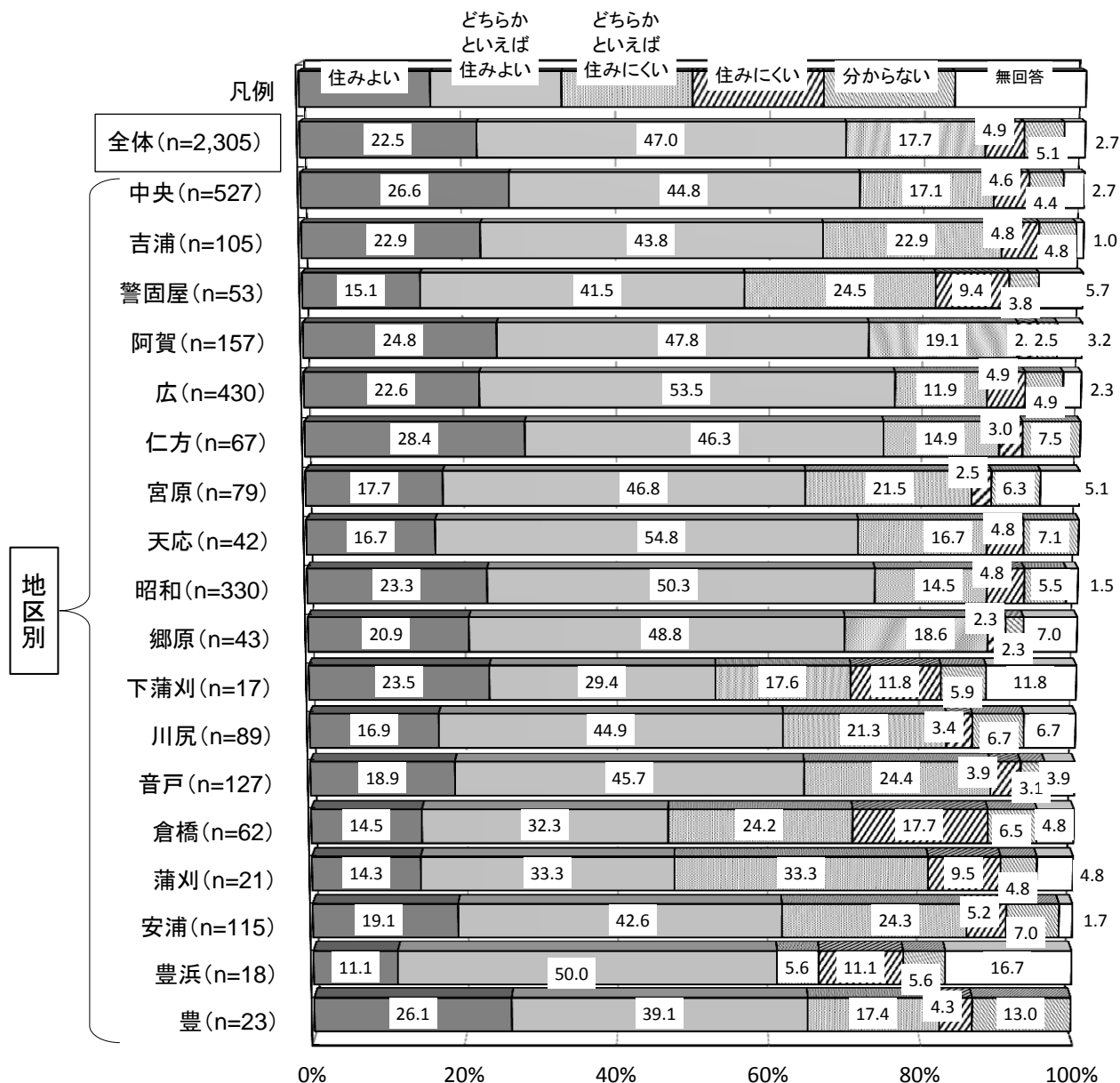


<地区別>

「住みよい」と感じている人(「どちらかといえば住みよい」含む)は、『広』が76.1%で最も多く、次いで『仁方』74.7%、『昭和』73.6%、『阿賀』72.6%、『天応』71.5%、『中央』71.4%が7割を超えている。

一方、『倉橋』46.8%、『蒲刈』47.6%、『下蒲刈』52.9%、『警固屋』56.6%では「住みよい」と感じている割合が比較的低くなっている。

図 1-3 呉市の住みよさ<地区別>

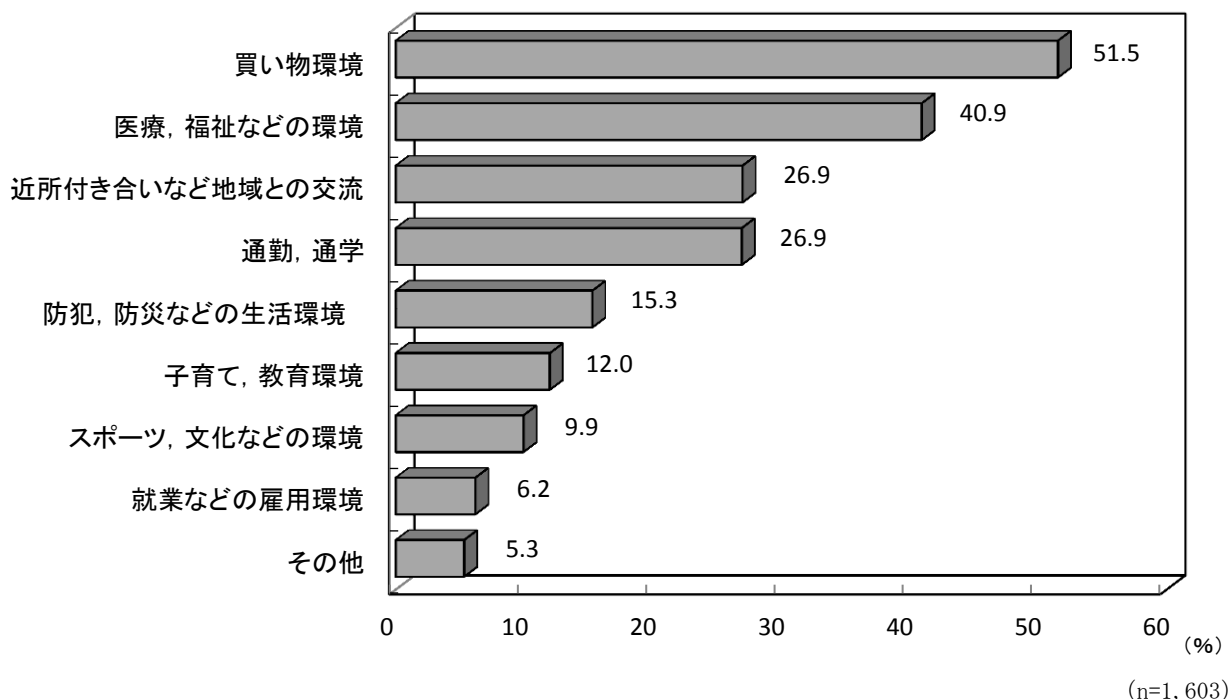


問 1-1 上記問 1 で「住みよい」「どちらかといえば住みよい」「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」に回答した方のみ
 住みよい又は住みにくいと感ずる要因は、何ですか。(〇はいくつでも)

「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」と回答した人に住みよいと感ずる要因を聞いたところ、「買い物環境」が 51.5% で最も多く、次いで「医療、福祉などの環境」40.9% と上位を占めている。このほか「近所付き合いなど地域との交流」26.9%、「通勤、通学」26.9% がやや高くなっている。

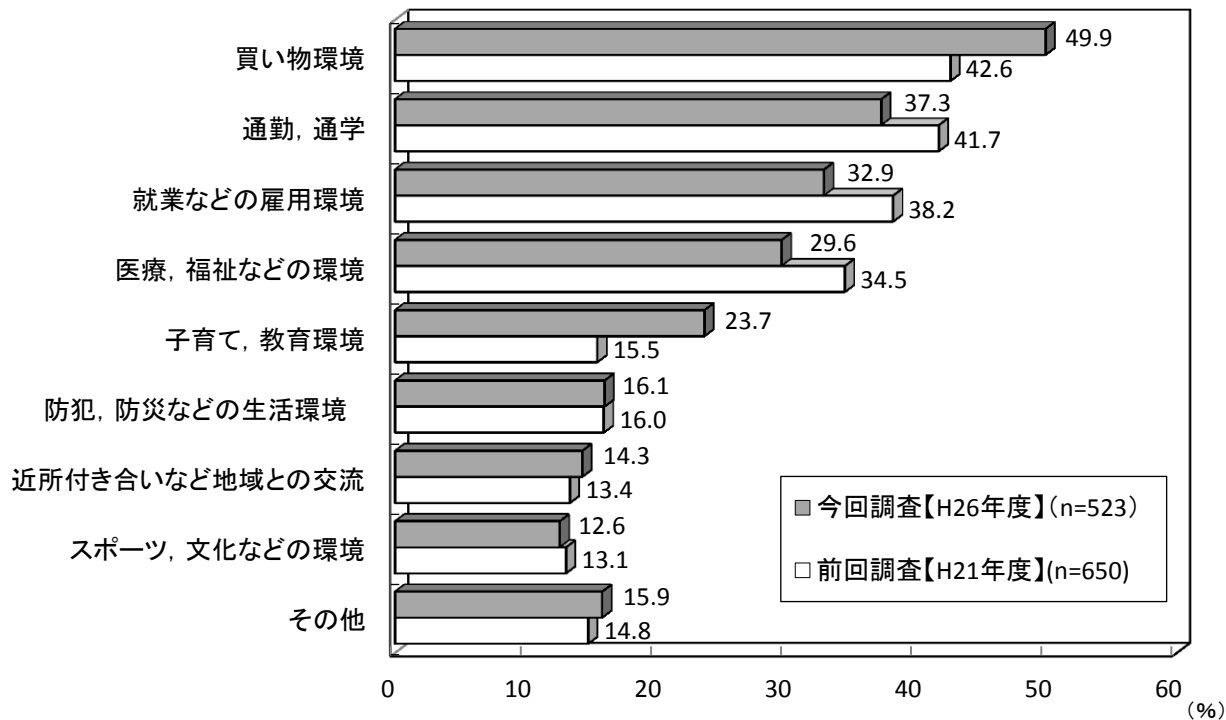
また、「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」と回答した人に住みにくいと感ずる要因を聞いたところ、「買い物環境」が 49.9% で最も多く、次いで「通勤、通学」37.3%、「就業などの雇用環境」32.9% が上位を占め、3 割を超えている。

図 1-4 住みよいと感ずる要因



住みにくいと感ずる要因を前回調査と比較すると、「買い物環境」（前回 42.6%）、「通勤、通学」（同 41.7%）、「就業などの雇用環境」（同 38.2%）の上位 3 要因に変動はない。「買い物環境」、「子育て、教育環境」は 5 ポイント以上高くなっている。

図 1-5 住みにくいと感ずる要因



住みよいと感じる要因を地区別にみると、旧呉市の多くで「買い物環境」が最も多くなっている地区が多い。一方、その他の地区では「近所付き合いなど地域との交流」や「医療、福祉などの環境」が最も多くなっている地区がみられる。

表 1-1 住みよいとを感じる要因<地区別>

(単位：%)

地区名	第1位	第2位	第3位
全体 (n=1,603)	買い物環境 51.5	医療、福祉などの環境 40.9	近所付き合いなど地域との交流 26.9
中央 (n=376)	買い物環境 52.1	医療、福祉などの環境 50.3	通勤、通学 26.9
吉浦 (n=70)	買い物環境 55.7	医療、福祉などの環境 41.4	通勤、通学 40.0
警固屋 (n=30)	買い物環境 40.0	近所付き合いなど地域との交流 33.3	医療、福祉などの環境 26.7
阿賀 (n=114)	買い物環境 58.8	医療、福祉などの環境 45.6	近所付き合いなど地域との交流 31.6
広 (n=327)	買い物環境 65.1	医療、福祉などの環境 41.6	通勤、通学 33.6
仁方 (n=50)	買い物環境 52.0	医療、福祉などの環境 44.0	通勤、通学 36.0
宮原 (n=51)	買い物環境 43.1	医療、福祉などの環境 43.1	通勤、通学 29.4
天応 (n=30)	通勤、通学 36.7	医療、福祉などの環境 33.3	近所付き合いなど地域との交流 30.0
昭和 (n=243)	買い物環境 62.1	医療、福祉などの環境 30.9	近所付き合いなど地域との交流 24.3
郷原 (n=30)	医療、福祉などの環境 36.7	通勤、通学 33.3	買い物環境 26.7
下蒲刈 (n=9)	医療、福祉などの環境 44.4	近所付き合いなど地域との交流 33.3	買い物環境 22.2
川尻 (n=55)	近所付き合いなど地域との交流 32.7	買い物環境 30.9	通勤、通学 27.3
音戸 (n=82)	近所付き合いなど地域との交流 43.9	医療、福祉などの環境 34.1	買い物環境 30.5
倉橋 (n=29)	医療、福祉などの環境 41.4	近所付き合いなど地域との交流 34.5	買い物環境 31.0
蒲刈 (n=10)	近所付き合いなど地域との交流 70.0	医療、福祉などの環境 30.0	防犯、防災などの生活環境 20.0
安浦 (n=71)	医療、福祉などの環境 42.3	近所付き合いなど地域との交流 31.0	買い物環境 29.6
豊浜 (n=11)	近所付き合いなど地域との交流 54.5	買い物環境 27.3	医療、福祉などの環境 27.3
豊 (n=15)	近所付き合いなど地域との交流 60.0	医療、福祉などの環境 53.3	防犯、防災などの生活環境 33.3

※ ■は全体で第1位の項目

住みにくいと感ずる要因を地区別にみると、多くの地区で「買い物環境」が最も多くなっている。その他では、『広』、『仁方』、『昭和』、『下蒲刈』で「通勤、通学」、『豊』で「医療、福祉などの環境」が最も多くなっている。

表 1-2 住みにくいと感ずる要因<地区別>

(単位：%)

地区名	第1位	第2位	第3位
全体 (n=523)	買い物環境 49.9	通勤、通学 37.3	就業などの雇用環境 32.9
中央 (n=114)	買い物環境 52.6	就業などの雇用環境 36.8	子育て、教育環境 28.1
吉浦 (n=29)	買い物環境 51.7	就業などの雇用環境 34.5	子育て、教育環境 27.6
警固屋 (n=18)	買い物環境 50.0	通勤、通学 38.9	就業などの雇用環境 33.3
阿賀 (n=34)	買い物環境 44.1	通勤、通学 23.5	防犯、防災などの生活環境 20.6
広 (n=72)	通勤、通学 38.9	買い物環境 34.7	子育て、教育環境 26.4
仁方 (n=12)	通勤、通学 66.7	買い物環境 41.7	子育て、教育環境 33.3
宮原 (n=19)	買い物環境 57.9	就業などの雇用環境 31.6	スポーツ、文化などの環境 26.3
天応 (n=9)	買い物環境 100.0	通勤、通学 33.3	子育て、教育環境 22.2
昭和 (n=64)	通勤、通学 56.3	就業などの雇用環境 35.9	子育て、教育環境 29.7
郷原 (n=9)	買い物環境 77.8	通勤、通学 66.7	子育て、教育環境 33.3
下蒲刈 (n=5)	通勤、通学 買い物環境 80.0		子育て、教育環境 40.0
川尻 (n=22)	買い物環境 63.6	通勤、通学 54.5	就業などの雇用環境 27.3
音戸 (n=36)	買い物環境 69.4	医療、福祉などの環境 50.0	通勤、通学 47.2
倉橋 (n=26)	買い物環境 57.7	医療、福祉などの環境 57.7	通勤、通学 34.6
蒲刈 (n=9)	買い物環境 77.8	通勤、通学 66.7	就業などの雇用環境 55.6
安浦 (n=34)	買い物環境 55.9	医療、福祉などの環境 44.1	通勤、通学 41.2
豊浜 (n=3)	買い物環境 100.0	医療、福祉などの環境 66.7	就業などの雇用環境 66.7
豊 (n=5)	医療、福祉などの環境 60.0	買い物環境 40.0	通勤、通学 20.0

※ ■は全体で第1位の項目

問2 あなたは、呉市に「愛着」を感じますか。(〇は1つ)

呉市への愛着については、「感じる」が69.7%と約7割で、「感じない」は11.2%と1割程度にとどまっている。

なお、前回調査と比較すると、「感じる」(前回73.1%)がやや減少している。

<性別・年齢別>

性別は男女ともにほぼ同水準であった。

年齢別でみると、「感じる」は、『60歳以上』が76.1%で最も多く、年齢が上がるほど多くなる傾向にあるが、『20歳代』は65.4%と30代よりも高い水準にある。

図2-1 呉市への「愛着」

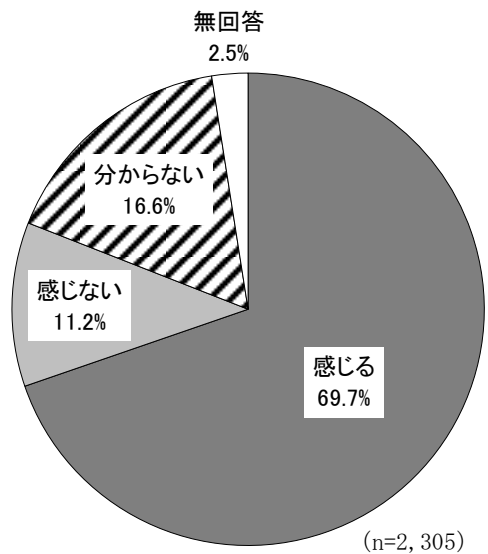
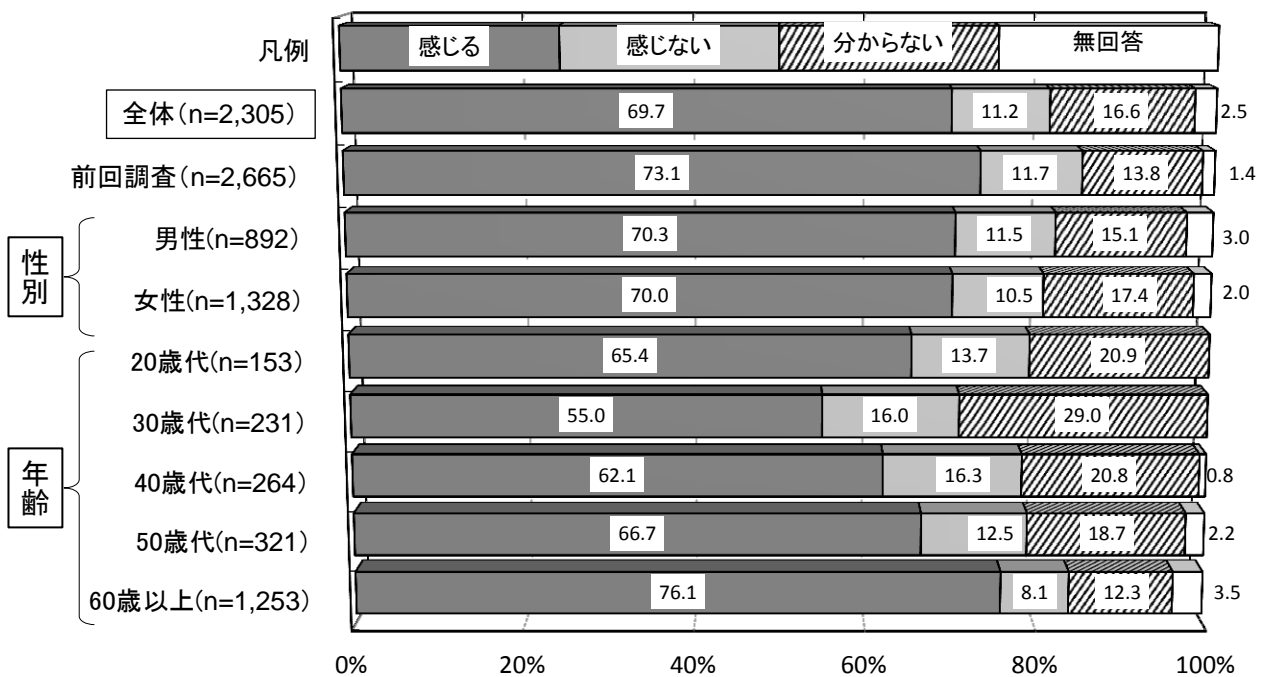


図2-2 呉市への「愛着」<性別・年齢別>

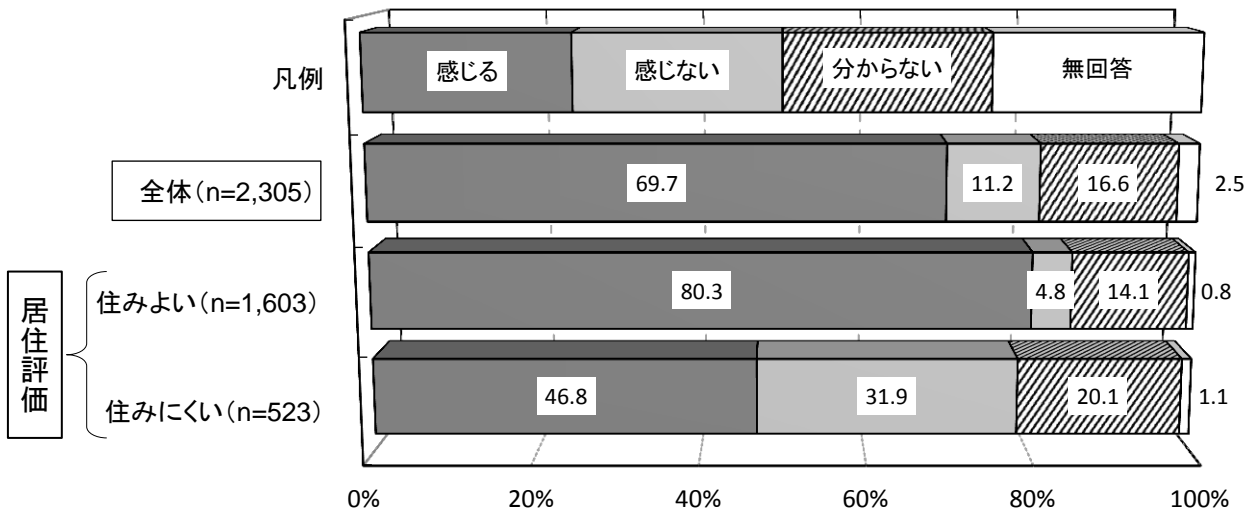


<居住評価別>

居住評価別でみると、問1において『住みよい』と感じている人(「どちらかといえば住みよい」含む)は、「感じる」が80.3%と約8割を占めており、呉市への「愛着」が強いことがわかる。

一方、『住みにくい』と感じている人(「どちらかといえば住みにくい」含む)は、「感じる」が46.8%と5割弱にとどまっている。

図 2-3 呉市への「愛着」<居住評価別>

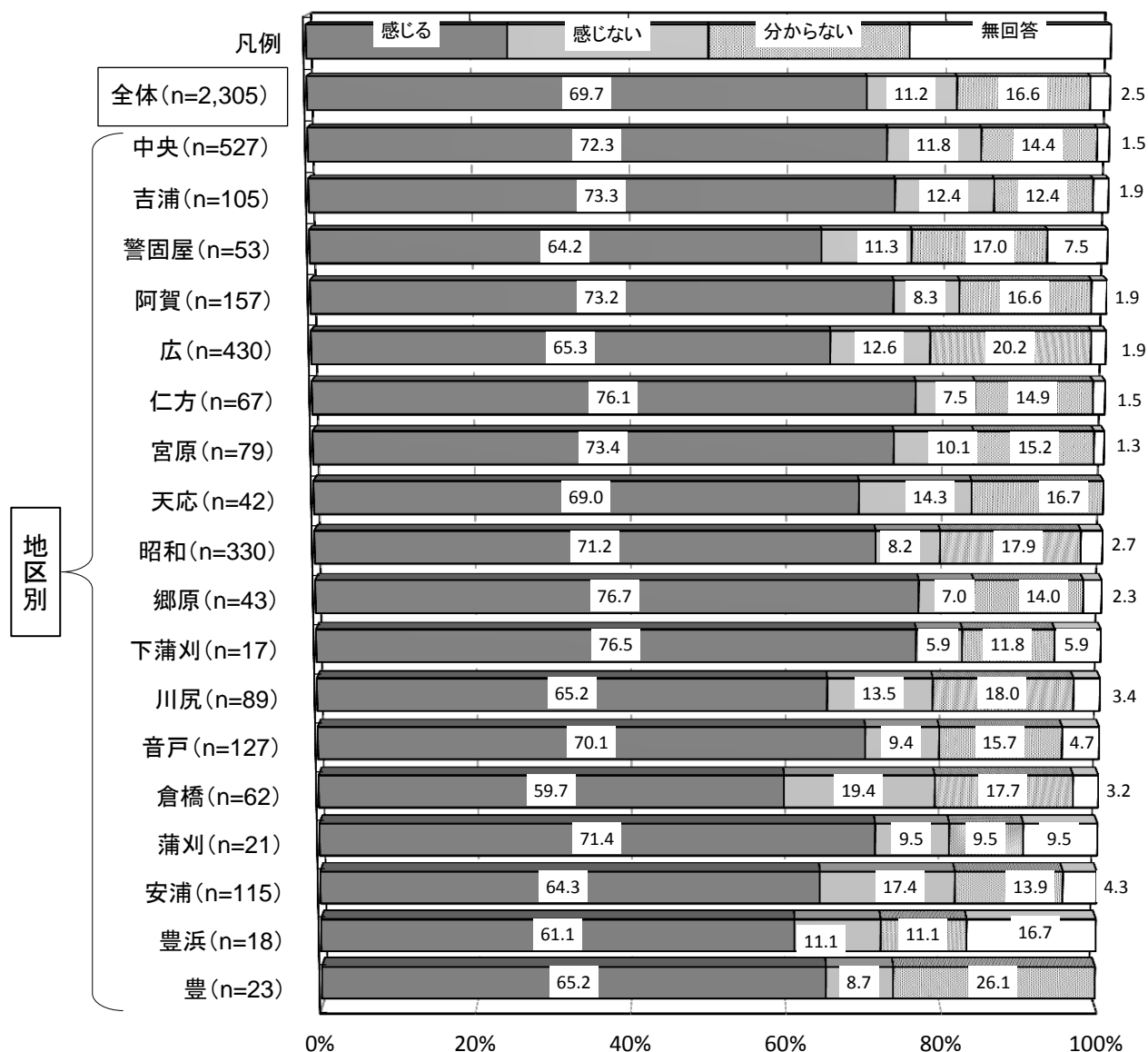


<地区別>

地区別でみると、「感じる」は、『郷原』が76.7%で最も多く、次いで『下蒲刈』76.5%、『仁方』76.1%、『宮原』73.4%、『吉浦』73.3%、『阿賀』73.2%、『中央』72.3%、『蒲刈』71.4%、『昭和』71.2%、『音戸』70.1%と続くなど、多くの地区で7割を超えている。

なお、『倉橋』は59.7%と唯一6割を割り込んでいる。

図 2-4 呉市への「愛着」<地区別>



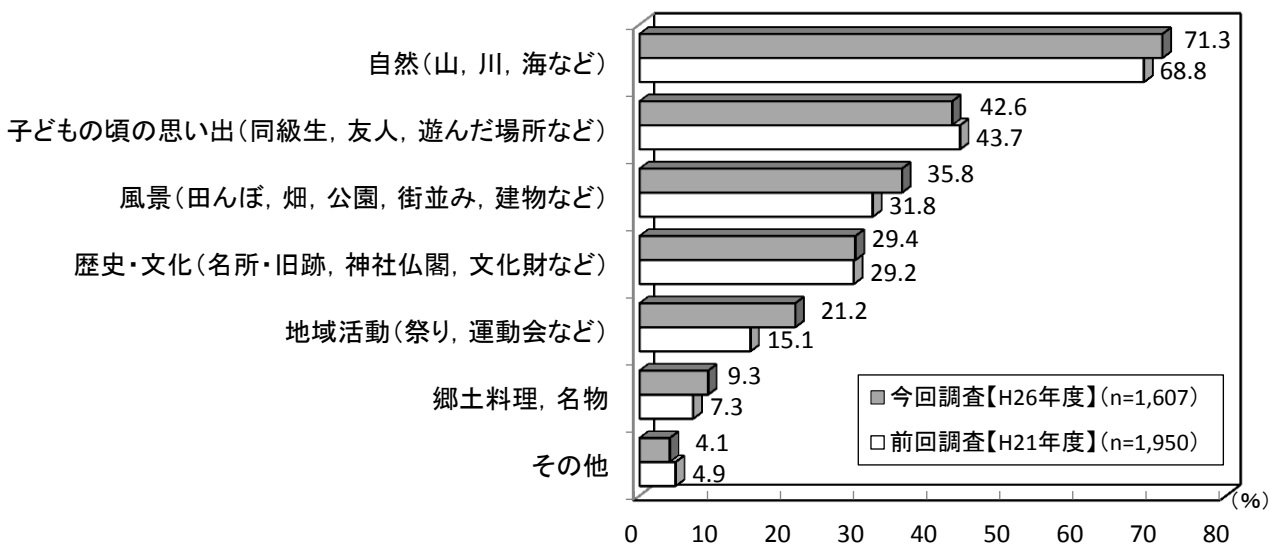
問 2-1 上記問 2 で「呉市に愛着を感じる」と回答した方のみ

どんなところに愛着を感じますか。(〇はいくつでも)

「感じる」と回答した人にどんなところに愛着を感じるかを聞いたところ、「自然(山, 川, 海など)」が 71.3%で最も多く, 次いで「子どもの頃の思い出(同級生, 友人, 遊んだ場所など)」42.6%, 「風景(田んぼ, 畑, 公園, 街並み, 建物など)」35.8%, 「歴史・文化(名所・旧跡, 神社仏閣, 文化財など)」29.4%が上位を占めている。

なお, 前回調査と比較すると, ほぼ同様の結果となっているが, 「地域活動(祭り, 運動会など)」(前回 15.1%)は 6.1 ポイント増加している。

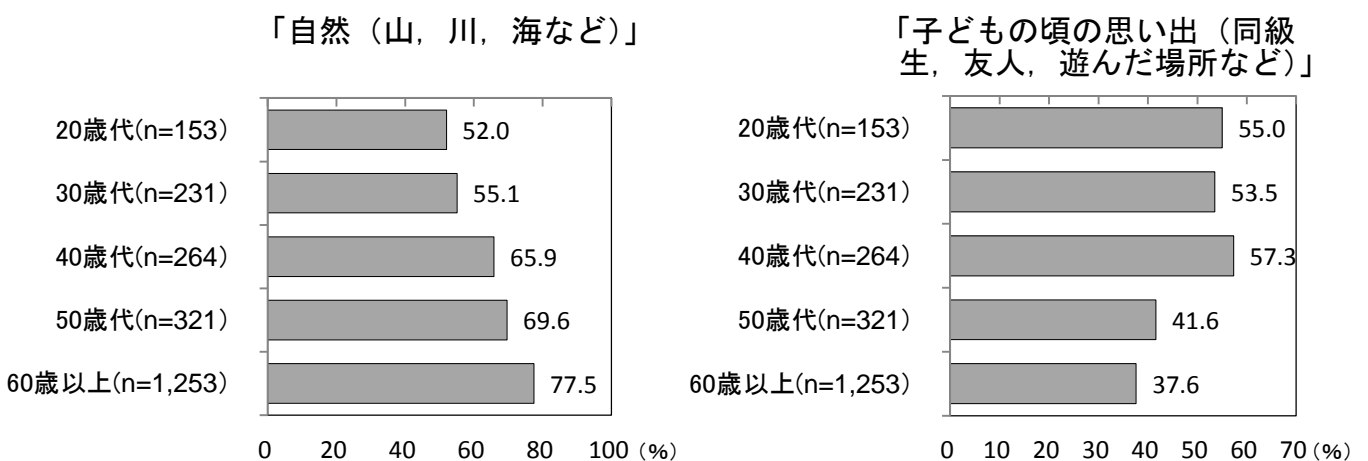
図 2-5 「愛着」を感じるどころ



<年齢別>

上位 2 項目について年齢別でみると, 「自然(山, 川, 海など)」は, 『60 歳以上』が 77.5%で最も多く, 年齢が上がるほど多くなっている。一方, 「子どもの頃の思い出(同級生, 友人, 遊んだ場所など)」は, 『40 歳代』が 57.3%で最も多く, 次いで『20 歳代』55.0%, 『30 歳代』53.5%となっている。

図 2-6 「愛着」を感じるどころ 上位 2 項目<年齢別>



問3 あなたは、お住まいの地域（ご近所）で、近年人口がどう変化していると思いますか。（〇は1つ）

住まいの地域の近年の人口変化については、「減っている」と感じている人（「かなり減っている」と「やや減っている」）は、60.2%と約6割を占めている。一方、「増えている」と感じている人（「かなり増えている」と「やや増えている」）は、13.1%となっている。

<性別・年齢別>

性別で見ると、男女での差異はほとんどない。
 年齢別で見ると、「減っている」は、『60歳以上』が68.0%で最も多くなっている。一方、『20歳代』、『30歳代』は「分からない」が多くなっている。

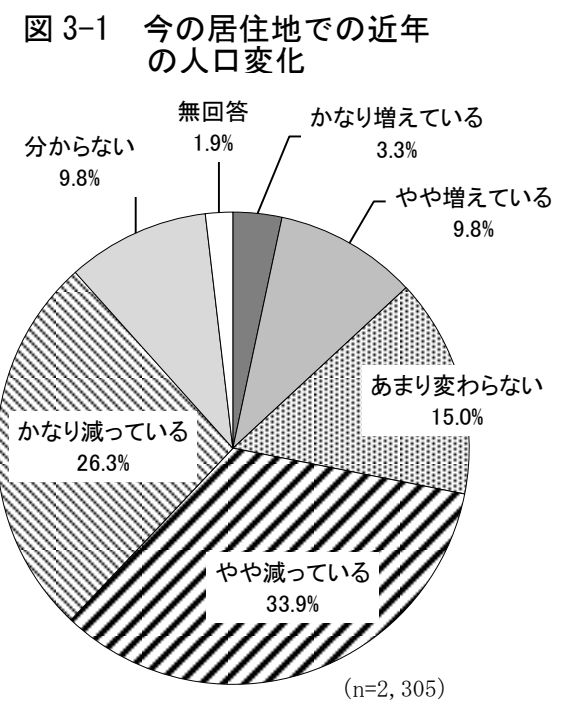
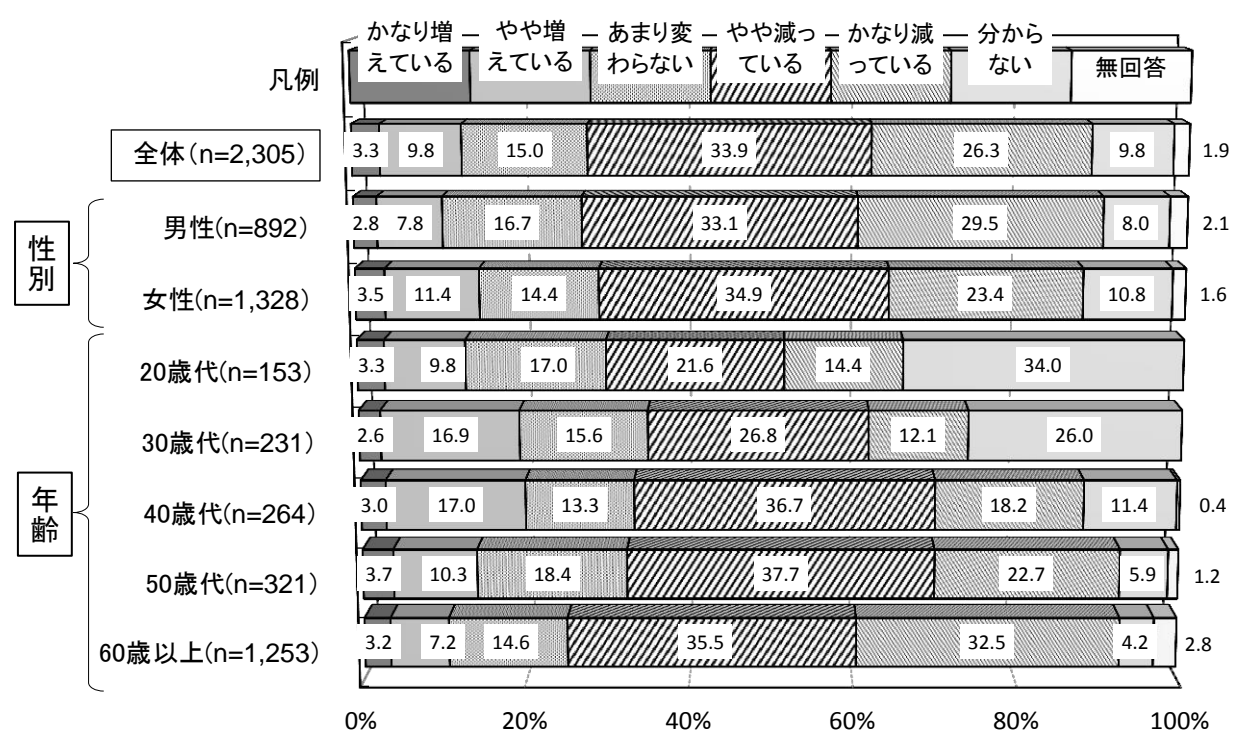


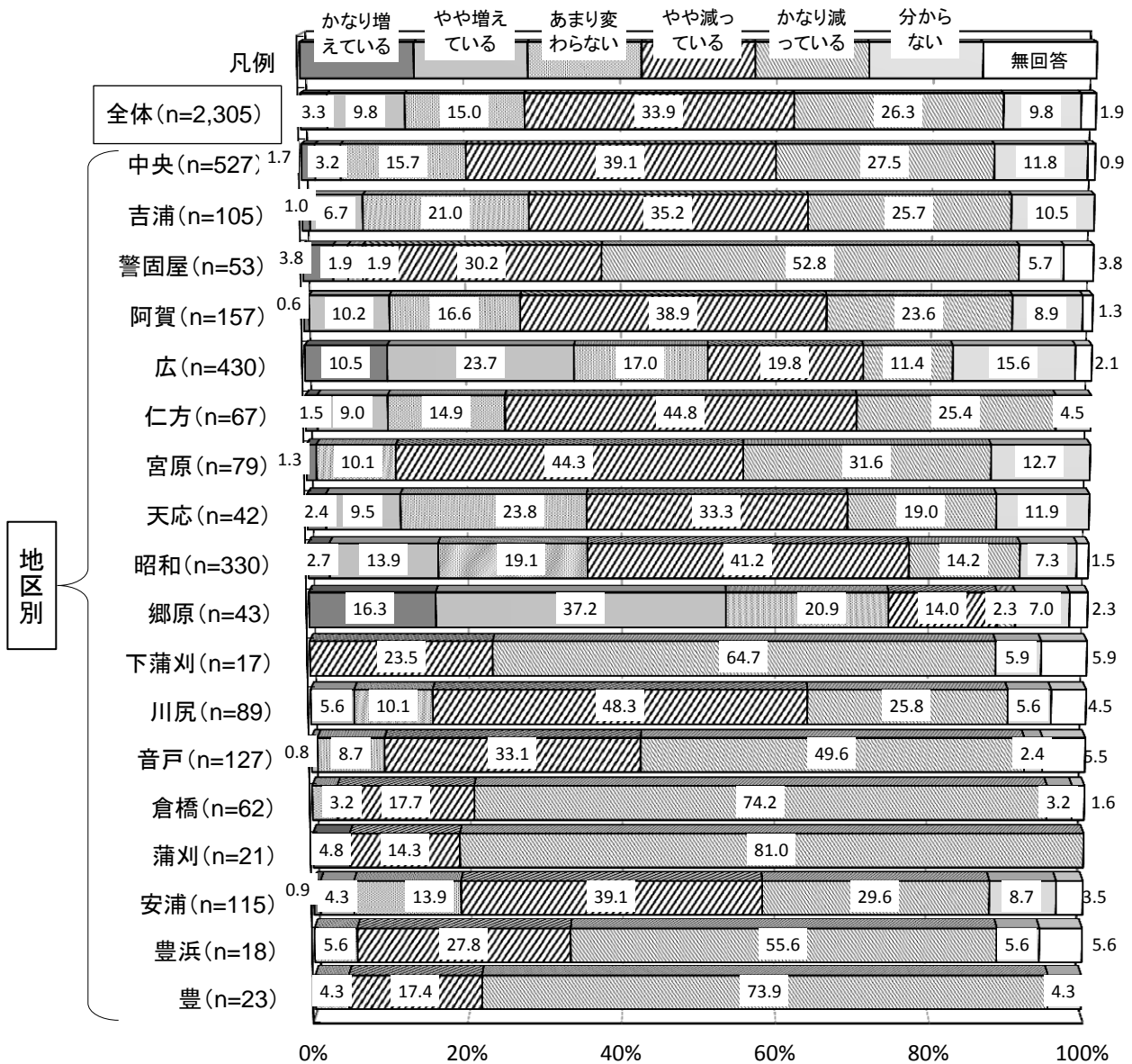
図3-2 今の居住地での近年の人口変化<性別・年齢別>



<地区別>

地区別でみると、「減っている」と感じている人が多いのは、『蒲刈』の95.3%で最も多く、『倉橋』91.9%、『豊』91.3%でも9割以上を占めている。また、『下蒲刈』88.2%、『豊浜』83.4%、『警固屋』83.0%、『音戸』82.7%でも8割以上を占めている。一方、『郷原』では「増えている」と感じている人が53.5%で半数以上を占めているほか、『広』34.2%でも3分の1の人が「増えている」と感じている。

図 3-3 今の居住地での近年の人口変化<地区別>

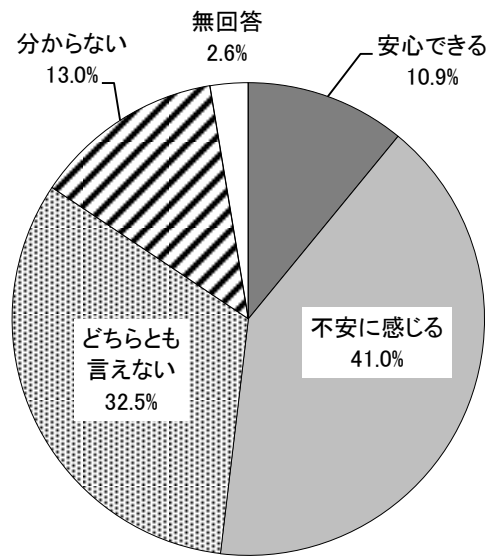


問4 お住まいの地域（ご近所）での人口の変化について、どうお考えですか。

（○は1つ）

人口変化についての考えをみると、「不安を感じる」が41.0%と4割で、「安心できる」は10.9%と1割にとどまっている。

図4-1 人口変化についての考え



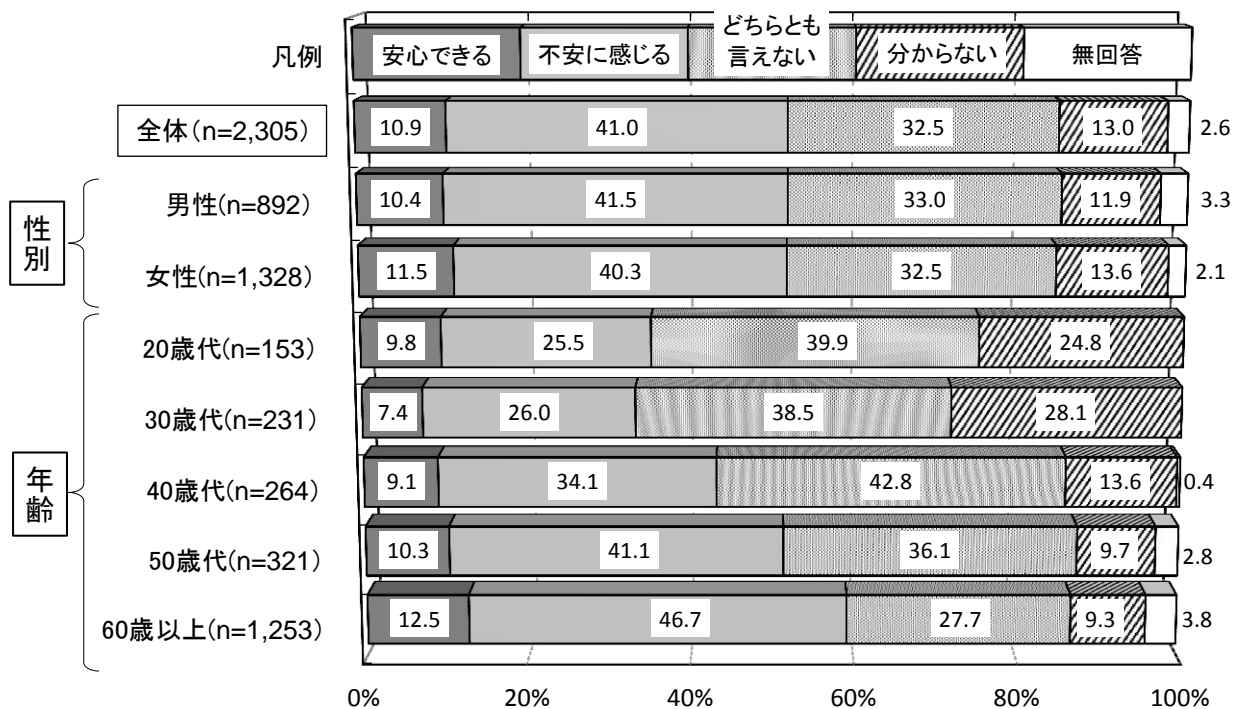
(n=2,305)

<性別・年齢別>

性別は男女ともにほぼ同水準であった。

年齢別でみると、「不安を感じる」は、『60歳以上』が46.7%で最も多く、年齢が上がるほど多くなる傾向にある。なお、『20歳代』『30歳代』では「わからない」が2割以上とやや多くなっている。

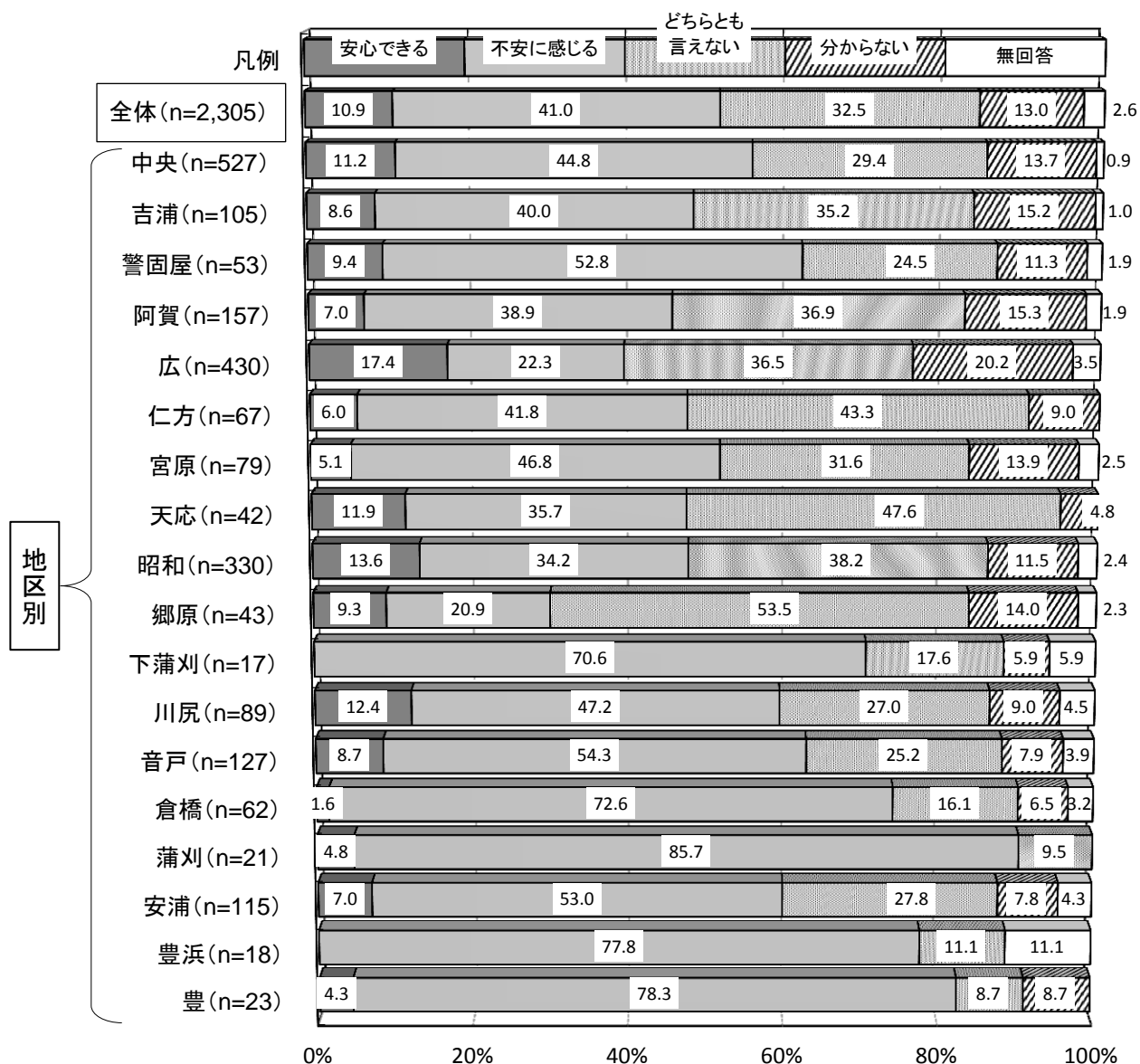
図4-2 人口変化についての考え<性別・年齢別>



<地区別>

地区別でみると、「不安を感じる」とする人が多いのは、『蒲刈』の85.7%で最も多く、8割以上を占めている。また、『豊』78.3%、『豊浜』77.8%、『倉橋』72.6%、『下蒲刈』70.6%でも7割以上を占めている。一方、『広』では「安心できる」とする人が17.4%で最も多く、『昭和』13.6%、『川尻』12.4%、『天応』11.9%、『中央』11.2%でも1割以上の人が「安心できる」と感じている。

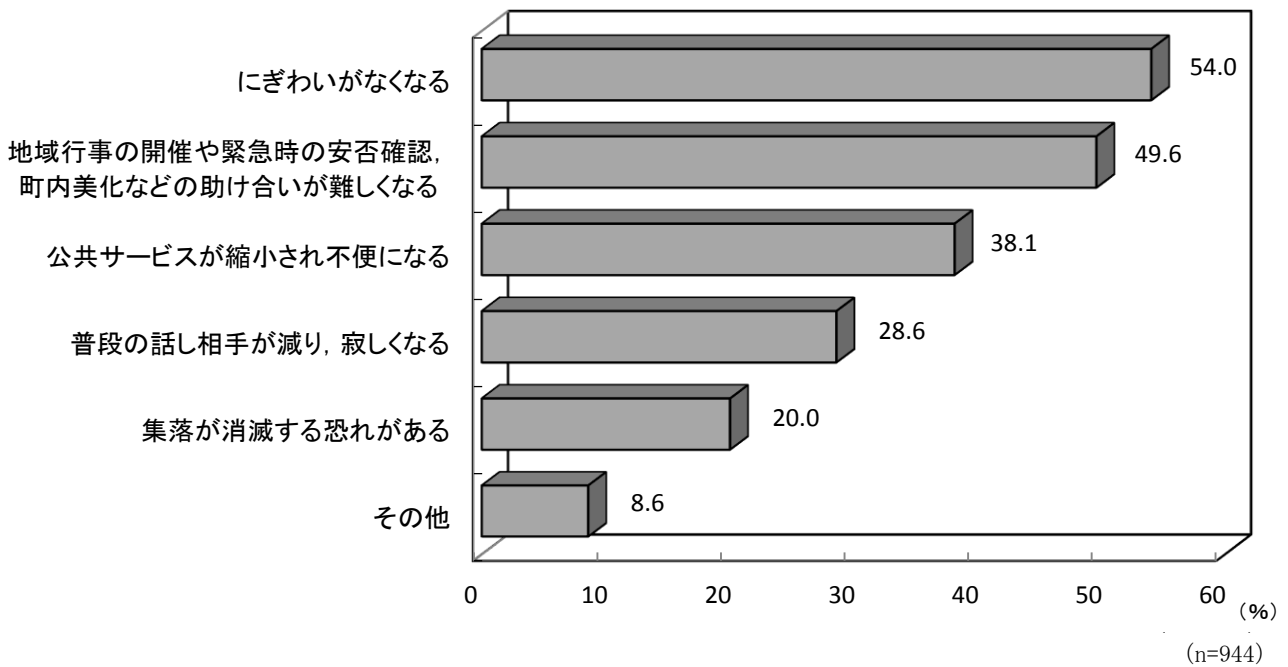
図 4-3 人口変化についての考え<地区別>



問 4-1 上記問 4 で「不安を感じる」に回答した方のみ
なぜ不安を感じるのですか。(〇はいくつでも)

人口変化を不安を感じる理由をみると、「にぎわいがなくなる」が 54.0%で最も多く、半数以上を占めており、「地域行事の開催や緊急時の安否確認，町内美化などの助け合いが難しくなる」49.6%もほぼ半数が挙げている。また、「公共サービスが縮小され不便になる」も 38.1%で4割弱と多くなっている。

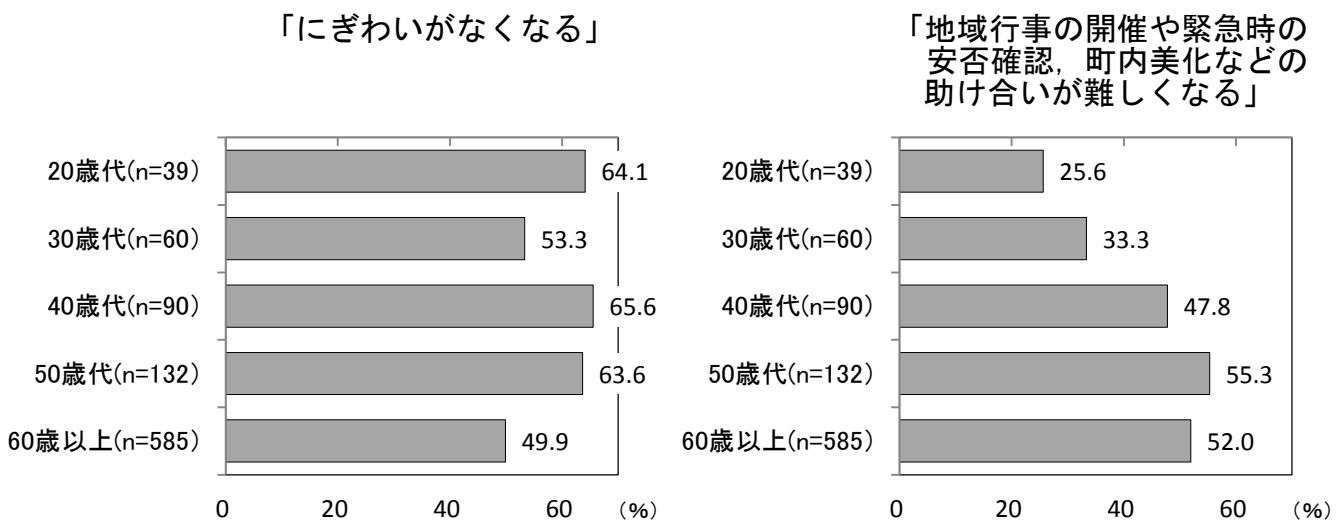
図 4-4 人口変化を不安を感じる理由



<年齢別>

上位 2 項目について年齢別でみると、「にぎわいがなくなる」は、『20 歳代』、『40 歳代』、『50 歳代』で 60%以上と高くなっている。一方、「地域行事の開催や緊急時の安否確認，町内美化などの助け合いが難しくなる」は、『50 歳代』が 55.3%と最も多く、年齢が若いほど低くなっており、『20 歳代』は 25.6%にとどまっている。

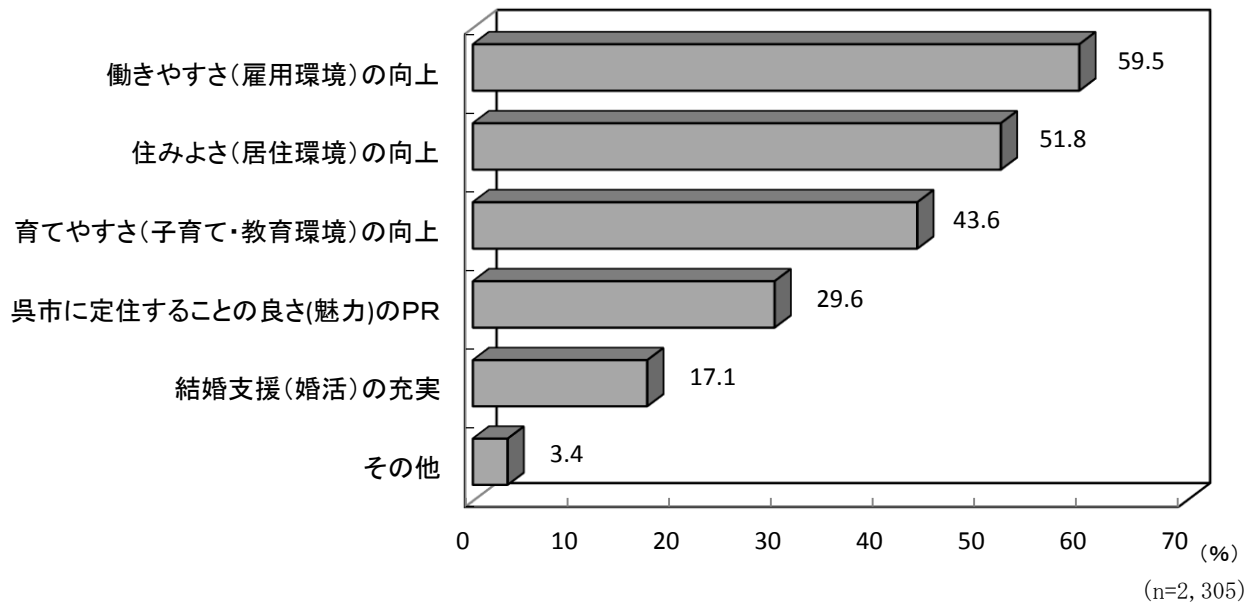
図 4-5 人口変化を不安を感じる理由 上位 2 項目<年齢別>



問5 人口減少を少しでも抑えるためには、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

人口減少を抑制するために必要な取組では、「働きやすさ(雇用環境)の向上」が59.5%で最も多く、6割弱を占めており、「住みよさ(居住環境)の向上」51.8%も半数以上となっている。また、「育てやすさ(子育て・教育環境)の向上」も43.6%で4割強と多くとなっている。一方、「結婚支援(婚活)の充実」は17.1%にとどまっている。

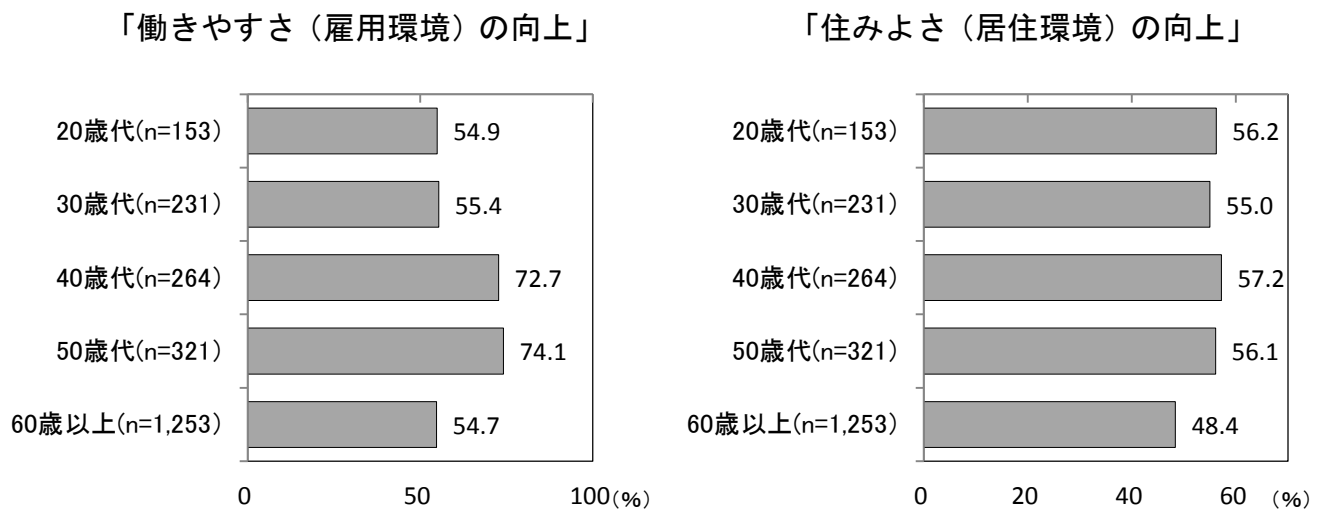
図5-1 人口減少を抑制するために必要な取組



<年齢別>

上位2項目について年齢別でみると、「働きやすさ(雇用環境)の向上」は、『40歳代』、『50歳代』で70%以上と高くなっている。一方、「住みよさ(居住環境)の向上」は、『60歳以上』を除いて各年齢層で5割以上と高くなっている。

図5-2 人口減少を抑制するために必要な取組 上位2項目<年齢別>



問6 あなたは、今住んでいる地域に、これからも「住み続けたい」と思いますか。
(○は1つ)

今の居住地への居住意向については、「住み続けたい」が63.5%と6割以上を占め、「移りたい(市内)」7.9%、「移りたい(市外)」8.0%で、『移りたい』は合わせて15.9%を占めている。

なお、前回調査と比較すると、「住み続けたい」(前回68.6%)がやや減少し、「分からない」(同13.2%)がやや増加している。

<性別・年齢別>

性別でみると、男女での差異はほとんどない。
年齢別でみると、「住み続けたい」は、『60歳以上』が72.8%で最も多く、年齢が上がるほど多くなっている。『20歳代』は44.4%と最も少ない。

一方、「移りたい(市外)」は、『20歳代』が18.3%とその他の年齢と比較して特に多くなっている。

図6-1 今の居住地への居住意向

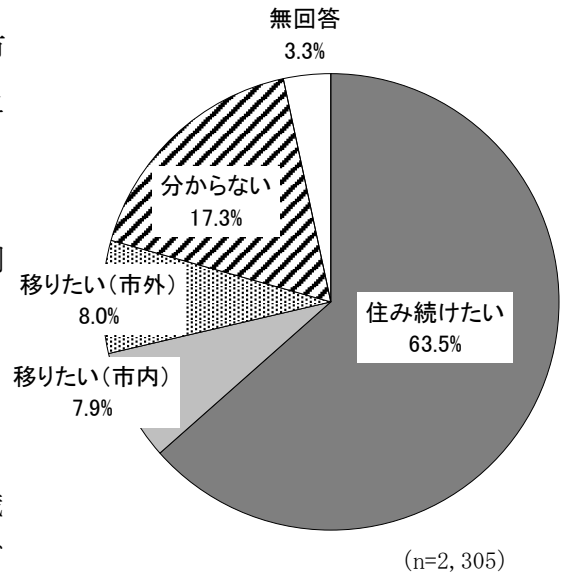
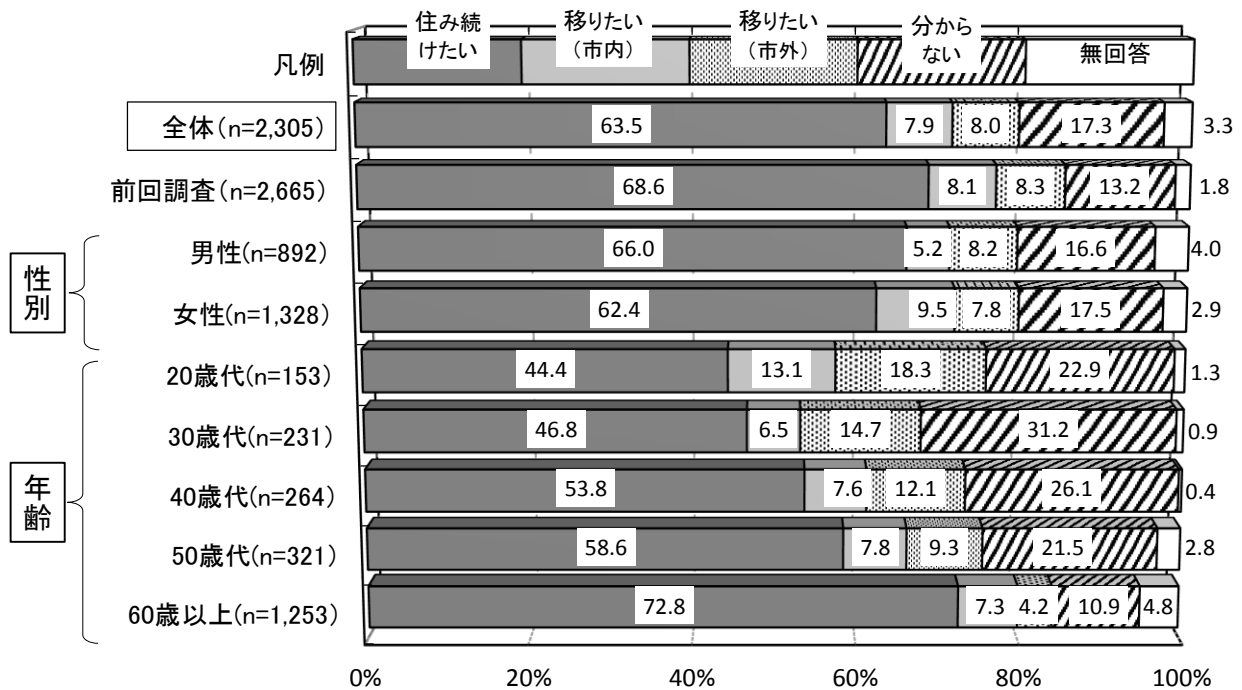


図6-2 今の居住地への居住意向<性別・年齢別>



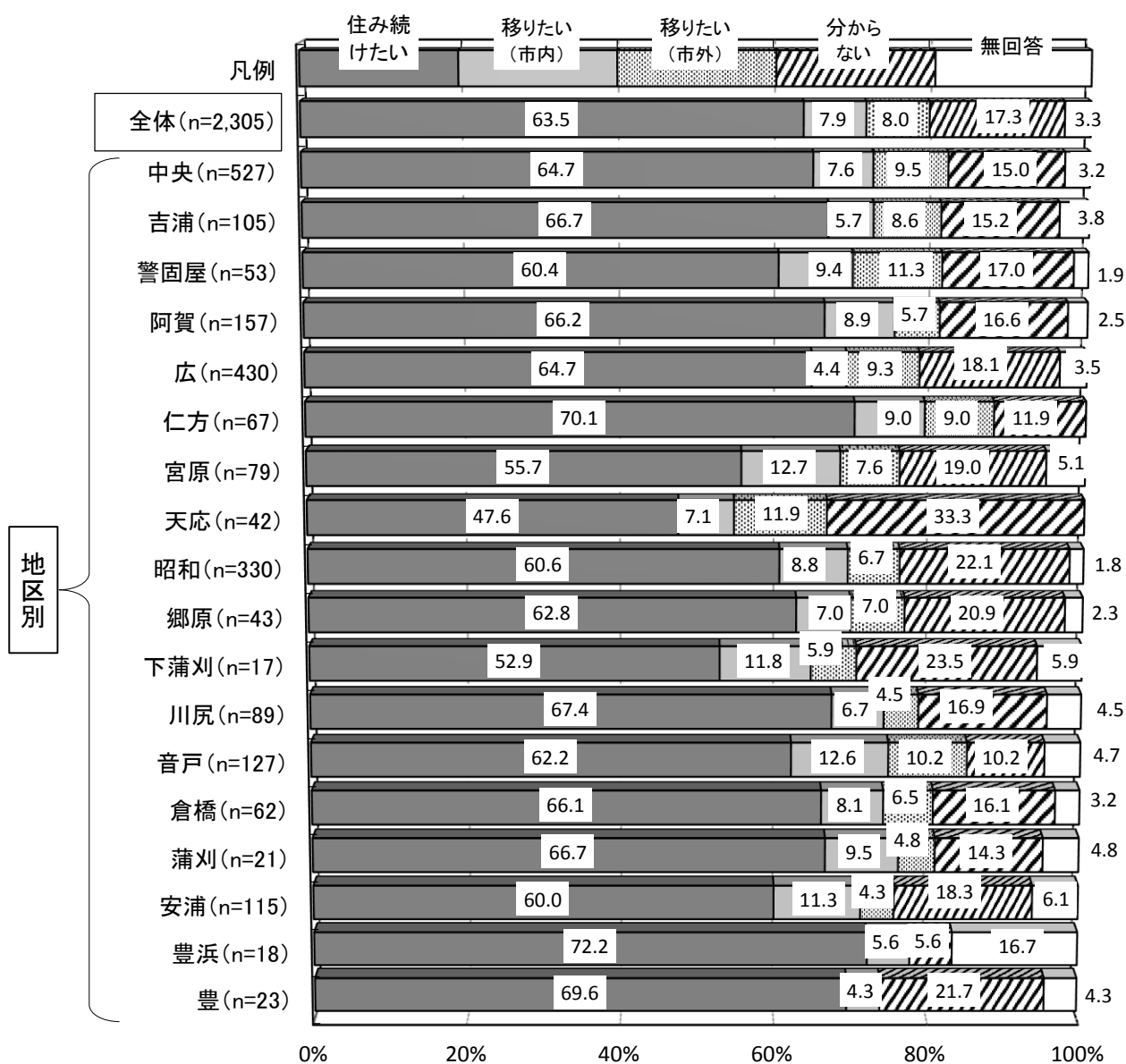
<地区別>

地区別でみると、「住みたい」は、『豊浜』が72.2%で最も多く、次いで『仁方』70.1%、『豊』69.6%となっている。

一方、『天応』47.6%、『下蒲刈』52.9%、『宮原』55.7%では「住みたい」と感じる割合が低くなっている。

「移りたい(市内)」は、『宮原』が12.7%で最も多く、『音戸』12.6%、『下蒲刈』11.8%、『安浦』11.3%となっている。「移りたい(市外)」は、『天応』が11.9%で最も多く、『警固屋』11.3%、『音戸』10.2%となっている。

図 6-3 今の居住地への居住意向<地区別>

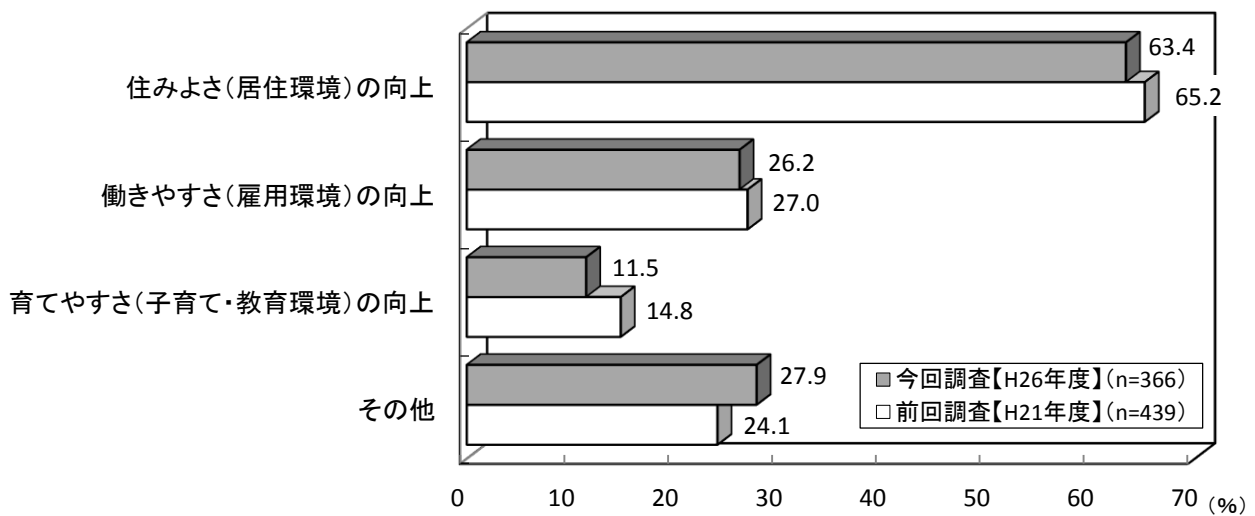


問 6-1 上記問 6 で「移りたい（市内）」「移りたい（市外）」に回答した方のみ
 他の地域（市内，市外）へ移りたいと思う理由は、何ですか。（〇はいくつでも）

「移りたい（市内）」「移りたい（市外）」と回答した人に他の地域（市内，市外）へ移りたいと思う理由を聞いたところ、「住みよさ（居住環境）の向上」が 63.4%で最も多く、次いで「働きやすさ（雇用環境）の向上」26.2%、「育てやすさ（子育て・教育環境）の向上」11.5%と続いている。

なお、前回調査と比較すると、「住みよさ（居住環境）の向上」や「働きやすさ（雇用環境）の向上」はほぼ同水準で、「育てやすさ（子育て・教育環境）の向上」（前回 14.8%）はやや低下している。

図 6-4 他の地域へ移りたいと思う理由

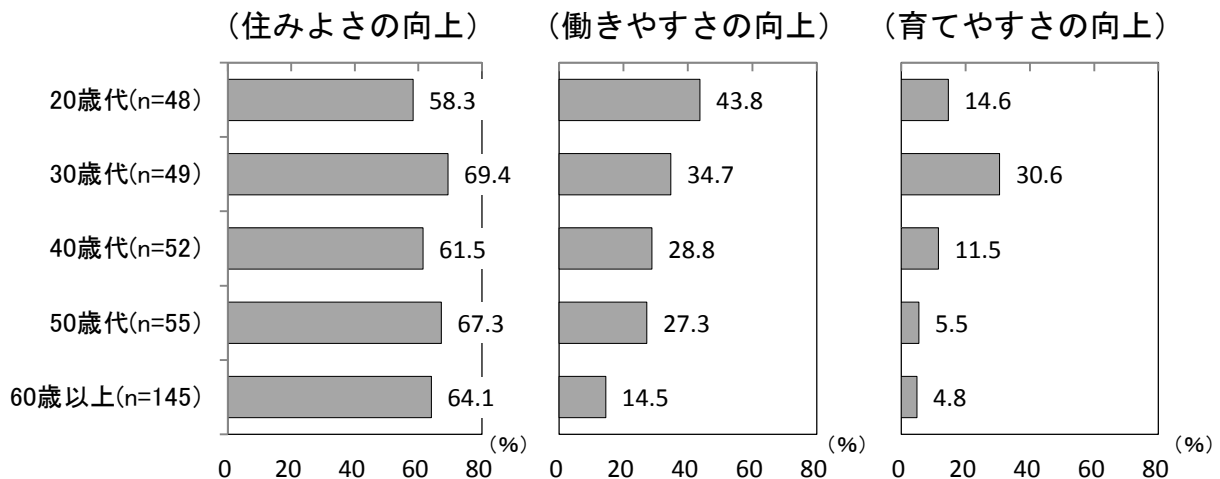


<年齢別>

年齢別でみると、いずれの年齢も「住みよさ（居住環境）の向上」が最も多く、『30 歳代』69.4%、『50 歳代』67.3%と 65%以上となっている。

「働きやすさ（雇用環境）の向上」は、『20 歳代』が 43.8%と 4 割以上を占め、その他の年齢と比較して多い。

図 6-5 他の地域（市内，市外）へ移りたいと思う理由〔複数回答〕<年齢別>

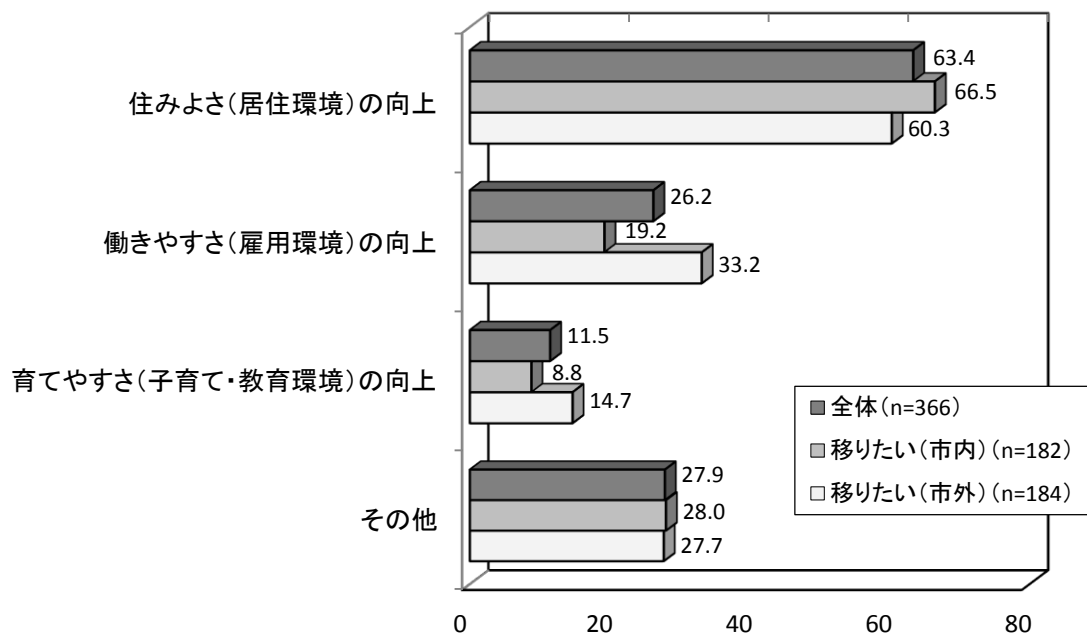


<移りたい場所別>

移りたい場所別でみると、『移りたい(市内)』は、「住みよさ(居住環境)の向上」が66.5%で『移りたい(市外)』の60.3%より6.2ポイント高く、市内移動により居住環境の向上を求めている割合がやや高い。

『移りたい(市外)』は、「働きやすさ(雇用環境)の向上」が33.2%で『移りたい(市内)』の19.2%より14.0ポイント高く、「育てやすさ(子育て・教育環境)の向上」が14.7%で『移りたい(市内)』の8.8%より5.9ポイント高く、雇用環境や子育て・教育環境の向上を求めている割合が高い。

図 6-6 他の地域（市内，市外）へ移りたいと思う理由<移りたい場所別>



2 呉市の主要課題に対する意識について

(1) 健康づくり

◇現在、『健康である』と感じている人	⇒	72%
◇定期的な運動を行っている人	⇒	30%
◇健康増進の運動のために必要な環境整備		
1位 ウォーキング・ランニングコースの整備		30%
2位 各種運動教室・講座の充実（まちづくりセンターなど）		29%
◇健康診査を受診している人	⇒	62%

問7 あなたは現在、健康であると感じていますか。（〇は1つ）

現在の健康状態については、「とても健康である」が12.1%、「まあまあ健康である」が60.2%で「健康である」と感じている人は合わせて72.3%と7割強を占める。

なお、前回調査と比較すると、大きな変化はみられなかった。

<性別・年齢別>

性別で見ると、「とても健康である」と「まあまあ健康である」を合わせた「健康である」が『男性』69.7%、『女性』74.2%で『女性』の方が4.5ポイント高い。

年齢別で見ると、「健康である」は、『20歳代』が86.9%で最も多いが、『60歳以上』は66.2%となり、年齢が上がるほど少なくなっている。

図7-1 健康状態の認識

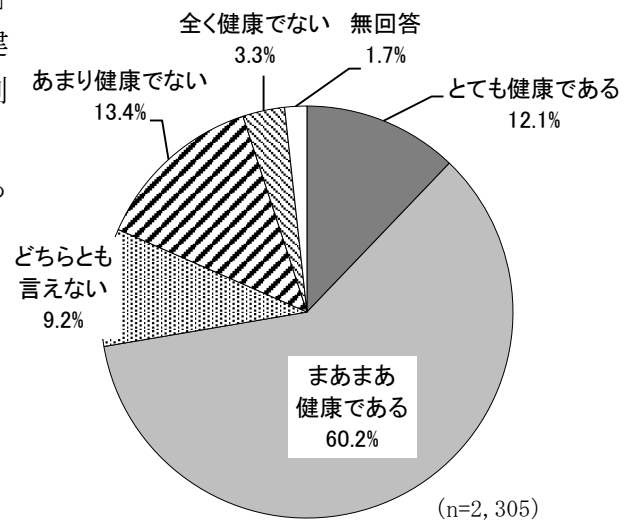
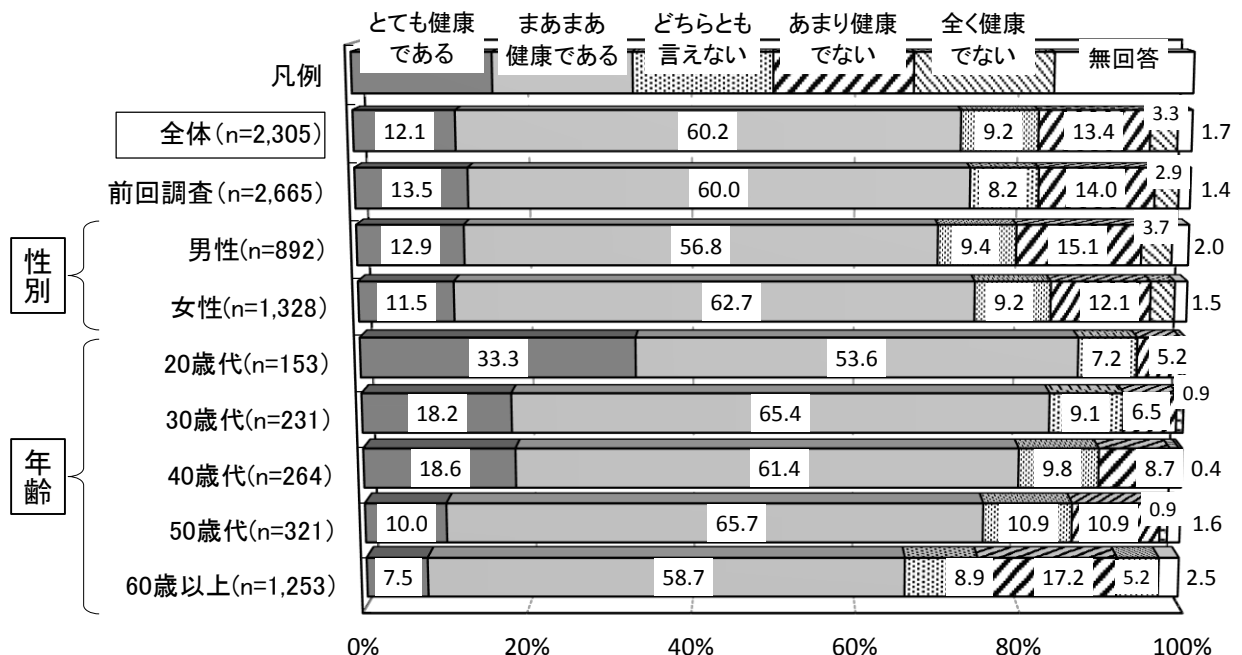


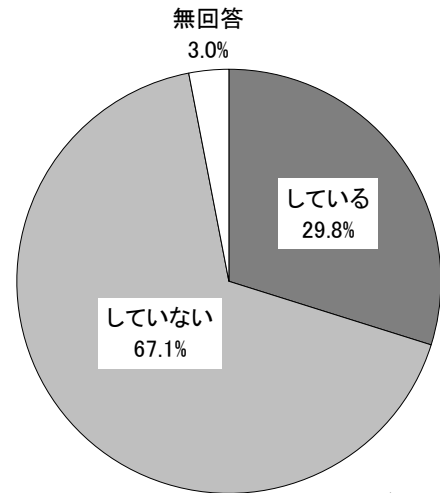
図7-2 健康状態の認識<性別・年齢別>



問 8 健康増進に向けて、あなたは現在、定期的（週3回以上）に運動していますか。
（○は1つ）

定期的（週3回以上）な運動については、「している」が29.8%で「していない」が67.1%で「していない」の方が37.3ポイント高い。

図 8-1 定期的な運動



(n=2,305)

<属性別>

性別でみると、「している」が『男性』36.0%、『女性』25.7%で『男性』の方が10.3ポイント高い。

年齢別でみると、「している」は、『60歳以上』が36.9%で最も多く、他の年齢層では20%前後にとどまっている。

地区別でみると、「している」は、『下蒲刈』が41.2%で最も多く、これに『豊』34.8%、『吉浦』33.3%と続いている。一方、『蒲刈』は19.0%と最も少なく、『郷原』20.9%、『仁方』26.9%と3割を下回っている。

図 8-2 定期的な運動<性別・年齢別>

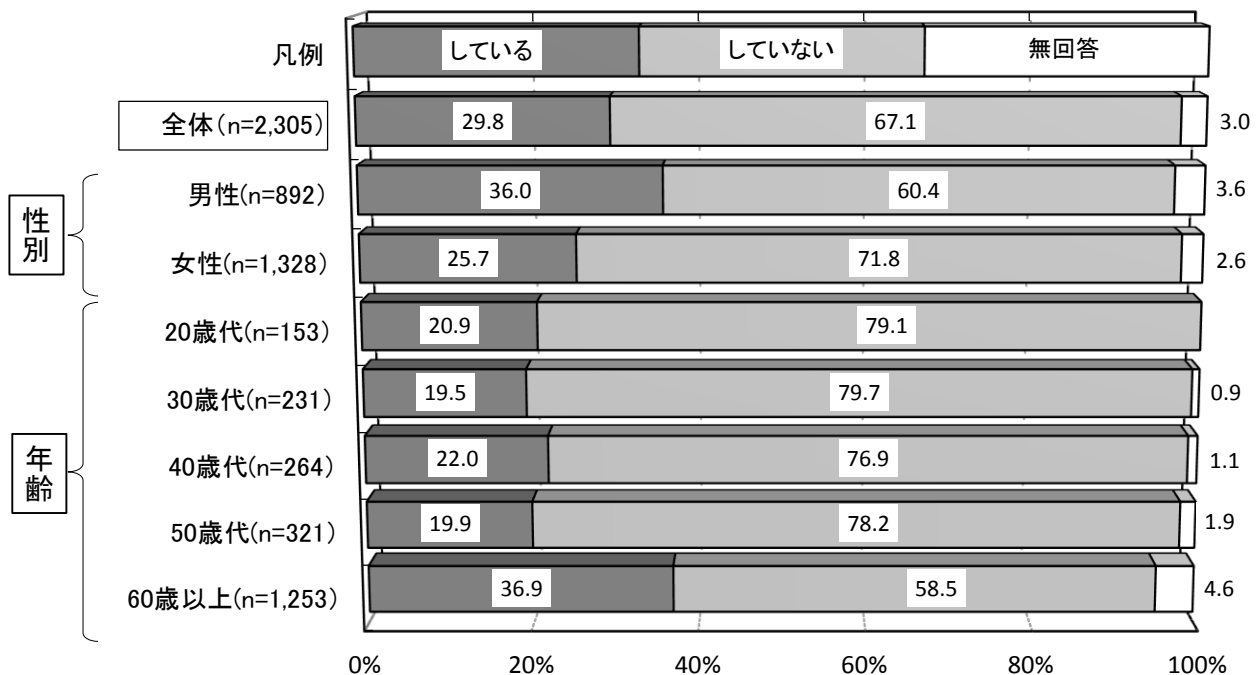


表 8-1 定期的な運動を「している」の上位下位3地区

(単位：%)

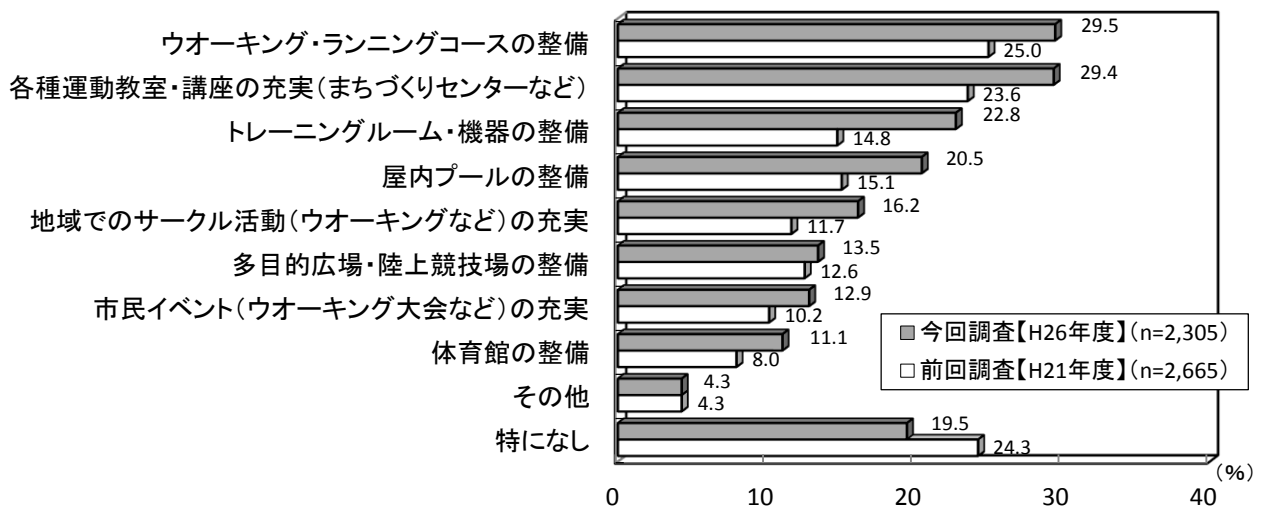
上位3地区	地区名	回答率	下位3地区	地区名	回答率
		下蒲刈		41.2	
	豊	34.8		郷原	20.9
	吉浦	33.3		仁方	26.9

問9 あなたは、健康増進のための運動を行っていく上で、どのような環境整備が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

健康増進の運動のために必要な環境整備については、「ウオーキング・ランニングコースの整備」が29.5%で最も多く、次いで「各種運動教室・講座の充実(まちづくりセンターなど)」が29.4%となっている。

なお、前回調査と比較すると、「ウオーキング・ランニングコースの整備」(前回25.0%)や「各種運動教室・講座の充実(まちづくりセンターなど)」(同23.6%)など上位項目で増加がみられた。

図9-1 健康増進の運動に必要な環境整備



<性別・年齢別>

性別で見ると、『男性』では「ウオーキング・ランニングコースの整備」が最も多いのに対し、『女性』では「各種運動教室・講座の充実(まちづくりセンターなど)」が最も多くなっている。

年齢別で見ると、『20歳代』は「トレーニングルーム・機器の整備」が最も多くなっているが、『30歳代』から『50歳代』までは「ウオーキング・ランニングコースの整備」, 『60歳代』では「各種運動教室・講座の充実(まちづくりセンター等)」が最も多くなっている。

表9-1 健康増進の運動に必要な環境整備<性別・年齢別>

(単位: %)

	ウオーキング・ランニングコースの整備	各種運動教室・講座の充実(まちづくりセンター等)	トレーニングルーム・機器の整備	屋内プールの整備	地域でのサークル活動(ウオーキングなど)の充実	多目的広場・陸上競技場の整備	市民イベント(ウオーキング大会など)の充実	体育館の整備	その他	特になし
男性	34.8	21.9	26.2	18.7	17.4	17.3	14.3	11.4	4.4	17.2
女性	26.4	34.3	20.7	21.5	15.1	10.8	11.5	10.8	4.1	21.2
20歳代	30.7	16.3	34.0	24.2	10.5	22.2	20.9	22.9	4.6	12.4
30歳代	32.5	27.7	31.2	30.3	15.2	22.1	14.7	18.2	6.9	13.4
40歳代	38.6	28.0	27.7	30.7	8.7	20.8	12.9	14.8	3.0	18.9
50歳代	41.7	35.2	25.2	25.5	13.4	14.3	10.6	10.3	5.3	14.3
60歳以上	24.0	29.8	18.4	14.6	19.1	8.9	11.8	7.6	3.6	23.1

※ ■は属性ごとに最も多い項目

問 10 生活習慣病などの早期発見・早期治療に向けて、あなたは毎年、健康診査を受診していますか。(〇は1つ)

健康診査の受診の有無については、「受診している」が61.7%を占め、「受診していない」は36.8%を占めている。

なお、前回調査と比較すると、「受診している」(前回66.7%)がやや低下している。

<性別・年齢別>

性別で見ると、「受診している」は、『男性』68.2%、『女性』57.3%で『男性』の方が10.9ポイント高い。

年齢別で見ると、「受診している」は、男女ともにおおむね年齢が上がるほど多くなっており、男女ともに『50歳代』が最も多く、『60歳以上』ではやや低下する。

なお、女性では、『20歳代』、『30歳代』で「受診している」人が少なく5割前後となっている。

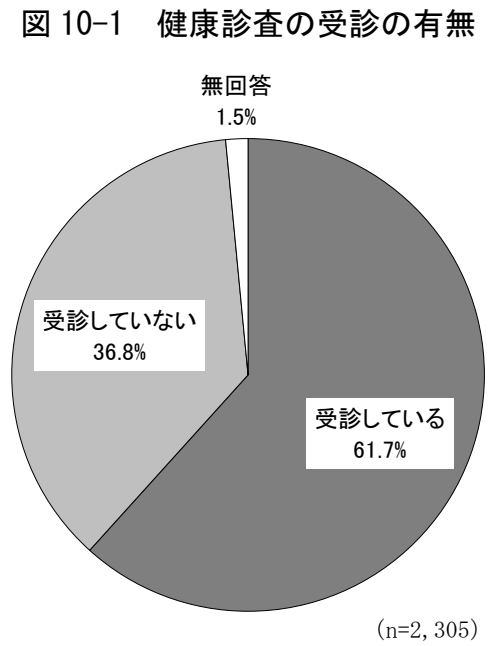
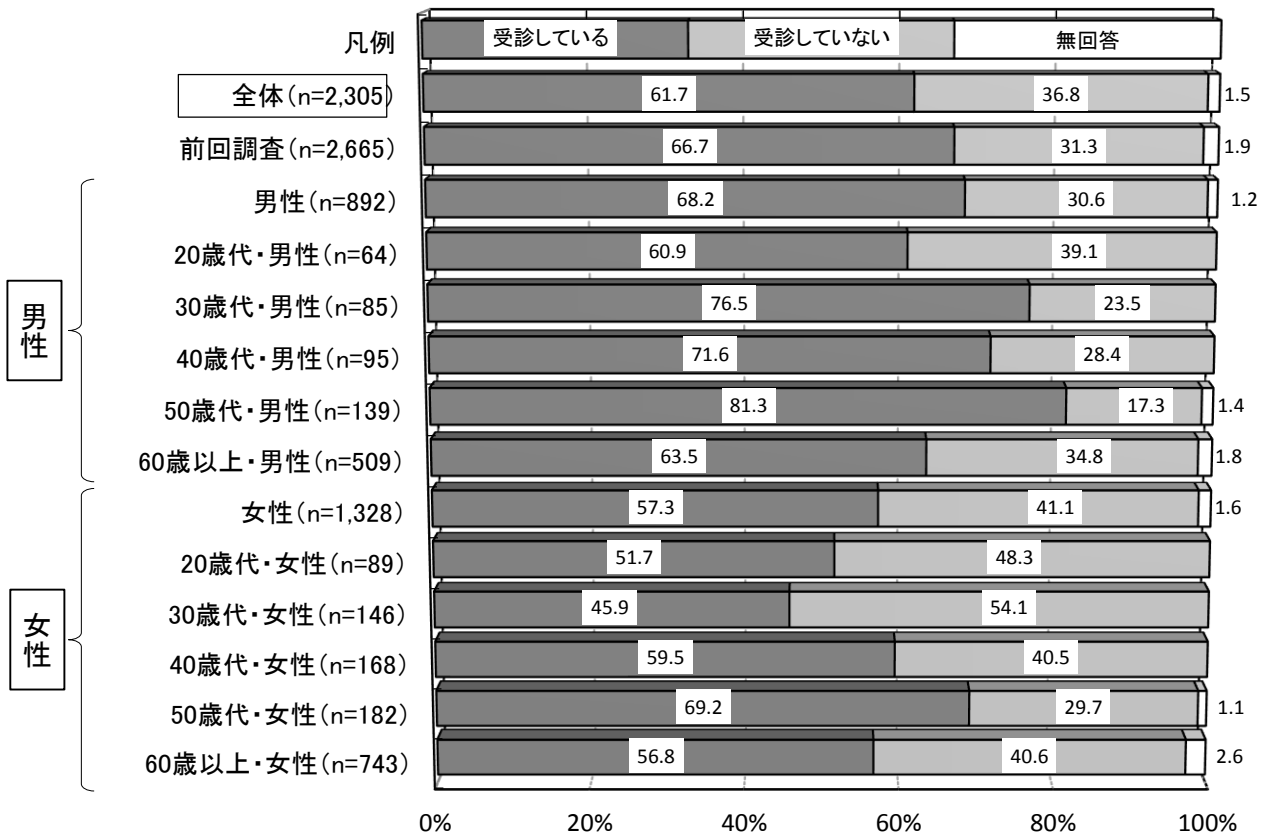


図 10-2 健康診査の受診の有無<性別・年齢別>

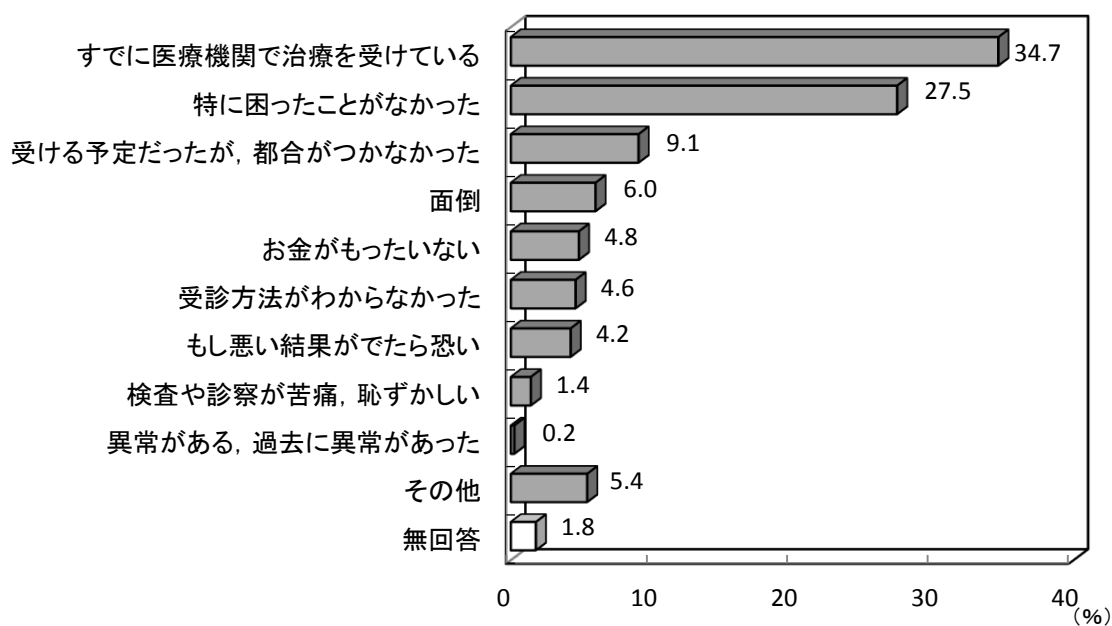


問 10-1 上記問 10 で「受診していない」と回答した方のみ

健康診査を受診しない理由は、何ですか。(○は1つ)

「受診していない」と回答した人に健康診査を受診しない理由を聞いたところ、「すでに医療機関で治療を受けている」が 34.7%で最も多く、次いで「特に困ったことがなかった」27.5%と続いている。

図 10-3 健康診査を受診しない理由



(n=848)

(2) 少子化対策・高齢化対策

◇少子化対策として充実すべき取組

1位	子育てに係る経済的負担の軽減	53%
2位	保育サービス（保育所，一時預かり）	53%
3位	出産・育児に関する医療体制の整備	46%

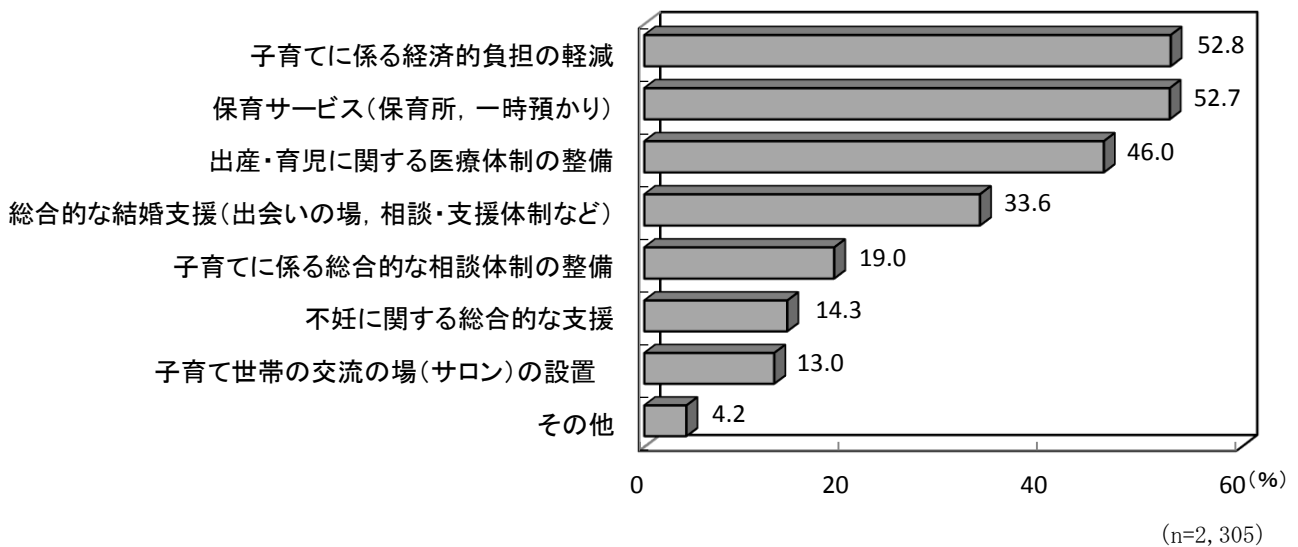
◇高齢化対策として充実すべき取組

1位	在宅介護サービス（デイサービス，家事支援など）	42%
2位	施設介護サービス（特別養護老人ホームなど）	41%
3位	生活支援（買い物，食事など）	37%

問11 呉市では近年，1年間に生まれる子どもの数が減少しており，今後さらに少子化が進むと見込まれます。あなたは，少子化を少しでも抑えるために，どのような取組を充実させたいと思いますか。（○はいくつでも）

少子化対策として充実すべき取組としては，「子育てに係る経済的負担の軽減」が52.8%，「保育サービス（保育所，一時預かり）」52.7%で多くなっている。これに次ぐのが「出産・育児に関する医療体制の整備」46.0%，「総合的な結婚支援（出会いの場，相談・支援体制など）」33.6%であった。

図11-1 少子化対策として充実すべき取組



<性別・年齢別>

性別で見ると、『男性』では、「子育てに係る経済的負担の軽減」が、『女性』では「保育サービス（保育所、一時預かり）」がそれぞれ最も多くなっている。

年齢別にみると、『20歳代』から『40歳代』までは、「子育てに係る経済的負担の軽減」が最も多くなっているが、『50歳代』から『60歳以上』では「保育サービス（保育所、一時預かり）」が最も多くなっている。

図 11-2 少子化対策として充実すべき取組<性別>

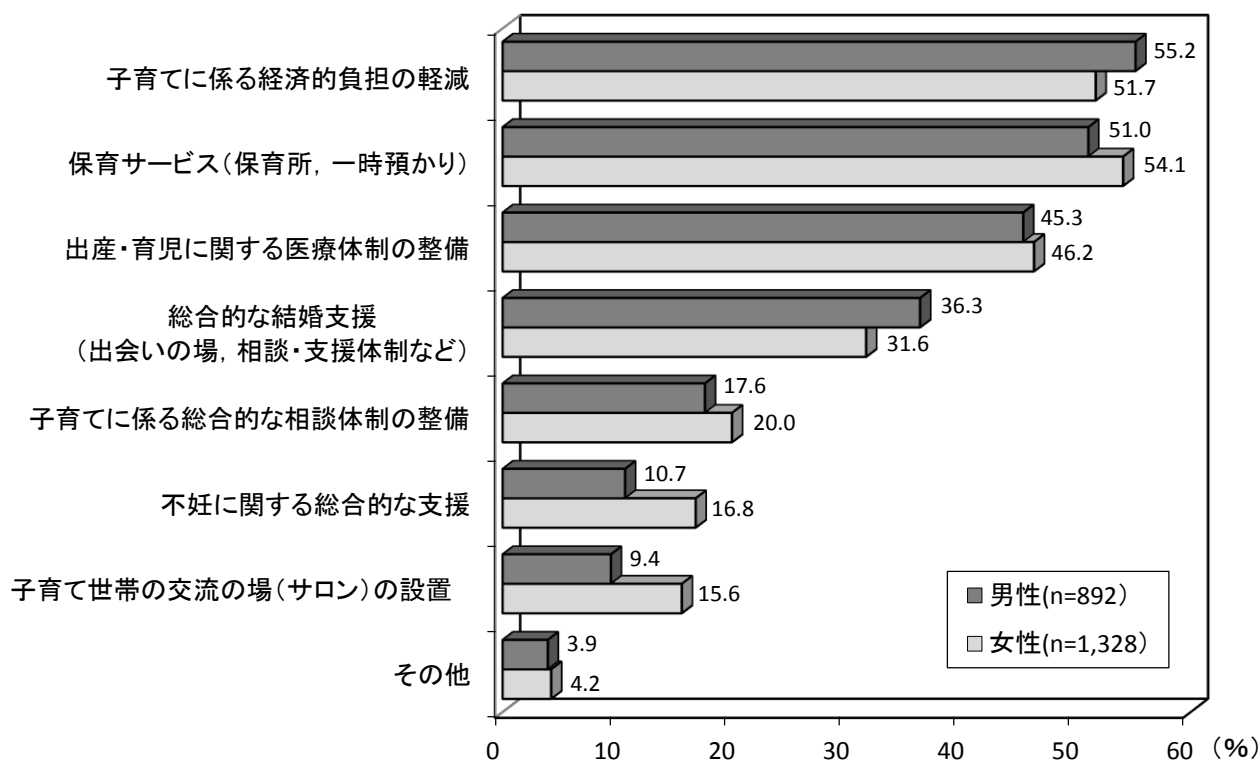


表 11-1 少子化対策として充実すべき取組<年齢別>

(単位: %)

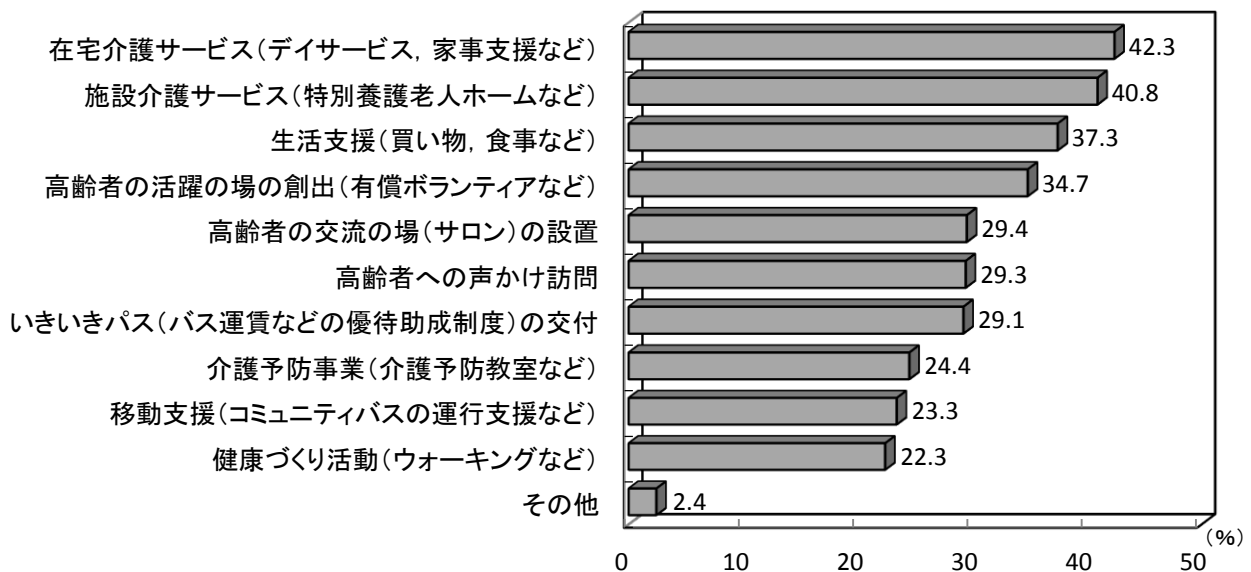
	子育てに係る経済的負担の軽減	保育サービス(保育所, 一時預かり)	出産・育児に関する医療体制の整備	総合的な結婚支援(出会いの場, 相談・支援体制など)	子育てに係る総合的な相談体制の整備	不妊に関する総合的な支援	子育て世帯の交流の場(サロン)の設置	その他
全体 (n=2,305)	52.8	52.7	46.0	33.6	19.0	14.3	13.0	4.2
20歳代 (n=153)	69.3	65.4	52.3	32.0	20.9	16.3	20.3	3.3
30歳代 (n=231)	72.7	56.3	57.6	20.3	16.9	29.4	13.0	6.1
40歳代 (n=264)	65.9	55.7	52.7	20.1	19.7	26.9	10.2	6.4
50歳代 (n=321)	57.0	62.3	49.5	32.4	20.6	13.7	13.1	4.4
60歳以上 (n=1,253)	43.7	47.7	40.3	39.2	18.6	8.6	12.8	3.3

※ ■は属性ごとに最も多い項目

問 12 呉市では近年, 少子化が進む一方で, 高齢者の数が増えており, 今後さらに高齢化が進むと見込まれます。あなたは, 高齢化社会に対応するため, どのような取組を充実させたいと思いますか。(〇はいくつでも)

高齢化対策として充実すべき取組としては, 「在宅介護サービス (デイサービス, 家事支援など)」が 42.3%, 「施設介護サービス (特別養護老人ホームなど)」40.8% で多くなっている。これに次ぐのが「生活支援 (買い物, 食事など)」37.3%, 「高齢者の活躍の場の創出 (有償ボランティアなど)」34.7% であった。

図 12-1 高齢化対策として充実すべき取組



(n=2,305)

<性別・年齢別>

性別・年齢別でみると, 男女ともに「在宅介護サービス (デイサービス, 家事支援など)」が最も多くなっているが, 年齢別では『40 歳代』では「高齢者の活躍の場の創出 (有償ボランティアなど)」, 『60 歳以上』では「施設介護サービス (特別養護老人ホームなど)」が最も多くなっている。

表 12-1 少子化対策として充実すべき取組<年齢別>

(単位:%)

	在宅介護サービス(デイサービス, 家事支援など)	施設介護サービス(特別養護老人ホームなど)	生活支援(買い物, 食事など)	高齢者の活躍の場の創出(有償ボランティアなど)	高齢者の交流の場(サロン)の設置	高齢者への声かけ訪問	いきいきバス(バス運賃などの優待助成制度)の交付	介護予防事業(介護予防教室など)	移動支援(コミュニティバスの運行支援など)	健康づくり活動(ウォーキングなど)	その他
全体 (n=2,305)	42.3	40.8	37.3	34.7	29.4	29.3	29.1	24.4	23.3	22.3	2.4
男性 (n=892)	39.7	38.6	34.5	37.8	26.6	23.7	27.6	18.7	21.3	24.7	3.5
女性 (n=1,328)	44.3	42.5	39.2	33.0	31.3	33.2	30.3	27.7	24.5	20.6	1.6
20 歳代 (n=153)	52.3	44.4	36.6	37.3	39.2	33.3	20.3	28.8	26.8	26.8	2.6
30 歳代 (n=231)	49.8	38.1	43.7	39.8	27.3	25.5	23.4	27.3	29.4	20.3	2.6
40 歳代 (n=264)	44.7	41.7	41.3	45.1	25.8	31.8	27.7	28.0	31.8	21.6	2.7
50 歳代 (n=321)	53.3	49.5	50.2	38.6	30.5	29.9	23.1	28.0	27.1	18.7	4.0
60 歳以上 (n=1,253)	36.6	38.4	32.0	30.6	29.1	28.9	33.0	21.2	18.8	23.0	1.8

※ ■は属性ごとに最も多い項目

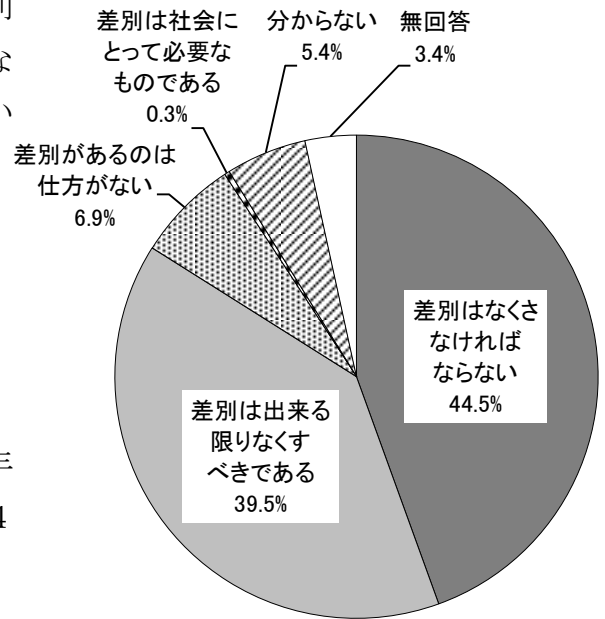
(3) 人権尊重

- ◇差別はなくすべきであると考えている人 ⇒ 84%
- ◇身近な人の差別的な発言を注意する人 ⇒ 57%

問 13 性別・障がいの有無・国籍などを理由にした様々な差別があります。「差別」について、あなたのお考えに近いものはどれですか。(○は1つ)

「差別」についての考え方としては、「差別はなくさなければならない」が44.5%、「差別は出来る限りなくすべきである」が39.5%となっており、差別はなくすべきであると考えている人は84.0%と8割強を占める。

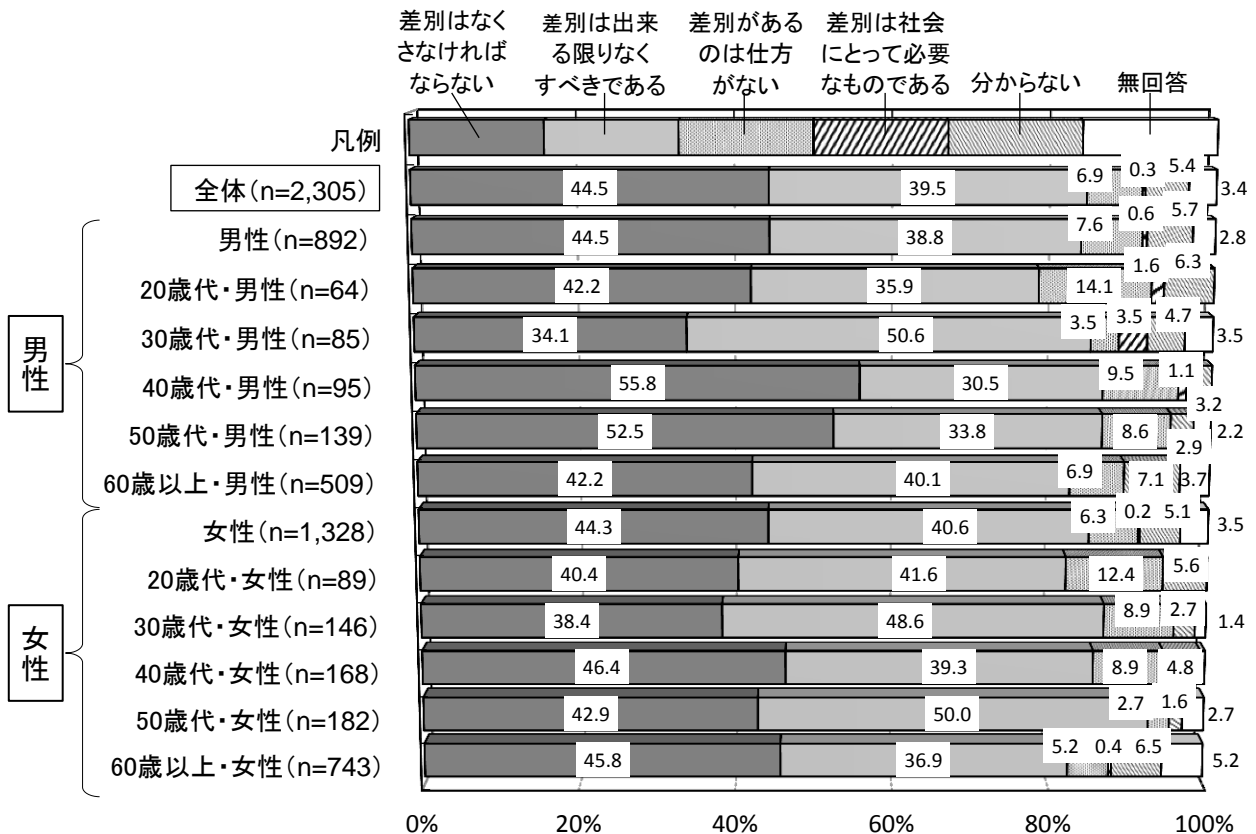
図 13-1 「差別」についての考え方



<性別・年齢別>

性別・年齢別でみると、『40歳代・男性』で「差別はなくさなければならない」が55.8%と高くなっており、『50歳代・男性』でも5割を超えている。一方、女性はどの年代も「差別はなくさなければならない」が4割前後である。

図 13-2 「差別」についての考え方<性別・年齢別>



問 14 身近な人が差別的なことを言うのを聞いたとき、あなたならどうしますか。

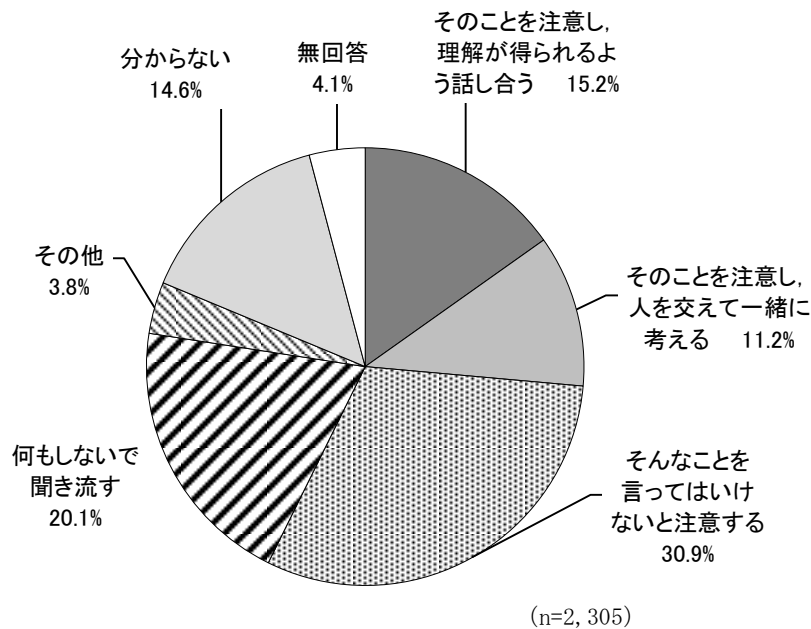
(○は1つ)

身近な人の差別的な発言への対応については、「注意する」(「そのことを注意し、理解が得られるよう話し合う」, 「そのことを注意し、人を交えて一緒に考える」, 「そんなことを言ってはいけないと注意する」の合計) が 57.3%で5割を超え、「何もしないで聞き流す」は20.1%となっている。

注意するの詳細は、「そんなことを言ってはいけないと注意する」が 30.9%で最も多いが、「そのことを注意し、理解が得られるよう話し合う」も 15.2%と比較的多くなっている。

なお、前回調査と比較すると「そのことを注意し、理解が得られるよう話し合う」(前回 12.1%) と「そのことを注意し、人を交えて一緒に考える」(同 6.9%) が増加している。

図 14-1 身近な人の差別的な発言への対応

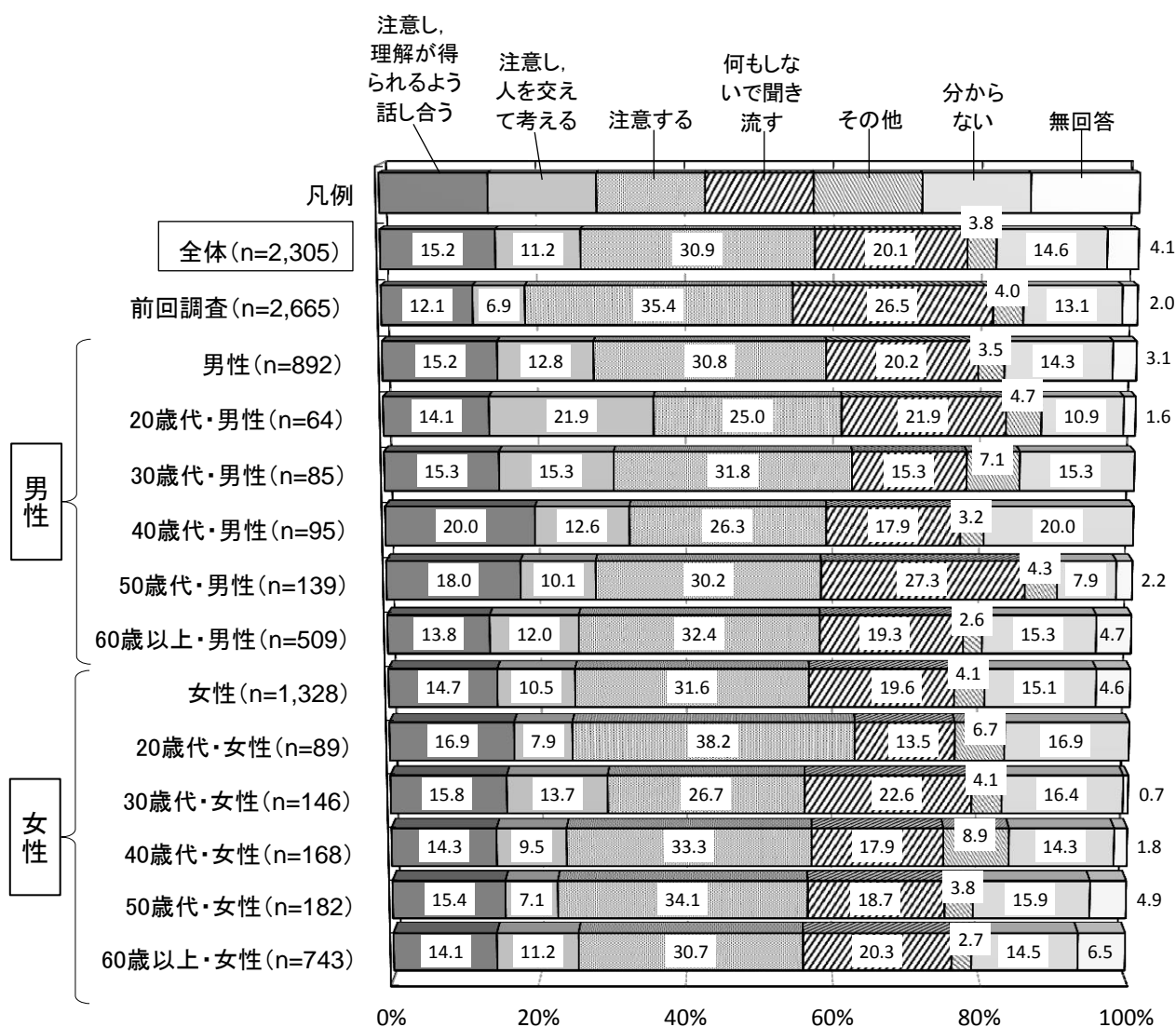


<性別・年齢別>

性別・年齢別でみると、「注意する」は、『20歳代・女性』が63.0%で最も多くなっている。ただし、「そのことを注意し、理解が得られるよう話し合う」と「そのことを注意し、人を交えて一緒に考える」と回答した、より積極的な対応をする人は『20歳代・男性』36.0%、『40歳代・男性』32.6%、『30歳代・男性』30.6%で多くなっている。

一方、「何もしないで聞き流す」は、『50歳代・男性』が27.3%で最も多くなっている。

図 14-2 身近な人の差別的な発言への対応<性別・年齢別>



問 15 あなたは、次のような時、同和地区の人たちを避けたりすることがありますか。それぞれについてお答えください。（それぞれ〇は1つ）

同和地区の人たちを避けたりすることについては、「意識しない」は、『同じ職場で働くとき』が62.8%で最も多く、次いで『同じ団体のメンバーとして活動するとき』59.4%、『隣近所で生活するとき』59.2%となっている。

『結婚するとき』は30.8%にとどまり、「意識する場合がある」と「意識する」を合わせた割合は、他に比べて多い。

なお、前回調査と比較すると、各項目ともに「意識しない」は同水準であった。

【前回調査結果（平成21年度） 「意識しない」】

隣近所で生活するとき：60.4% [59.2%]

同じ団体のメンバーとして活動するとき：62.3% [59.4%]

子どもが同和地区の子どもと遊んだりするとき：58.0% [57.2%]

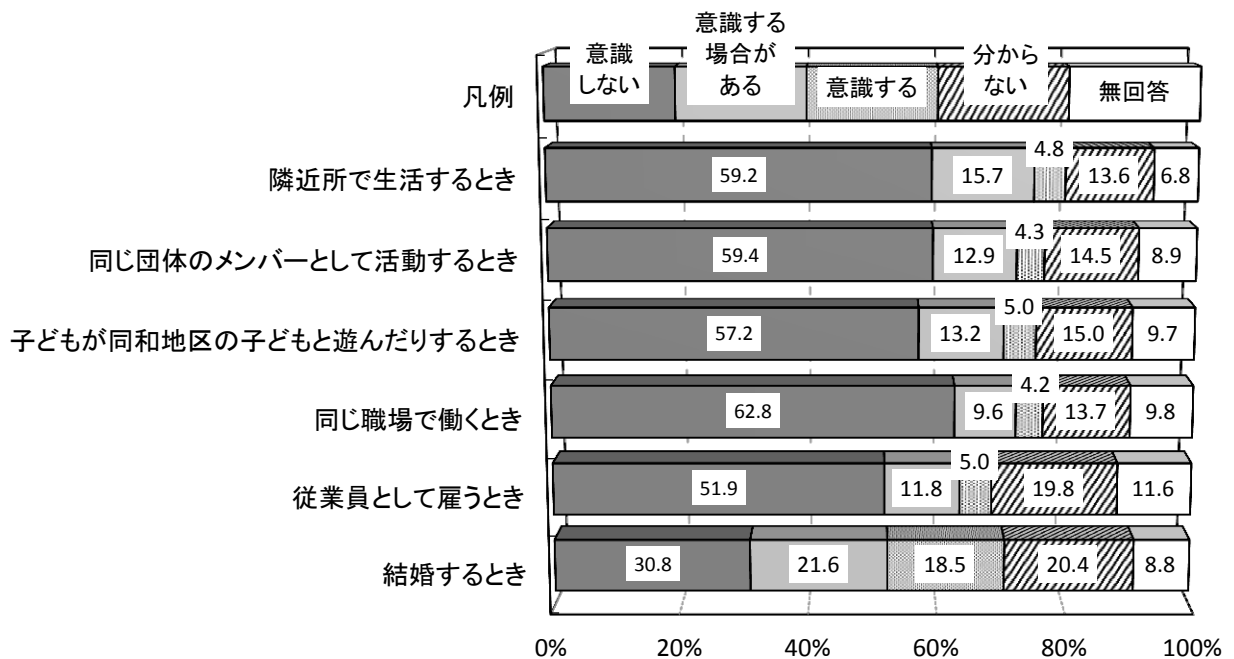
同じ職場で働くとき：63.8% [62.8%]

従業員として雇うとき：51.8% [51.9%]

結婚するとき：27.8% [30.8%]

※ [] 内は今年度調査結果

図 15-1 同和地区の人たちへの意識



(n=2,305)

(4) 男女共同参画社会の推進

◇男女の地位		男性優遇	平等	女性優遇
①家庭生活	⇒	50%	27%	6%
②就職や職場	⇒	63%	16%	3%
③地域活動	⇒	29%	40%	6%
④学校教育	⇒	10%	63%	3%
⑤法律や制度	⇒	30%	38%	5%
⑥社会の慣習やしきたり	⇒	62%	16%	2%
⑦政治や政策決定の場	⇒	60%	18%	1%
⑧社会全体	⇒	63%	15%	3%
◇「男は仕事、女は家庭」という考え方の人	⇒		12%	

問 16 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位が平等になっていると感じますか。それぞれについてお答えください。(それぞれ〇は1つ)

男女の地位については、「平等である」は、『学校教育』が62.7%で最も多く、次いで『地域活動』40.1%、『法律や制度』37.5%となっている。

なお、前回調査と比較すると、『政治や政策決定の場』や『社会全体』などで「男性優遇」がやや増加が大きくなっている。

【前回調査結果（平成21年度） 「男性優遇」】

家庭生活：12.7% [15.7%]

地域活動：6.7% [7.1%]

法律や制度：6.2% [7.3%]

政治や政策決定の場：17.4% [24.7%]

就職や職場：18.6% [21.7%]

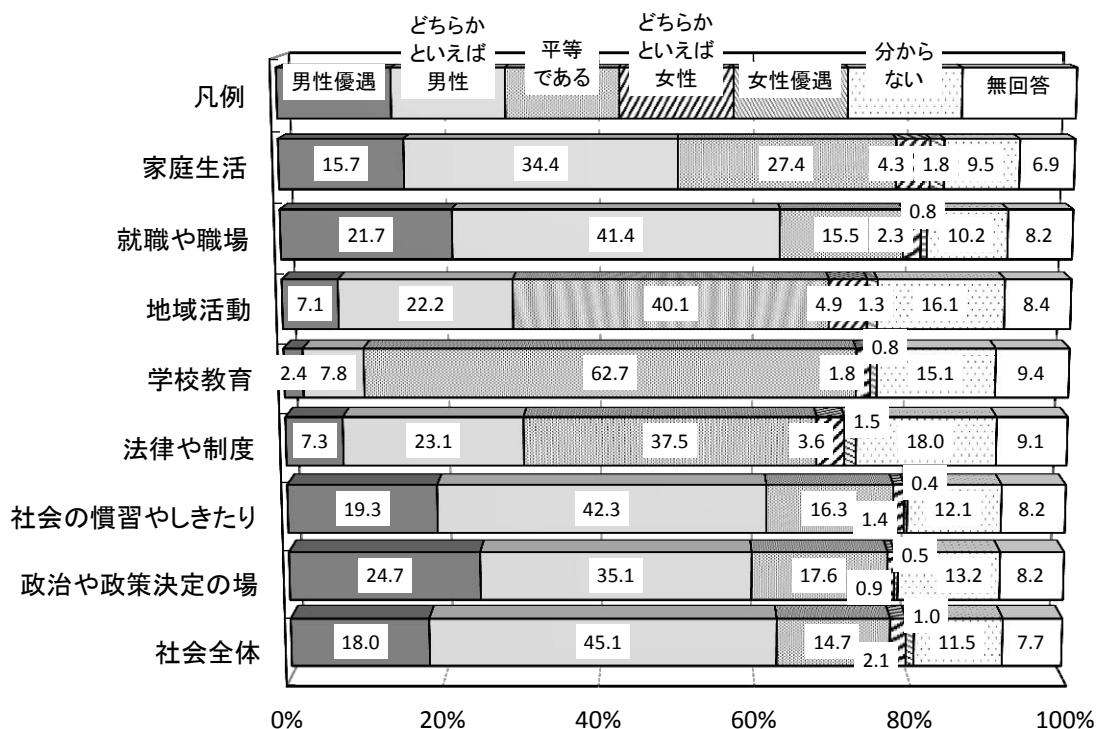
学校教育：2.8% [2.4%]

社会の慣習やしきたり：16.2% [19.3%]

社会全体：13.2% [18.0%]

※ [] 内は今年度調査結果

図 16-1 男女の地位



(n=2,305)

問 17 「男は仕事，女は家庭」という考え方に対して，あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)

「男は仕事，女は家庭」という考え方に対しては，「同感する」が 11.6%，「どちらともいえない」が 47.2%，「同感しない」が 34.4%となっている。

なお，前回調査と比較すると，「同感する」「(前回 16.7%)」が減少し，「同感しない」(同 29.5%)が増加している。

<性別・年齢別>

性別で見ると，「同感する」は，『男性』14.4%，『女性』9.3%で『男性』の方が 5.1 ポイント高い。「同感しない」は，『男性』32.7%，『女性』35.7%で『女性』の方が 3.0 ポイント高い。

性別・年齢別では，「同感する」は『60歳以上・男性』で 17.5%と最も多く，次いで『30歳代・男性』11.8%，『30歳代・女性』11.6%，『60歳以上・女性』11.5%でやや高くなっている。一方，「同感しない」は『20歳代・女性』が 48.3%で最も多く，次いで，『30歳代・男性』44.7%となっている。

図 17-1 「男は仕事，女は家庭」という考え方

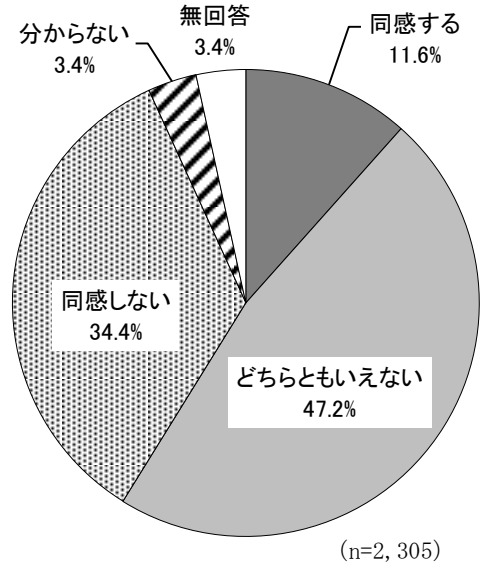
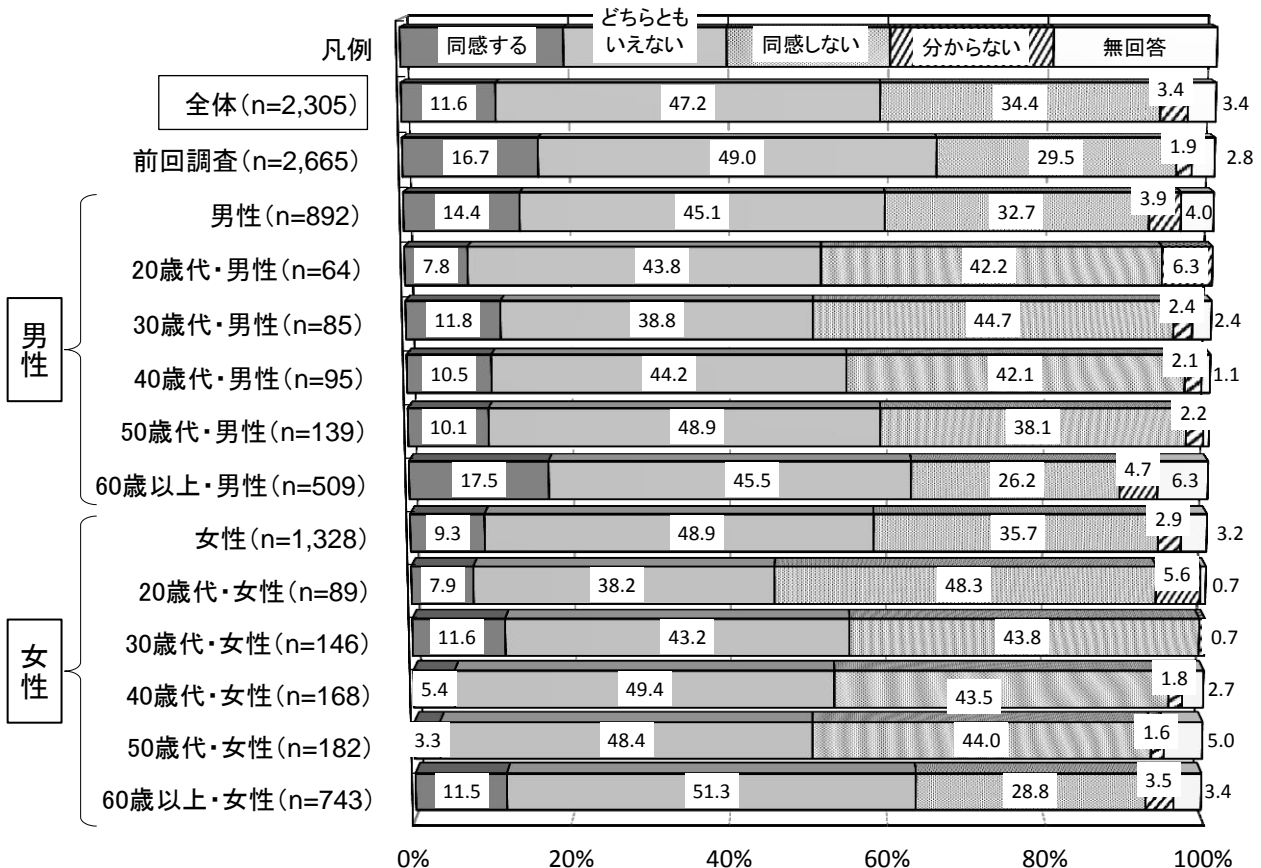


図 17-2 「男は仕事，女は家庭」という考え方<性別・年齢別>



(5) 次世代育成

◇お住まいの地域に住む子どもとふれあうことがある人 ⇒ 39%

◇地域の子どもとふれあう場面

- 1位 通学時の声掛け 58%
- 2位 地域の行事（子ども会、敬老会、祭りなど） 51%

問 18 あなたは、お住まいの地域に住む子どもとふれあうことがありますか。（○は1つ）

お住まいの地域に住む子どもとのふれあいの有無については、「ある」が38.9%となっている。

なお、前回調査と比較すると、「ある」（前回44.4%）よりも低下している。

<性別・年齢別>

性別でみると、「ある」は、「男性」33.0%、「女性」42.6%で「女性」の方が9.6ポイント高い。

年齢別でみると、「ある」は、『40歳代』が54.2%で最も多く、次いで『30歳代』42.9%と子育て中の層が多い30～40歳代でふれあいが多い。また、『60歳以上』では、『50歳代』より多くなっている。

図 18-1 地域の子どもとのふれあいの有無

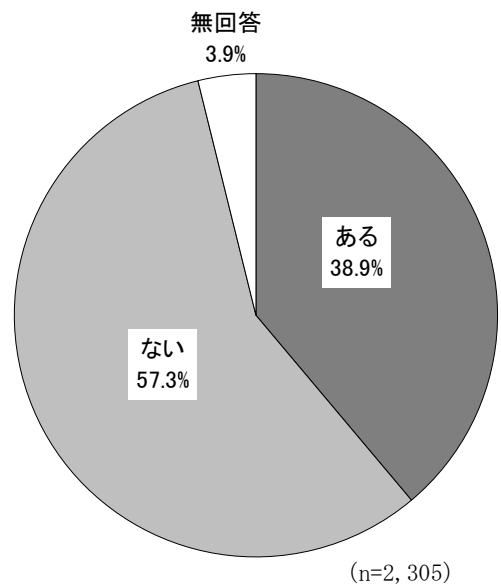
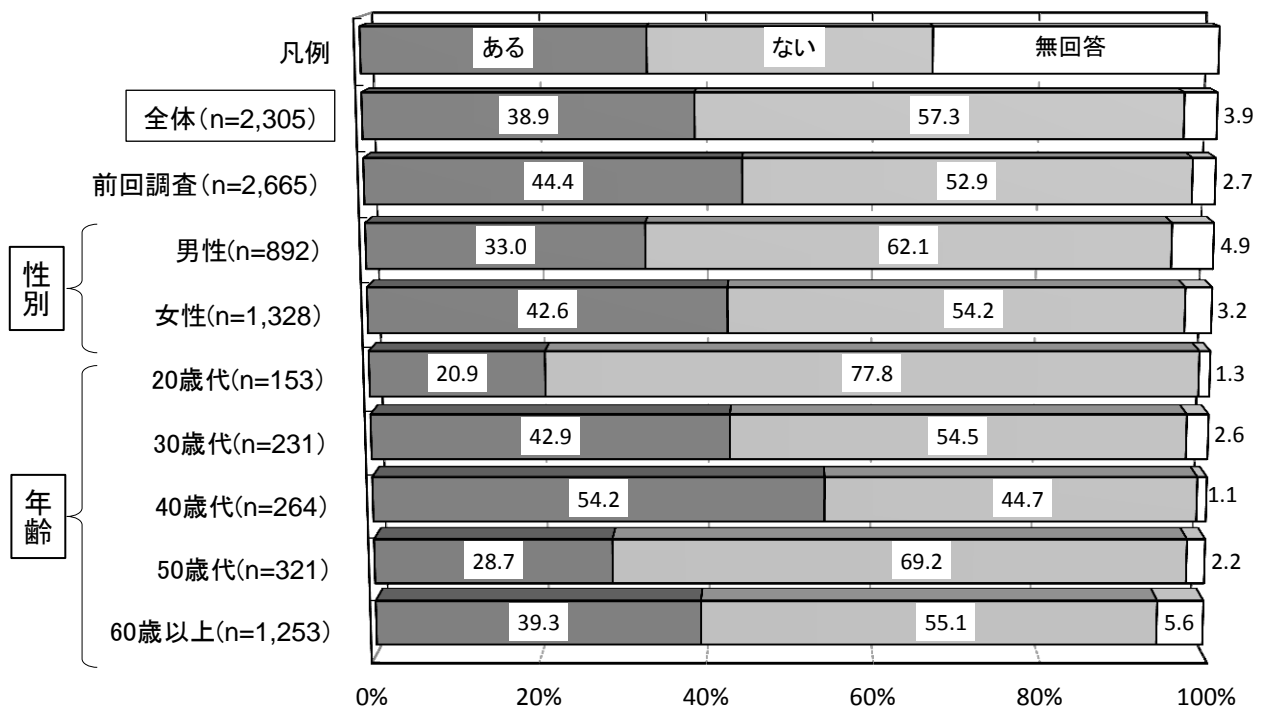


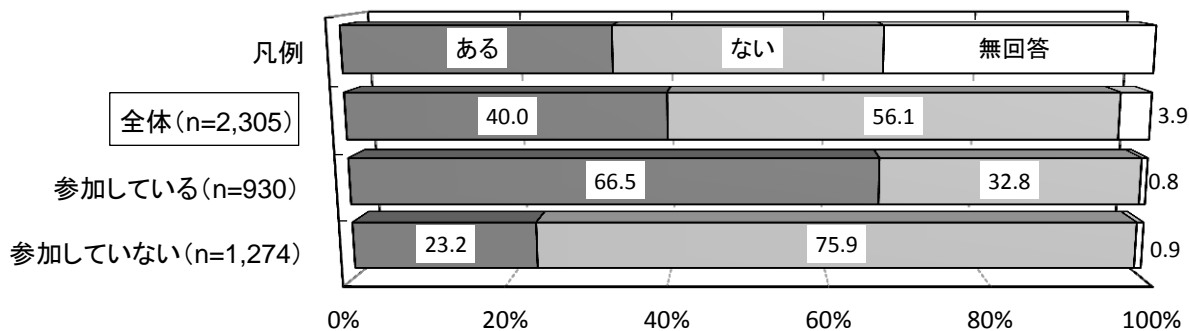
図 18-2 地域の子どもとのふれあいの有無<性別・年齢別>



<地域活動への参加別>

地域活動への参加別でみると、問 21 において地域活動へ『参加している』人は、「ある」が 66.5%と約 7 割を占める。一方、地域活動へ『参加していない』人は、「ある」が 23.2%にとどまっている。

図 18-3 地域の子どものふれあいの有無<地域活動への参加別>



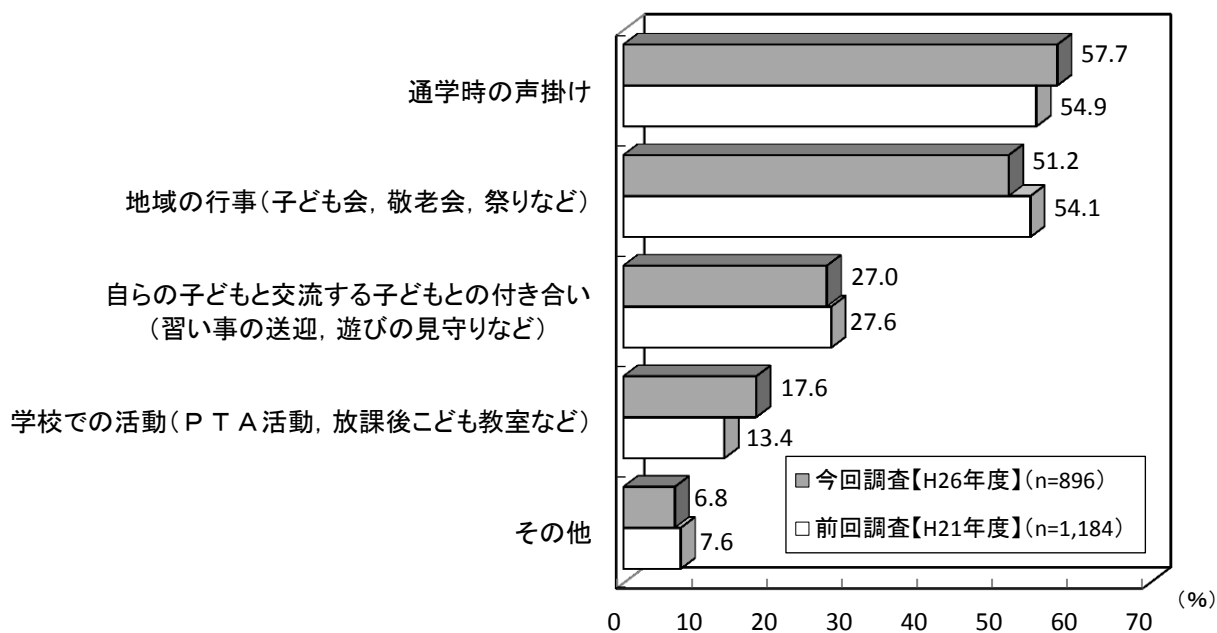
問 18-1 上記問 18 で「ある」に回答した方のみ

どんな場面でふれあっていますか。(〇はいくつでも)

「ある」と回答した人にどんな場面でふれあっているかを聞いたところ、「通学時の声掛け」が 57.7%で最も多く、次いで「地域の行事(子ども会, 敬老会, 祭りなど)」51.2%が上位を占め、5 割を超えている。

なお、前回調査と比較すると、大きな変化はみられなかった。

図 18-4 地域の子どものふれあう場面



(6) 教育

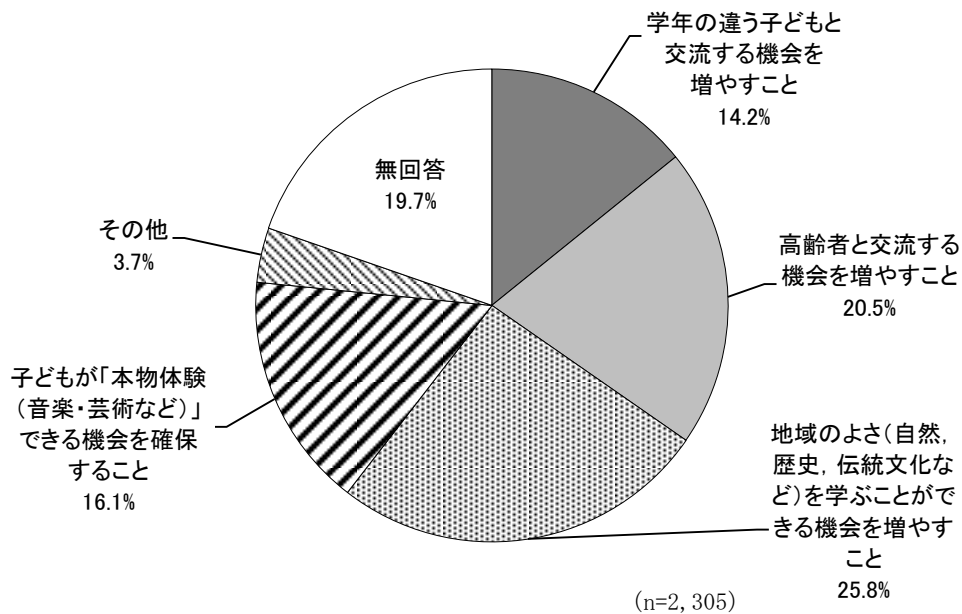
◇子どもたちの豊かな心の育成のため必要な取組			
1位	地域のよさを学ぶことができる機会を増やすこと		26%
2位	高齢者と交流する機会を増やすこと		21%
※小中学生がいる世帯			
1位	「本物体験（音楽・芸術など）」できる機会を確保する		20%
2位	地域のよさを学べる機会を増やすこと		18%
◇教育環境の向上に必要な取組			
1位	中学校給食の完全実施	33%	2位 教員の増員 32%
※小中学生がいる世帯			
1位	中学校給食の完全実施	55%	2位 教員の増員 41%

問 19 子どもたちの豊かな心を育むために、今後、どのような取組が必要だと思いますか。
(○は1つ)

子どもたちの豊かな心を育むために必要な取組については、「地域のよさ（自然、歴史、伝統文化など）を学ぶことができる機会を増やすこと」が 25.8%と4分の1を占め、次いで「高齢者と交流する機会を増やすこと」が 20.5%、「子どもが『本物体験』できる機会を確保すること」が 16.1%を占める。

なお、前回調査と比較すると、「学年の違う子どもと交流する機会を増やすこと」はほぼ同水準であったが、それ以外は減少している。

図 19-1 豊かな心を育むために必要な取組

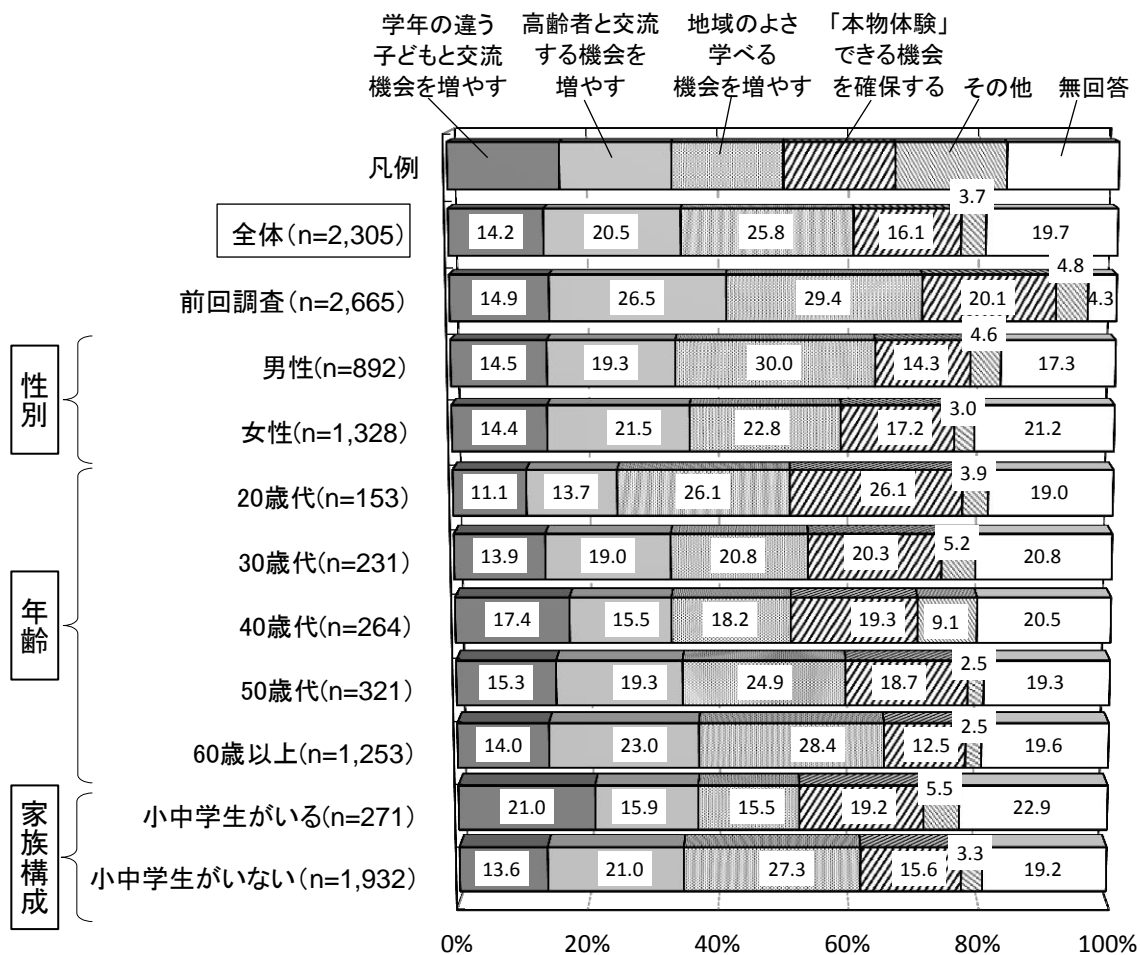


<性別・年齢別・家族構成別>

性別で見ると、「地域によさ（自然，歴史，伝統文化など）を学ぶことができる機会を増やすこと」は、『男性』30.0%、『女性』22.8%で『男性』の方が7.2ポイント高い。

また，家族に『小中学生がいる』では，「学年の違う子どもと交流する機会を増やすこと」が21.0%と最も多くなっている。

図 19-2 豊かな心を育むために必要な取組<性別・年齢別・家族構成別>



※ 「小中学生がいる」は同居家族に小学生または中学生がいると回答した人の合計値。「小学生がいない」はそれ以外の人の合計値。ただし，無回答（n=102）は除く。

問 20 呉市では、適正規模を目指した「学校統合」や小学校と中学校が一貫した方針のもと、子どもを育てる「小中一貫教育」などを通じて、豊かな人間性と自立心を育む「呉の教育」に取り組んでいます。更なる教育環境の向上に向けて、今後、どのような取組を進めていけばよいと思いますか。（〇はいくつでも）

教育環境の向上に向けて進めていけばよい取組については、「中学校給食の完全実施」が 33.0%で最も多く、次いで「教員の増員」31.7%、「小中一貫教育の実施」23.7%となっている。

なお、前回調査と比較すると、「校庭の芝生化」以外はやや増加傾向にあった。

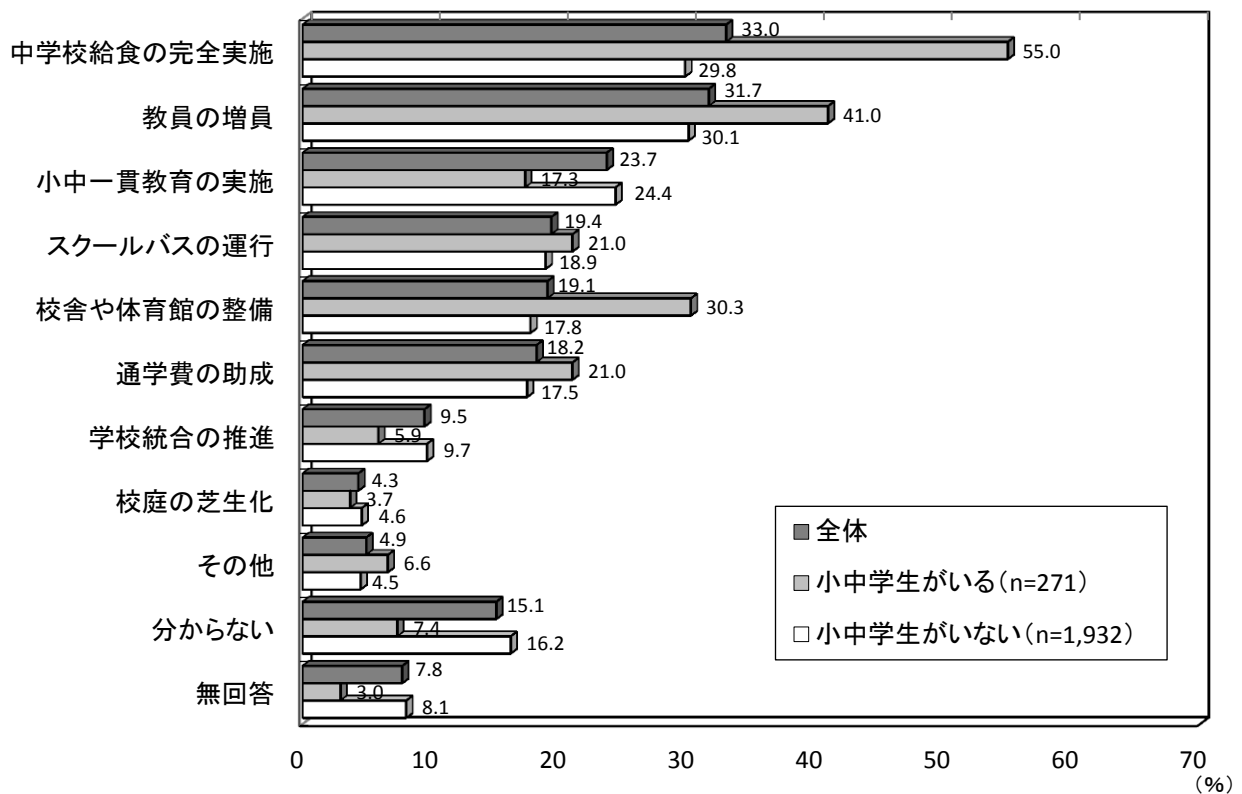
【前回調査結果（平成 21 年度）】

中学校給食の完全実施：31.3% [33.0%]	校舎や体育館の整備：15.5% [19.1%]
教員の増員：27.0% [31.7%]	通学費の助成：14.5% [18.2%]
小中一貫教育の実施：21.6% [23.7%]	学校統合の推進：9.4% [9.5%]
スクールバスの運行：15.7% [19.4%]	校庭の芝生化：5.7% [4.3%]

※ [] 内は今年度調査結果

また、「小中高生がいる世帯」を「いない世帯」と比較すると、「中学校給食の完全実施」が 55.0%と突出して多くなっているほか、「教員の増員」41.0%、「校舎や体育館の整備」30.3%が多くなっている。一方、「小中学生がいない世帯」では、「小中一貫教育の実施」24.4%や「学校統合の推進」9.7%などで「いる世帯」を大きく上回っている。

図 20-1 教育環境の向上に向けて取り組むべきこと<小中学生の有無世帯別>



- ※ 1. 「小中学生がいる」は同居家族に小学生または中学生がいると回答した人の合計値。「小学生がいない」はそれ以外の人々の合計値。ただし、無回答(n=102)は除く。
 2. その他意見で多いもの：「教員の質の向上」、「道德教育。しつけの強化」等

<地区別>

地区別でみると、『中央』・『警固屋』・『広』・『昭和』・『郷原』では、「中学校給食の完全実施」が最も多く、1位となっている。

『吉浦』・『阿賀』・『仁方』・『宮原』・『天応』・『郷原』・『川尻』では、「教員の増員」が最も多くなっている。

『音戸』・『倉橋』・『安浦』・『豊』では、全体では4位の「スクールバスの運行」が最も多くなっている。また、『蒲刈』・『豊浜』では、「通学費の助成」が最も多くなっている。

表 20-1 教育環境の向上に向けて取り組むべきこと〔複数回答〕<地区別> (単位：%)

地区	第1位	第2位	第3位
全体	中学校給食の完全実施 33.0	教員の増員 31.7	小中一貫教育の実施 23.7
中央	中学校給食の完全実施 36.6	教員の増員 31.5	小中一貫教育の実施 26.4
吉浦	教員の増員 35.2	中学校給食の完全実施 27.6	校舎や体育館の整備 24.8
警固屋	中学校給食の完全実施 41.5	スクールバスの運行 37.7	教員の増員 24.5
阿賀	教員の増員 35.0	中学校給食の完全実施 31.2	小中一貫教育の実施 22.3
広	中学校給食の完全実施 40.0	教員の増員 36.0	小中一貫教育の実施 22.3
仁方	教員の増員 34.3	中学校給食の完全実施 31.3	小中一貫教育の実施 28.4
宮原	教員の増員 29.1	中学校給食の完全実施 24.1	スクールバスの運行 17.7
天応	教員の増員 40.5	中学校給食の完全実施 28.6	小中一貫教育の実施 21.4
昭和	中学校給食の完全実施 36.7	教員の増員 29.7	スクールバスの運行 23.9
郷原	教員の増員 中学校給食の完全実施 37.2		通学費の助成 25.6
下蒲刈	小中一貫教育の実施 35.3	スクールバスの運行 通学費の助成 23.5	
川尻	教員の増員 34.8	小中一貫教育の実施 31.5	中学校給食の完全実施 24.7
音戸	スクールバスの運行 32.3	教員の増員 27.6	小中一貫教育の実施 26.0
倉橋	スクールバスの運行 32.3	通学費の助成 30.6	校舎や体育館の整備 22.6
蒲刈	通学費の助成 42.9	スクールバスの運行 小中一貫教育の実施 33.3	
安浦	スクールバスの運行 32.5	教員の増員 30.7	通学費の助成 28.9
豊浜	通学費の助成 38.9	スクールバスの運行 33.3	小中一貫教育の実施 27.8
豊	スクールバスの運行 39.1	小中一貫教育の実施 30.4	教員の増員 26.1

※ ■は全体で第1位の項目

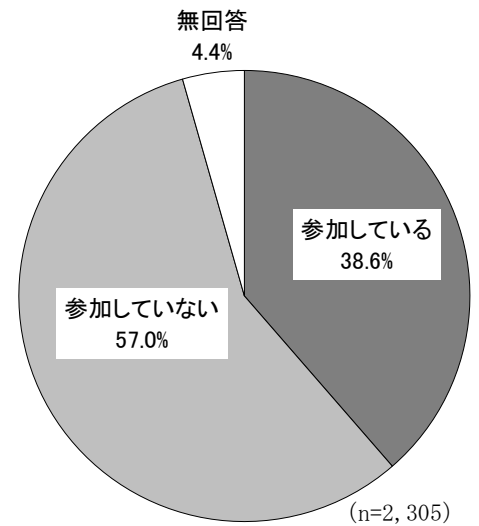
(7) 市民協働

◇お住まいの地域で地域活動に参加している人	⇒	39%
◇今後、参加してみたい地域活動		
1位 ボランティア活動	21%	2位 自治会
2位 自治会	12%	
◇地域活動に参加しやすくなると思うこと		
1位 世話役の持ち回りなどの負担を減らす	36%	
2位 活動内容や連絡先などをPRする	29%	
◇地域の活性化につながる特色ある取組を進めるべきだと思う人	⇒	60%
◇地域住民による支え合いが有効だと思う取組		
1位 防災（防災訓練、防災マップ、物品の備蓄等）	57%	
2位 高齢者支援（声かけ訪問、サロン運営、買い物・移動支援等）	56%	

問 21 あなたは現在、お住まいの地域で、何らかの地域活動に参加していますか。
(○は1つ)

お住まいの地域で地域活動の参加の有無については、「参加している」が38.6%と4割弱を占める。
なお、前回調査と比較すると、「参加している」（前回42.3%）がやや減少している。

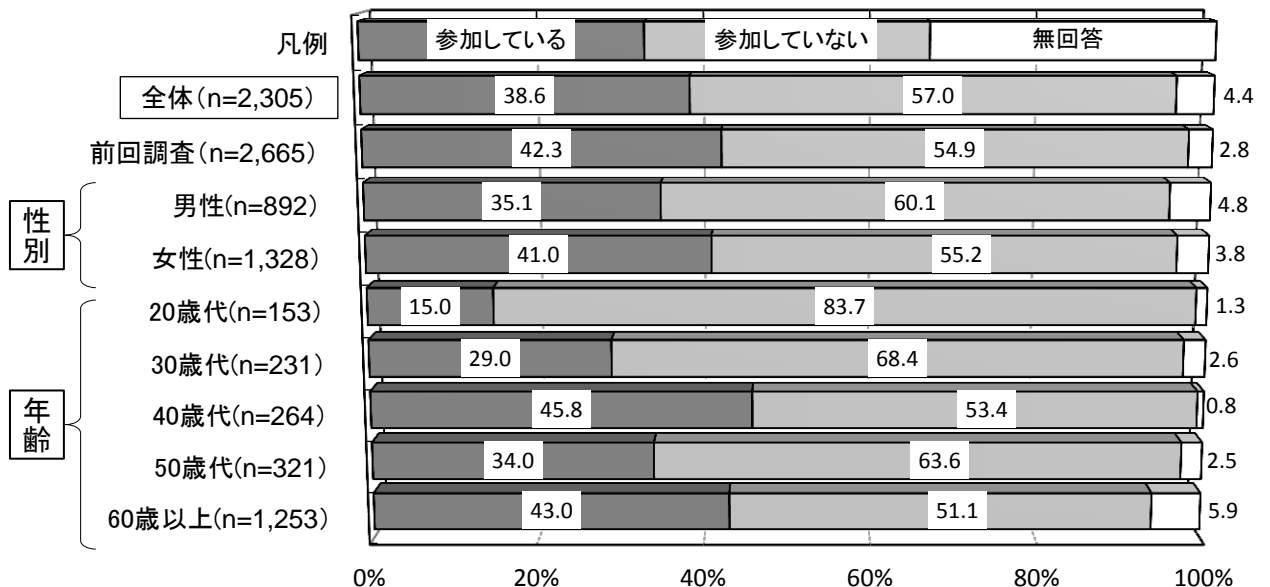
図 21-1 地域の活動への参加の有無



<性別・年齢別>

性別でみると、「参加している」は、『男性』35.1%、『女性』41.0%で『女性』の方が5.9ポイント高い。
年齢別でみると、「参加している」は、『20歳代』で15.0%と参加率が比較的低いが、『30歳代』と『50歳代』で30%前後、『40歳代』と『60歳以上』で40%超となっている。

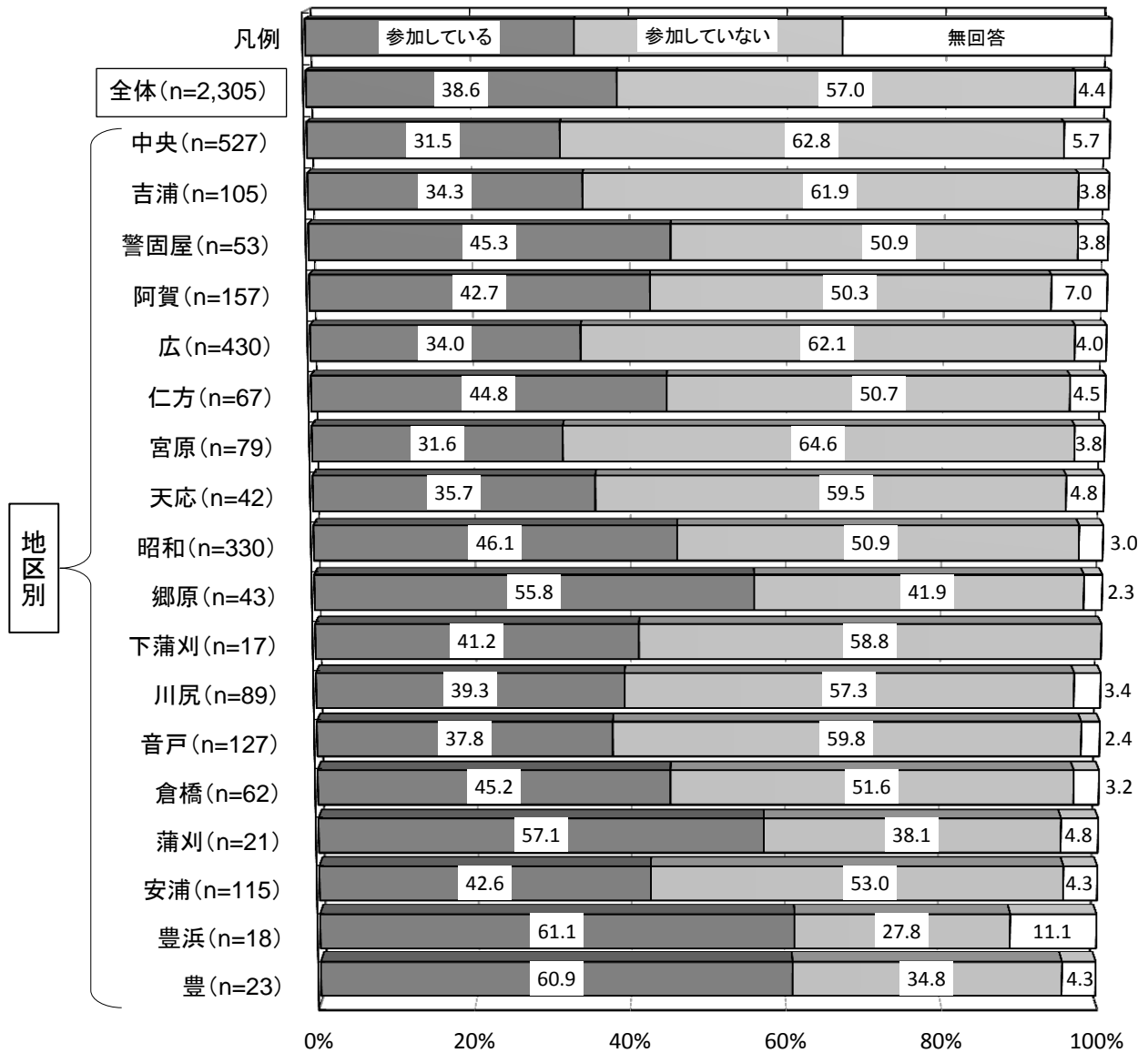
図 21-2 地域の活動への参加の有無<性別・年齢別>



<地区別>

地区別でみると、「参加している」は、『豊浜』が61.1%で最も多く、次いで『豊』60.9%、『蒲刈』57.1%、『郷原』55.8%と続き、5割以上となっている。

図 21-3 地域の活動への参加の有無<地区別>



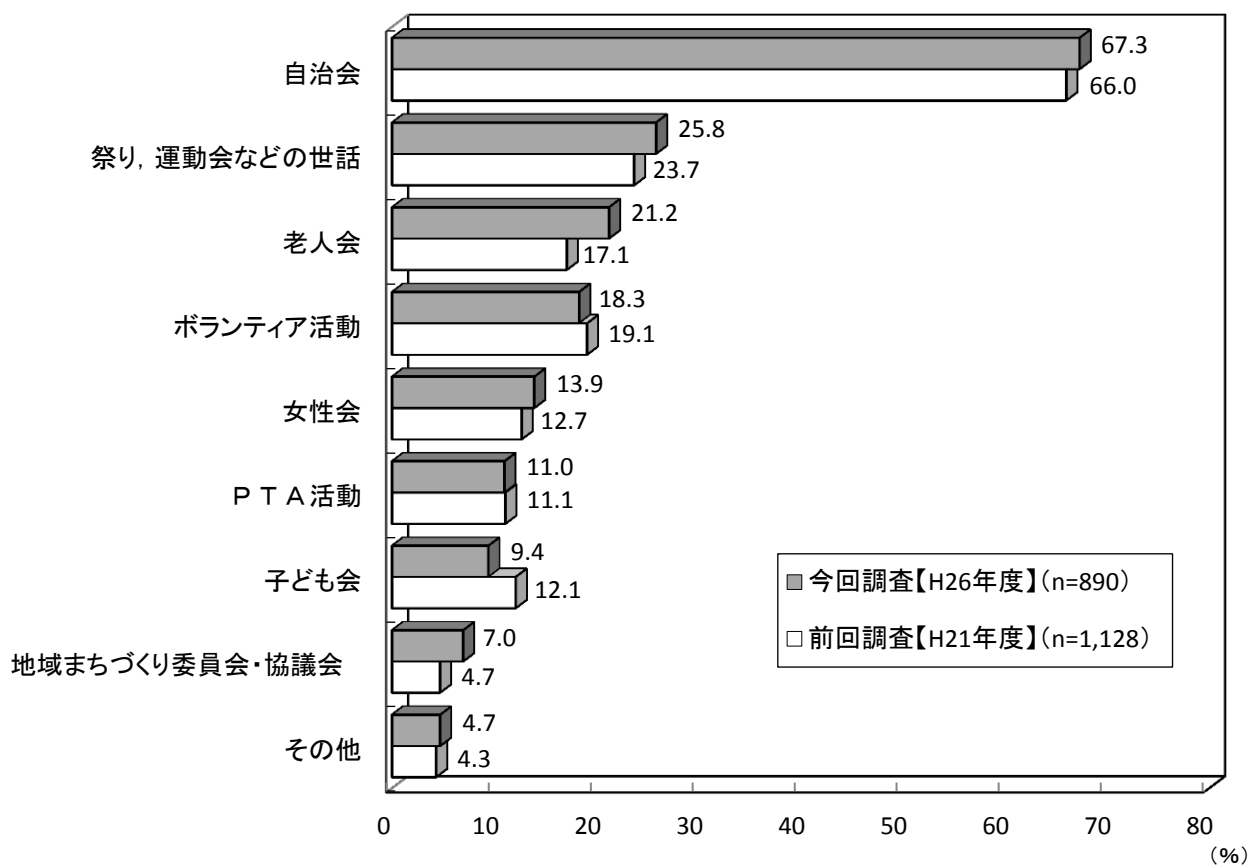
問 21-1 上記問 21 で「参加している」に回答した方のみ

どのような地域活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

「参加している」と回答した人にどのような地域活動に参加しているかを聞いたところ、「自治会」が 67.3%で最も多く、次いで「祭り、運動会などの世話」25.8%、「老人会」21.2%となっている。

なお、前回調査と比較すると、ほとんどの項目が前回と同水準であったが、「地域まちづくり委員会・協議会」(前回 4.7%) はやや増加している。

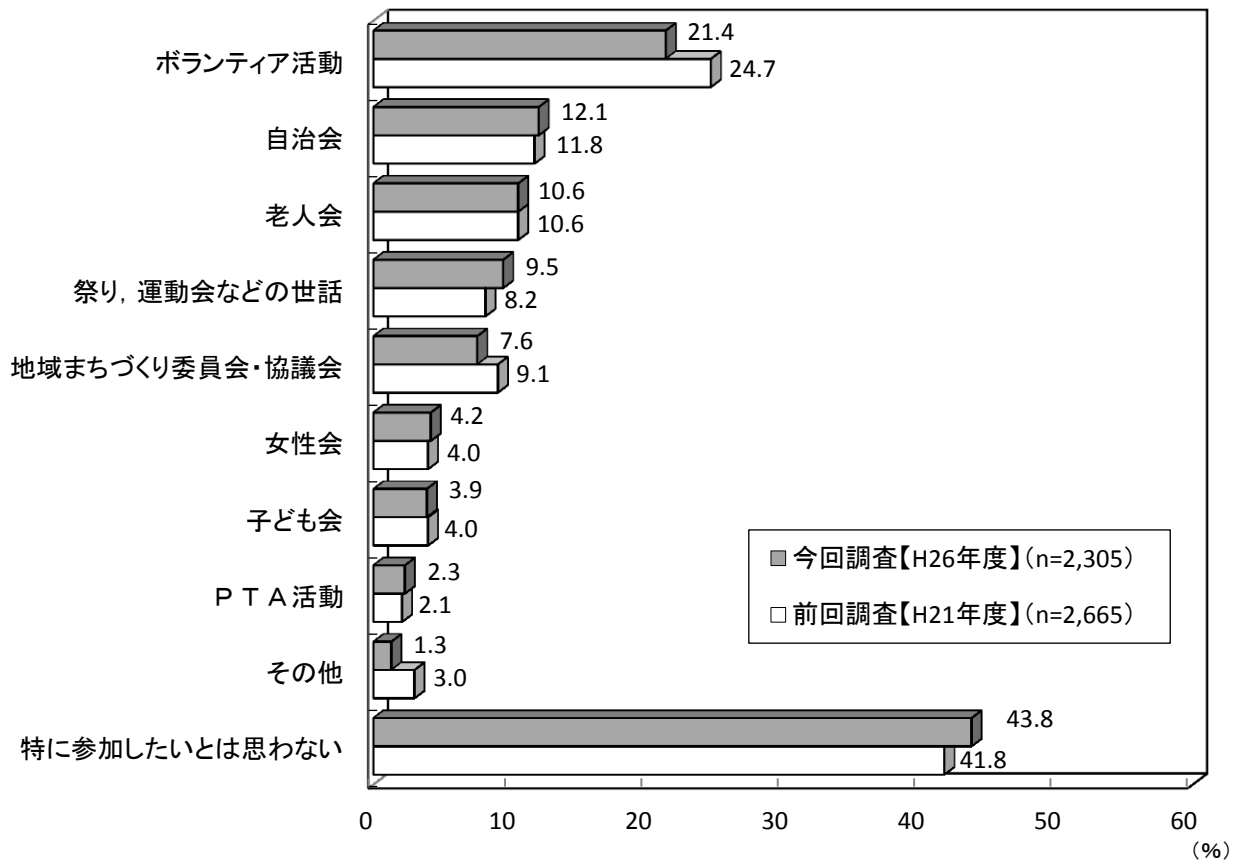
図 21-4 参加している地域活動



問 22 今後、どのような地域活動に参加してみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、参加してみたい地域活動については、「ボランティア活動」が 21.4%で最も多く、次いで「自治会」12.1%、「老人会」10.6%となっている。それ以外は1割にも満たない。また、「特に参加したいとは思わない」は、43.8%となっており、前回調査より増加している。

図 22-1 今後、参加してみたい地域活動

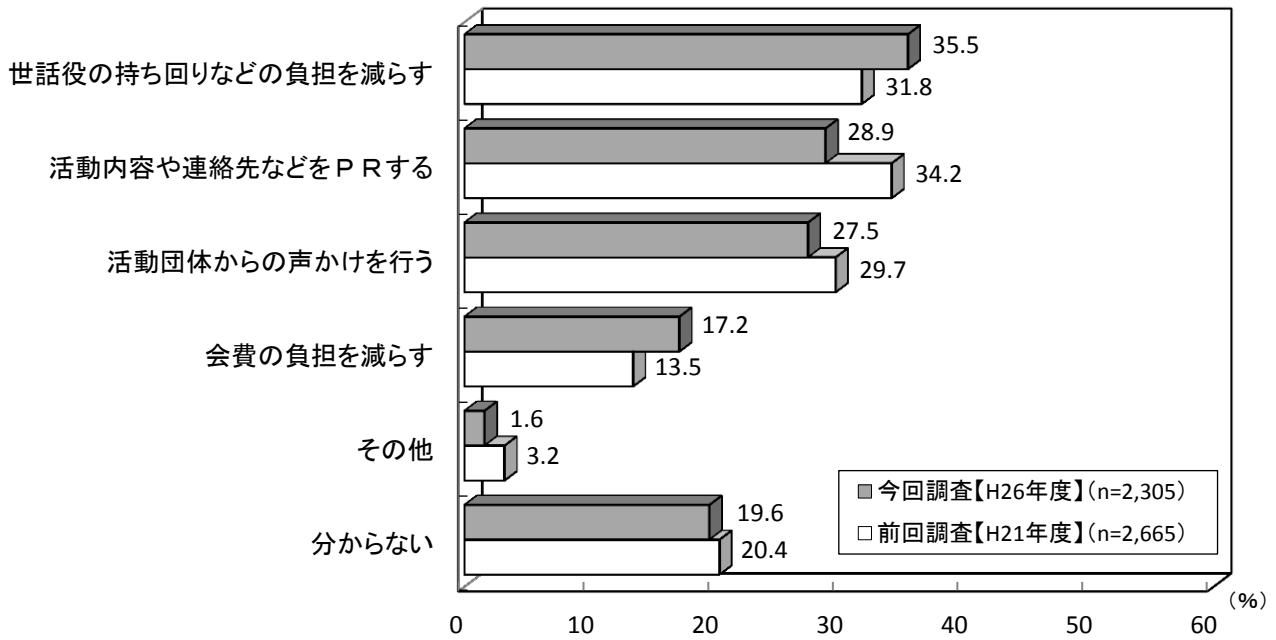


問 23 どうすれば、地域活動に参加しやすくなると思いますか。(〇はいくつでも)

地域活動に参加しやすくなると思うことについては、「世話役の持ち回りなどの負担を減らす」が 35.5%で最も多く、次いで「活動内容や連絡先などをPRする」28.9%、「活動団体からの声かけを行う」27.5%と上位3項目が3割前後となっている。

なお、前回調査と比較すると、「活動内容や連絡先などをPRする」は5.3ポイント減少し、「世話役の持ち回りなどの負担を減らす」と順位が逆転している。

図 23-1 地域活動に参加しやすくなると思うこと



<年齢別>

年齢別でみると、『20歳代』、『40歳代』、『50歳代』は「世話役の持ち回りなどの負担を減らす」、『30歳代』は「会費の負担を減らす」、『60歳以上』は「活動団体からの声かけを行う」が最も多い。

表 23-1 地域活動に参加しやすくなると思うこと〔複数回答〕<年齢別> (単位:%)

年齢区分	第1位	第2位	第3位
全体 (n=2,305)	世話役の持ち回りなどの負担を減らす 35.5	活動内容や連絡先などをPRする 28.9	活動団体からの声かけを行う 22.9
20歳代 (n=153)	世話役の持ち回りなどの負担を減らす 41.2	活動内容や連絡先などをPRする 32.7	会費の負担を減らす 29.4
30歳代 (n=231)	会費の負担を減らす 28.6	活動団体からの声かけを行う 22.9	活動内容や連絡先などをPRする 22.5
40歳代 (n=264)	世話役の持ち回りなどの負担を減らす 44.3	活動内容や連絡先などをPRする 24.2	会費の負担を減らす 22.0
50歳代 (n=321)	世話役の持ち回りなどの負担を減らす 45.5	活動内容や連絡先などをPRする 29.6	活動団体からの声かけを行う 20.2
60歳以上 (n=1,253)	活動団体からの声かけを行う 32.8	活動内容や連絡先などをPRする 30.1	世話役の持ち回りなどの負担を減らす 28.8

※ ■は全体で第1位の項目

問 24 呉市では現在, 市内 28 の地域ごとに「まちづくり計画」を作っていただき, 地域住民の手で, 地域の活性化につながるような特色ある取組を進めていただいています。あなたは, このような取組を進めていくべきだと思いますか。(〇は1つ)

地域住民の手で, 地域の活性化につながるような特色ある取組を進めることについては, 「進めるべきだと思う」が 59.8%と約6割を占める。

「進めるべきではないと思う」は, 1.2%とわずかである。

なお, 前回調査と比較すると, 「進めるべきだと思う」(前回 68.6%) が 8.8 ポイントも低下している。

<性別・年齢別>

性別でみると, 「進めるべきだと思う」が『男性』は 64.5%, 『女性』は 56.9%で, 『男性』の方が 7.6 ポイント高くなっている。

年齢別でみると, 「進めるべきだと思う」が『20 歳代』で 67.3%と最も高くなっており, その他の年代では6割前後となっている。

図 24-1 地域の活性化につながるような特色ある取組への考え方

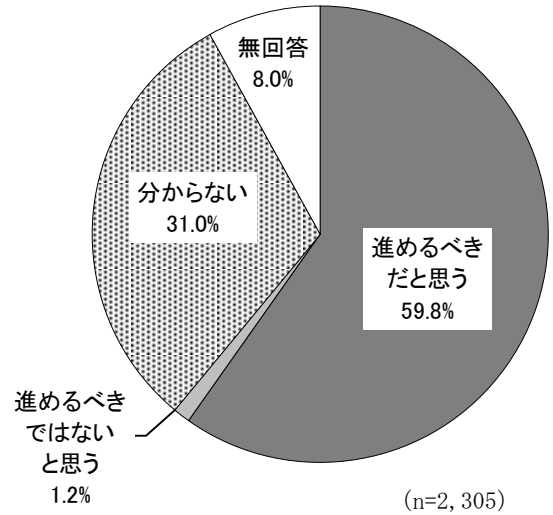
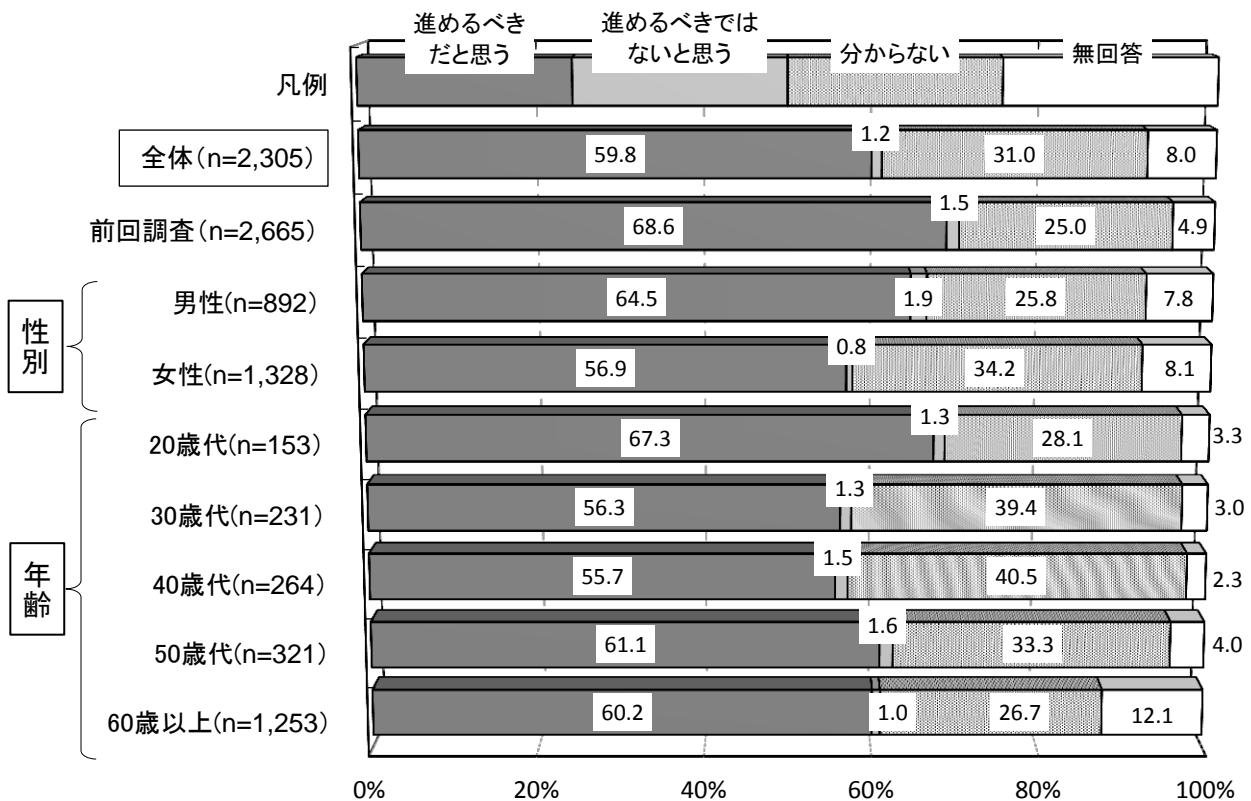


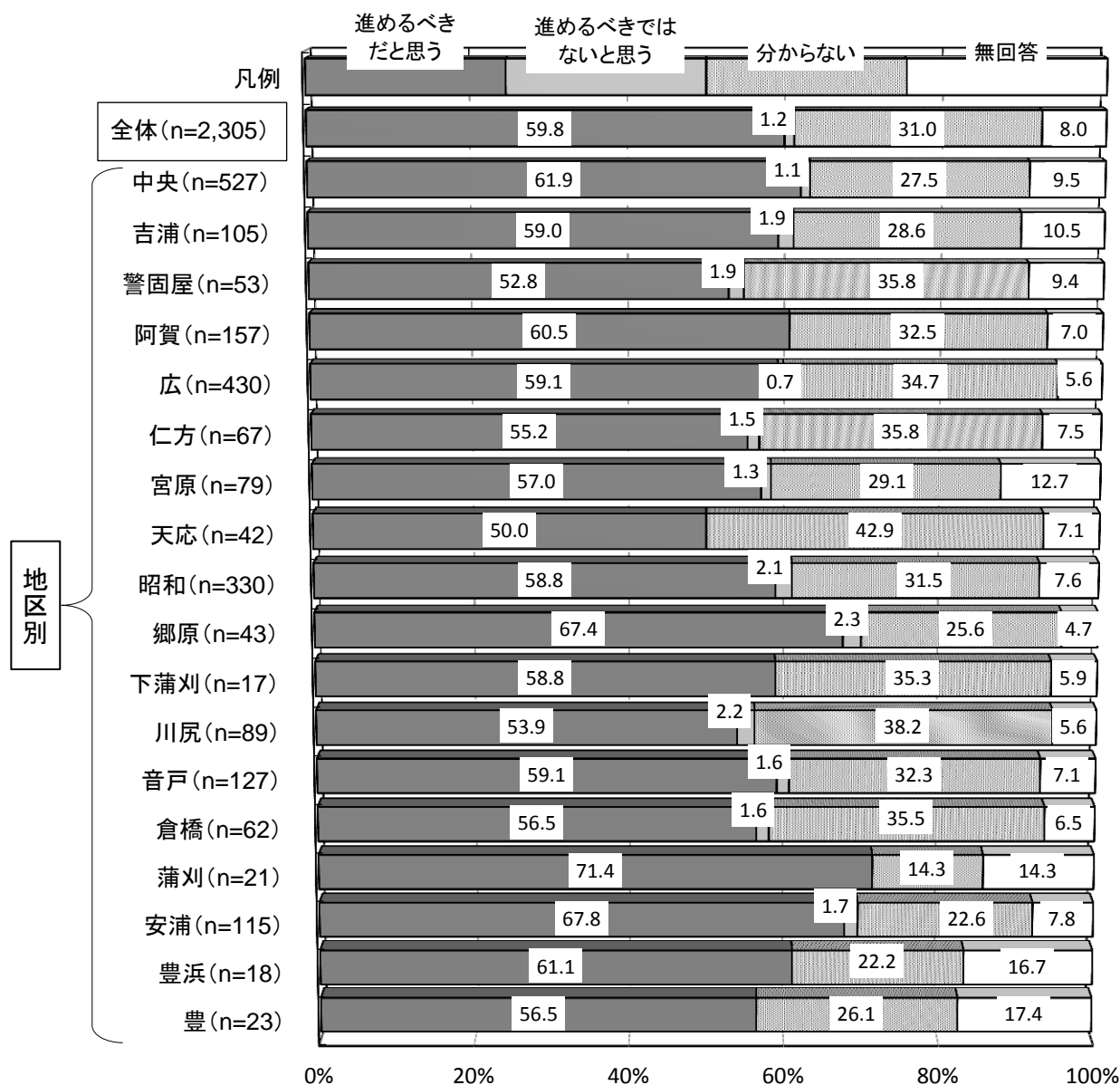
図 24-2 地域の活性化につながるような特色ある取組への考え方<性別・年齢別>



<地区別>

地区別でみると、どの地区においても「進めるべきだと思う」は過半数を超えている。『蒲刈』が71.4%で最も多く、『安浦』67.8%、『郷原』67.4%、『中央』61.9%、『豊浜』61.1%、『阿賀』60.5%は6割を超えている。

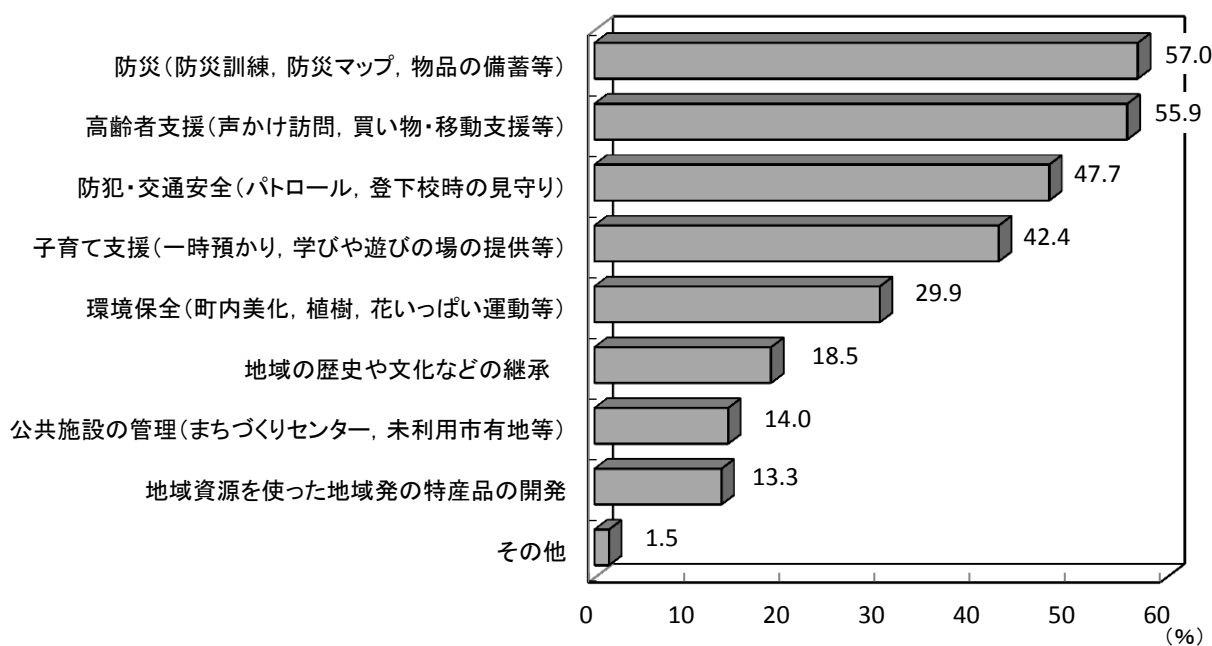
図 24-3 地域活性化につながる特色ある取組<地区別>



問 25 あなたは、地域の活性化や地域固有の課題の解決に向けて、地域住民による支え合いが有効だと思う取組は、次のどれだと思いますか。(〇はいくつでも)

地域住民による支え合いが有効だと思う取組については、「防災（防災訓練、防災マップ、物品の備蓄等）」が 57.0%で最も多く、次いで「高齢者支援（声かけ訪問、サロン運営、買い物・移動支援等）」55.9%も5割以上の方が有効としている。また、「防犯・交通安全（パトロール、登下校時の見守り）」47.7%、「子育て支援（一時預かり、乳幼児サロン、学びや遊びの場の提供等）」42.4%も4割以上と高くなっている。

図 25-1 地域住民による支え合いが有効だと思う取組



(n=2,305)

<性別・年齢別>

性別でみると、『男性』では「防災（防災訓練，防災マップ，物品の備蓄等）」が最も多いのに対し、『女性』では、「高齢者支援（声かけ訪問，サロン運営，買い物・移動支援等）」が最も多くなっている。

年齢別でみると、『20歳代』、『40歳代』、『50歳代』は「防災（防災訓練，防災マップ，物品の備蓄等）」、『30歳代』は「防犯・交通安全（パトロール，登下校時の見守り等）」、『60歳以上』は「高齢者支援（声かけ訪問，サロン運営，買い物・移動支援等）」が最も多い。

表 25-1 地域住民による支え合いが有効だと思う取組〔複数回答〕<性別・年齢別>

(単位：%)

属性区分	第1位	第2位	第3位
全体 (n=2,305)	防災 57.0	高齢者支援 55.9	防犯・交通安全 47.7
男性 (n=892)	防災 59.1	高齢者支援 51.9	防犯・交通安全 48.5
女性 (n=1,328)	高齢者支援 59.1	防災 56.3	防犯・交通安全 47.6
20歳代 (n=153)	防災 70.6	防犯・交通安全 62.1	子育て支援 57.5
30歳代 (n=231)	防犯・交通安全 64.9	防災 子育て支援	60.6
40歳代 (n=264)	防災 62.9	防犯・交通安全 58.7	子育て支援 51.5
50歳代 (n=321)	防災 64.8	高齢者支援 61.4	子育て支援 53.6
60歳以上 (n=1,253)	高齢者支援 58.3	防災 52.1	防犯・交通安全 39.6

※ ■は全体で第1位の項目

<地区別>

地区別でみると、どの地区においても「防災」は上位2項目に含まれている。また、高齢者支援は『中央』、『吉浦』、『仁方』、『下蒲刈』、『音戸』、『倉橋』、『安浦』、『豊』で最も多くなっている。

表 25-2 地域住民による支え合いが有効だと思う取組〔複数回答〕<地区別>

(単位：%)

地区名	第1位		第2位		第3位	
全体 (n=2,305)	防災	57.0	高齢者支援	55.9	防犯・交通安全	47.7
中央 (n=527)	高齢者支援	57.9	防災	56.2	防犯・交通安全	48.0
吉浦 (n=105)	高齢者支援	61.9	防災	56.2	防犯・交通安全	45.7
警固屋 (n=53)	防災	60.4	高齢者支援	60.4	子育て支援	49.1
阿賀 (n=157)	防災	58.6	高齢者支援	52.2	防犯・交通安全	49.7
広 (n=430)	防災	57.0	防犯・交通安全	52.1	高齢者支援	49.3
仁方 (n=67)	高齢者支援	61.2	防災	59.7	防犯・交通安全	52.2
宮原 (n=79)	防災	59.5	高齢者支援	51.9	防犯・交通安全	49.4
天応 (n=42)	防災	52.4	防犯・交通安全	50.0	高齢者支援	47.6
昭和 (n=330)	防災	61.2	高齢者支援	56.4	防犯・交通安全	49.4
郷原 (n=43)	防災	67.4	防犯・交通安全	65.1	高齢者支援	60.5
下蒲刈 (n=17)	高齢者支援	47.1	防災	41.2	子育て支援	41.2
川尻 (n=89)	防災	57.3	防犯・交通安全	53.9	高齢者支援	52.8
音戸 (n=127)	高齢者支援	61.4	防災	55.1	子育て支援	37.0
倉橋 (n=62)	高齢者支援	61.3	防災	46.8	子育て支援	37.1
蒲刈 (n=21)	防災	66.7	高齢者支援	57.1	子育て支援 防犯・交通安全	33.3
安浦 (n=115)	高齢者支援	67.5	防災	53.5	子育て支援 防犯・交通安全	40.4
豊浜 (n=18)	防災	50.0	高齢者支援	50.0	子育て支援 環境保全	33.3
豊 (n=23)	高齢者支援	56.5	防災	47.8	地域資源を使った地 域発の特産品の開発	39.1

※ ■は全体で第1位の項目

(8) 安全・安心

◇災害に対する不安	不安	不安はない
①山崩れ、崖崩れ	⇒ 51%	37%
②地震	⇒ 74%	16%
③河川の氾らん、低地部の浸水	⇒ 41%	45%
④高潮・津波	⇒ 32%	53%
⑤建物火災	⇒ 57%	30%
⑥林野火災	⇒ 35%	49%
◇行っている防災対策		
1位 住宅用火災警報器を設置している		67%
2位 市の指定する避難所を知っている		52%

問 26 あなたの住んでいる地域では、次に掲げる災害について不安がありますか。それぞれについてお答えください。(それぞれ〇は1つ)

災害に対する不安については、『地震』が最も多く、「非常に不安」28.9%、「やや不安」44.8%で合わせて『不安』は 73.7%と7割以上を占める。次いで『建物火災』56.5%、『山崩れ、崖崩れ』51.3%で『不安』が多くなっている。

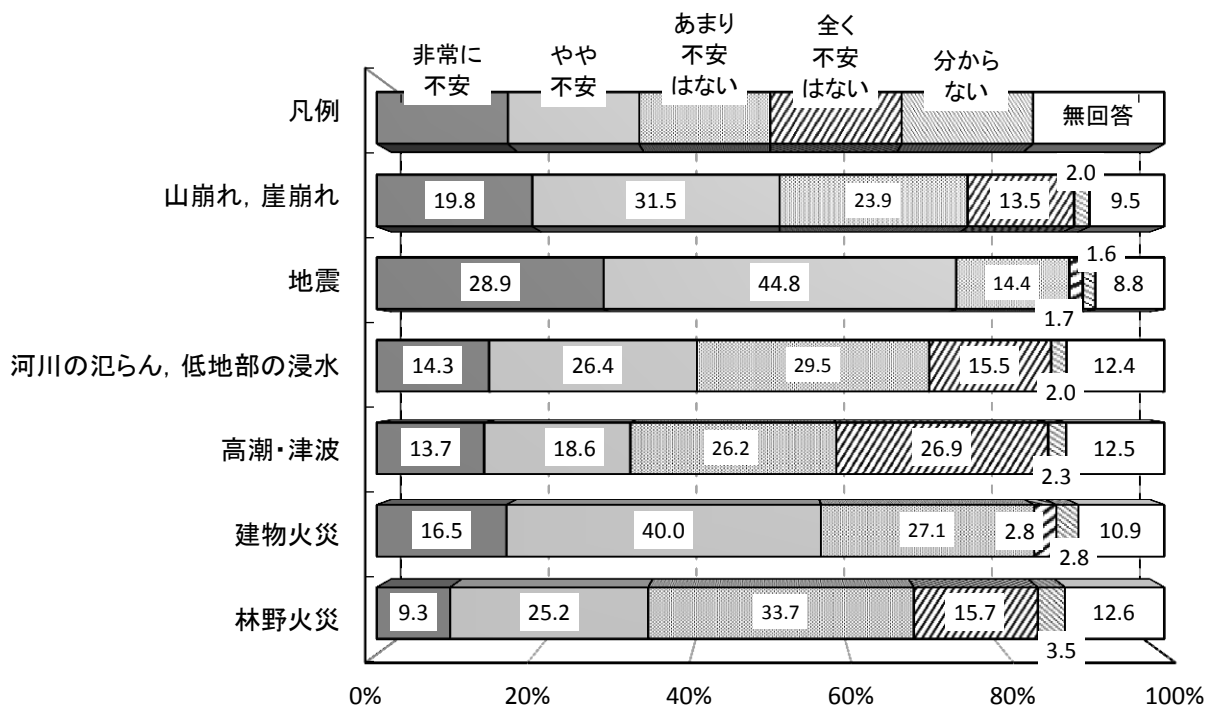
なお、前回調査と比較すると、「高潮・津波」に対する「不安」がやや多くなっている。

【前回調査結果（平成21年度）】

山崩れ、崖崩れ：50.0% [51.3%]	高潮・津波：25.8% [32.3%]
地震：70.1% [73.7%]	建物火災：55.9% [56.5%]
河川の氾らん、低地部の浸水：38.2% [40.7%]	林野火災：36.2% [34.5%]

※ [] 内は今年度調査結果

図 26-1 災害に対する不安



(n=2,305)

<地区別>

地区別でみると、『豊浜』で「建物火災」が最も多くなっているほかは、全地区で「地震」が最も多くなっている。

表 26-1 災害に対する不安<地区別>

(単位：%)

地区名	第1位	第2位	第3位
全体 (n=2,305)	地震 73.7	建物火災 56.5	山崩れ, 崖崩れ 51.3
中央 (n=527)	地震 72.3	建物火災 59.0	山崩れ, 崖崩れ 41.7
吉浦 (n=105)	地震 74.3	山崩れ, 崖崩れ 62.9	建物火災 61.9
警固屋 (n=53)	地震 84.9	山崩れ, 崖崩れ 69.8	建物火災 52.8
阿賀 (n=157)	地震 66.9	山崩れ, 崖崩れ 56.1	建物火災 55.4
広 (n=430)	地震 73.7	河川の氾濫, 低地部の浸水 57.4	建物火災 56.0
仁方 (n=67)	地震 79.1	河川の氾濫, 低地部の浸水 59.7	山崩れ, 崖崩れ 高潮・津波 建物火災 55.2
宮原 (n=79)	地震 75.9	山崩れ, 崖崩れ 62.0	建物火災 53.2
天応 (n=42)	地震 73.8	建物火災 52.4	山崩れ, 崖崩れ 50.0
昭和 (n=330)	地震 76.4	山崩れ, 崖崩れ 57.6	建物火災 53.9
郷原 (n=43)	地震 67.4	林野火災 60.5	山崩れ, 崖崩れ 58.1
下蒲刈 (n=17)	地震 76.5	高潮・津波 64.7	山崩れ, 崖崩れ 建物火災 58.8
川尻 (n=89)	地震 75.3	建物火災 50.6	山崩れ, 崖崩れ 48.3
音戸 (n=127)	地震 75.6	山崩れ, 崖崩れ 62.2	建物火災 60.6
倉橋 (n=62)	地震 67.7	山崩れ, 崖崩れ 64.5	高潮・津波 59.7
蒲刈 (n=21)	地震 81.0	建物火災 71.4	山崩れ, 崖崩れ 高潮・津波 66.7
安浦 (n=115)	地震 72.8	山崩れ, 崖崩れ 56.1	建物火災 52.6
豊浜 (n=18)	建物火災 66.7	山崩れ, 崖崩れ 地震 61.1	—
豊 (n=23)	地震 69.6	建物火災 69.6	高潮・津波 60.9

※ ■は全体で第1位の項目

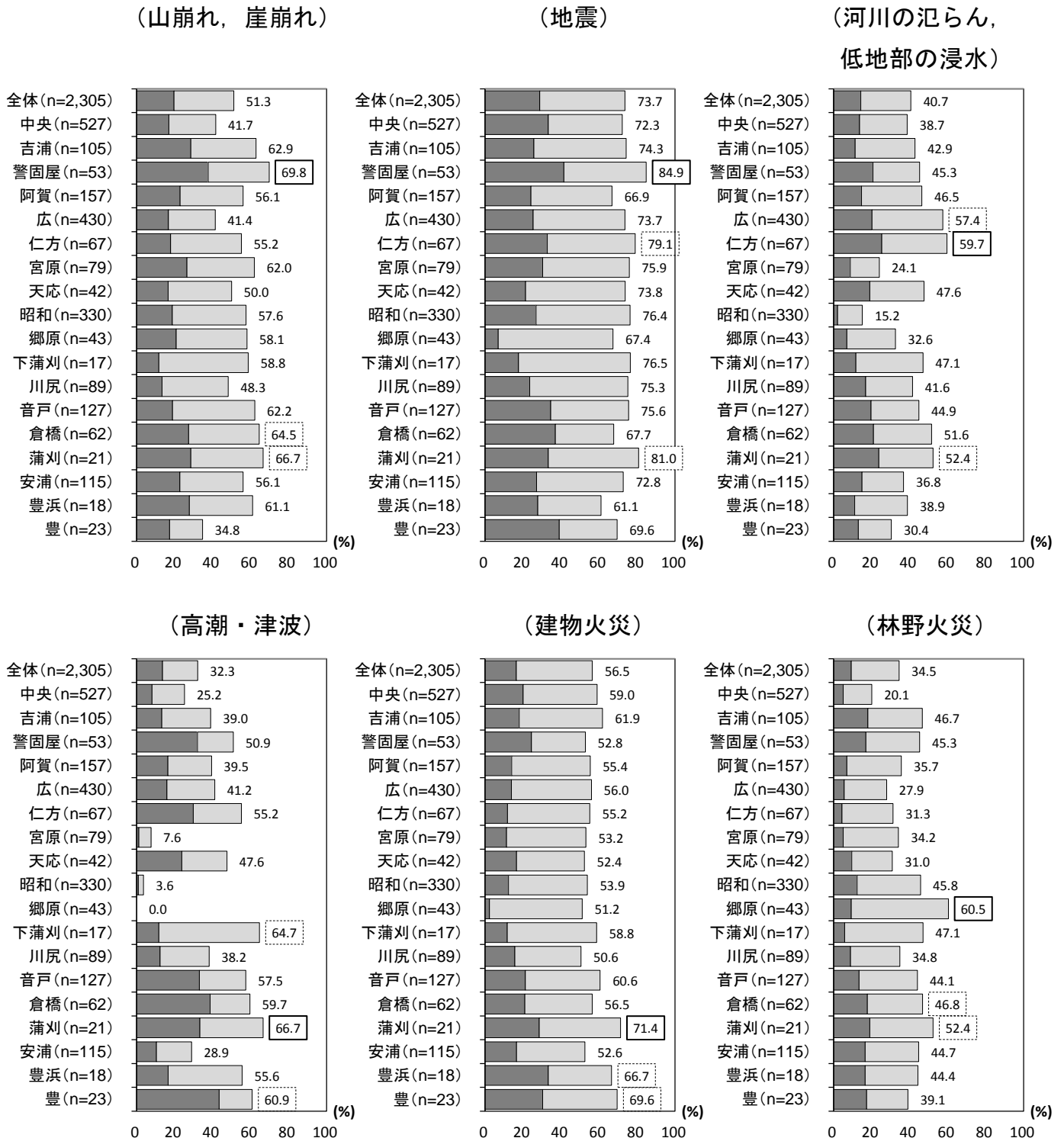
<地区別>

項目別に上位3地区をみると、「山崩れ, 崖崩れ」は、『警固屋』・『蒲刈』・『倉橋』, 「地震」は、『警固屋』・『蒲刈』・『仁方』, 「河川の氾らん, 低地部の浸水」は、『仁方』・『広』・『蒲刈』, 「高潮・津波」は、『蒲刈』・『下蒲刈』・『豊』, 「建物火災」は、『蒲刈』・『豊』・『豊浜』, 「林野火災」は、『郷原』・『蒲刈』・『倉橋』となっている。

図 26-2 災害に対する不安<地区別>

凡例 ■ : 「非常に不安」, ■ : 「やや不安」

※ グラフ内の数値の□は最も多いもの, □は上位第2位と第3位のもの

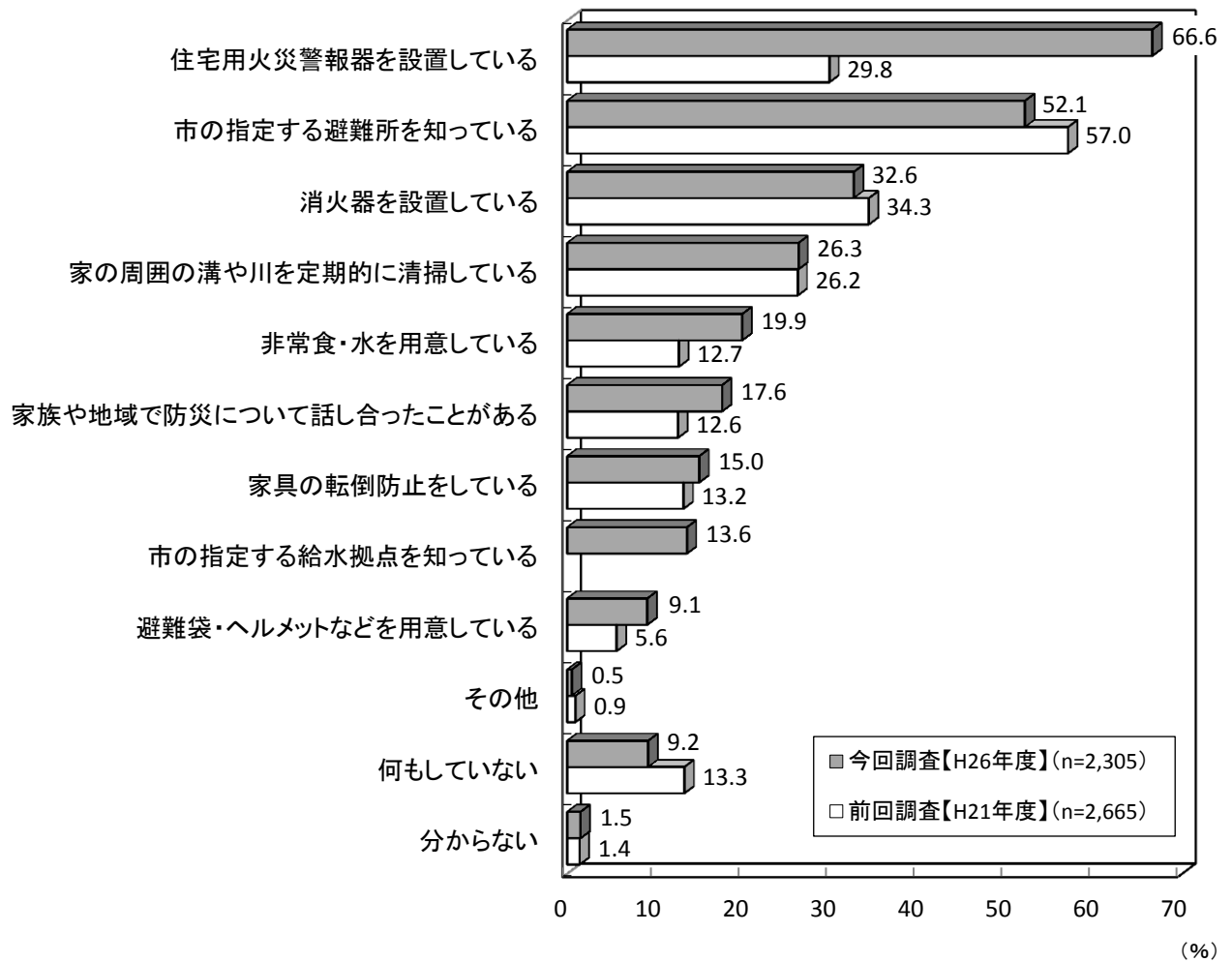


問 27 あなたは、どのような防災対策を行っていますか。(〇はいくつでも)

行っている防災対策については、「住宅用火災警報器を設置している」が 66.6%で前回調査 (29.8%) よりも大幅に進んだ。次いで「市の指定する避難所を知っている」が 52.1%、「消火器を設置している」32.6%となっている。

「何もしていない」は 9.2%で前回 (13.3%) よりも 4.1 ポイント改善している。

図 27-1 行っている防災対策



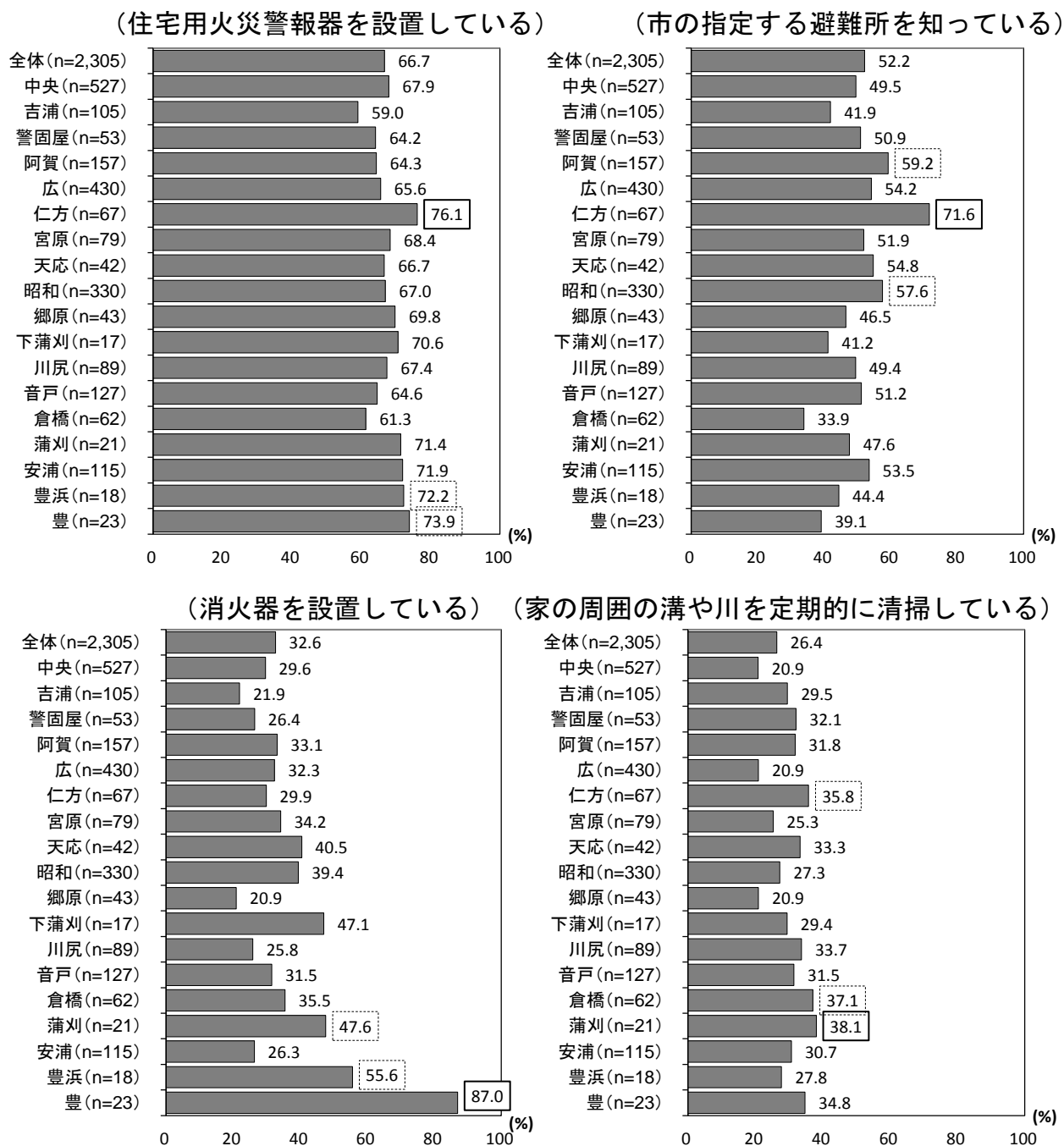
※ 「市の指定する給水拠点を知っている」は今回調査の新規項目

<地区別>

行っている防災対策の上位4項目について、地区別に上位3地区をみると、「住宅用火災警報器を設置している」は『仁方』・『豊』・『豊浜』, 「市の指定する避難所を知っている」は『仁方』・『阿賀』・『昭和』, 「消火器を設置している」は『豊』・『豊浜』・『蒲刈』, 「家の周囲の溝や川を定期的に清掃している」は『蒲刈』・『倉橋』・『仁方』が多くなっている。

図 27-2 行っている防災対策 上位4項目<地区別>

※ グラフ内の数値の□は最も多いもの, []は上位第2位と第3位のもの



(9) 観光・交流

◇過去3年間に知人などを市内へ観光案内したことがある人	⇒	35%
◇呉市の観光の魅力		
1位 大和ミュージアムなど、呉市にしかない施設がある		67%
2位 自然の美しさを間近に感じることができる		51%

問 28 あなたは、過去3年間に、呉市を訪れた知人や親族などを、市内へ観光案内したことがありますか。(○は1つ)

過去3年間に、呉市を訪れた知人や親族などを市内へ観光案内したことの有無については、「ある」が34.9%で「ない」は63.1%と「ある」と比較して非常に多くなっている。

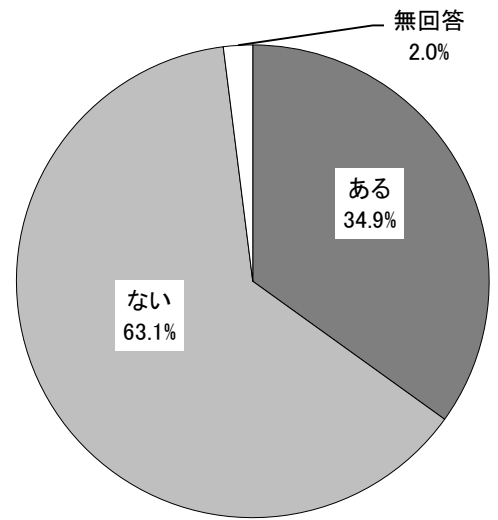
なお、前回調査と比較すると「ある」(前回40.2%)がやや減少し、「ない」(前回57.7%)がやや増えている。

<性別・年齢別>

性別でみると、「ある」は、『男性』37.7%、『女性』33.0%で『男性』の方が4.7ポイント高い。

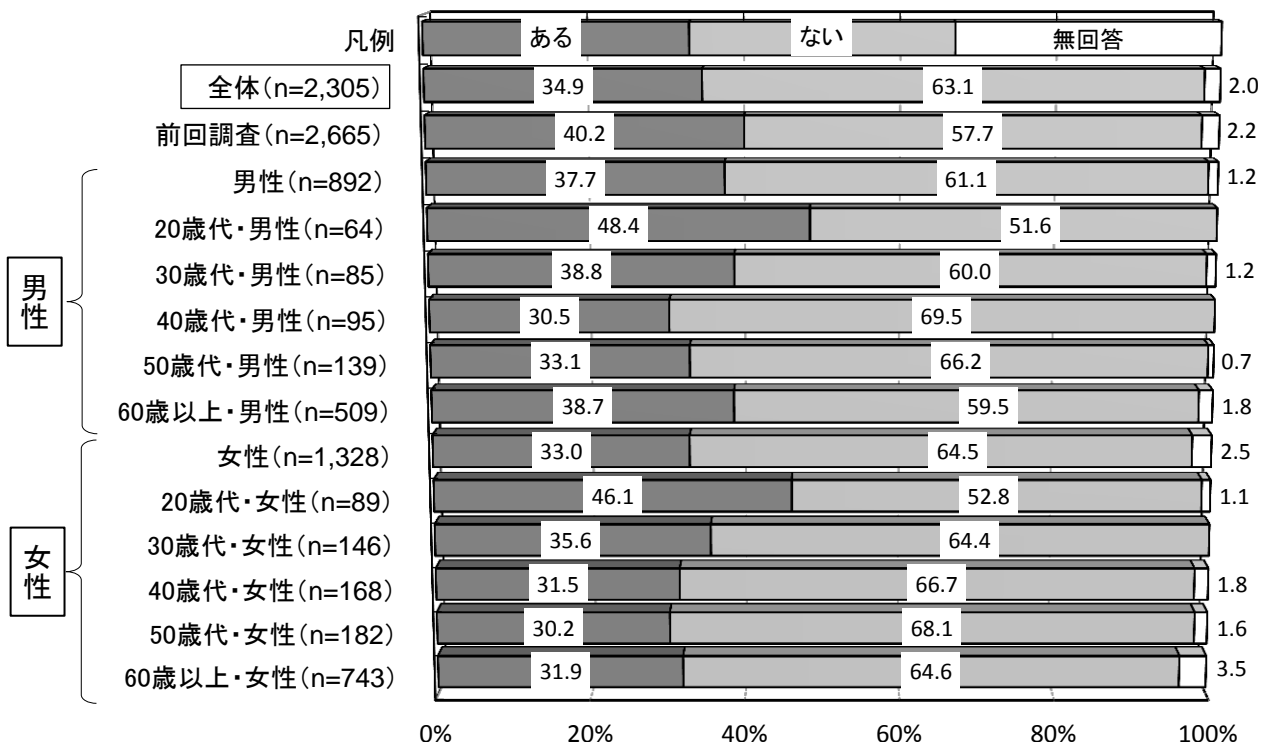
年齢別でみると、「ある」は、『20歳代・男性』が48.4%、『20歳代・女性』が46.1%が多くなっており、次いで『30歳代・男性』38.8%、『60歳代・男性』38.7%、『30歳代・女性』35.6%と多くなっている。

図 28-1 過去3年間の市内観光案内の有無



(n=2,305)

図 28-2 過去3年間の市内観光案内の有無<性別・年齢別>



問 28-1 上記問 28 で「ある」に回答した方のみ

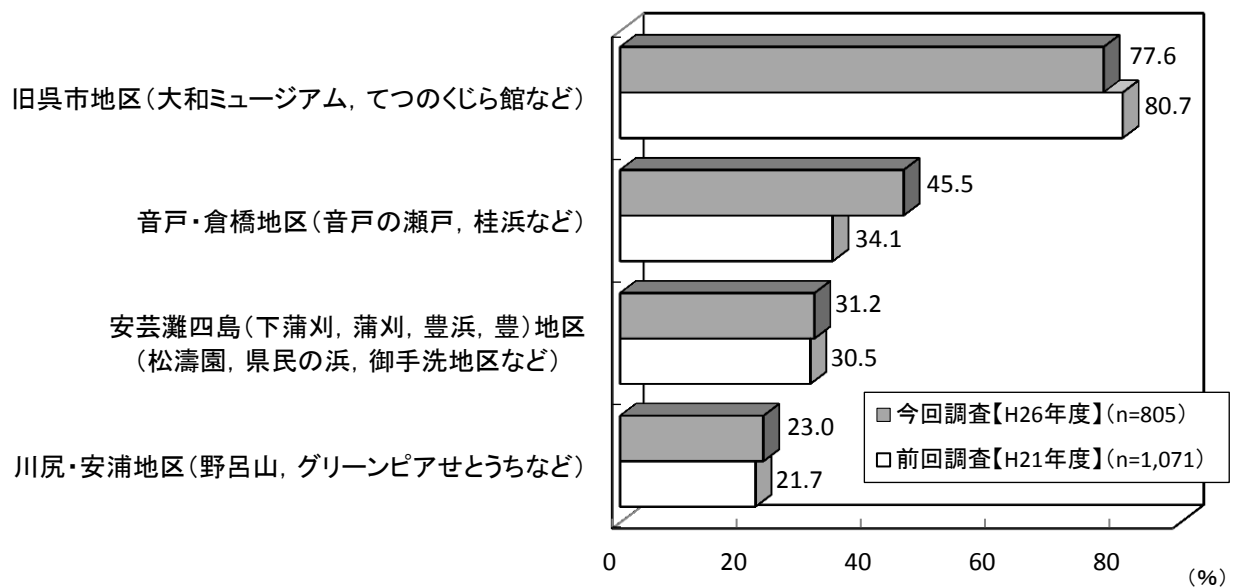
どこへ案内されましたか。(〇はいくつでも)

「ある」と回答した人に観光案内した場所を聞いたところ、「旧呉市地区（大和ミュージアム，てつのくじら館など）」が 77.6%で最も多く，8割弱を占めている。

それ以外の地区は、「音戸・倉橋地区（音戸の瀬戸，桂浜など）」45.5%、「安芸灘四島〔下蒲刈，蒲刈，豊浜，豊〕地区（松濤園，県民の浜，御手洗地区など）」31.2%、「川尻・安浦地区（野呂山，グリーンピアせとうちなど）」23.0%となっている。

なお，前回調査と比較すると、「音戸・倉橋地区（音戸の瀬戸，桂浜など）」（前回 34.1%）で前回よりも 11.4 ポイント上昇している。

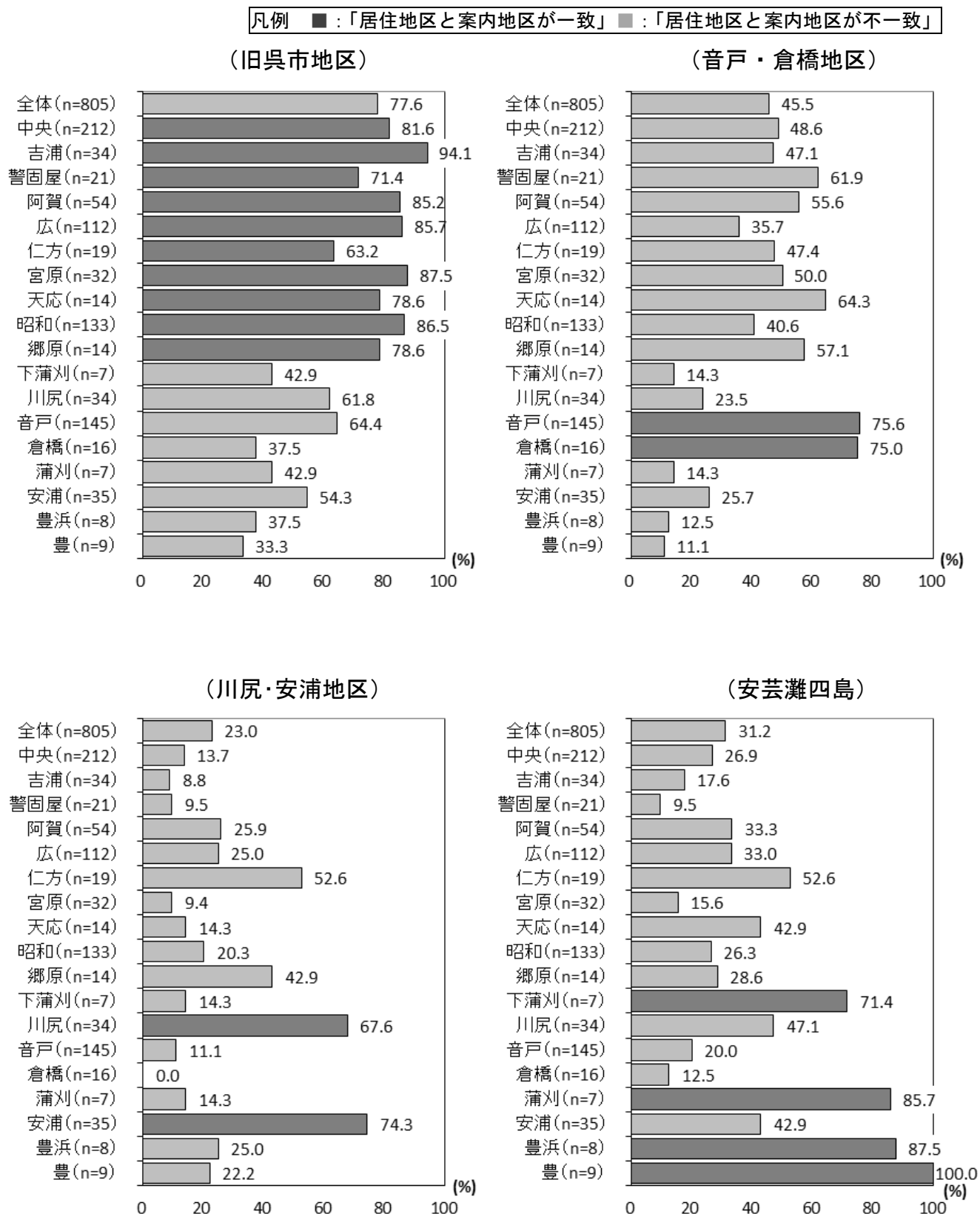
図 28-3 観光案内した場所



<地区別>

地区別でみると、観光案内した場所はそれぞれの地元地区の割合が多く、63.2～100%を占めている。過去3年間に呉市を訪れた知人や親族などを、市内へ観光案内をしたことがある人は、地元を案内している様子が伺える。

図 28-4 観光案内した場所<地区別>



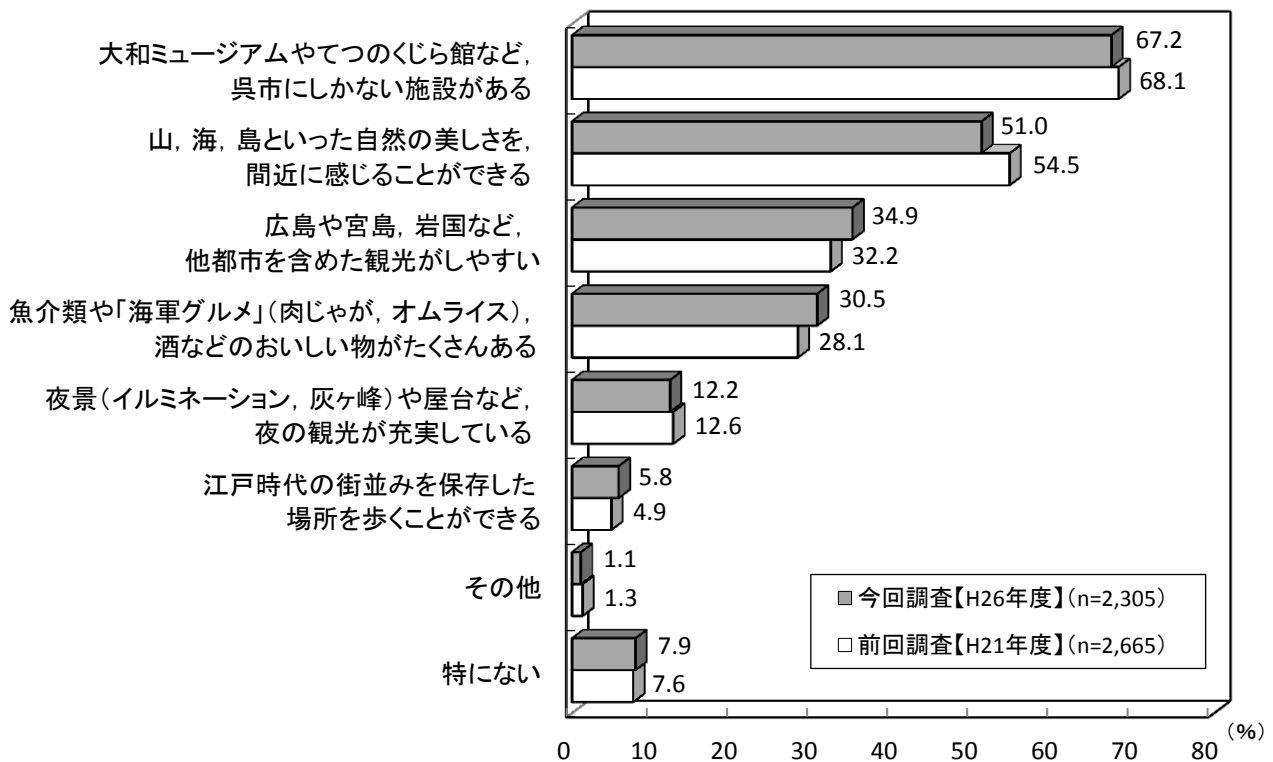
問 29 あなたは、呉市の観光に関して、どのような魅力があると思いますか。
(〇はいくつでも)

呉市の観光の魅力については、「大和ミュージアムやてつのくじら館など、呉市にしかない施設がある」が 67.2%で最も多く、次いで「山、海、島といった自然の美しさを、間近に感じることができる」が 51.0%となっており、5割を超えている。

「特にない」は 7.9%と 1割弱にとどまっている。

なお、前回調査と比較すると、ほぼ同水準である。

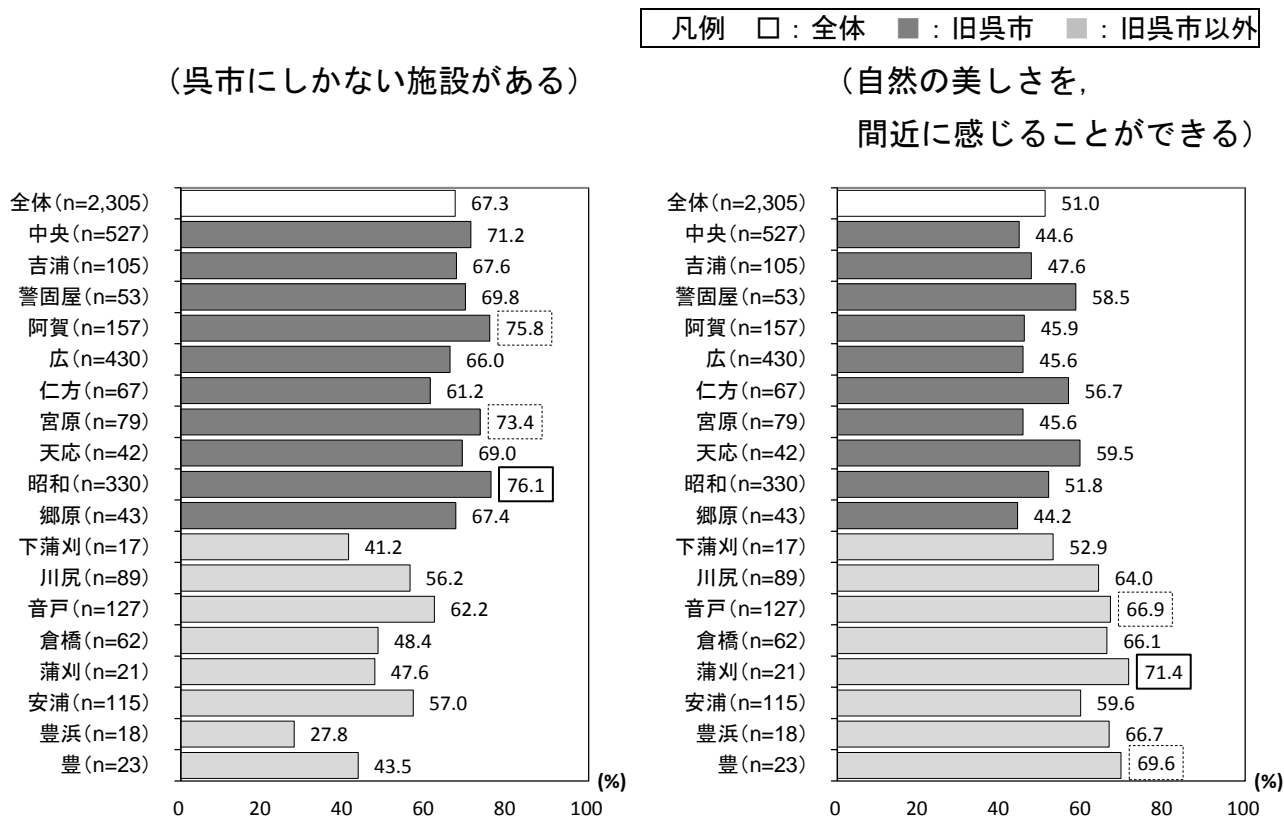
図 29-1 呉市の観光の魅力



<地区別>

上位2項目を地区別で見ると、旧呉市地区では、「大和ミュージアムやてつくじら館など、呉市にしかない施設がある」が比較的多く、それ以外の地区では、「山、海、島といった自然の美しさを、間近に感じることができる」の回答割合が比較的多い。

図 29-2 呉市の観光の魅力 上位2項目<地区別>



※ グラフ内の数値の□は最も多いもの、▨は上位第2位と第3位のもの

(10) 農水産業

◇広島県産や呉市産などの「地元産」を意識する人	⇒	65%
◇呉市の特産品だと思う農水産物		
1位 ちりめんいりこ	79%	2位 みかん 70%
◇呉市の農水産業を維持するために必要な取組		
1位 市民が積極的に地元産を購入する		48%
2位 農水産業の新規参入者や後継者を育成する		44%
◇呉市の農水産業、農漁村に期待すること		
1位 新鮮な農水産物・食料の供給		69%
2位 自然環境の保全		37%

問 30 あなたは、食料品を購入するとき、広島県産や呉市産などの「地元産」を意識することがありますか。(○は1つ)

食料品を購入するとき、広島県産や呉市産などの「地元産」を意識することの有無については、「意識することがある」が65.0%と3分の2を占める。

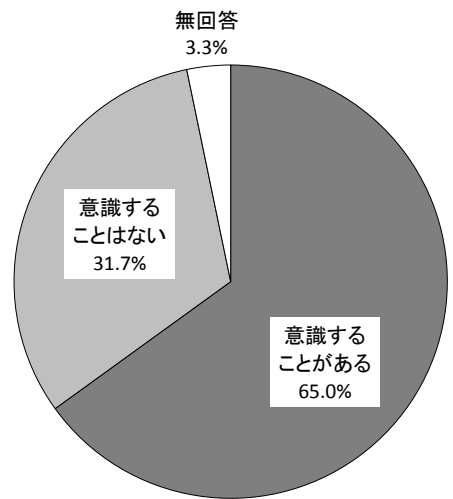
なお、前回調査と比較すると、ほぼ同水準であった。

<性別・年齢別>

性別で見ると、「意識することがある」は、『男性』57.5%、『女性』70.3%で『女性』の方が12.8ポイント高い。

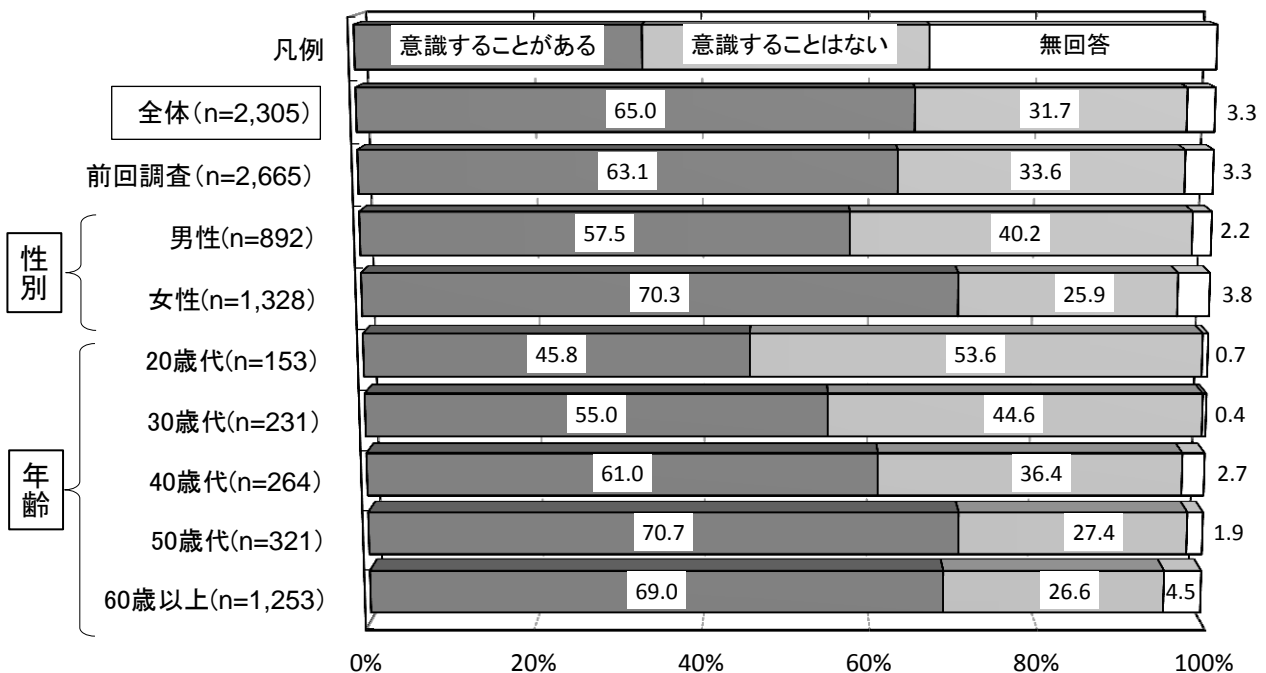
年齢別で見ると、「意識することがある」は『20歳代』から『50歳代』にかけて年齢が進むにつれて多くなっている。

図 30-1 呉市産などの「地元産」の意識



(n=2,305)

図 30-2 呉市産などの「地元産」の意識<性別・年齢別>

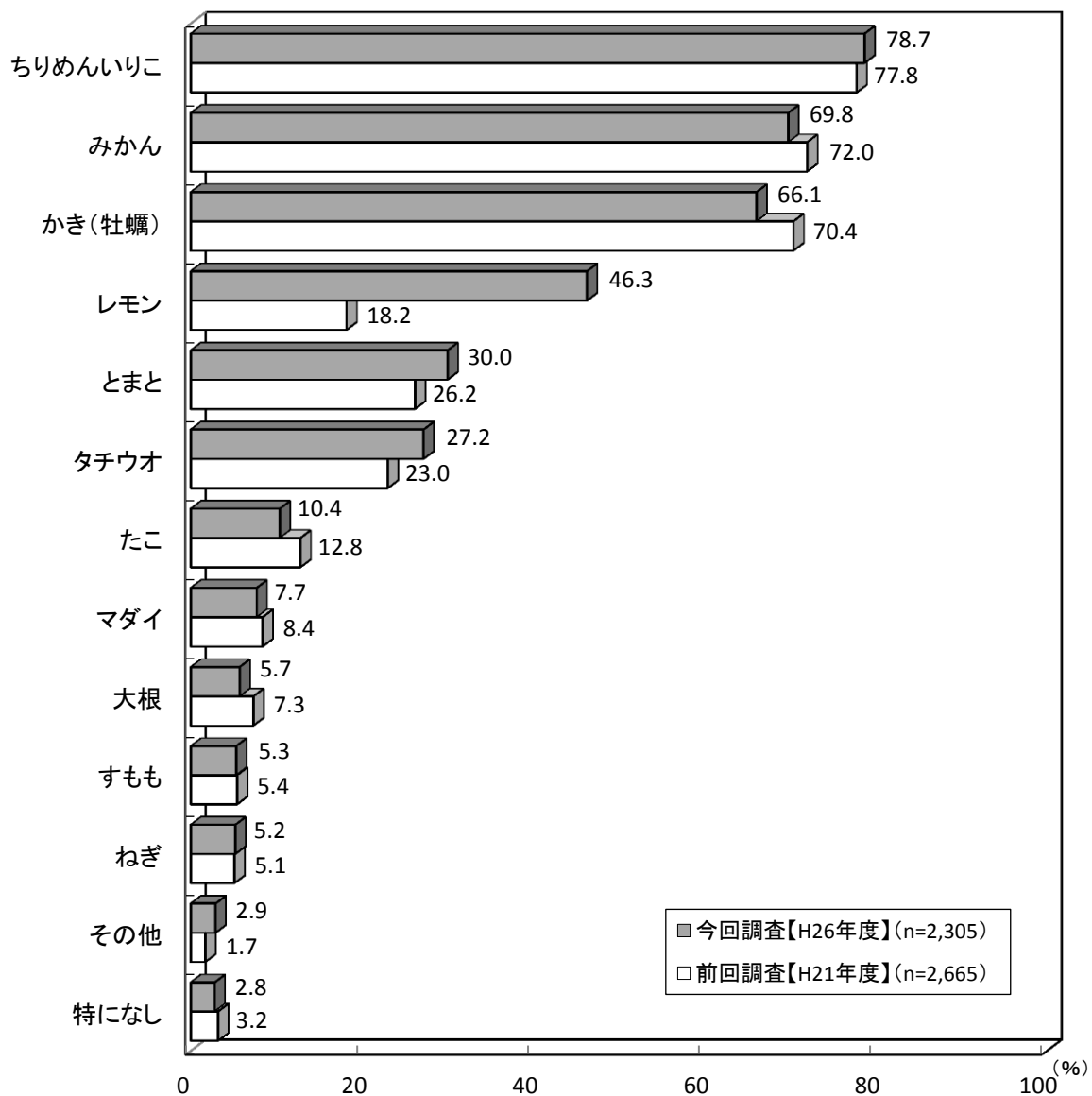


問 31 呉市には、特色ある農水産物がたくさんあります。あなたが、呉市の特産品だと思う農水産物はどれですか。(〇はいくつでも)

呉市の特産品だと思う農水産物については、「ちりめんいりこ」が78.7%で最も多く、次いで「みかん」69.8%、「かき(牡蠣)」66.1%が6割を超え、「レモン」46.3%も4割を超えている。

なお、前回調査と比較すると、「レモン」(前回18.2%)が28.1ポイント上昇しているほか、「とまと」、「タチウオ」もやや上昇している。

図 31-1 呉市の特産だと思う農水産物

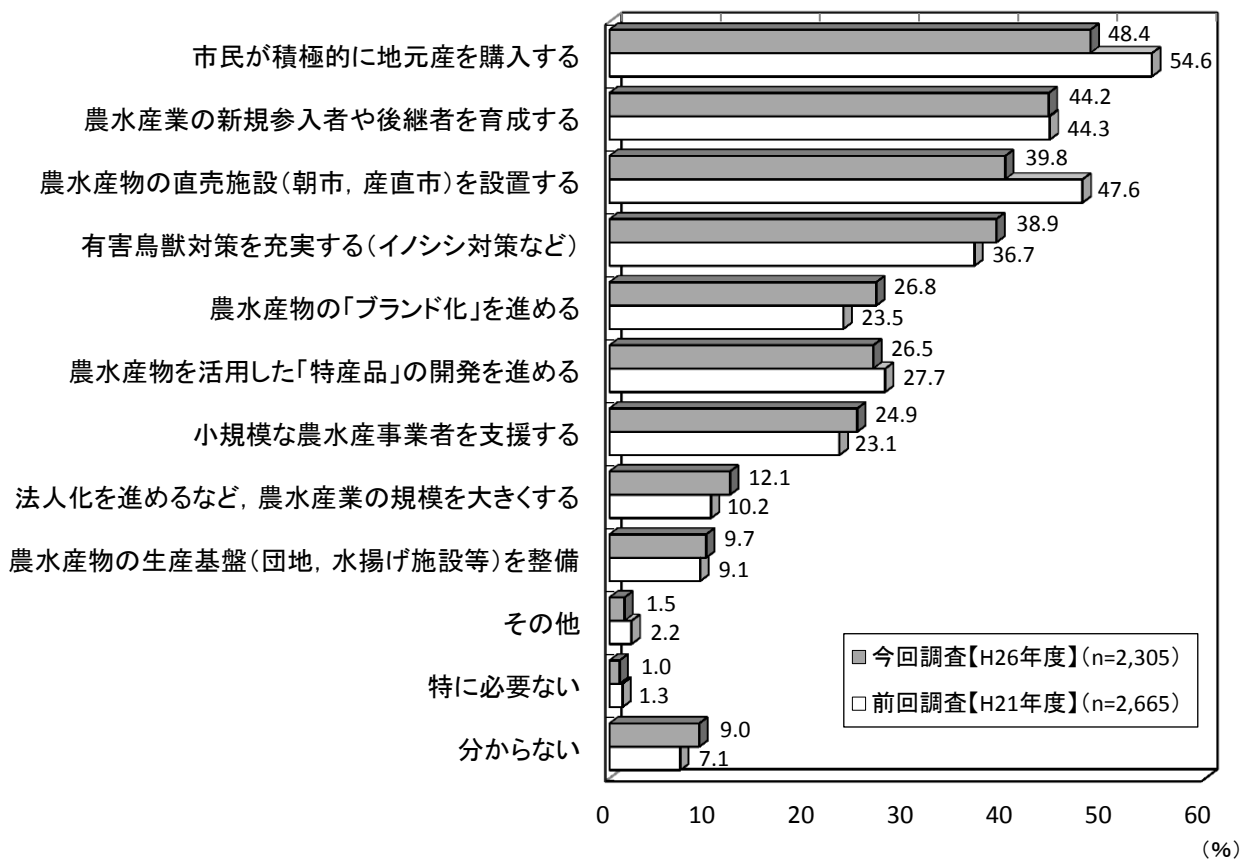


問 32 あなたは今後、呉市の農水産業を維持するためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、農水産業を維持するために必要な取組については、「市民が積極的に地元産を購入する」が48.4%で最も多く、次いで「農水産業の新規参入者や後継者を育成する」44.2%、「農水産物の直売施設(朝市、産直市など)を設置する」39.8%となっている。

なお、前回調査と比較すると、「市民が積極的に地元産を購入する」や「農水産物の直売施設(朝市、産直市など)を設置する」で低下しているほかは、ほぼ同水準であった。

図 32-1 農水産業を維持するために必要な取組



<地区別>

地区別でみると、『中央』・『吉浦』・『阿賀』・『広』・『仁方』・『天応』・『昭和』・『川尻』・『安浦』では、「市民が積極的に地元産を購入する」が最も多くなっている。

『宮原』・『下蒲刈』・『音戸』・『倉橋』・『蒲刈』・『安浦』・『豊浜』・『豊』では、全体で4位の「有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など)」が最も多くなっている。

なお、『警固屋』・『郷原』・『安浦』では「農水産業の新規参入者や後継者を育成する」が最も多くなっている。

表 32-1 農水産業を維持するために必要な取組 上位3項目<地区別>

(単位:%)

地区名	第1位	第2位	第3位
全体 (n=2,305)	市民が積極的に地元産を購入する 48.4	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 44.2	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 39.8
中央 (n=527)	市民が積極的に地元産を購入する 49.0	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 42.1	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 41.6
吉浦 (n=105)	市民が積極的に地元産を購入する 54.3	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 46.7	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 42.9
警固屋 (n=53)	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 54.7	市民が積極的に地元産を購入する 52.8	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 49.1
阿賀 (n=157)	市民が積極的に地元産を購入する 49.0	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 48.4	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 46.5
広 (n=430)	市民が積極的に地元産を購入する 47.2	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 42.8	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 42.3
仁方 (n=67)	市民が積極的に地元産を購入する 53.7	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 46.3	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 40.3
宮原 (n=79)	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 53.2	市民が積極的に地元産を購入する 51.9	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 43.0
天応 (n=42)	市民が積極的に地元産を購入する 42.9	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 40.5	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 35.7
昭和 (n=330)	市民が積極的に地元産を購入する 54.2	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 46.1	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 42.1
郷原 (n=43)	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 51.2	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 46.5	市民が積極的に地元産を購入する 44.2
下蒲刈 (n=17)	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 58.8	市民が積極的に地元産を購入する 農水産業の新規参入者や後継者を育成する 35.3	
川尻 (n=89)	市民が積極的に地元産を購入する 43.8	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 41.6	農水産物の直売施設(朝市,産直市)を設置する 38.2
音戸 (n=127)	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 53.5	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 47.2	市民が積極的に地元産を購入する 45.7
倉橋 (n=62)	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 61.3	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 48.4	市民が積極的に地元産を購入する 30.6
蒲刈 (n=21)	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 71.4	市民が積極的に地元産を購入する 47.6	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 47.6
安浦 (n=115)	市民が積極的に地元産を購入する 農水産業の新規参入者や後継者を育成する 有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 41.7		
豊浜 (n=18)	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 55.6	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 44.4	市民が積極的に地元産を購入する 33.3
豊 (n=23)	有害鳥獣対策を充実する(イノシシ対策など) 73.9	市民が積極的に地元産を購入する 60.9	農水産業の新規参入者や後継者を育成する 52.2

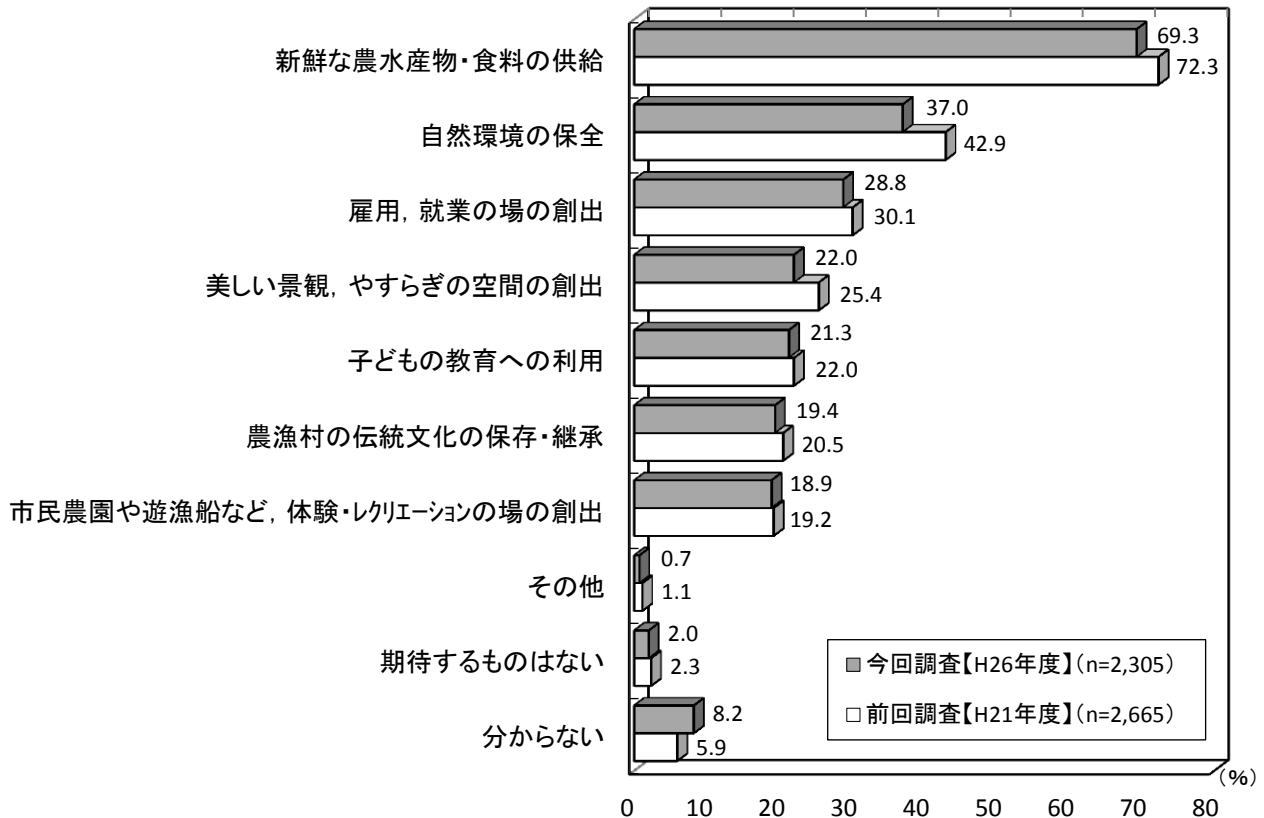
※ ■は全体で第1位の項目

問 33 あなたは、呉市の農水産業、農漁村に何を期待しますか。(〇はいくつでも)

呉市の農水産業、農漁村に期待するものについては、「新鮮な農水産物・食料の供給」が69.3%で最も多く、次いで「自然環境の保全」37.0%、「雇用、就業の場の創出」28.8%となっている。

なお、前回調査と比較すると、「自然環境の保全」(同42.9%)でやや低下している。

図 33-1 農水産業、農漁村に期待するもの



(11) ものづくり

- ◇呉市が『ものづくりのまち』と感ずることがある人 ⇒ 63%
- ◇『ものづくり』技術の引き継ぎ、発展の必要性を感じている人 ⇒ 80%
- ◇企業の立地を支援する必要性を感じている人 ⇒ 76%

問 34 呉市では、造船、鉄鋼、木材、一般機械、パルプ・紙などの「ものづくり」（製造業）を核とした産業の構造となっており、多くの雇用や新しい技術が創出されています。あなたは、呉市が「ものづくりのまち」だと感ずることはありますか。（○は1つ）

呉市が「ものづくりのまち」と感ずることがあるかについては、「感ずることがある」が63.2%と6割以上を占める。

なお、前回調査と比較すると、ほぼ同水準だった。

<性別・年齢別>

性別でみると、「感ずることがある」は、『男性』72.1%、『女性』57.7%で『男性』の方が14.4ポイント高い。

年齢別でみると、いずれの年齢でも5割を超えているが、「感ずることがある」は、年齢が上がるにつれ増え『60歳以上』が65.7%で最も多い。

図 34-1 「ものづくりのまち」と感ずることの有無

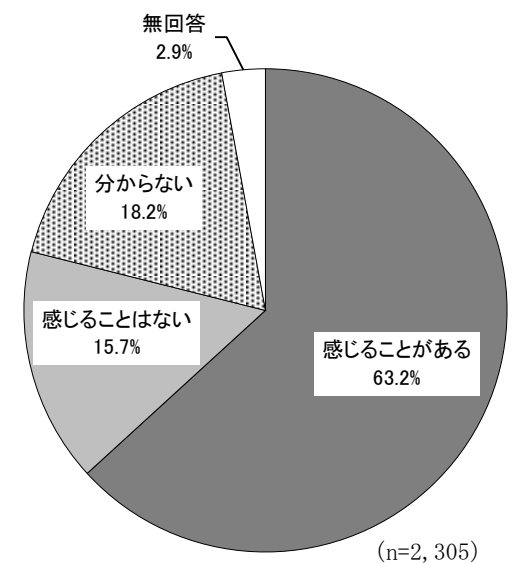
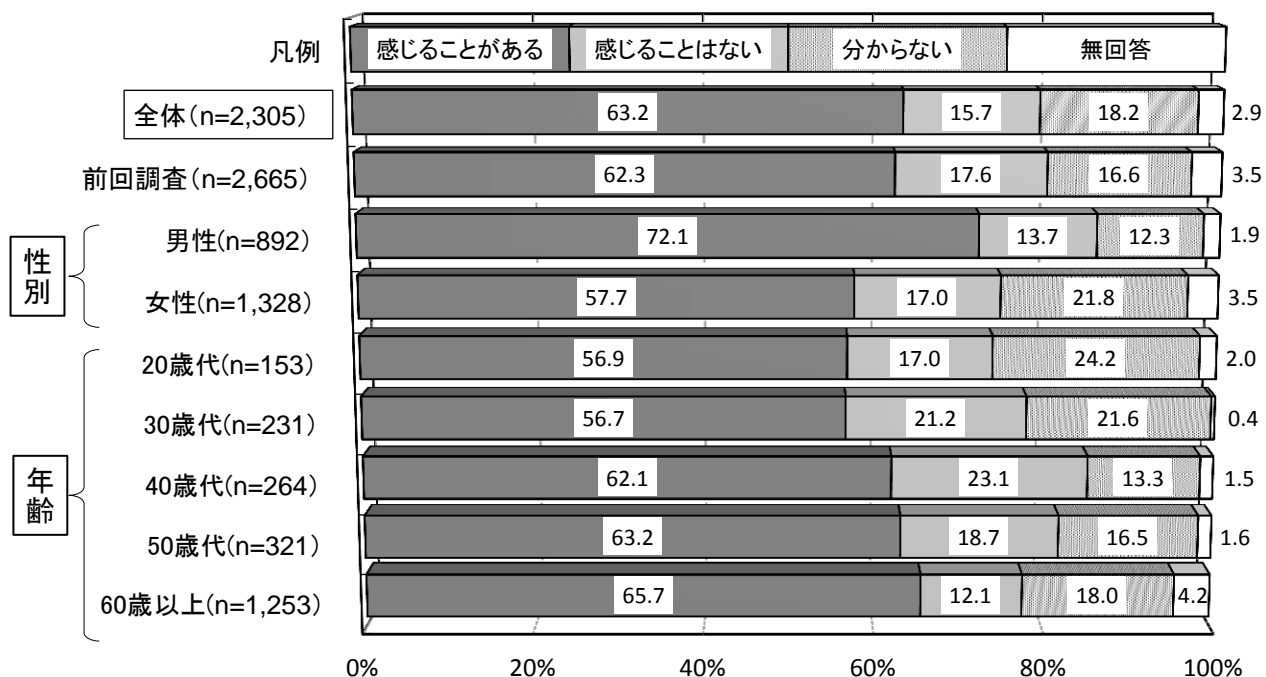


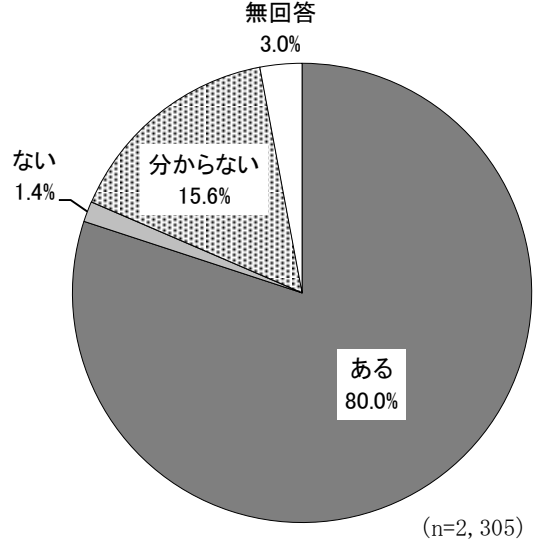
図 34-2 「ものづくりのまち」と感ずることの有無<性別・年齢別>



問 35 あなたは、呉市のこのような「ものづくり」の風土や技術について、将来に引き継ぎ、さらに発展させていく必要があると思いますか。(〇は1つ)

呉市のこのような「ものづくり」の風土や技術を将来に引き継ぎ、発展させる必要があると思うかについては、「ある」が80.0%と8割を占める。

図 35-1 「ものづくり」技術の引き継ぎ、発展の必要性

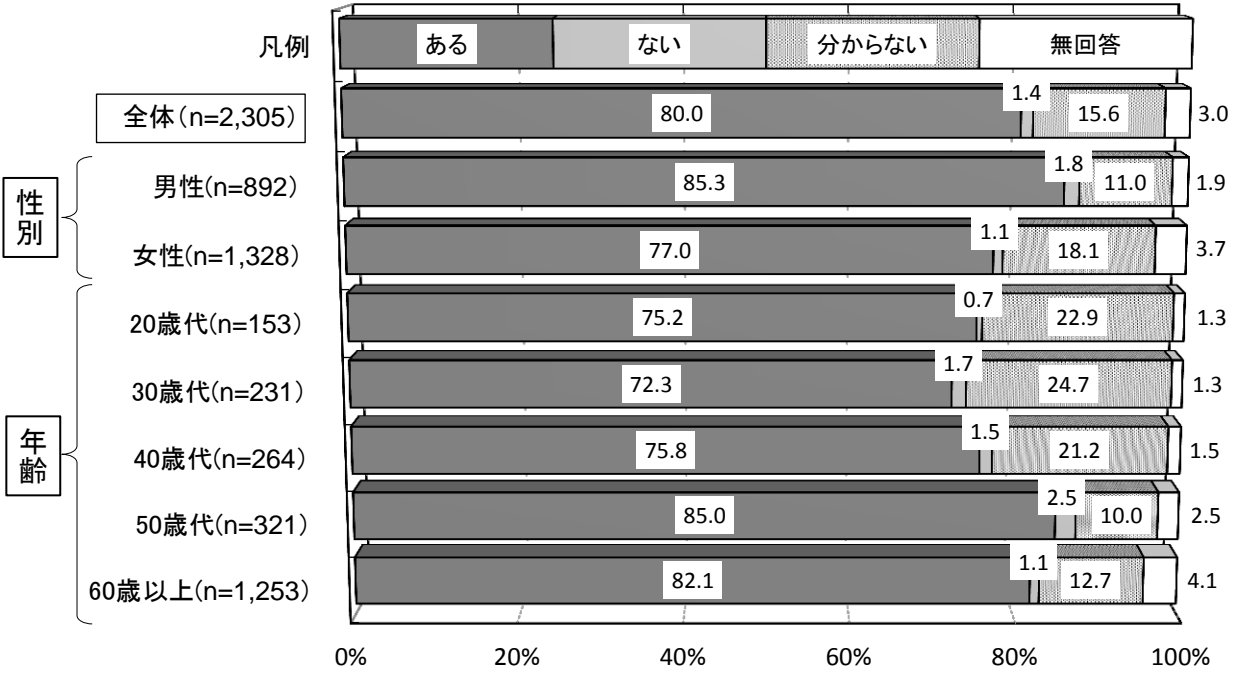


<性別・年齢別>

性別でみると、「ある」は『男性』85.3%、『女性』77.0%で『男性』の方が8.3ポイント高い。

年齢別でみると、いずれの年齢でも7割を超え、「ものづくり」技術の引き継ぎ、発展の必要性を強く感じていることがわかる。特に『50歳代』が85.0%で最も多く、次いで『60歳以上』が82.1%と8割を超えている。

図 35-2 「ものづくり」技術の引き継ぎ、発展の必要性<性別・年齢別>



問 36 また、あなたは、雇用の場の創出に向け、意欲のある企業の立地を支援する必要があると思いますか。(○は1つ)

雇用の場の創出に向け、意欲のある企業の立地を支援する必要があると思うかについては、「ある」が76.4%を占め、7割以上の方が支援する必要があると感じている。

なお、前回調査と比較すると、ほぼ同水準だった。

<性別・年齢別>

性別で見ると、「ある」は『男性』81.7%、『女性』72.7%で『男性』の方が9.0ポイント高い。

年齢別で見ると、『20歳代』がやや低いものの、『50歳代』が81.0%で最も多く、次いで『60歳以上』が76.8%と多くなっている。

図 36-1 企業立地支援の必要性

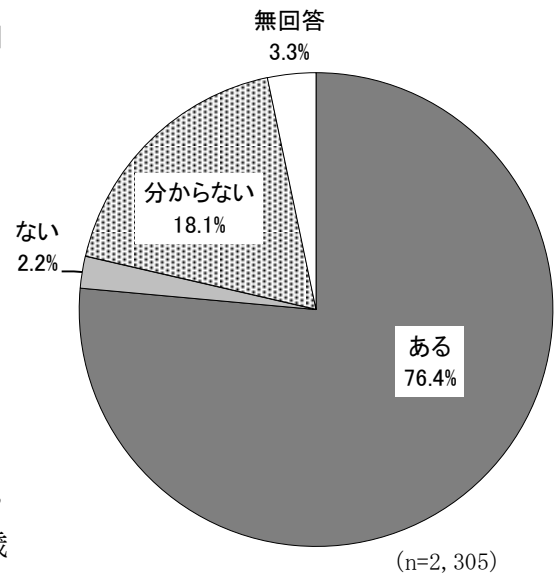
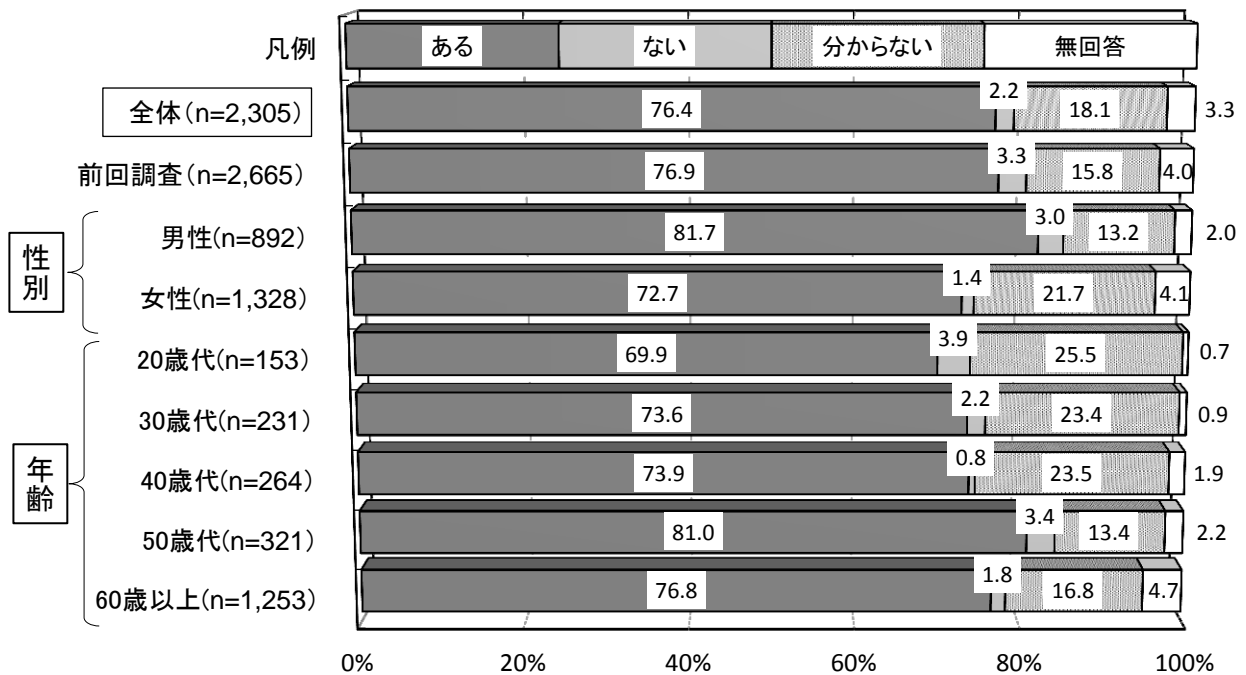


図 36-2 企業立地支援の必要性<性別・年齢別>



(12) 環境

◇地球環境に配慮した取組を行っている人	⇒	84%
◇具体的な地球環境に配慮した取組		
1位 資源ごみ（紙、缶、びん、ペットボトル）の分別排出		88%
2位 買物袋（マイバッグ）の持参		86%
◇今後、環境を良くするために取り組むこと		
1位 補助や減税などの誘導策		37%
2位 個人や企業の自主的取組		33%

問 37 あなたは、普段の生活の中で、地球環境に配慮した取り組みとして、何か行っていることはありますか。（○は1つ）

地球環境に配慮した取組の有無については、「ある」が84.2%と8割以上を占める。

なお、前回調査と比較すると、ほぼ同水準だった。

<性別・年齢別>

性別で見ると、「ある」は、『男性』79.8%、『女性』87.5%で『女性』の方が7.7ポイント高い。

年齢別で見ると、「ある」は、『40歳代』が89.4%で最も多く、次いで『50歳代』87.2%と8割を超え、特に意識が高い。

一方、『20歳代』が75.8%と若干少なくなっているものの、いずれの年齢でも地球環境に配慮した取組を行っていることがわかる。

図 37-1 地球環境に配慮した取組の有無

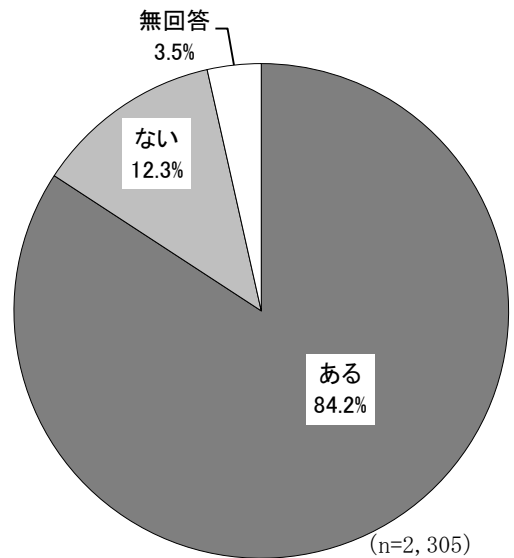
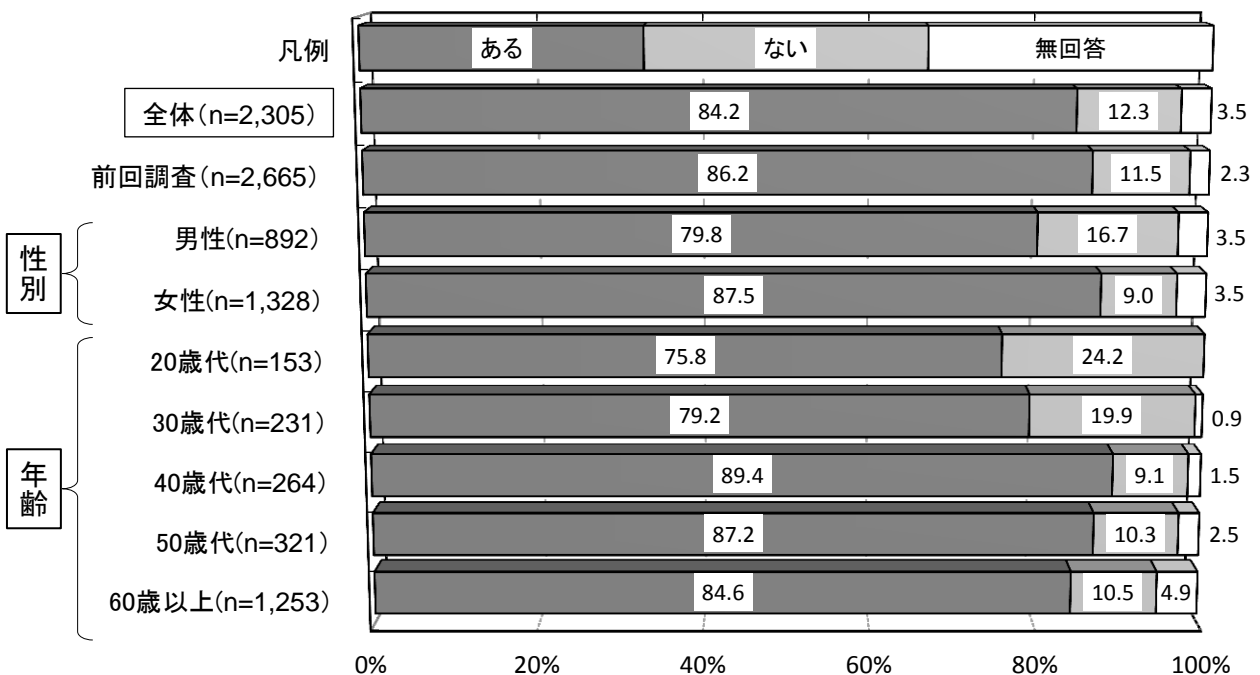


図 37-2 地球環境に配慮した取組の有無<性別・年齢別>



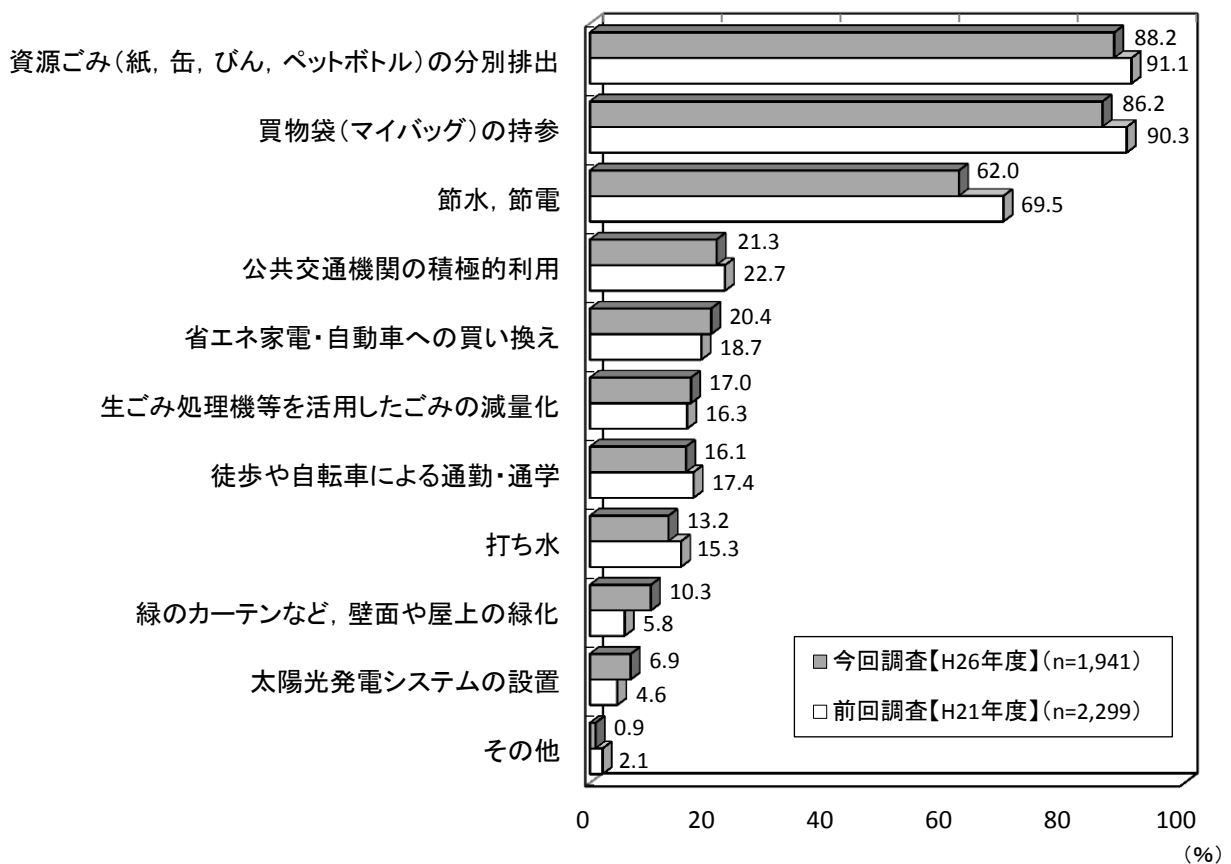
問 37-1 上記問 37 で「ある」に回答した方のみ

具体的には、どのようなことに取り組んでいますか。(〇はいくつでも)

「ある」と回答した人にどのようなことに取り組んでいるか聞いたところ、「資源ごみ（紙，缶，びん，ペットボトル）の分別排出」が 88.2%で最も多く，次いで「買物袋（マイバッグ）の持参」86.2%と 8 割を超え，「節水，節電」は 62.0%と 3 項目が突出している。

なお，前回調査と比較すると，「節水，節電」（前回 69.5%）でやや低下しているのに対し，「緑のカーテンなど，壁面や屋上の緑化」（同 5.8%）はやや増加しているほかはほぼ同水準だった。

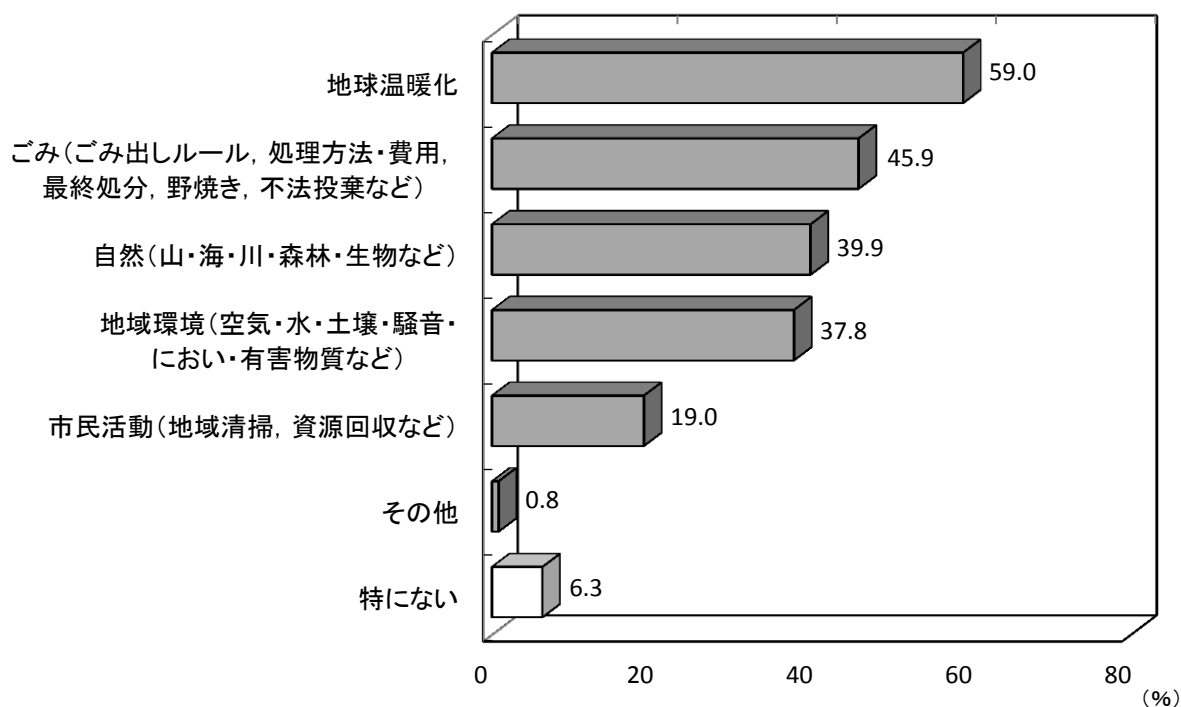
図 37-3 普段実行している地球環境に配慮した取組



問 38 あなたが関心を持っている、あるいは気になっている環境分野は何ですか。
(〇はいくつでも)

関心または気になっている環境分野をみると、「地球温暖化」が 59.0%で最も多く、次いで「ごみ（ごみ出しルール、処理方法・費用、最終処分、野焼き、不法投棄など）」45.9%も多くなっている。また、「自然（山・海・川・森林・生物など）」39.9%、「地域環境（空気・水・土壌・騒音・におい・有害物質など）」37.8%も 4 割近い人が関心を持っている。

図 38-1 関心・気になっている環境分野



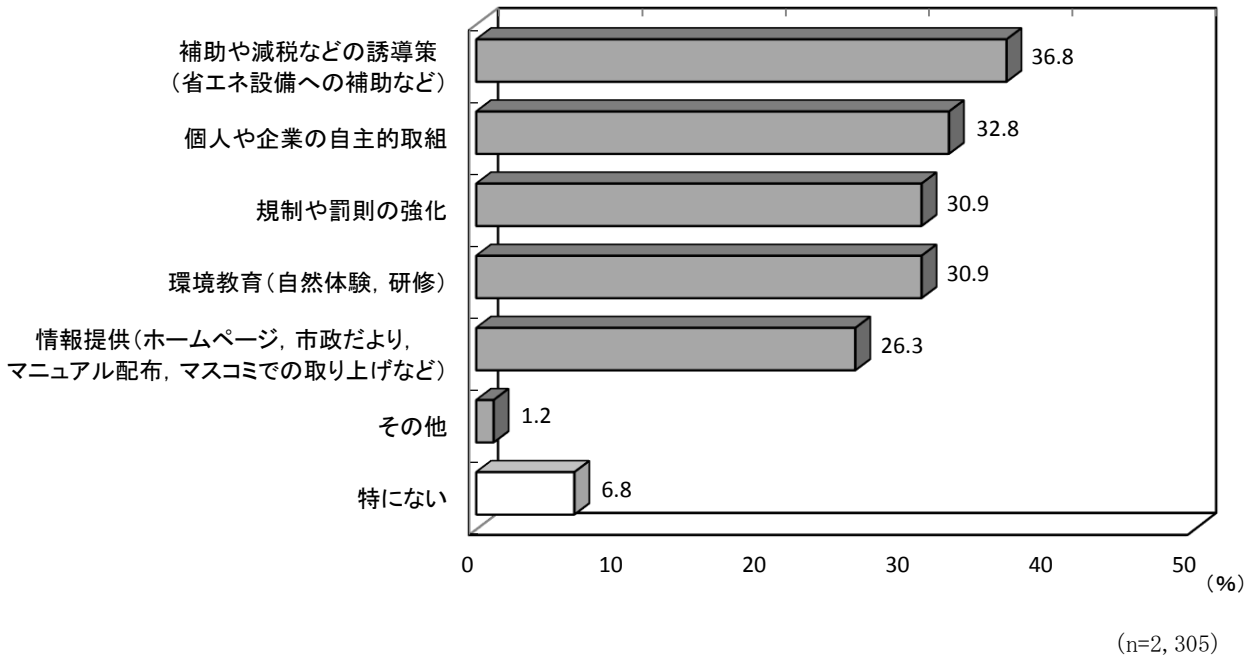
(n=2,305)

問 39 あなたは今後、環境を良くするために何をしたらいいと思いますか。

(〇はいくつでも)

今後、環境を良くするために取り組むべきことをみると、「補助や減税などの誘導策(省エネ設備への補助など)」が36.8%で最も多く、次いで「個人や企業の自主的取組」32.8%、「規制や罰則の強化」30.9%、「環境教育(自然体験, 研修)」30.9%が多く、3割を超えている。

図 39-1 今後、環境を良くするため取り組むべきこと



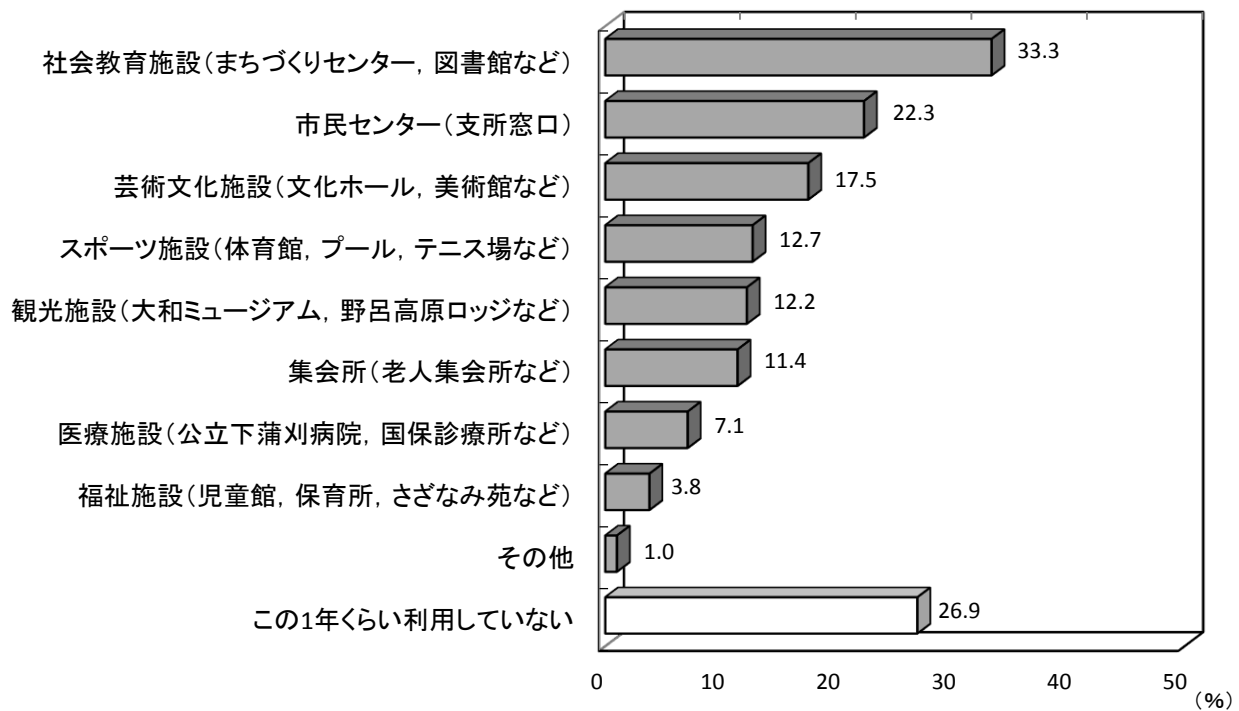
(13) 公共施設

◇よく使う公共施設		◇重要だと思う公共施設	
1位	社会教育施設 33%	1位	社会教育施設 53%
2位	市民センター 22%	2位	スポーツ施設 42%
3位	芸術文化施設 18%	3位	芸術文化施設 40%
◇今後の公共施設の維持・管理の考え方			
1位	同じ目的の公共施設を1つにまとめ、使わなくなった施設を廃止する		48%
2位	官民連携で、少ない経費で施設を運営できる方法を研究・推進する		41%

問 40 次に掲げる呉市の公共施設のうち、あなたがよく使う施設はどれですか。
(○はいくつでも)

よく使う公共施設をみると、「社会教育施設（まちづくりセンター（旧公民館）、図書館、野外活動センターなど）」が 33.3%で最も多く、次いで「市民センター（支所窓口）」22.3%、「芸術文化施設（文化ホール、美術館など）」17.5%がやや多くなっている。

図 40-1 よく使う公共施設



(n=2,305)

<性別・年齢別>

各性別・年齢ともに「社会教育施設（まちづくりセンター（旧公民館）、図書館、野外活動センターなど）」が最も多くなっている。これに次ぐのが、「市民センター（支所窓口）」だが、『20歳代』は「観光施設」17.0%、『60歳以上』は「芸術文化施設（文化ホール、美術館など）」21.7%が次いで多くなっている。

なお、『20歳代』、『50歳代』で「この1年くらい利用していない」とする人が多くなっている。

表 40-1 よく使う公共施設の上位3施設<性別・年齢別>

(単位:%)

属性区分	第1位	第2位	第3位	この1年くらい利用していない
全体	社会教育施設 33.3	市民センター 22.3	芸術文化施設 17.5	26.9
男性(n=892)	社会教育施設 26.5	市民センター 18.8	観光施設 14.6	33.7
女性(n=1,328)	社会教育施設 37.9	市民センター 25.0	芸術文化施設 20.7	22.7
20歳代(n=153)	社会教育施設 28.8	観光施設 17.0	スポーツ施設 14.4	35.9
30歳代(n=231)	社会教育施設 36.4	市民センター 22.9	スポーツ施設 15.6	31.6
40歳代(n=264)	社会教育施設 38.6	市民センター 28.0	スポーツ施設 21.6	25.8
50歳代(n=321)	社会教育施設 30.5	市民センター 25.5	芸術文化施設 15.6	34.0
60歳以上(n=1,253)	社会教育施設 32.8	芸術文化施設 21.7	市民センター 21.5	23.8

※ ■は全体で第1位の項目

問 41 次に掲げる呉市の公共施設のうち、重要だと思ふ施設はどれですか。

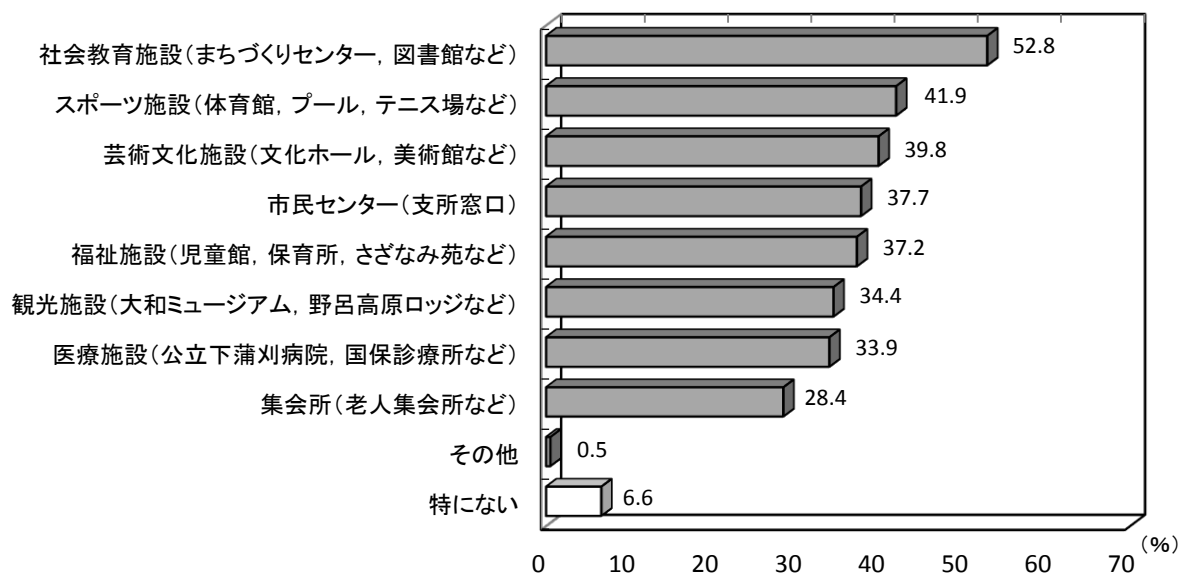
(○はいくつでも)

重要だと思ふ公共施設をみると、「社会教育施設（まちづくりセンター（旧公民館）、図書館、野外活動センターなど）」が 52.8%で最も多く、次いで「スポーツ施設（体育館、プール、テニス場など）」41.9%、「芸術文化施設（文化ホール、美術館など）」39.8%がやや多くなっている。

<性別・年齢別>

性別・年齢別ではすべてで「社会教育施設（まちづくりセンター（旧公民館）、図書館、野外活動センターなど）」が最も多くなっている。これに次ぐのが、性別では『男性』で「スポーツ施設」（42.8%）、『女性』で「芸術文化施設」（42.4%）となっている。年齢別では、『20歳代』、『30歳代』、『60歳以上』で「福祉施設」、『40歳代』、『50歳代』で「スポーツ施設」が多くなっている。

図 41-1 重要だと思ふ公共施設



(n=2,305)

表 41-1 重要だと思ふ公共施設の上位3施設<性別・年齢別>

(単位:%)

属性区分	第1位	第2位	第3位
全体	社会教育施設 52.8	スポーツ施設 41.9	芸術文化施設 39.8
男性(n=892)	社会教育施設 47.9	スポーツ施設 42.8	観光施設 36.9
女性(n=1,328)	社会教育施設 56.6	芸術文化施設 42.4	スポーツ施設 41.9
20歳代(n=153)	社会教育施設 49.7	福祉施設 47.1	観光施設 46.4
30歳代(n=231)	社会教育施設 53.2	福祉施設 49.8	スポーツ施設 45.9
40歳代(n=264)	社会教育施設 61.7	スポーツ施設 56.4	芸術文化施設 44.7
50歳代(n=321)	社会教育施設 59.5	スポーツ施設 50.2	芸術文化施設 47.4
60歳以上(n=1,253)	社会教育施設 50.0	福祉施設 39.5	観光施設 36.7

※ ■は全体で第1位の項目

<地区別>

地区別では、ほとんどで「社会教育施設（まちづくりセンター（旧公民館）、図書館、野外活動センターなど）」が最も多くなっている。ただし、『下蒲刈』・『蒲刈』・『豊浜』・『豊』では「医療施設（公立下蒲刈病院、国保診療所など）」、『倉橋』では「市民センター（支所窓口）」が最も多くなっている。

表 41-2 重要だと思う公共施設の上位 3 施設<地区別>

(単位:%)

地区名	第 1 位		第 2 位		第 3 位	
全体 (n=2,305)	社会教育施設	52.8	スポーツ施設	41.9	芸術文化施設	39.8
中央 (n=527)	社会教育施設	52.9	芸術文化施設	48.0	スポーツ施設	46.7
吉浦 (n=105)	社会教育施設	47.6	スポーツ施設	42.9	芸術文化施設	41.9
警固屋 (n=53)	社会教育施設	45.3	市民センター	43.4	芸術文化施設	39.6
阿賀 (n=157)	社会教育施設	61.8	スポーツ施設	50.3	芸術文化施設	48.4
広 (n=430)	社会教育施設	55.3	スポーツ施設 市民センター			44.9
仁方 (n=67)	社会教育施設	56.7	芸術文化施設	49.3	スポーツ施設	44.8
宮原 (n=79)	社会教育施設	51.9	芸術文化施設	43.0	スポーツ施設	40.5
天応 (n=42)	社会教育施設	47.6	市民センター	38.1	芸術文化施設	33.3
昭和 (n=330)	社会教育施設	56.7	市民センター	51.2	スポーツ施設	43.0
郷原 (n=43)	社会教育施設	55.8	市民センター	53.5	スポーツ施設	48.8
下蒲刈 (n=17)	医療施設	88.2	社会教育施設	41.2	福祉施設	35.3
川尻 (n=89)	社会教育施設	53.9	スポーツ施設 観光施設			39.3
音戸 (n=127)	社会教育施設	48.0	福祉施設	43.3	医療施設	37.8
倉橋 (n=62)	市民センター	45.2	社会教育施設 福祉施設			35.5
蒲刈 (n=21)	医療施設	76.2	市民センター	57.1	社会教育施設	47.6
安浦 (n=115)	社会教育施設	50.4	医療施設	47.0	市民センター	45.2
豊浜 (n=18)	医療施設	61.1	集会所	38.9	社会教育施設	33.3
豊 (n=23)	医療施設	56.5	社会教育施設 集会所			39.1

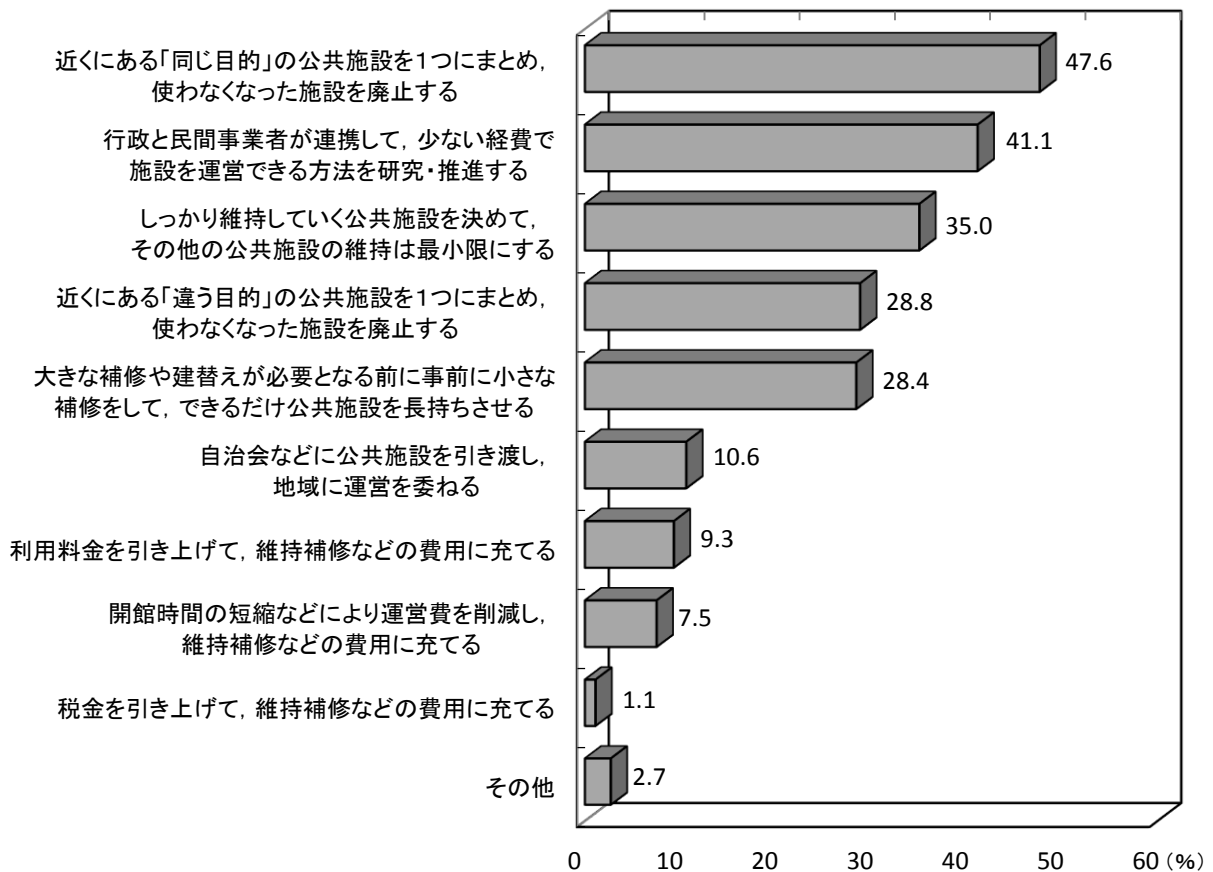
※ ■は全体で第1位の項目

問 42 今後、呉市の公共施設の老朽化が急速に進み、維持費が増えると見込まれます。一方で、人口減少等の影響により厳しい財政環境が続き、公共施設をこれまでどおり維持していくことが難しくなる恐れもあります。あなたは、呉市の公共施設をどうしたらいいと思いますか。

(〇はいくつでも)

今後の公共施設の維持・管理の考え方についてみると、「近くにある「同じ目的」の公共施設を1つにまとめ、使わなくなった施設を廃止する」が47.6%で最も多くなっている。次いで「行政と民間事業者が連携して、少ない経費で施設を運営できる方法を研究・推進する」41.1%、「しっかり維持していく公共施設を決めて、その他の公共施設の維持は最小限にする」35.0%が多くなっている。

図 42-1 今後の公共施設の維持・管理の考え方



(n=2,305)

(14) 空き家対策

◇近年の空き家の変化 「増えている」	⇒	49%
<地区別> 「増えている」が多い地区		
1位 蒲刈：86%	2位 倉橋：81%	3位 警固屋：72%
◇空き家に対する不安		
1位 不特定の者の侵入による犯罪・火災の被害		54%
2位 建物等の倒壊・破損による被害		51%
3位 樹木の繁茂・害虫等の発生による被害		48%
◇空き家の不安解決に必要な取組		
1位 空き家バンクの充実		46%
2位 空き家の解体費用への助成制度の充実		39%

問 43 あなたは、お住まいの地域(ご近所)で、近年空き家がどう変化していると思いますか。(〇は1つ)

近隣における近年の空き家の変化をみると、『増えている』が49.1%で最も多く、次いで『あまり変わらない』16.1%が多くなっている。

なお、『わからない』も20.3%と比較的が多くなっている。

<性別・年齢別>

性別では、『男性』で「増えている」がやや多くなっている。年齢別では年齢が進むごとに「増えている」が多くなっており、逆に「わからない」は『20歳代』、『30歳代』で多くなっている。

図 43-1 近年の空き家の変化

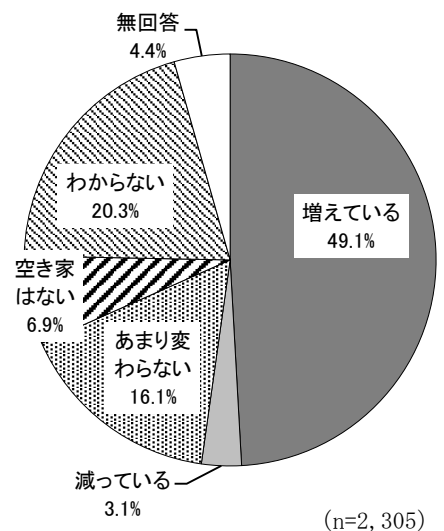
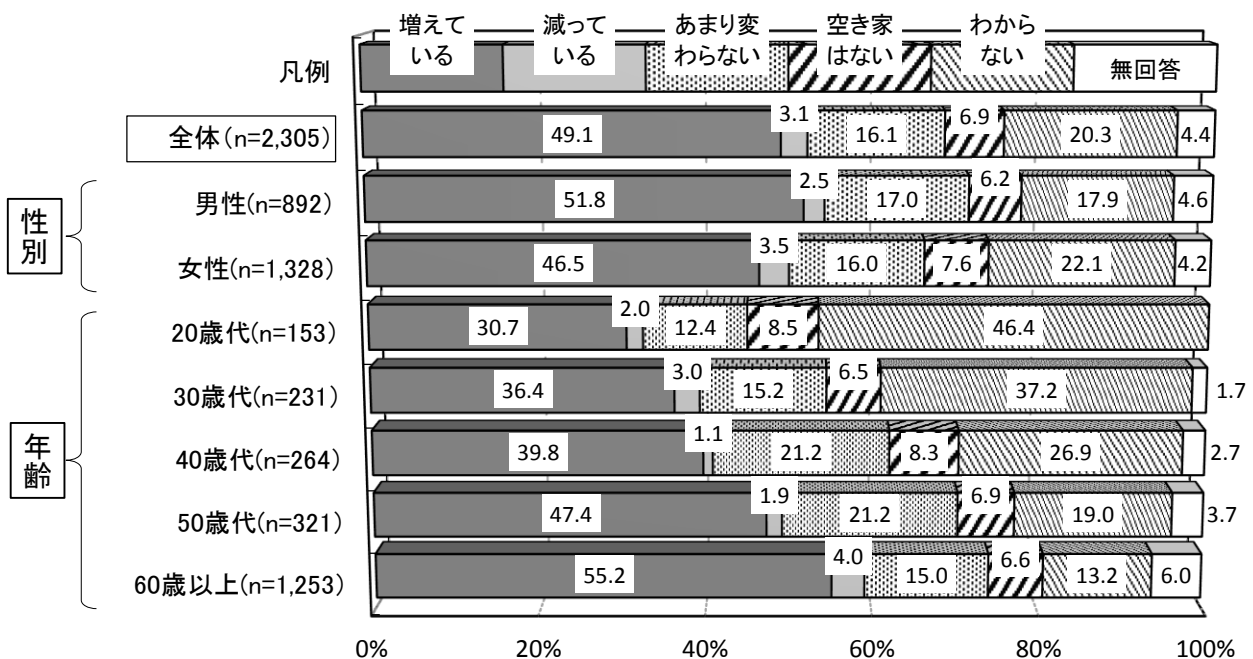


図 43-2 近年の空き家の変化<性別・年齢別>

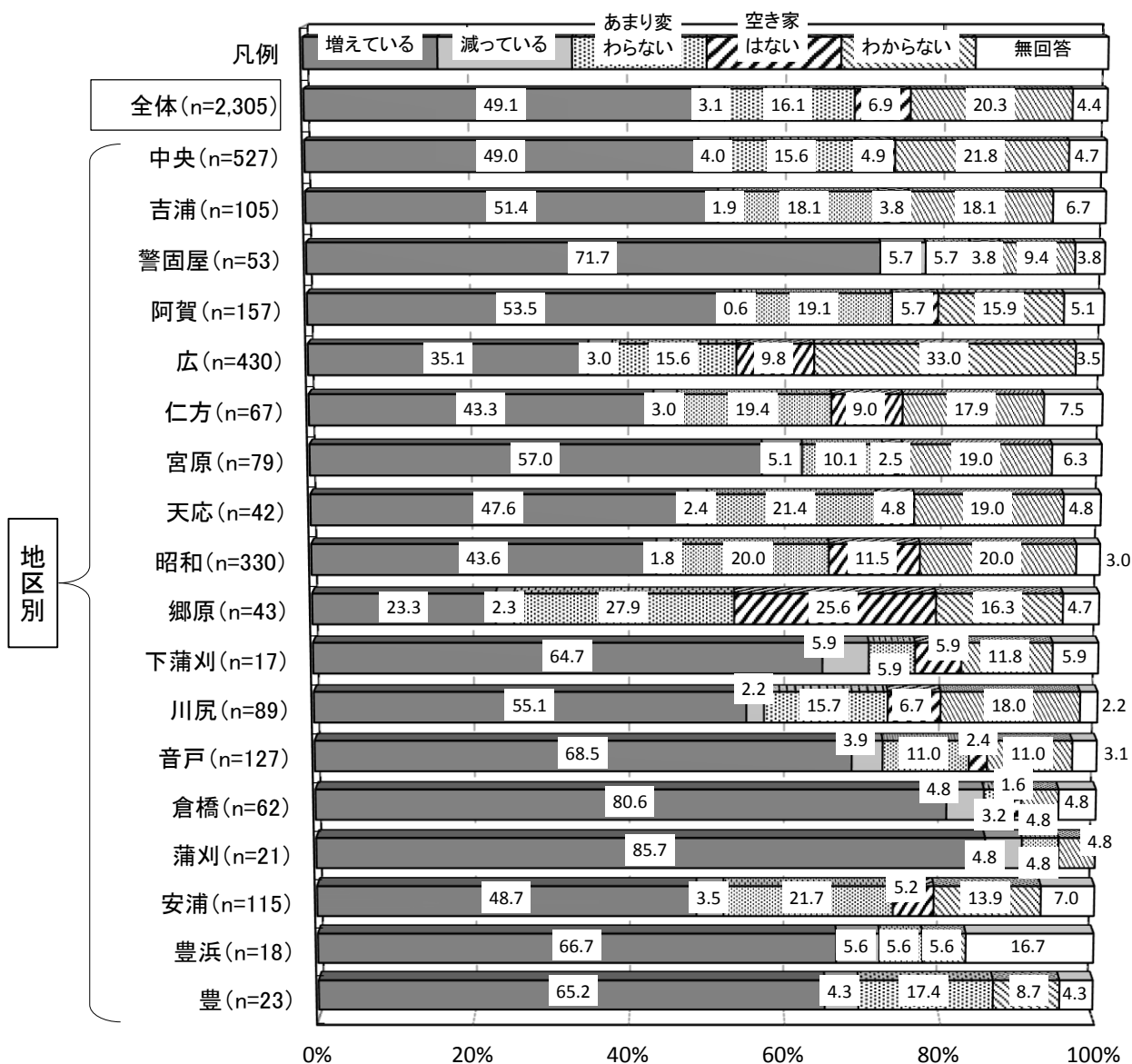


<地区別>

地区別では、ほとんどで「増えている」が最も多くなっており、『蒲刈』85.7%、『倉橋』80.6%では8割を超えており、『警固屋』71.7%、『音戸』68.5%、『豊浜』66.7%、『豊』65.2%、『下蒲刈』64.7%では6割以上となっている。

一方、『郷原』では「あまり変わらない」27.9%が最も多くなっており、「空き家はない」25.6%も比較的多くなっている。また、『安浦』21.7%、『天応』21.4%、『昭和』20.0%では「あまり変わらない」が2割以上と比較的多くなっている。

図 43-3 近年の空き家の変化<地区別>



問 43-1 上記問 43 で「増えている」「減っている」「あまり変わらない」に回答した方のみ

お住まいの地域（ご近所）の空き家について、どのような不安がありますか。
（〇はいくつでも）

空き家に対する不安をみると、「不特定の者の侵入による犯罪・火災の被害」が 53.6% で最も多くなっている。また、「建物等の倒壊・破損による被害」51.0%、「樹木の繁茂・害虫等の発生による被害」47.8%も約半数の人が不安を感じており、「不安はない」とする人は 1 割程度と少なくなっている。

<地区別>

地区別にみると、「建物等の倒壊・破損による被害」では『下蒲刈』69.2%、『阿賀』65.2%、『蒲刈』65.0%が、「不特定の者の侵入による犯罪・火災の被害」では『宮原』66.7%、『中央』60.7%、『阿賀』57.4%が、「樹木の繁茂・害虫等の発生による被害」では『下蒲刈』61.5%、『蒲刈』60.0%、『昭和』59.7%がそれぞれ多くなっている。

図 43-4 空き家に対する不安

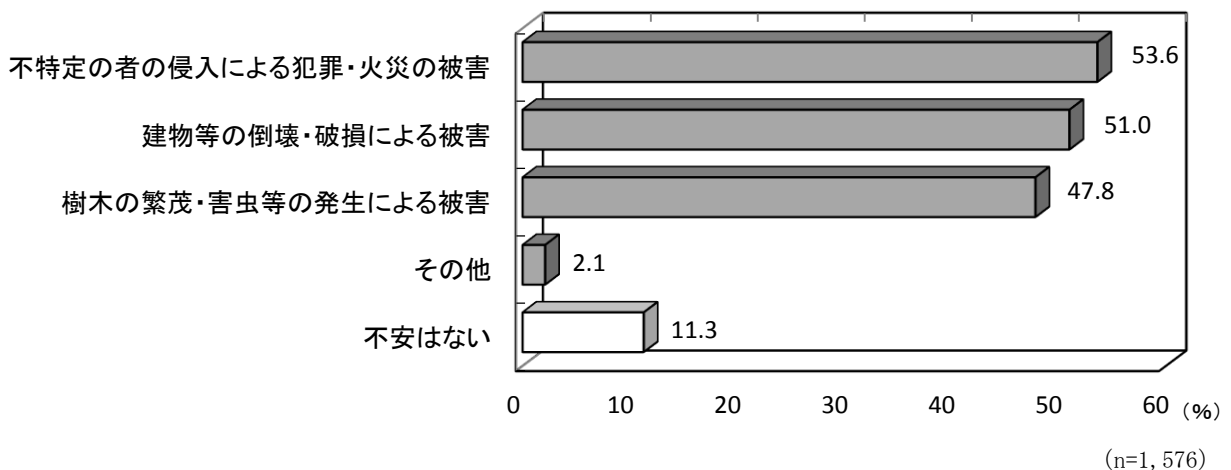
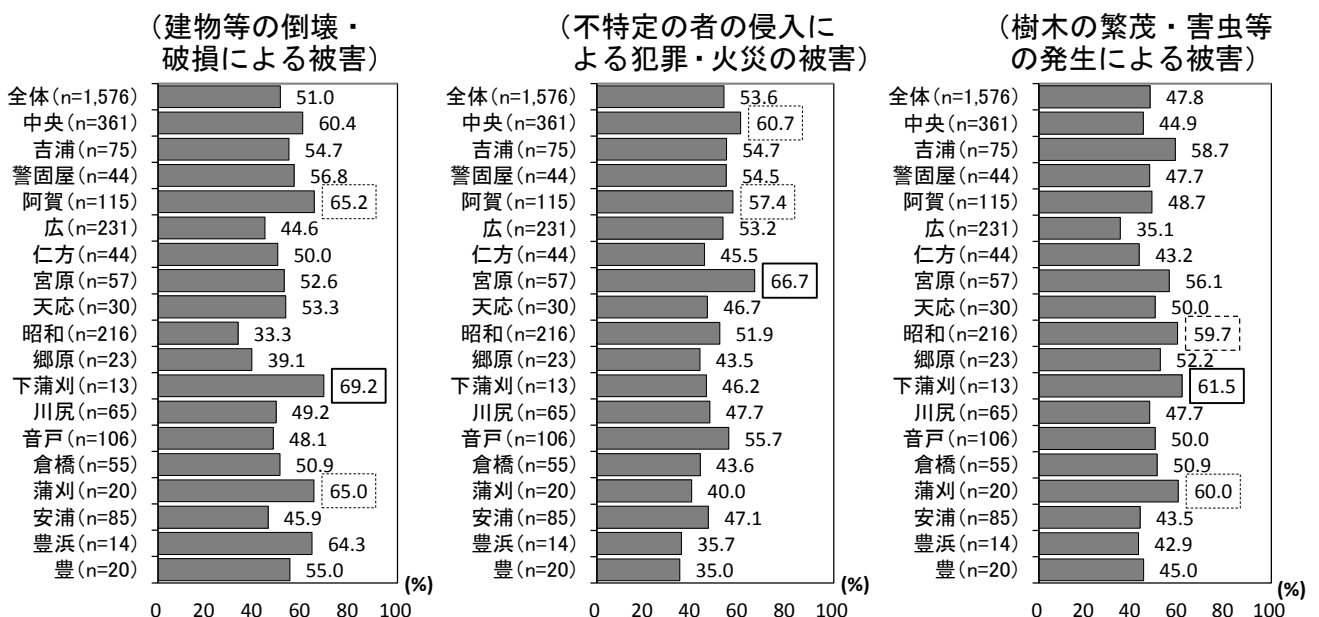


図 43-5 空き家に対する不安<地区別>



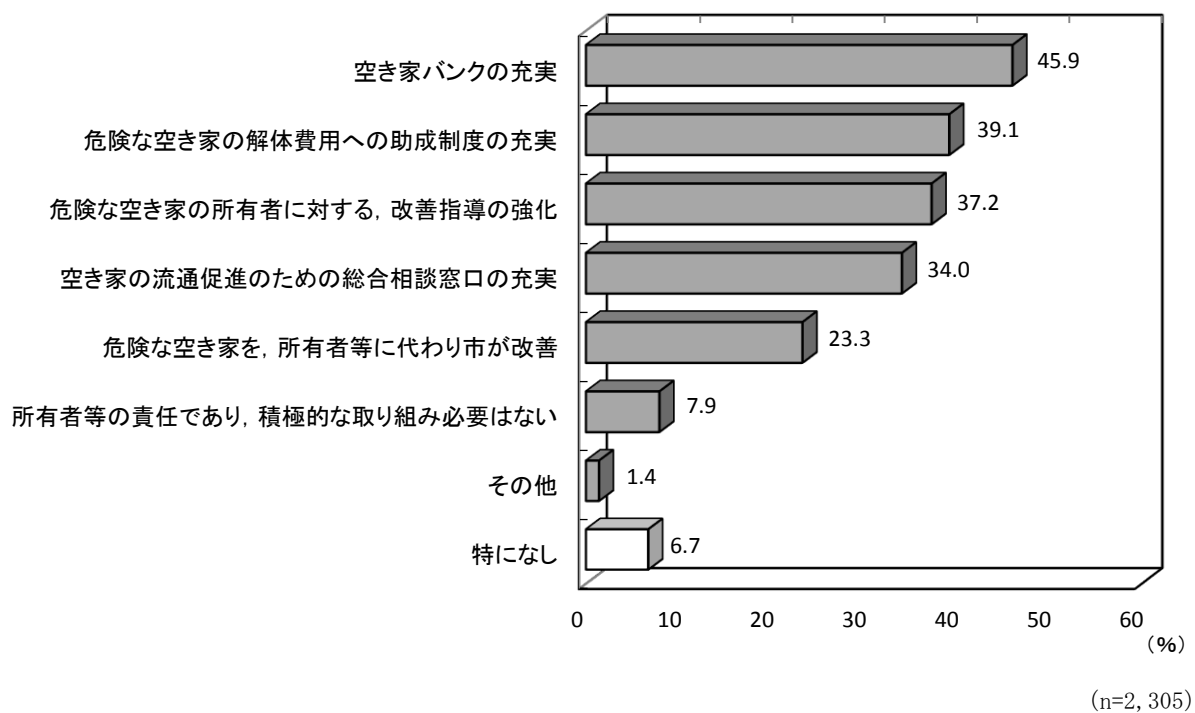
※ グラフ内の数値の□は最も多いもの、□は上位第2位と第3位のもの

問 44 あなたは、空き家の不安を解決するためにどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

空き家の不安を解決するために必要な取り組みとしては、「空き家バンク(売却等を希望する者と、購入等を希望する者との橋渡しを行う仕組み)の充実」が 45.9%で最も多く、次いで「危険な空き家の解体費用への助成制度の充実」39.1%、「危険な空き家の所有者に対する、改善指導の強化」37.2%、「空き家の流通促進のための総合相談(不動産の査定、税金、相続問題等)窓口の充実」34.0%が多くなっている。

一方、「空き家の管理は所有者等の責任であり、積極的な取り組み必要はない」は 7.9%で少なくなっている。

図 44-1 空き家の不安解決に必要な取組



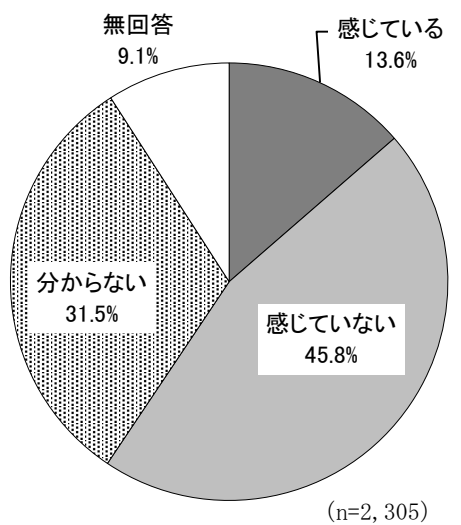
(15) 高次都市機能

◇主要都市にふさわしい施設や設備が充分であると感じている人	⇒	14%
◇今後、整備していくべき都市機能		
1位 市の中心部の活性化		52%
2位 公共交通機関（バス、JR）		40%

問 45 あなたは、呉市には、広島県の主要都市としてふさわしい施設や設備（高い水準の都市機能）が充分に備わっている、と感じていますか。（○は1つ）

主要都市としてふさわしい施設や設備の充足感については、「感じている」が13.6%で1割程度となっており、「感じていない」が45.8%で大きく上回っている。ただし、前回調査と比較すると「感じている」は前回の9.7%から3.9ポイント増加しており、「感じていない」も56.3%から10.5ポイント改善している。

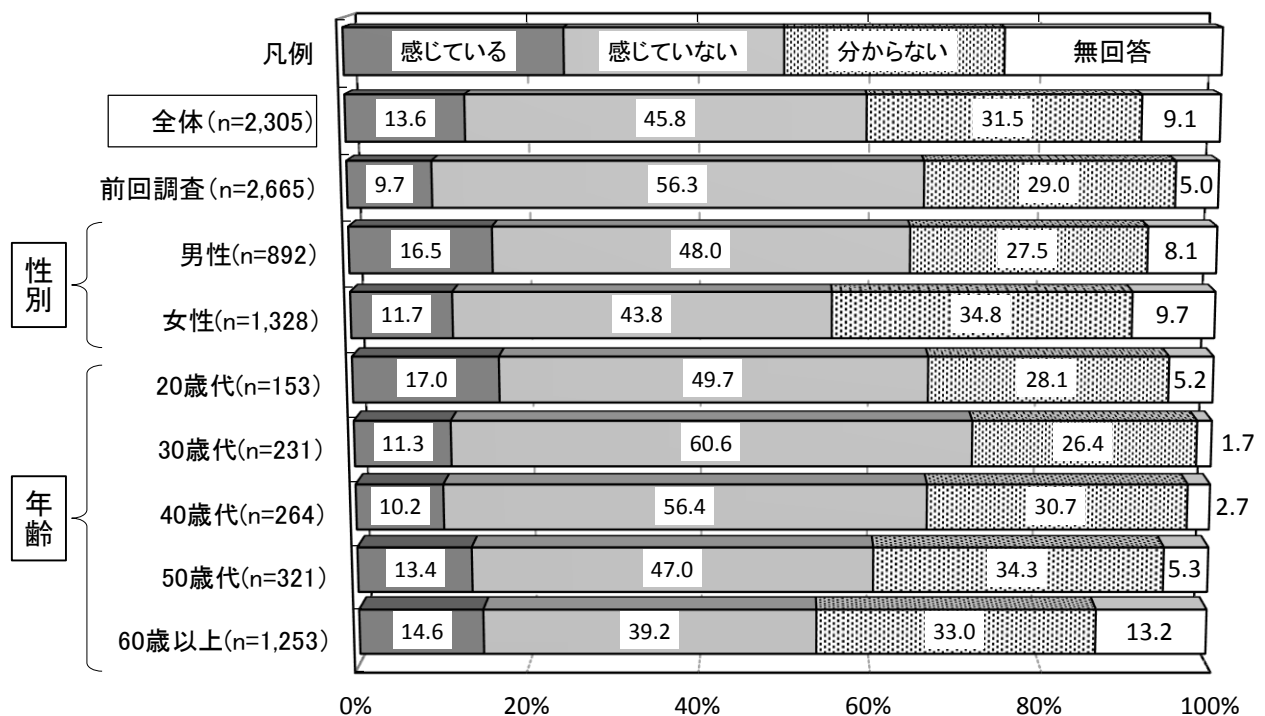
図 45-1 高次都市機能の充足感



<性別・年齢別>

性別では、『男性』で「感じている」がやや多くなっている。年齢別では『30歳代』で「感じていない」が60.6%と多くなっている。

図 45-2 高次都市機能の充足感<性別・年齢別>



<地区別>

地区別でみると、「感じている」は、『阿賀』が16.6%で最も多く、次いで『広』16.3%、『吉浦』・『蒲刈』14.3%と続くが、いずれも1割程度にとどまっている。

「感じていない」は、『宮原』が54.4%で最も多く、『警固屋』52.8%、『中央』50.5%でも5割を超えている。

表 45-1 高次都市機能の充足感<地区別>

地区名	感じている	感じていない	分からない
全体 (n=2,305)	13.6	45.8	31.5
中央 (n=527)	13.9	50.5	27.1
吉浦 (n=105)	14.3	49.5	26.7
警固屋 (n=53)	9.4	52.8	30.2
阿賀 (n=157)	16.6	41.4	33.8
広 (n=430)	16.3	41.4	34.4
仁方 (n=67)	9.0	40.3	40.3
宮原 (n=79)	10.1	54.4	27.8
天応 (n=42)	9.5	42.9	38.1
昭和 (n=330)	13.9	47.9	30.9
郷原 (n=43)	9.3	48.8	32.6
下蒲刈 (n=17)	5.9	29.4	41.2
川尻 (n=89)	10.1	46.1	34.8
音戸 (n=127)	14.2	45.7	29.9
倉橋 (n=62)	12.9	41.9	32.3
蒲刈 (n=21)	14.3	47.6	23.8
安浦 (n=115)	11.3	38.3	38.3
豊浜 (n=18)	11.1	44.4	22.2
豊 (n=23)	13.0	30.4	39.1

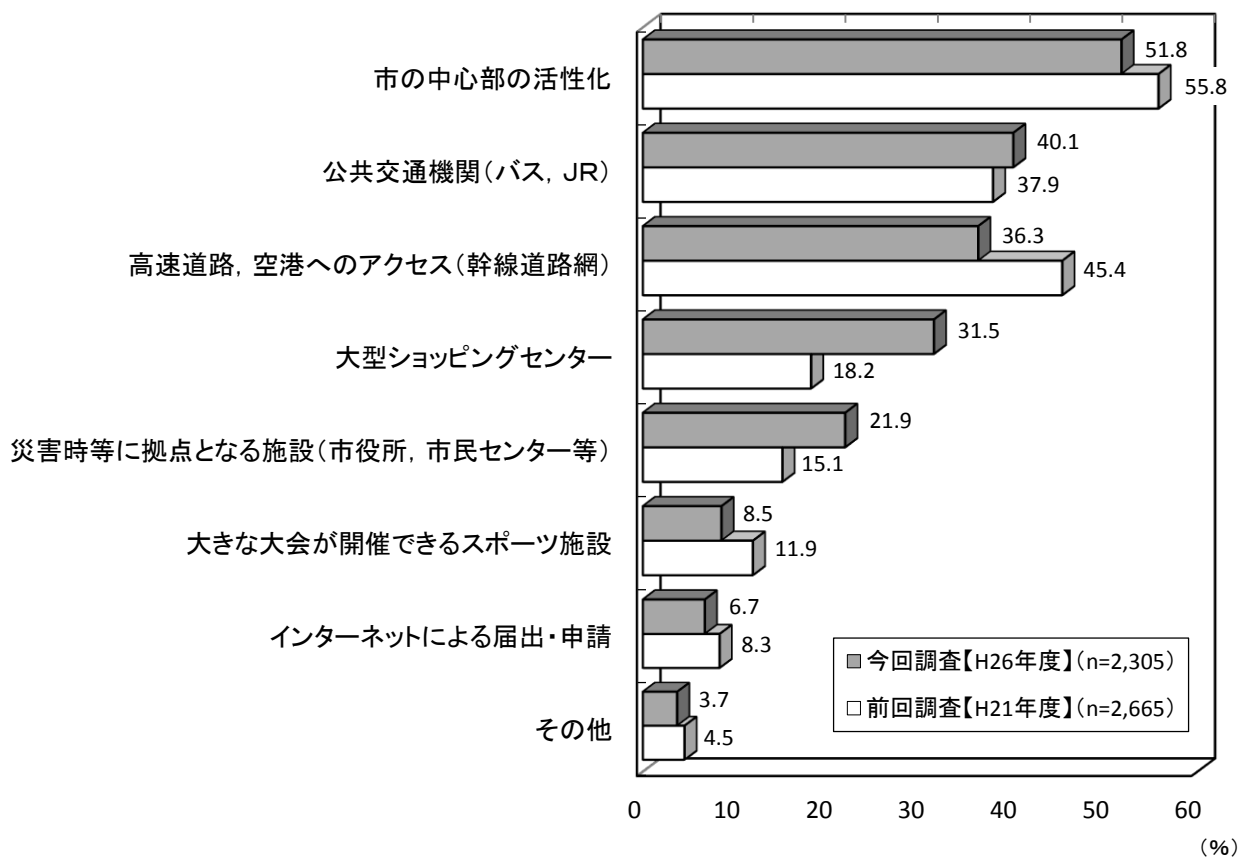
※「感じている」「感じていない」について、全体より高い⇒■

問 46 今後、こういった部分に力を入れて、都市機能を整備していくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

今後、整備していくべき都市機能については、「市の中心部の活性化」が 51.8%で最も多く、次いで「公共交通機関(バス, JR)」40.1%、「高速道路, 空港へのアクセス(幹線道路網)」36.3%となっている。

なお、前回調査と比較すると、「大型ショッピングセンター」(前回 18.2%)は 13.3ポイント、「災害時等に拠点となる施設」(同 15.1%)は 6.8ポイント高くなっている。一方、「高速道路, 空港へのアクセス(幹線道路網)」(同 45.4%)は 9.1ポイント低くなっている。

図 46-1 今後、整備していくべき都市機能



<地区別>

地区別でみると、『中央』・『吉浦』・『警固屋』・『阿賀』・『宮原』・『天応』・『昭和』では「市の中心部の活性化」が1位となっている。

『仁方』・『下蒲刈』・『川尻』・『音戸』・『倉橋』・『蒲刈』・『安浦』・『豊』では「公共交通機関(バス, JR)」が1位となっている。

また、『広』・『郷原』では「高速道路, 空港へのアクセス」, 『豊浜』では「災害時等に拠点となる施設」が1位となっている。

表 46-1 今後、整備していくべき都市機能 上位3項目<地区別>

(単位:%)

地区名	第1位	第2位	第3位
全体 (n=2,305)	市の中心部の活性化 51.8	公共交通機関 40.2	高速道路, 空港へのアクセス 36.3
中央 (n=527)	市の中心部の活性化 69.1	大型ショッピングセンター 38.5	公共交通機関 37.0
吉浦 (n=105)	市の中心部の活性化 58.1	高速道路, 空港へのアクセス 38.1	公共交通機関 37.1
警固屋 (n=53)	市の中心部の活性化 52.8	公共交通機関 43.4	高速道路, 空港へのアクセス 32.1
阿賀 (n=157)	市の中心部の活性化 54.8	高速道路, 空港へのアクセス 42.7	大型ショッピングセンター 40.1
広 (n=430)	高速道路, 空港へのアクセス 43.7	市の中心部の活性化 41.6	公共交通機関 34.4
仁方 (n=67)	公共交通機関 59.7	市の中心部の活性化 46.3	高速道路, 空港へのアクセス 34.3
宮原 (n=79)	市の中心部の活性化 58.2	大型ショッピングセンター 35.4	高速道路, 空港へのアクセス 31.6
天応 (n=42)	市の中心部の活性化 59.5	公共交通機関 47.6	高速道路, 空港へのアクセス 33.3
昭和 (n=330)	市の中心部の活性化 58.5	公共交通機関 40.3	高速道路, 空港へのアクセス 37.9
郷原 (n=43)	高速道路, 空港へのアクセス 53.5	市の中心部の活性化 48.8	公共交通機関 46.5
下蒲刈 (n=17)	公共交通機関 41.2	市の中心部の活性化 41.2	災害時等に拠点となる施設 23.5
川尻 (n=89)	公共交通機関 57.3	市の中心部の活性化 39.3	高速道路, 空港へのアクセス 30.3
音戸 (n=127)	公共交通機関 44.9	市の中心部の活性化 41.7	高速道路, 空港へのアクセス 37.8
倉橋 (n=62)	公共交通機関 51.6	高速道路, 空港へのアクセス 29.0	災害時等に拠点となる施設 25.8
蒲刈 (n=21)	公共交通機関 47.6	災害時等に拠点となる施設 38.1	市の中心部の活性化 28.6
安浦 (n=115)	公共交通機関 50.4	市の中心部の活性化 33.0	大型ショッピングセンター 22.6
豊浜 (n=18)	災害時等に拠点となる施設 50.0	公共交通機関 38.9	高速道路, 空港へのアクセス 11.1
豊 (n=23)	公共交通機関 43.5	災害時等に拠点となる施設 26.1	大型ショッピングセンター 21.7

※ ■は全体で第1位の項目

3 合併後の呉市のまちづくりについて

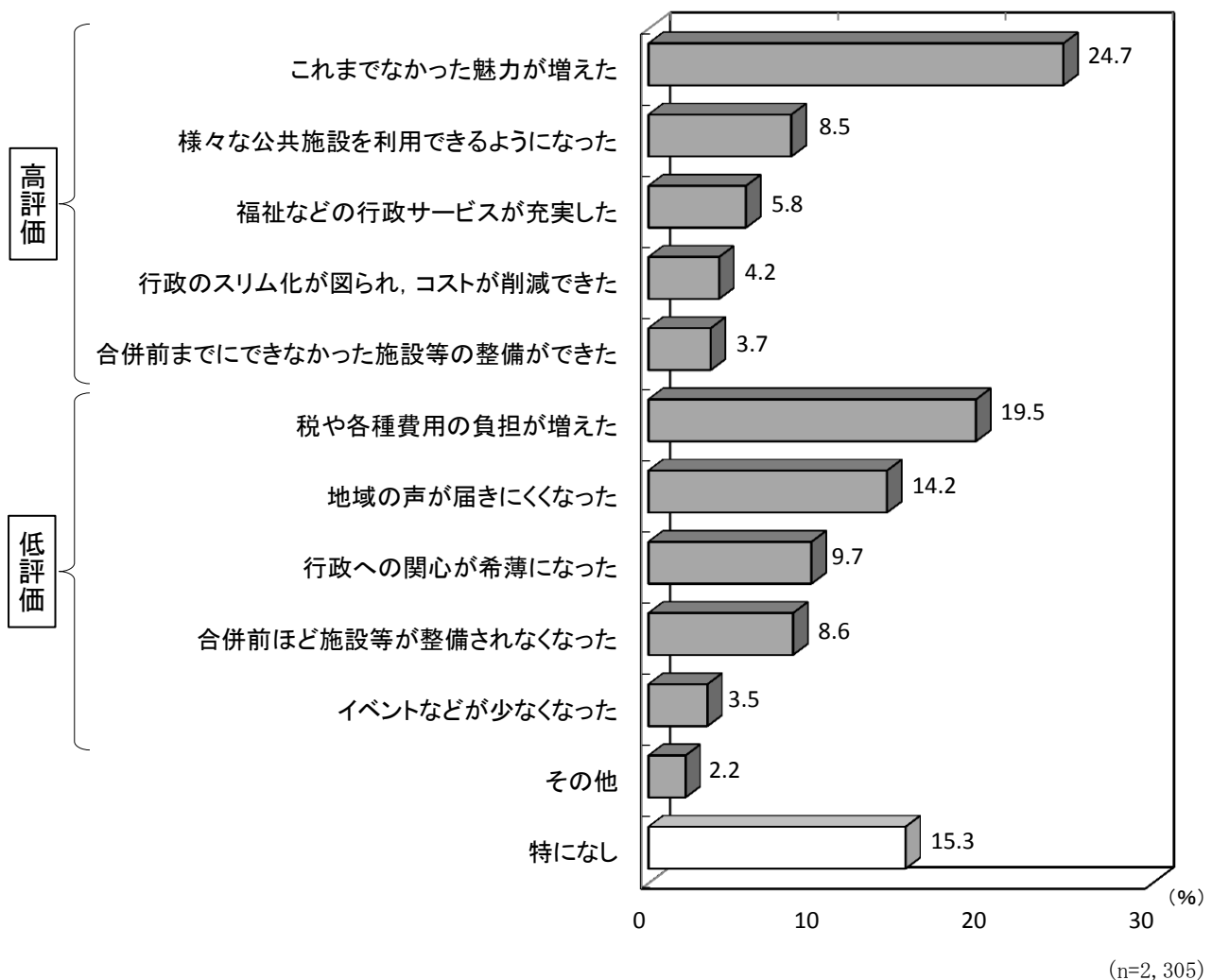
◇合併後 10 年の評価

【高評価】	1位	歴史や文化、観光地、特産品など、これまでなかった魅力が増えた	25%
	2位	様々な公共施設を利用できるようになった	9%
【低評価】	1位	税や各種費用の負担が増えた	20%
	2位	地域の声が届きにくくなった	14%

問 47 旧呉市と近隣 8 町が合併して約 10 年が経過しますが、あなたはどのように感じますか。(〇はいくつでも)

合併後 10 年の評価をみると、「歴史や文化、観光地、特産品など、これまでなかった魅力が増えた」が 24.7% で最も多くなっている。また、「様々な公共施設を利用できるようになった」8.5% もやや多くなっている。一方、低評価としては「税や各種費用の負担が増えた」が 19.5% で最も多くなっている。そのほか、「地域の声が届きにくくなった」14.2%、「行政への関心が希薄になった」9.7% もやや多くなっている。

図 47-1 合併後 10 年の評価



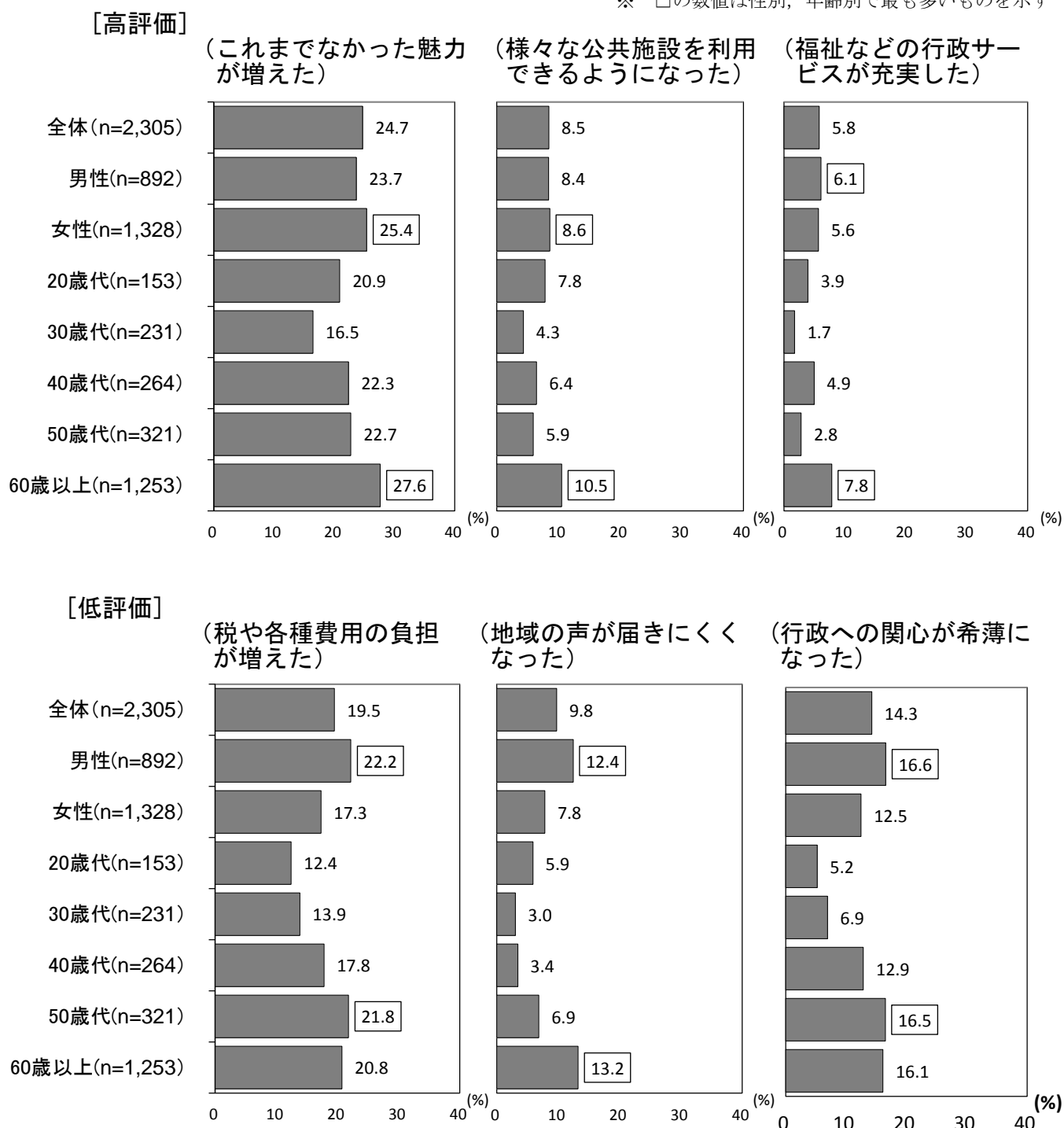
<性別・年齢別>

性別・年齢別に高評価・低評価の各上位3項目をみると、性別では、高評価の3項目は男女差は少ないものの、低評価の3項目では、女性より男性の方が多くなっている。

年齢別にみると、ほとんどの項目で『60歳以上』が最も多くなっている。ただし、「税や各種費用の負担が増えた」と「行政への関心が希薄になった」では、『50歳代』の方が多くなっている。

図 47-2 合併後10年の評価の上位3項目<性別・年齢別>

※ □の数値は性別、年齢別で最も多いものを示す



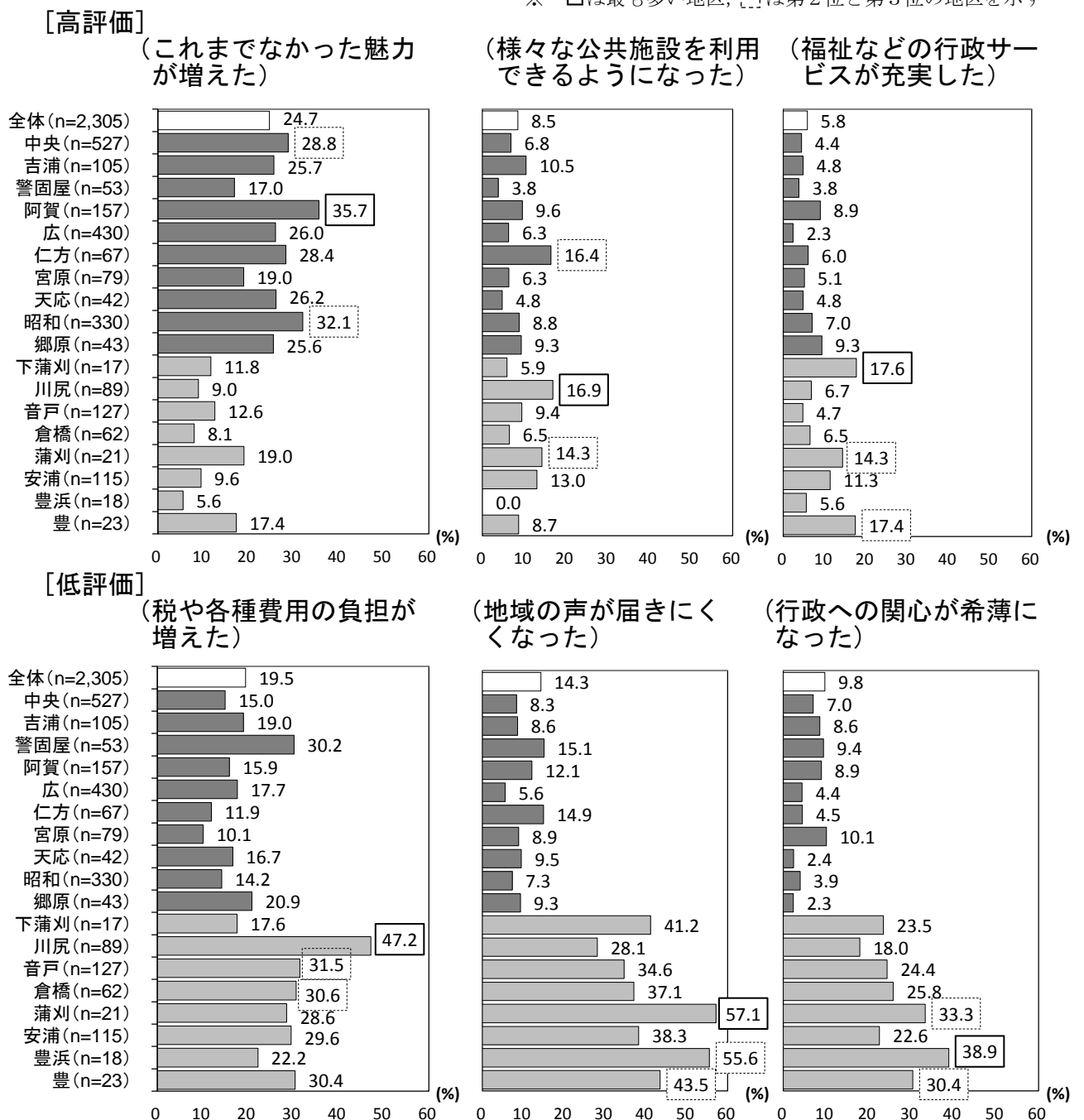
<地区別>

地区別でみると、高評価の「歴史や文化、観光地、特産品など、これまでなかった魅力が増えた」では『阿賀』35.7%が最も多く、次いで『昭和』32.1%、『中央』28.8%が多いなど、旧呉市の地区が比較的多くなっている。「様々な公共施設を利用できるようになった」では『川尻』16.9%が最も多く、次いで『仁方』16.4%、『蒲刈』14.3%が続いている。「福祉などの行政サービスが充実した」では、『下蒲刈』が17.6%で最も多く、次いで『豊』17.4%、『蒲刈』14.3%が多いなど、旧呉市以外の地区が多くなっている。

低評価の「税や各種費用の負担が増えた」では『川尻』47.2%、「地域の声が届きにくくなった」では『蒲刈』57.1%、「行政への関心が希薄になった」では『豊浜』38.9%が最も多くなっているなど旧呉市以外の地区が比較的多くなっている。

図 47-3 合併後 10 年の評価の上位 3 項目<地区別>

※ □は最も多い地区, []は第2位と第3位の地区を示す



4 呉市の政策全般に対する満足度・重要度

◇満足度は、プラスは 17 項目 最大値は『健康づくり』 0.348

マイナスは 11 項目 最小値は『商業』 -0.445

◇重要度が高い項目

1 位 消防・救急, 防災, 災害対応 1.327 2 位 行財政改革 1.188

問 48 次の表は、呉市が行っている様々な行政サービスの項目を示しています。あなたは、これらの項目について、現在、どれくらい満足していますか。また、今後のまちづくりを進めていく上で、どれくらい重要であると思われますか。あなたのお気持ちに最も近いものを、「満足度」・「重要度」からそれぞれ1つずつ選んで、○をつけてください。

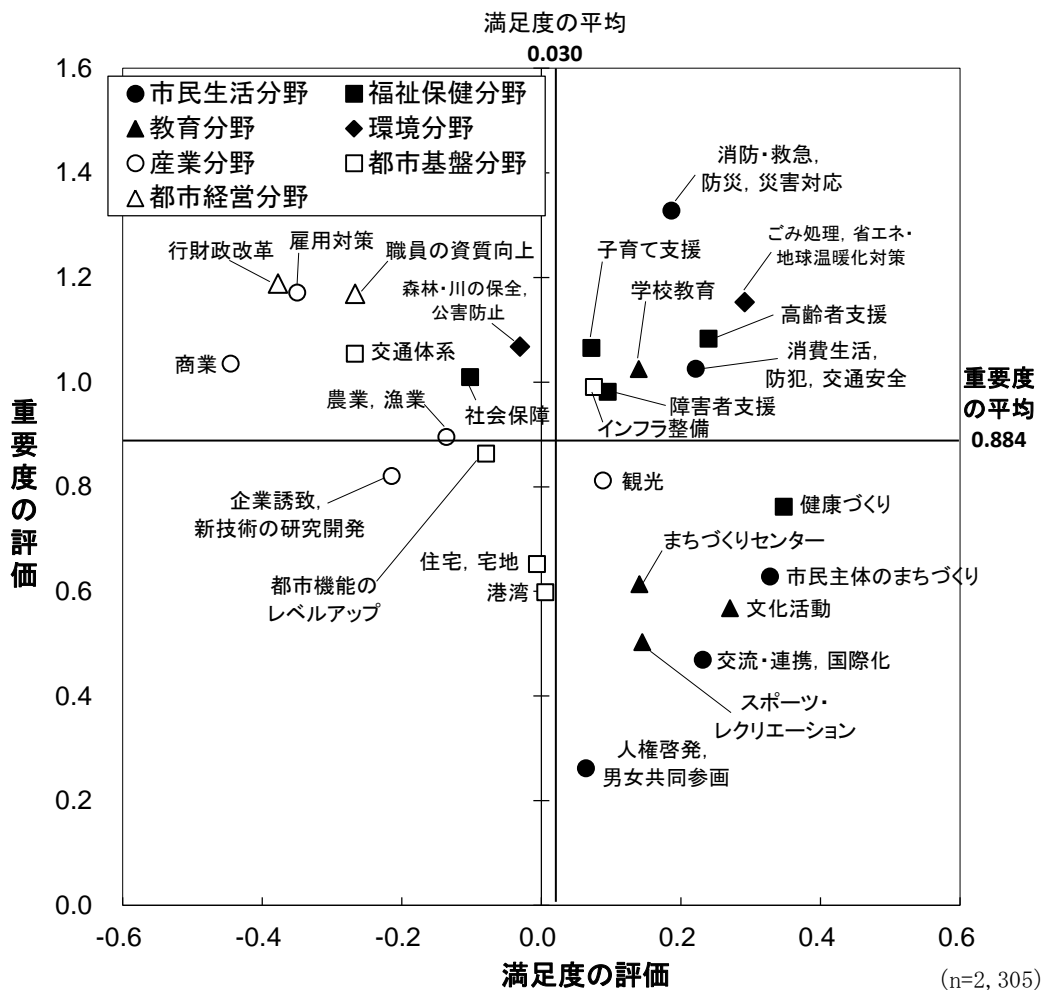
呉市が行っている行政サービスの満足度と重要度について、『市民生活分野』『福祉保健分野』『教育分野』『自然環境分野』『産業分野』『都市基盤分野』『都市経営分野』の7分野 28 項目に対し、下記のとおり評価点を算出した。

※「満足」 2点, 「やや満足」 1点, 「どちらともいえない」 0点, 「やや不満」 -1点, 「不満」 -2点

※「重要」 2点, 「やや重要」 1点, 「どちらともいえない」 0点, 「あまり重要でない」 -1点, 「重要でない」 -2点

その結果、全項目の満足度の平均値は 0.030, 最大値は 0.348, 最小値は -0.445 で、重要度の平均値は 0.884, 最大値は 1.327, 最小値は 0.262 となった。

図 48-1 行政サービスの満足度と重要度の相関図

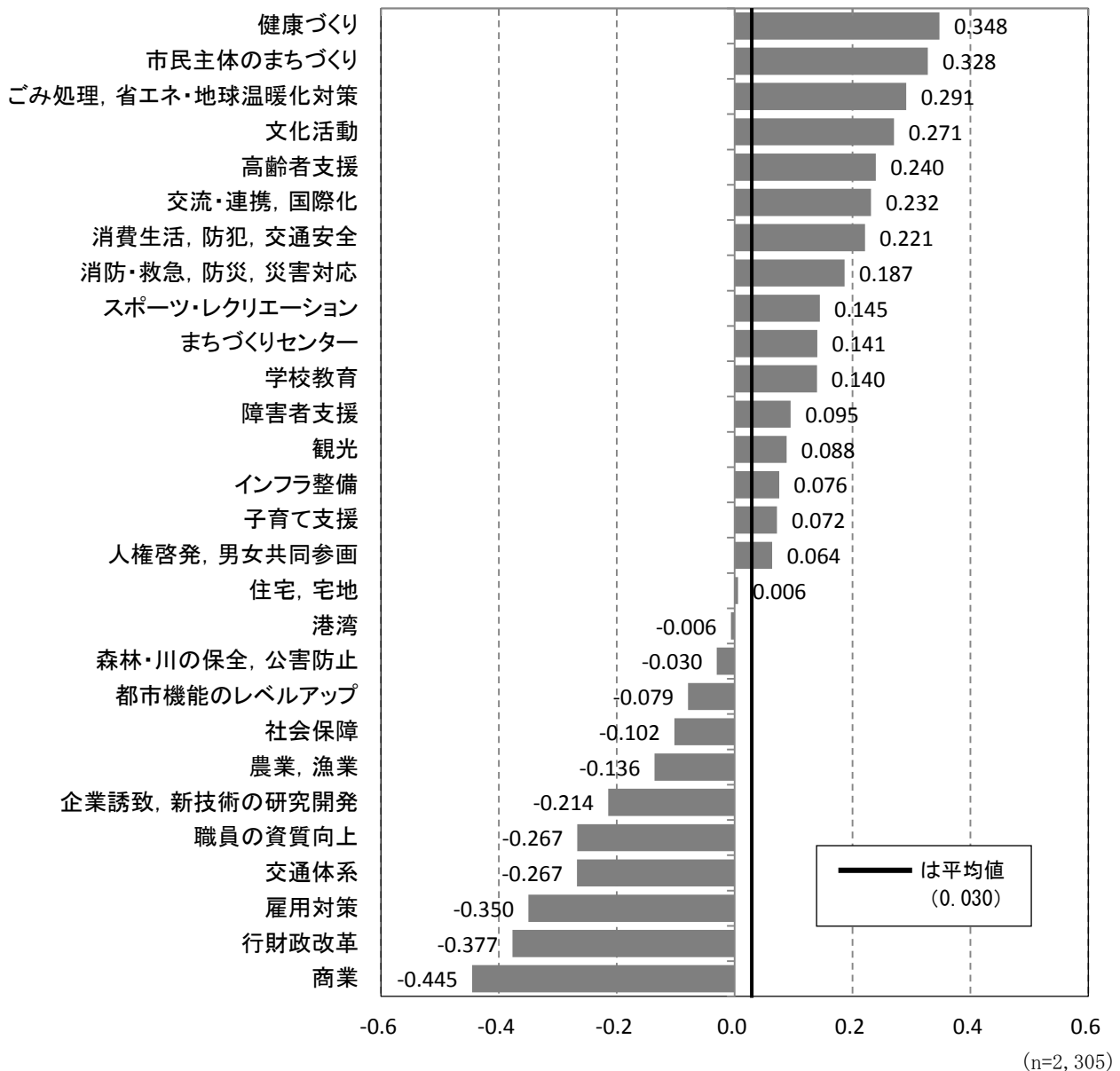


(1) 行政サービスの満足度

行政サービスの満足度については、上位5項目が「健康づくり」0.348、「市民主体のまちづくり」0.328、「ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策」0.291、「文化活動」0.271、「高齢者支援」0.240 となっている。

また、下位5項目は、「商業」-0.445、「行財政改革」-0.377、「雇用対策」-0.350、「交通体系」-0.267、「職員の資質向上」-0.267 となっている。

図 48-2 行政サービスの満足度



※「満足」 2点, 「やや満足」 1点, 「どちらともいえない」 0点, 「やや不満」 -1点, 「不満」 -2点

【行政サービスの満足度 前回調査比較】

満足度について、今回調査と平成21年度の前回調査をみると、全体平均はやや低下している。

満足度の上昇が大きいものをみると、「インフラ整備」はマイナスから0.169ポイント上昇してプラスに転じている。また、「ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策」も0.072ポイントと上昇がやや大きくなっている。なお、全体順位をみると、「インフラ整備」が6ランク、「学校教育」が5ランク、それぞれアップしている。

一方、満足度の低下が大きいものをみると、「行財政改革」の0.186ポイントの低下が最大で、「都市機能のレベルアップ」、「交流・連携、国際化」も0.1ポイント以上と低下が大きくなっている。また、全体順位をみると、「都市機能のレベルアップ」が7ランク、「交流・連携、国際化」が5ランク、それぞれダウンしている。

表 48-1 行政サービスの満足度 前回調査比較

項目	満足度				全体順位			
	H21	H26	変化		H21	H26	変化	
全体平均	0.044	0.030	-0.014	↓	-	-	-	-
健康づくり	0.308	0.348	0.040	↑	2	1	1	↑
市民主体のまちづくり	0.304	0.328	0.024	↑	4	2	2	↑
ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策	0.219	0.291	0.072	↑	7	3	4	↑
文化活動	0.307	0.271	-0.036	↓	3	4	-1	↓
高齢者支援	0.284	0.240	-0.044	↓	5	5	0	→
交流・連携、国際化	0.339	0.232	-0.107	↓	1	6	-5	↓
消費生活、防犯、交通安全	0.260	0.221	-0.039	↓	6	7	-1	↓
消防・救急、防災、災害対応	0.184	0.187	0.003	↑	8	8	0	→
スポーツ・レクリエーション	0.148	0.145	-0.003	↓	9	9	0	→
まちづくりセンター	0.102	0.141	0.039	↑	12	10	2	↑
学校教育	0.090	0.140	0.050	↑	16	11	5	↑
障害者支援	0.113	0.095	-0.018	↓	11	12	-1	↓
観光	0.117	0.088	-0.029	↓	10	13	-3	↓
インフラ整備	-0.093	0.076	0.169	↑	20	14	6	↑
子育て支援	0.091	0.072	-0.019	↓	15	15	0	→
人権啓発、男女共同参画	0.094	0.064	-0.030	↓	14	16	-2	↓
住宅、宅地	0.021	0.006	-0.015	↓	18	17	1	↑
港湾	0.028	-0.006	-0.034	↓	17	18	-1	↓
森林・川の保全、公害防止	-0.024	-0.030	-0.006	↓	19	19	0	→
都市機能のレベルアップ	0.096	-0.079	-0.175	↓	13	20	-7	↓
社会保障	-0.103	-0.102	0.001	↑	21	21	0	→
農業、漁業	-0.109	-0.136	-0.027	↓	22	22	0	→
企業誘致、新技術の研究開発	-0.164	-0.214	-0.050	↓	23	23	0	→
職員の資質向上	-0.277	-0.267	0.010	↑	26	24	2	↑
交通体系	-0.197	-0.267	-0.070	↓	25	25	0	→
雇用対策	-0.366	-0.350	0.016	↑	27	26	1	↑
行財政改革	-0.191	-0.377	-0.186	↓	24	27	-3	↓
商業	-0.387	-0.445	-0.058	↓	28	28	0	→

※■は前回調査と比較して満足度（評価点）が上昇した項目

【行政サービスの満足度 上位3項目】＜性別・年齢別・地区別＞

性別でみると、男女とも「健康づくり」が最も満足度が高い。

年齢別でみると、『20歳代』、『30歳代』、『40歳代』では「市民主体のまちづくり」、
『50歳代』、『60歳以上』では「健康づくり」が最も多い。

地区別でみると、『中央』、『下蒲刈』、『倉橋』、『豊浜』では「健康づくり」が最も多く、
『吉浦』、『阿賀』、『広』、『郷原』、『川尻』、『安浦』では「市民主体のまちづくり」、
『警固屋』、『仁方』、『天応』、『昭和』、『蒲刈』では「ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策」、
『宮原』、『音戸』、『豊浜』、『豊』では「高齢者支援」が最も多くなっている。

表 48-2 行政サービスの満足度 上位3項目＜性別・年齢別・地区別＞

区分		第1位	第2位	第3位
全体		健康づくり 0.348	市民主体のまちづくり 0.328	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.291
性別	男性	健康づくり 0.262	市民主体のまちづくり 0.243	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.222
	女性	健康づくり 0.419	市民主体のまちづくり 0.401	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.350
年齢別	20歳代	市民主体のまちづくり 0.446	文化活動 0.329	消費生活、防犯、交通安全 0.270
	30歳代	市民主体のまちづくり 0.248	交流・連携、国際化 0.240	観光 0.146
	40歳代	市民主体のまちづくり 0.319	健康づくり 0.295	文化活動 0.198
	50歳代	健康づくり 0.307	市民主体のまちづくり 0.286	文化活動 0.228
	60歳以上	健康づくり 0.455	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.446	高齢者支援 0.393
	地区別	中央	健康づくり 0.394	文化活動 0.354
吉浦		市民主体のまちづくり 0.511	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.466	文化活動 0.319
警固屋		ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.356	健康づくり 0.304	高齢者支援 0.298
阿賀		市民主体のまちづくり 0.427	健康づくり 0.411	文化活動 0.380
広		市民主体のまちづくり 0.343	健康づくり 0.283	交流・連携、国際化 0.237
仁方		ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.459	健康づくり 0.367	消費生活、防犯、交通安全 0.328
宮原		高齢者支援 0.391	健康づくり 0.373	文化活動 0.333
天応		ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.457	市民主体のまちづくり 0.425	文化活動 0.308
昭和		ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.379	市民主体のまちづくり 0.344	健康づくり 0.331
郷原		市民主体のまちづくり 0.487	健康づくり 0.447	文化活動 0.316
下蒲刈		健康づくり 0.538	高齢者支援 0.462	子育て支援 0.429
川尻		市民主体のまちづくり 0.220	消費生活、防犯、交通安全 健康づくり 0.213	
音戸		高齢者支援 0.391	市民主体のまちづくり 0.389	健康づくり 0.387
倉橋		健康づくり 0.128	消費生活、防犯、交通安全 0.125	障害者支援 0.085
蒲刈		ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.500	市民主体のまちづくり 0.474	健康づくり 0.368
安浦		市民主体のまちづくり 0.426	健康づくり 0.388	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.311
豊浜		健康づくり 高齢者支援 0.692		障害者支援 0.500
豊		高齢者支援 0.833	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 0.529	消防・救急・防災・災害対応 0.500

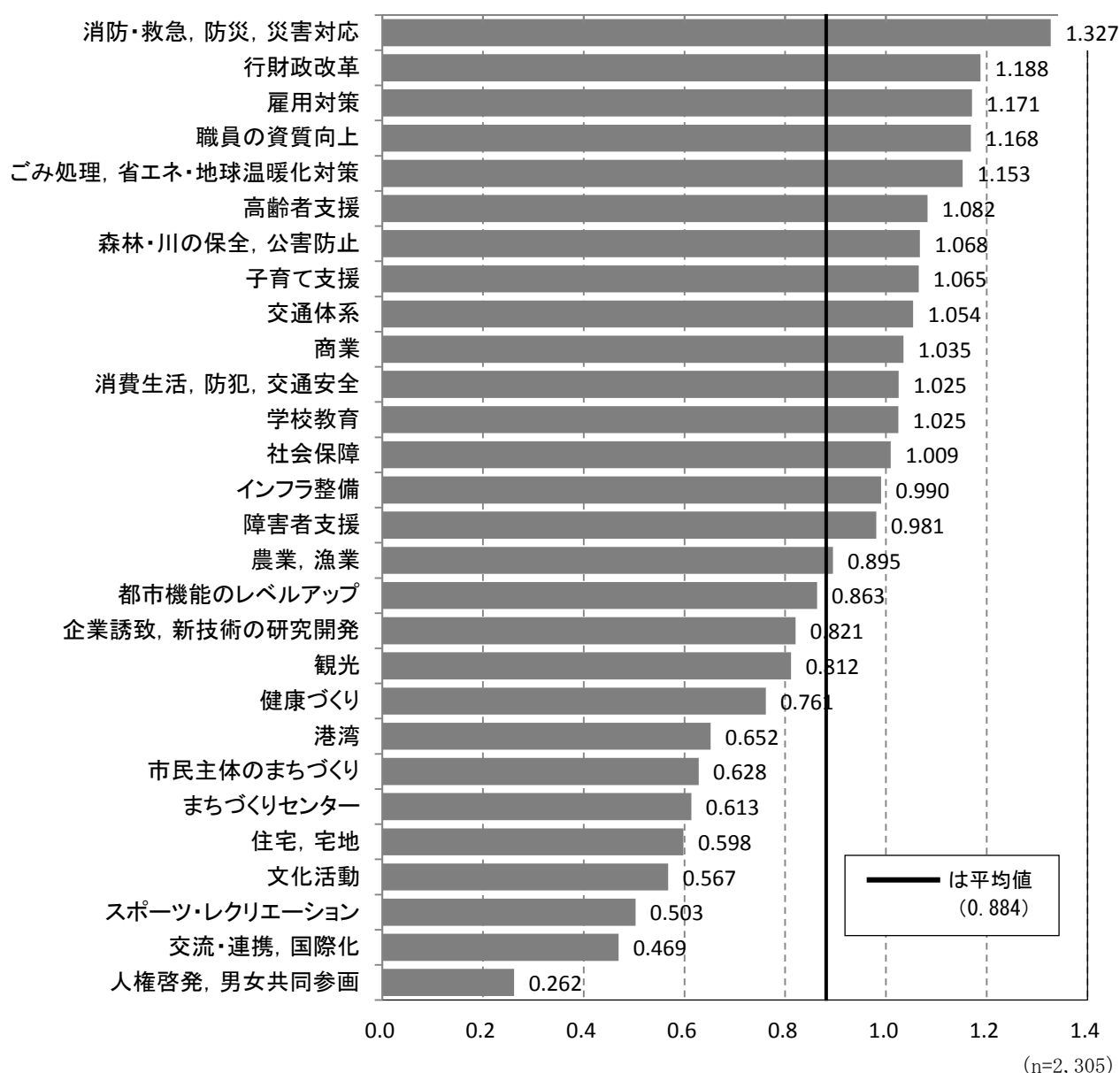
※ ■は全体で第1位の項目

(2) 行政サービスの重要度

行政サービスの重要度については、上位5項目が「消防・救急, 防災, 災害対応」1.327, 「行財政改革」1.188, 「雇用対策」1.171, 「職員の資質向上」1.168, 「ごみ処理, 省エネ・地球温暖化対策」1.153 となっている。

また、下位5項目は, 「人権啓発, 男女共同参画」0.262, 「交流・連携, 国際化」0.469, 「スポーツ・レクリエーション」0.503, 「文化活動」0.567, 「住宅, 宅地」0.598 となっている。

図 48-3 行政サービスの重要度



※ 「重要」 2点, 「やや重要」 1点, 「どちらともいえない」 0点, 「あまり重要でない」 -1点, 「重要でない」 -2点

【行政サービスの重要度 前回調査比較】

重要度について、今回調査と平成21年度の前回調査をみると、全体平均はやや低下している。

重要度の上昇が大きいものをみると、「行財政改革」は0.156ポイント上昇しているほか、「住宅、宅地」や「高齢者支援」も0.1ポイント以上上昇している。なお、全体順位をみると、「行財政改革」が10ランク、「高齢者支援」が9ランク、それぞれアップしている。

一方、重要度の低下が大きいものをみると、「市民主体のまちづくり」の0.209ポイントの低下が最大で、「人権啓発、男女共同参画」、「社会保障」、「都市機能のレベルアップ」も0.17ポイント以上と低下が大きくなっている。また、全体順位をみると、「社会保障」が8ランク、「都市機能のレベルアップ」が6ランク、それぞれダウンしている。

表 48-3 行政サービスの重要度 前回調査比較

項目	重要度				全体順位			
	H21	H26	変化		H21	H26	変化	
全体平均	0.931	0.884	-0.047	↓	-	-	-	-
消防・救急，防災，災害対応	1.459	1.327	-0.132	↓	1	1	0	→
行財政改革	1.032	1.188	0.156	↑	12	2	10	↑
雇用対策	1.278	1.171	-0.107	↓	2	3	-1	↓
職員の資質向上	1.204	1.168	-0.036	↓	4	4	0	→
ごみ処理，省エネ・地球温暖化対策	1.233	1.153	-0.080	↓	3	5	-2	↓
高齢者支援	0.961	1.082	0.121	↑	15	6	9	↑
森林・川の保全，公害防止	1.153	1.068	-0.085	↓	6	7	-1	↓
子育て支援	1.113	1.065	-0.048	↓	8	8	0	→
交通体系	1.080	1.054	-0.026	↓	9	9	0	→
商業	1.026	1.035	0.009	↑	14	10	4	↑
消費生活，防犯，交通安全	1.152	1.025	-0.127	↓	7	11	-4	↓
学校教育	1.031	1.025	-0.006	↓	13	12	1	↑
社会保障	1.180	1.009	-0.171	↓	5	13	-8	↓
インフラ整備	0.892	0.990	0.098	↑	18	14	4	↑
障害者支援	1.039	0.981	-0.058	↓	10	15	-5	↓
農業，漁業	0.943	0.895	-0.048	↓	16	16	0	→
都市機能のレベルアップ	1.034	0.863	-0.171	↓	11	17	-6	↓
企業誘致，新技術の研究開発	0.897	0.821	-0.076	↓	17	18	-1	↓
観光	0.772	0.812	0.040	↑	21	19	2	↑
健康づくり	0.825	0.761	-0.064	↓	20	20	0	→
港湾	0.580	0.652	0.072	↑	24	21	3	↑
市民主体のまちづくり	0.837	0.628	-0.209	↓	19	22	-3	↓
まちづくりセンター	0.749	0.613	-0.136	↓	22	23	-1	↓
住宅，宅地	0.446	0.598	0.152	↑	27	24	3	↑
文化活動	0.551	0.567	0.016	↑	25	25	0	→
スポーツ・レクリエーション	0.533	0.503	-0.030	↓	26	26	0	→
交流・連携，国際化	0.602	0.469	-0.133	↓	23	27	-4	↓
人権啓発，男女共同参画	0.438	0.262	-0.176	↓	28	28	0	→

※■は前回調査と比較して重要度（評価点）が上昇した項目

【行政サービスの重要度 上位3項目】＜性別・年齢別・地区別＞

性別で見ると、男女、年齢別とも「消防・救急、防災、災害対応」が最も重要度が高い。

地区別で見ると、『仁方』では「交通体系」、『下蒲刈』では「社会保障」、「職員の資質向上」、その他の地区では「消防・救急、防災、災害対応」が最も重要度が高くなっている。

表 48-4 行政サービスの重要度 上位3項目＜性別・年齢別・地区別＞

区分	第1位	第2位	第3位
全体	消防・救急、防災、災害対応 1.327	行財政改革 1.188	雇用対策 1.171
性別	男性	消防・救急、防災、災害対応 1.317	行財政改革 1.218
	女性	消防・救急、防災、災害対応 1.347	雇用対策 1.212
年齢別	20歳代	消防・救急、防災、災害対応 1.340	子育て支援 1.340
	30歳代	消防・救急、防災、災害対応 1.396	子育て支援 1.345
	40歳代	消防・救急、防災、災害対応 1.385	雇用対策 1.280
	50歳代	消防・救急、防災、災害対応 1.321	雇用対策 1.261
	60歳以上	消防・救急、防災、災害対応 1.306	職員の資質向上 1.217
	地区別	中央	消防・救急、防災、災害対応 1.378
	吉浦	消防・救急、防災、災害対応 1.365	職員の資質向上 1.282
	警固屋	消防・救急、防災、災害対応 1.214	雇用対策 1.154
	阿賀	消防・救急、防災、災害対応 1.376	行財政改革 1.190
	広	消防・救急、防災、災害対応 1.326	行財政改革 1.175
	仁方	交通体系 1.291	消防・救急、防災、災害対応 1.286
	宮原	消防・救急、防災、災害対応 1.438	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 1.290
	天応	消防・救急、防災、災害対応 1.314	行財政改革 1.276
	昭和	消防・救急、防災、災害対応 1.260	職員の資質向上 1.239
	郷原	消防・救急、防災、災害対応 1.270	学校教育 1.243
	下蒲刈	社会保障 職員の資質向上 1.154	消防・救急、防災、災害対応 1.077
	川尻	消防・救急、防災、災害対応 1.263	職員の資質向上 1.197
	音戸	消防・救急、防災、災害対応 1.255	職員の資質向上 1.161
	倉橋	消防・救急、防災、災害対応 1.378	雇用対策 1.256
	蒲刈	消防・救急、防災、災害対応 1.429	学校教育 1.286
	安浦	消防・救急、防災、災害対応 1.330	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 1.241
	豊浜	消防・救急、防災、災害対応 1.583	職員の資質向上 1.545
	豊	消防・救急、防災、災害対応 1.467	ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策 1.333

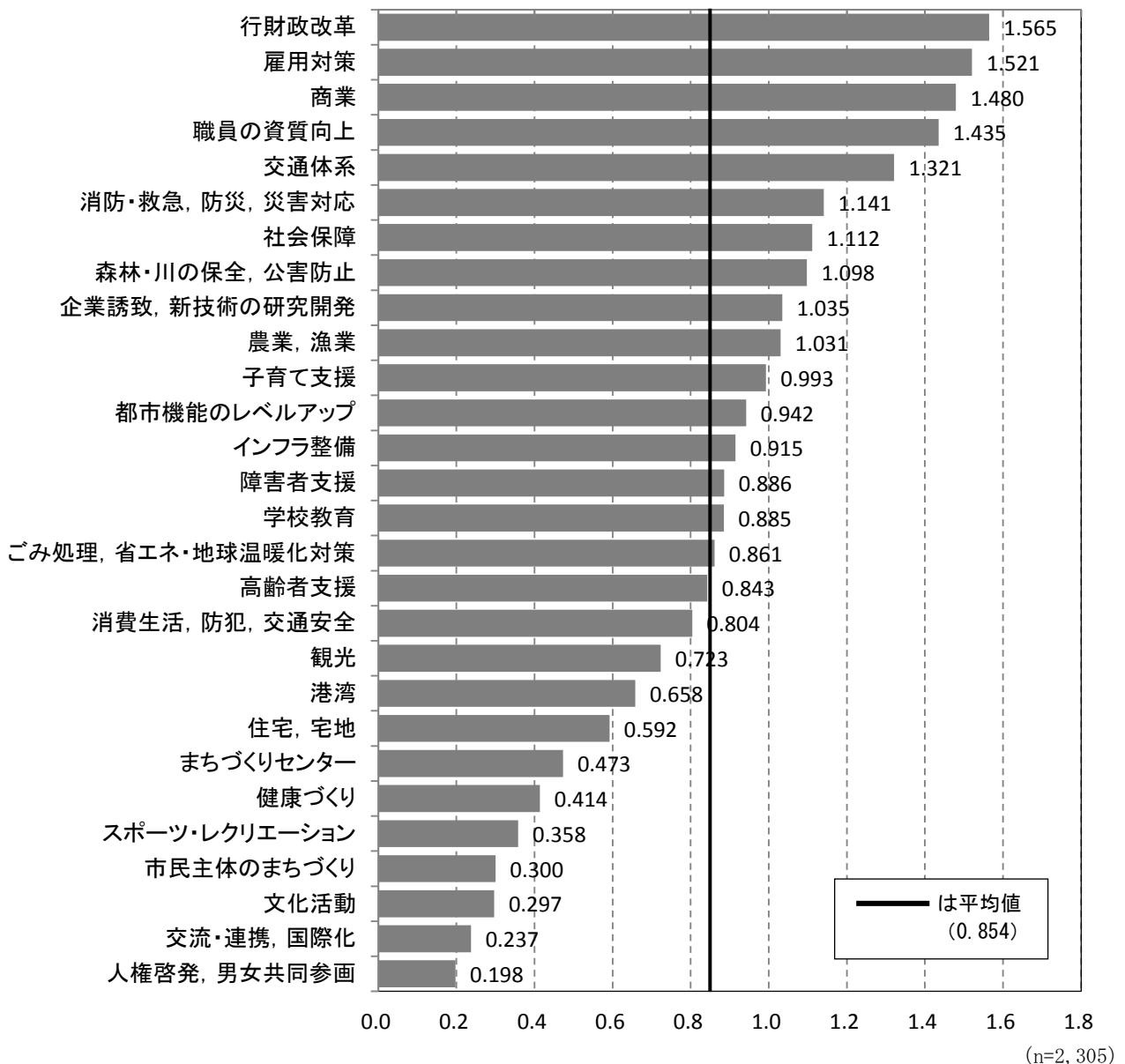
※ ■は全体で第1位の項目

(3) 行政サービスのニーズ度(重要度－満足度)

行政サービスのニーズ度(重要度－満足度)については、上位5項目は「行財政改革」1.565、「雇用対策」1.521、「商業」1.480、「職員の資質向上」1.435、「交通体系」1.321となっている。

また、下位5項目は、「人権啓発, 男女共同参画」0.198, 「交流・連携, 国際化」0.237, 「文化活動」0.297, 「市民主体のまちづくり」0.300, 「スポーツ・レクリエーション」0.358となっている。

図 48-4 行政サービスのニーズ度



※ ニーズ度 = 「重要度」 - 「満足度」

【行政サービスのニーズ度 前回調査比較】

ニーズ度について、今回調査と平成21年度の前回調査をみると、全体平均はやや低下している。

ニーズ度の上昇が大きいものをみると、「行財政改革」は0.342ポイント上昇している。また、「高齢者支援」、「住宅、宅地」、「港湾」も0.1ポイント以上上昇している。なお、全体順位をみると、「行財政改革」が6ランク、「住宅、宅地」が3ランク、それぞれアップしている。

一方、ニーズ度の低下が大きいものをみると、「市民主体のまちづくり」の0.233ポイントの低下が最大で、「社会保障」、「まちづくりセンター」も0.17ポイント以上の低下となっている。また、全体順位をみると、「ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策」が4ランク、「市民主体のまちづくり」、「社会保障」が3ランク、それぞれダウンしている。

表 48-5 行政サービスのニーズ度 前回調査比較

項目	ニーズ度				全体順位			
	H21	H26	変化		H21	H26	変化	
全体平均	0.887	0.854	-0.033	↓	-	-	-	-
行財政改革	1.223	1.565	0.342	↑	7	1	6	↑
雇用対策	1.644	1.521	-0.123	↓	1	2	-1	↓
商業	1.413	1.480	0.067	↑	3	3	0	→
職員の資質向上	1.481	1.435	-0.046	↓	2	4	-2	→
交通体系	1.277	1.321	0.044	↑	5	5	0	→
消防・救急、防災、災害対応	1.274	1.141	-0.133	↓	6	6	0	→
社会保障	1.290	1.112	-0.178	↓	4	7	-3	↓
森林・川の保全、公害防止	1.177	1.098	-0.079	↓	8	8	0	→
企業誘致、新技術の研究開発	1.060	1.035	-0.025	↓	9	9	0	→
農業、漁業	1.046	1.031	-0.015	↓	10	10	0	→
子育て支援	1.022	0.993	-0.029	↓	11	11	0	→
都市機能のレベルアップ	0.985	0.942	-0.043	↓	13	12	1	↑
インフラ整備	0.938	0.915	-0.023	↓	15	13	2	↑
障害者支援	0.926	0.886	-0.040	↓	16	14	2	↑
学校教育	0.941	0.885	-0.056	↓	14	15	-1	↓
ごみ処理、省エネ・地球温暖化対策	1.014	0.861	-0.153	↓	12	16	-4	↓
高齢者支援	0.677	0.843	0.166	↑	18	17	1	↑
消費生活、防犯、交通安全	0.892	0.804	-0.088	↓	17	18	-1	↓
観光	0.654	0.723	0.069	↑	19	19	0	→
港湾	0.552	0.658	0.106	↑	21	20	1	↑
住宅、宅地	0.426	0.592	0.166	↑	24	21	3	↑
まちづくりセンター	0.647	0.473	-0.174	↓	20	22	-2	↓
健康づくり	0.516	0.414	-0.102	↓	23	22	1	↑
スポーツ・レクリエーション	0.386	0.358	-0.028	↓	25	24	1	↑
市民主体のまちづくり	0.533	0.300	-0.233	↓	22	25	-3	↓
文化活動	0.244	0.297	0.053	↑	28	26	2	↑
交流・連携、国際化	0.263	0.237	-0.026	↓	27	27	0	→
人権啓発、男女共同参画	0.344	0.198	-0.146	↓	26	28	-2	↓

※■は前回調査と比較してニーズ度（評価点）が上昇した項目

【行政サービスのニーズ度 上位3項目】＜性別・年齢別・地区別＞

性別でみると、『男性』は「行財政改革」、女性は「雇用対策」が最もニーズ度が高い。

年齢別でみると、『20歳代』では「商業」、『30歳代』、『60歳以上』では「行財政改革」、『40歳代』、『50歳代』では「雇用対策」が最もニーズ度が高い。

地区別でみると、『吉浦』・『広』・『宮原』・『天応』・『昭和』・『郷原』では「行財政改革」、『倉橋』・『安浦』・『豊浜』・『豊』では「雇用対策」、『中央』・『警固屋』・『阿賀』・『下蒲刈』では「商業」、『仁方』・『川尻』では「交通体系」、『音戸』では「職員の資質向上」、『蒲刈』では「農業、漁業」が最もニーズ度が高い。

表 48-6 行政サービスのニーズ度 上位3項目＜性別・年齢別・地区別＞

区分		第1位	第2位	第3位
全体		行財政改革 1.565	雇用対策 1.521	商業 1.480
性別	男性	行財政改革 1.628	雇用対策 1.528	商業 1.511
	女性	雇用対策 1.528	行財政改革 1.504	商業 1.449
年齢別	20歳代	商業 1.615	雇用対策 1.528	交通体系 1.487
	30歳代	行財政改革 1.585	子育て支援 1.381	職員の資質向上 1.377
	40歳代	雇用対策 1.721	行財政改革 1.720	商業 1.583
	50歳代	雇用対策 1.777	行財政改革 1.604	商業 1.546
	60歳以上	行財政改革 1.517	雇用対策 1.443	商業 1.433
地区別	中央	商業 1.754	行財政改革 1.700	雇用対策 1.675
	吉浦	行財政改革 1.609	雇用対策 1.567	職員の資質向上 1.506
	警固屋	商業 1.691	雇用対策 1.568	企業誘致、新技術の研究開発 1.376
	阿賀	商業 1.566	行財政改革 1.503	雇用対策 1.489
	広	行財政改革 1.541	雇用対策 1.461	職員の資質向上 1.417
	仁方	交通体系 1.670	職員の資質向上 1.525	商業 1.435
	宮原	行財政改革 1.739	雇用対策 1.710	職員の資質向上 1.569
	天応	行財政改革 1.647	交通体系 1.570	雇用対策 1.519
	昭和	行財政改革 1.563	職員の資質向上 1.464	雇用対策 1.398
	郷原	行財政改革 1.461	職員の資質向上 1.384	雇用対策 1.375
	下蒲刈	商業 1.714	行財政改革 雇用対策 1.385	
	川尻	交通体系 1.710	行財政改革 1.499	職員の資質向上 1.491
	音戸	職員の資質向上 1.535	行財政改革 1.483	商業 1.375
	倉橋	雇用対策 1.745	行財政改革 1.579	消防・救急、防災、災害対応 1.515
	蒲刈	農業、漁業 1.814	商業 1.731	雇用対策 1.714
	安浦	雇用対策 1.616	商業 1.569	交通体系 1.514
	豊浜	雇用対策 1.945	行財政改革 1.833	職員の資質向上 1.629
豊	雇用対策 1.659	職員の資質向上 1.481	農業、漁業 1.410	

※ ■は全体で第1位の項目

5 自由意見

問 49 今後、呉市がより住みよいまちになるためには、どんなことをしたらよいと思いますか。
あなたのご意見をお聞かせください。

- 自由意見は、有効回答数 2,305 票のうち、651 人から回答をいただいた。
- 内容が多岐にわたる意見もあるため、以下のとおり「問 48 満足度・重要度」の項目ごとに分類して再集計した。なお、問 48 の項目にあてはまらないものは、その他として分類した。
- 自由記入の傾向としては、「都市基盤分野」が 47.8%で最も多く、次いで「産業分野」が 33.8%と多くなっている。項目別にみると、「交通体系」が 21.4%で最も多く、これに「都市機能のレベルアップ」14.9%や「商業」13.1%が続いている。
- 掲載した自由意見は一部であり、回答いただいた意見は、今後の市政運営の参考とする。

表 49-1 自由意見 分野別件数一覧表

分野	件数	構成比 (%)	項目	件数	構成比 (%)
市民生活分野	134	21.0	市民主体のまちづくり	28	4.3
			人権啓発, 男女共同参画	2	0.3
			消防・救急, 防災, 災害対応	46	7.1
			消費生活, 防犯, 交通安全	31	4.8
			交流・連携, 国際化	27	4.1
福祉保健分野	152	23.3	健康づくり	8	1.2
			子育て支援	68	10.4
			高齢者支援	47	7.2
			障がい者支援	4	0.6
			社会保障	25	3.8
教育分野	66	10.1	学校教育	35	5.4
			公民館活動, 青少年育成	5	0.8
			文化活動	18	2.8
			スポーツ・レクリエーション	8	1.2
環境分野	36	5.5	森林・川の保全, 公害防止	17	2.6
			ごみ処理, 省エネ・地球温暖化対策	19	2.9
産業分野	220	33.8	企業誘致, 新技術の研究開発	22	3.4
			農業, 漁業	32	4.9
			観光	38	5.8
			雇用対策	43	6.6
都市基盤分野	311	47.8	商業	85	13.1
			都市機能のレベルアップ	97	14.9
			インフラ整備 (日常生活基盤)	51	7.8
			住宅, 宅地	20	3.1
			交通体系	139	21.4
都市経営分野	71	10.9	港湾	4	0.6
			行財政改革	43	6.6
その他	163	25.0	職員の資質向上	28	4.3
			呉市全般	146	22.4
合計	1,147 件 (回答者数 651 人)				
	本アンケートについて				
				17	2.6

※ 構成比は回答者数 651 人を母数とする割合

■自由意見（要約）一部抜粋

●市民生活分野

- ・市民が行政に頼るのではなく、各人が市を住みよい街にするよう意識する。（男性・50歳代）
- ・災害対応をしっかり行い、高齢者も小さい子供も、安心して住める街づくりを徹底する事が大切だと思います。また、呉市の良い所をどんどんアピールする事で、街全体が元気になると思います。（女性・20歳代）

●福祉保健分野

- ・小児救急や子育て支援センター等子育ては充実していますが、出産出来る産婦人科が減っているのが若い方には不安なのではないかと思います。安心して妊娠、出産出来る環境を整えたらいいです。（女性・40歳代）
- ・幼児教育にもっと力を入れてほしい。全ての基本は幼児教育にあると思います。幼児教育の大切さを真剣に考えて頂きたい。その為には、保育所のみを取り上げるのではなく、幼稚園にも補助をしっかり与える等、子供を平等に援助して頂きたいと思います。幼児期の教育は人生の中で本当に重要です。これからの子供達が呉市をつくって行きます。住み良いまちになる為には、1番目を向けなければならないと考えています。（女性・40歳代）
- ・高齢化と人口減少が一番の課題であると感じています。医療、介護、福祉の充実。それを支える若年者が住み易い、魅力あるまちづくりを切望します。（女性・20歳代）

●教育分野

- ・将来の呉市を担う子供達の教育は、とても大切だと思います。子供達の教育と同時に、親の教育をしないと市民全体の意識を変えて行く事が出来ないと思います。（男性・50歳代）
- ・最近の子供の非行の低年齢化が増加しているため、各学校に専門の教員を配置して頂いて、一人でも多くその様な子供を救って頂きたい。子供だけが悪いのではないと思います。どうか、その方面にも力を入れてください。（女性・60歳以上）
- ・大学や高専の協力を得て、社会人になっても学び続けられる環境を整えてほしいと思います。特に芸術分野。元気の良い社会人、老人が増え、街がもっと活気づくのではないかと思います。（女性・50歳代）

●環境分野

- ・もっと1人1人が色々な環境対策に取り組み、質の高い向上心を持つ事が大切になって来ていると思います。1人1人が自分で出来る事をしていったらいいと思います。(女性・50歳代)
- ・小市ヶ浜埋立地に、太陽光発電を設置して、埋立地を有効活用してはどうでしょうか。(男性・60歳以上)

●産業分野

- ・呉市にはせつかく多くの開発技術があるのだから、呉市の産業が活性化されるような重要な技術の構築を進めていく事を望む。「物づくり」には、現在だけでなく過去から未来(次世代)まで費用がかかるので、優遇し、育てるべきである。将来的に産業として成立するか否かを考慮する人材の育成も大切である。(男性・60歳以上)
- ・農地のイノシシの被害には、ほとんど困っている。何とかならないものか。作物を作る元気も失せてしまいそう。農業には、若い人達の農業離れ、採算の問題、高齢化の問題もある。(男性・60歳以上)
- ・農村・漁村地域の過疎化が進み、経済力が乏しくなっているが、沢山の特産品がある。この特産品のブランド化や、又特産品の加工品製造を進めて頂き、呉市の経済を豊かになれば、防災設備の充実も可能になり、障害者、高齢者が生活しやすい市になると思う。(女性・60歳以上)
- ・山手と町中の中間の商業施設が無くなって、年寄りである者が、日常の生活に毎日困っていると思います。今更対策は難しいとは思いますが、毎日年寄りが集まって雑談でもして楽しめる憩いの場と、商業施設を兼ねる物があれば良いなあと思っています。(男性・60歳以上)
- ・旧そごう跡地に、大型ショッピングセンターの誘致。駅前に人が集まり活気づくと思う。今は、デパートが無い為、買物も広島方面へ直行する様になる。(女性・60歳以上)

●都市基盤分野

- ・公共施設の跡地利用ですが、大きな土地を最大限利用出来る様な関係団体への引き渡しが良いと思います。例えば、大学機関等です。(女性・60歳以上)
- ・子供達が安心して、楽しく遊べる場所が近所に無いのが残念。公園があっても、ボール遊びが出来なかったり、自転車やブレボー等の乗り物に乗って遊べるスペースが無さ過ぎ。無料で遊べる場所を作ってほしい。(女性・40歳代)
- ・道路も歩道も整備が必要。住宅地ほど高齢者が多いと思うが、道路も歩道も狭い。道路の拡大や、一方通行のみとしても良いと思う。(男性・30歳代)

- ・空家を安く提供して,人口を増やし,町全体の活性化を望みます。(女性・60歳以上)
- ・旧市内は車で買物に行っても,駐車料金が高過ぎ。西条,焼山,広,広島市内に行く様になります。中通りに充実した買物が出来る様に駐車場完備した,店があれば良いと思います。(女性・40歳代)
- ・通勤時間帯の交通渋滞には,毎日うんざりします。バスが時間通りに来る事はありません。呉市内での雇用を増やす為にも,考えて頂きたいです。(女性・50歳代)

●都市経営分野

- ・呉市の身の丈に合った計画を策定してもらいたい。新規の施設は,将来を見据えて既存の施設の有効活用を進め,必要最小限に留めてもらいたい。人口対策については,人口増対策ばかり考えず,人口減を恐れず,呉市の適正人口を掌握して計画を進めてもらいたい。(男性・60歳以上)
- ・財政再建,健全化,透明性を高めて下さい。(男性・30歳代)
- ・市民の相談を親身になって聞き,対策を考えてくれる職員が沢山出来ると良い。(男性・60歳以上)

呉市民意識調査 調査項目

I. 呉市の住みやすさについて

問1 あなたは、呉市を「住みよい」まちだと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 住みよい | 2 どちらかといえば住みよい |
| 3 どちらかといえば住みにくい | 4 住みにくい |
| 5 分からない | |

→ **問1-1** 上記問1で1～4に回答した方のみ

住みよい又は住みにくいと感じる要因は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 通勤、通学 | 2 買い物環境 |
| 3 防犯、防災などの生活環境 | 4 子育て、教育環境 |
| 5 近所付き合いなど地域との交流 | 6 スポーツ、文化などの環境 |
| 7 医療、福祉などの環境 | 8 就業などの雇用環境 |
| 9 その他 () | |

問2 あなたは、呉市に「愛着」を感じますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|--------|---------|
| 1 感じる | 2 感じない | 3 分からない |
|-------|--------|---------|

→ **問2-1** 上記問2で1に回答した方のみ

どんなところに愛着を感じますか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------|
| 1 自然 (山, 川, 海など) |
| 2 風景 (田んぼ, 畑, 公園, 街並み, 建物など) |
| 3 歴史・文化 (名所・旧跡, 神社仏閣, 文化財など) |
| 4 地域活動 (祭り, 運動会など) |
| 5 子どもの頃の思い出 (同級生, 友人, 遊んだ場所など) |
| 6 郷土料理, 名物 |
| 7 その他 () |

問3 あなたは、お住まいの地域 (ご近所) で、近年人口がどう変化していると思いますか。

(○は1つ)

- | | |
|------------|-----------|
| 1 かなり増えている | 2 やや増えている |
| 3 あまり変わらない | 4 やや減っている |
| 5 かなり減っている | 6 分からない |

問4 お住まいの地域 (ご近所) での人口の変化について、どう思われますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|----------|
| 1 安心できる | 2 不安を感じる |
| 3 どちらとも言えない | 4 分からない |

→ **問4-1** 上記問4で2に回答した方のみ なぜ不安を感じるのですか。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 にぎわいがなくなる |
| 2 普段の話し相手が減り, 寂しくなる |
| 3 地域行事の開催や緊急時の安否確認, 町内美化などの助け合いが難しくなる |
| 4 公共サービスが縮小され不便になる |
| 5 集落が消滅する恐れがある |
| 6 その他 () |

問5 人口減少を少しでも抑えるためには、どのような取組が必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 住みよさ（居住環境）の向上 | 2 育てやすさ（子育て・教育環境）の向上 |
| 3 働きやすさ（雇用環境）の向上 | 4 結婚支援（婚活）の充実 |
| 5 呉市に定住することの良さ(魅力)のPR | 6 その他（ ） |

問6 あなたは、今住んでいる地域に、これからも「住み続けたい」と思いますか。(○は1つ)

- | | |
|------------|------------|
| 1 住み続けたい | 2 移りたい（市内） |
| 3 移りたい（市外） | 4 分からない |

→ **問6-1** 上記問6で2, 3に回答した方のみ

他の地域（市内、市外）へ移りたいと思う理由は、何ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 住みよさ（居住環境）の向上 | 2 育てやすさ（子育て・教育環境）の向上 |
| 3 働きやすさ（雇用環境）の向上 | 4 その他（ ） |

II. 呉市の主要課題に対する意識について

問7 あなたは現在、健康であると感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1 とても健康である | 2 まあまあ健康である |
| 3 どちらとも言えない | 4 あまり健康でない |
| 5 全く健康でない | |

問8 健康増進に向けて、あなたは現在、定期的（週3回以上）に運動していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------|---------|
| 1 している | 2 していない |
|--------|---------|

問9 あなたは、健康増進のための運動を行っていく上で、どのような環境整備が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 各種運動教室・講座の充実（まちづくりセンター（旧公民館）など） |
| 2 市民イベント（ウォーキング大会など）の充実 |
| 3 地域でのサークル活動（ウォーキングなど）の充実 |
| 4 ウォーキング・ランニングコースの整備 |
| 5 トレーニングルーム・機器の整備 |
| 6 多目的広場・陸上競技場の整備 |
| 7 体育館の整備 |
| 8 屋内プールの整備 |
| 9 その他（ ） |
| 10 特になし |

問 10 生活習慣病などの早期発見・早期治療に向けて、あなたは毎年、健康診査を受診していますか。
(○は1つ)

1 受診している

2 受診していない

→ **問 10-1** 上記問 10 で 2 と回答した方のみ 健康診査を受診しない理由は、何ですか。(○は1つ)

1 受ける予定だったが、都合がつかなかった

2 受診方法がわからなかった

3 特に困ったことがなかった

4 もし悪い結果がでたら怖い

5 異常がある、過去に異常があった

6 検査や診察が苦痛、恥ずかしい

7 面倒

8 お金もったいない

9 すでに医療機関で治療を受けている

10 その他 ()

問 11 呉市では近年、1年間に生まれる子どもの数が減少しており、今後さらに少子化が進むと見込まれます。あなたは、少子化を少しでも抑えるために、どのような取組を充実させたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 総合的な結婚支援（出会いの場の提供、相談・支援体制の整備など）

2 出産・育児に関する医療体制の整備

3 不妊に関する総合的な支援

4 保育サービス（保育所、一時預かり）

5 子育てに係る総合的な相談体制の整備

6 子育て世帯の交流の場（サロン）の設置

7 子育てに係る経済的負担の軽減

8 その他 ()

問 12 呉市では近年、少子化が進む一方で、高齢者の数が増えており、今後さらに高齢化が進むと見込まれます。あなたは、高齢化社会に対応するため、どのような取組を充実させたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 高齢者の交流の場（サロン）の設置

2 高齢者の活躍の場の創出（有償ボランティアなど）

3 介護予防事業（介護予防教室など）

4 健康づくり活動（ウォーキングなど）

5 高齢者への声かけ訪問

6 いきいきパス（バス運賃などの優待助成制度）の交付

7 移動支援（コミュニティバスの運行支援など）

8 生活支援（買い物、食事など）

9 在宅介護サービス（デイサービス、家事支援など）

10 施設介護サービス（特別養護老人ホームなど）

11 その他 ()

問 13 性別・障がいの有無・国籍などを理由にした様々な差別があります。「差別」について、あなたのお考えに近いものはどれですか。(○は1つ)

1 差別はなくさなければならない

2 差別は出来る限りなくすべきである

3 差別があるのは仕方がない

4 差別は社会にとって必要なものである

5 分からない

問 14 身近な人が差別的なことを言うのを聞いたとき、あなたならどうしますか。(○は1つ)

1 そのことを注意し、理解が得られるよう話し合う

2 そのことを注意し、人を交えて一緒に考える

3 そんなことを言うてはいけないと注意する

4 何もしないで聞き流す

5 その他 ()

6 分からない

問 15 あなたは、次のような時、同和地区の人たちを避けたりすることがありますか。それぞれについてお答えください。（それぞれ○は1つ）

	1 意識しない	2 意識する 場合がある	3 意識する	4 分からない
1. 隣近所で生活するとき	1	2	3	4
2. 同じ団体のメンバーとして活動するとき	1	2	3	4
3. 子どもが同和地区の子供と遊んだりするとき	1	2	3	4
4. 同じ職場で働くとき	1	2	3	4
5. 従業員として雇うとき	1	2	3	4
6. 結婚するとき	1	2	3	4

問 16 あなたは、次にあげる分野で、男女の地位が平等になっていると感じますか。それぞれについてお答えください。（それぞれ○は1つ）

	1 男性の方が優遇されている	2 どちらかといえば男性の方が優遇されている	3 平等である	4 どちらかといえば女性の方が優遇されている	5 女性の方が優遇されている	6 分からない
1. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
2. 就職や職場	1	2	3	4	5	6
3. 地域活動	1	2	3	4	5	6
4. 学校教育	1	2	3	4	5	6
5. 法律や制度	1	2	3	4	5	6
6. 社会の慣習やしきたり	1	2	3	4	5	6
7. 政治や政策決定の場	1	2	3	4	5	6
8. 社会全体	1	2	3	4	5	6

問 17 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

1 同感する	2 どちらともいえない
3 同感しない	4 分からない

問 18 あなたは、お住まいの地域に住む子どもとふれあうことがありますか。(○は1つ)

- 1 ある 2 ない

→ 問 18-1 上記問 18 で 1 に回答した方のみ どのような場面でふれあっていますか。(○はいくつでも)

- 1 地域の行事（子ども会，敬老会，祭りなど）
 2 通学時の声掛け
 3 学校での活動（PTA活動，放課後こども教室など）
 4 自らの子どもと交流する子どもとの付き合い（習い事の送迎，遊びの見守りなど）
 5 その他（ ）

問 19 子どもたちの豊かな心を育むために、今後、どのような取組が必要だと思いますか。(○は1つ)

- 1 学年の違う子どもと交流する機会を増やすこと
 2 高齢者と交流する機会を増やすこと
 3 地域のよさ（自然，歴史，伝統文化など）を学ぶことができる機会を増やすこと
 4 子どもが「本物体験（音楽・芸術など）」できる機会を確保すること
 5 その他（ ）

問 20 呉市では、適正規模を目指した「学校統合」や小学校と中学校が一貫した方針のもと、子どもを育てる「小中一貫教育」などを通じて、豊かな人間性と自立心を育む「呉の教育」に取り組んでいます。更なる教育環境の向上に向けて、今後、どのような取組を進めていけばよいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 教員の増員 2 スクールバスの運行
 3 通学費の助成 4 学校統合の推進
 5 小中一貫教育の実施 6 中学校給食の完全実施
 7 校舎や体育館の整備 8 校庭の芝生化
 9 その他（ ） 10 分からない

問 21 あなたは現在、お住まいの地域で、何らかの地域活動に参加していますか。(○は1つ)

- 1 参加している 2 参加していない

→ 問 21-1 上記問 21 で 1 に回答した方のみ どのような地域活動に参加していますか。(○はいくつでも)

- 1 自治会 2 老人会
 3 女性会 4 地域まちづくり委員会・協議会
 5 子ども会 6 祭り，運動会などの世話
 7 PTA活動 8 ボランティア活動
 9 その他（ ）

問 22 今後、どのような地域活動に参加してみたいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 自治会 2 老人会
 3 女性会 4 地域まちづくり委員会・協議会
 5 子ども会 6 祭り，運動会などの世話
 7 PTA活動 8 ボランティア活動
 9 その他（ ） 10 特に参加したいとは思わない

問 23 どうすれば、地域活動に参加しやすくなると思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 活動内容や連絡先などをPRする | 2 活動団体からの声かけを行う |
| 3 世話役の持ち回りなどの負担を減らす | 4 会費の負担を減らす |
| 5 その他 () | 6 分からない |

問 24 呉市では現在、市内28の地域ごとに「まちづくり計画」を作っていただき、地域住民の手で、地域の活性化につながるような特色ある取組を進めていただいています。あなたは、このような取組を進めていくべきだと思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|----------------|---------|
| 1 進めるべきだと思う | 2 進めるべきではないと思う | 3 分からない |
|-------------|----------------|---------|

問 25 あなたは、地域の活性化や地域固有の課題の解決に向けて、地域住民による支え合いが有効だと思う取組は、次のどれだと思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 防災（防災訓練，防災マップ，物品の備蓄等） |
| 2 高齢者支援（声かけ訪問，サロン運営，買い物・移動支援等） |
| 3 子育て支援（一時預かり，乳幼児サロン，学びや遊びの場の提供等） |
| 4 防犯・交通安全（パトロール，登下校時の見守り等） |
| 5 環境保全（町内美化，植樹，花いっぱい運動等） |
| 6 地域の歴史や文化などの継承 |
| 7 地域資源を使った地域発の特産品の開発 |
| 8 公共施設の管理（まちづくりセンター，未利用市有地等） |
| 9 その他 () |

問 26 あなたの住んでいる地域では、次に掲げる災害について不安がありますか。それぞれについてお答えください。(それぞれ○は1つ)

	1 非常に不安	2 やや不安	3 あまり不安はない	4 全く不安はない	5 分からない
1 山崩れ，崖崩れ	1	2	3	4	5
2 地震	1	2	3	4	5
3 河川の氾らん，低地部の浸水	1	2	3	4	5
4 高潮・津波	1	2	3	4	5
5 建物火災	1	2	3	4	5
6 林野火災	1	2	3	4	5

問 27 あなたは、どのような防災対策を行っていますか。(○はいくつでも)

- 1 市の指定する避難所を知っている
- 2 市の指定する給水拠点を知っている
- 3 消火器を設置している
- 4 住宅用火災警報器を設置している
- 5 家の周囲の溝や川を定期的に清掃している
- 6 家族や地域で防災について話し合ったことがある
- 7 家具の転倒防止をしている
- 8 非常食・水を用意している
- 9 避難袋・ヘルメットなどを用意している
- 10 その他 ()
- 11 何もしていない
- 12 分からない

問 28 あなたは、過去3年間に、呉市を訪れた知人や親族などを、市内へ観光案内したことがありますか。(○は1つ)

- 1 ある 2 ない

問 28-1 上記問 28 で 1 に回答した方のみ どこへ案内されましたか。(○はいくつでも)

- 1 旧呉市地区 (大和ミュージアム、てつのかじら館など)
- 2 音戸・倉橋地区 (音戸の瀬戸、桂浜など)
- 3 川尻・安浦地区 (野呂山、グリーンピアせとうちなど)
- 4 安芸灘四島 (下蒲刈、蒲刈、豊浜、豊) 地区 (松濤園、県民の浜、御手洗地区など)

問 29 あなたは、呉市の観光に関して、どのような魅力があると思いますか。(○はいくつでも)

- 1 大和ミュージアムやてつのかじら館など、呉市にしかない施設がある
- 2 魚介類や「海軍グルメ」(肉じゃが、オムライス)、酒などのおいしい物がたくさんある
- 3 山、海、島といった自然の美しさを、間近に感じることができる
- 4 夜景 (イルミネーション、灰ヶ峰) や屋台など、夜の観光が充実している
- 5 江戸時代の街並みを保存した場所を歩くことができる
- 6 広島や宮島、岩国など、他都市を含めた観光がしやすい
- 7 その他 ()
- 8 特になし

問 30 あなたは、食料品を購入するとき、広島県産や呉市産などの「地元産」を意識することがありますか。(○は1つ)

- 1 意識することがある 2 意識することはない

問 31 呉市には、特色ある農水産物がたくさんあります。あなたが、呉市の特産品だと思う農水産物はどれですか。(○はいくつでも)

- | | | |
|---------|------------|------------|
| 1 みかん | 2 レモン | 3 すもも |
| 4 とまと | 5 ねぎ | 6 大根 |
| 7 タチウオ | 8 かき | 9 たこ |
| 10 マダイ | 11 ちりめんいりこ | 12 その他 () |
| 13 特になし | | |

問 32 あなたは今後、呉市の農水産業を維持するためには、どのような取組が必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

- 1 市民が積極的に地元産を購入する
- 2 農水産業の新規参入者や後継者を育成する
- 3 法人化を進めるなど、農水産業の規模を大きくする
- 4 小規模な農水産事業者を支援する
- 5 農水産物を活用した「特産品」の開発を進める
- 6 農水産物の「ブランド化」を進める
- 7 農水産物の直売施設（朝市、産直市）を設置する
- 8 農水産物の生産基盤（農業団地、水揚げ施設など）を整備する
- 9 有害鳥獣対策を充実する（イノシシ対策など）
- 10 その他（)
- 11 特に必要ない
- 12 分からない

問 33 あなたは、呉市の農水産業、農漁村に何を期待しますか。(○はいくつでも)

- 1 新鮮な農水産物・食料の供給
- 2 自然環境の保全
- 3 子どもの教育への利用
- 4 美しい景観、やすらぎの空間の創出
- 5 農漁村の伝統文化の保存・継承
- 6 市民農園や遊漁船など、体験・レクリエーションの場の創出
- 7 雇用、就業の場の創出
- 8 その他（)
- 9 期待するものはない
- 10 分からない

問 34 呉市では、造船、鉄鋼、木材、一般機械、パルプ・紙などの「ものづくり」（製造業）を核とした産業の構造となっており、多くの雇用や新しい技術が創出されています。あなたは、呉市が「ものづくりのまち」だと感じることはありますか。(○は1つ)

- 1 感じることもある
- 2 感じることはない
- 3 分からない

問 35 あなたは、呉市のこのような「ものづくり」の風土や技術について、将来に引き継ぎ、さらに発展させていく必要があると思いますか。(○は1つ)

- 1 ある
- 2 ない
- 3 分からない

問 36 また、あなたは、雇用の場の創出に向け、意欲のある企業の立地を支援する必要があると思いますか。(○は1つ)

- 1 ある
- 2 ない
- 3 分からない

問 37 あなたは、普段の生活の中で、地球環境に配慮した取り組みとして、何か行っていることはありますか。(○は1つ)

1 ある

2 ない

→ **問 37-1** 上記問 37 で 1 に回答した方のみ

具体的には、どのようなことに取り組んでいますか。(○はいくつでも)

- 1 節水、節電
- 2 資源ごみ(紙、缶、びん、ペットボトル)の分別排出
- 3 生ごみ処理機等を活用したごみの減量化
- 4 買物袋(マイバッグ)の持参
- 5 公共交通機関の積極的利用
- 6 徒歩や自転車による通勤・通学
- 7 緑のカーテンなど、壁面や屋上の緑化
- 8 省エネ家電・自動車への買い換え
- 9 太陽光発電システムの設置
- 10 打ち水
- 11 その他()

問 38 あなたが関心を持っている、あるいは気になっている環境分野は何ですか。

(○はいくつでも)

- 1 地球温暖化
- 2 自然(山・海・川・森林・生物など)
- 3 地域環境(空気・水・土壌・騒音・におい・有害物質など)
- 4 ごみ(ごみ出しルール、処理方法・費用、最終処分、野焼き、不法投棄など)
- 5 市民活動(地域清掃、資源回収など)
- 6 その他()
- 7 特にない

問 39 あなたは今後、環境を良くするために何をしたらいいと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 規制や罰則の強化
- 2 補助や減税などの誘導策(省エネ設備への補助など)
- 3 個人や企業の自主的取組
- 4 情報提供(ホームページ、市政だより、マニュアル配布、マスコミでの取り上げなど)
- 5 環境教育(自然体験、研修)
- 6 その他()
- 7 特にない

問 40 次に掲げる呉市の公共施設のうち、あなたがよく使う施設はどれですか。(○はいくつでも)

- 1 社会教育施設(まちづくりセンター(旧公民館)、図書館、野外活動センターなど)
- 2 芸術文化施設(文化ホール、美術館など)
- 3 スポーツ施設(体育館、プール、テニスコートなど)
- 4 集会所(老人集会所など)
- 5 医療施設(公立下蒲刈病院、国保診療所など)
- 6 福祉施設(児童館、保育所、さざなみ苑など)
- 7 観光施設(大和ミュージアム、野呂高原ロッジなど)
- 8 市民センター(支所窓口)
- 9 その他()
- 10 この1年くらい利用していない

問 41 次に掲げる呉市の公共施設のうち、重要だと思ふ施設はどれですか。(〇はいくつでも)

- 1 社会教育施設 (まちづくりセンター (旧公民館), 図書館, 野外活動センターなど)
- 2 芸術文化施設 (文化ホール, 美術館など)
- 3 スポーツ施設 (体育館, プール, テニス場など)
- 4 集会所 (老人集会所など)
- 5 医療施設 (公立下蒲刈病院, 国保診療所など)
- 6 福祉施設 (児童館, 保育所, さざなみ苑など)
- 7 観光施設 (大和ミュージアム, 野呂高原ロッジなど)
- 8 市民センター (支所窓口)
- 9 その他 ()
- 10 特になし

問 42 今後、呉市の公共施設の老朽化が急速に進み、維持費が増えると見込まれます。一方で、人口減少等の影響により厳しい財政環境が続く、公共施設をこれまでどおり維持していくことが難しくなる恐れもあります。あなたは、呉市の公共施設をどうしたらいいと思いますか。

(〇はいくつでも)

- 1 近くにある「同じ目的」の公共施設を1つにまとめ、使わなくなった施設を廃止する
- 2 近くにある「違う目的」の公共施設を1つにまとめ、使わなくなった施設を廃止する
- 3 地域の防災のために必要な施設など、しっかり維持していく公共施設を決めて、その他の公共施設の維持は最小限にする
- 4 行政と民間事業者が連携して、少ない経費で施設を運営できる方法を研究・推進する
- 5 大きな補修や建替えが必要となる前に事前に小さな補修をして、できるだけ公共施設を長持ちさせる
- 6 自治会などに公共施設を引き渡し、地域に運営を委ねる
- 7 開館時間の短縮などにより運営費を削減し、維持補修などの費用に充てる
- 8 税金を引き上げて、維持補修などの費用に充てる
- 9 利用料金を引き上げて、維持補修などの費用に充てる
- 10 その他 ()

問 43 あなたは、お住まいの地域(ご近所)で、近年空き家がどう変化していると思いますか。

(〇は1つ)

- | | |
|------------|----------|
| 1 増えている | 2 減っている |
| 3 あまり変わらない | 4 空き家はない |
| 5 わからない | |

→ **問 43-1** 上記問 43 で 1 から 3 に回答した方のみ

お住まいの地域(ご近所)の空き家について、どのような不安がありますか。

(〇はいくつでも)

- 1 建物等の倒壊・破損による被害
- 2 不特定の者の侵入による犯罪・火災の被害
- 3 樹木の繁茂・害虫等の発生による被害
- 4 その他 ()
- 5 不安はない

問 44 あなたは、空き家の不安を解決するためにどのような取り組みが必要だと思えますか。

(〇はいくつでも)

- 1 空き家の流通促進のための総合相談(不動産の査定, 税金, 相続問題等)窓口の充実
- 2 空き家バンク(売却等を希望する者と, 購入等を希望する者との橋渡しを行う仕組み)の充実
- 3 危険な空き家の解体費用への助成制度の充実
- 4 危険な空き家の所有者に対する, 改善指導の強化
- 5 改善がなされない危険な空き家を, 所有者等に代わり市が改善
- 6 空き家の管理は所有者等の責任であり, 積極的な取り組み必要はない
- 7 その他 ()
- 8 特になし

問 45 あなたは、呉市には、広島県の主要都市としてふさわしい施設や設備（高い水準の都市機能）が十分に備わっている、と感じていますか。（○は1つ）

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 1 感じている | 2 感じていない | 3 分からない |
|---------|----------|---------|

問 46 今後、こういった部分に力を入れて、都市機能を整備していくべきであると思いますか。
（○はいくつでも）

- | |
|---------------------------------------------|
| 1 高速道路，空港へのアクセス（幹線道路網） |
| 2 公共交通機関（バス，JR） |
| 3 大型ショッピングセンター |
| 4 市の中心部の活性化 |
| 5 災害時等に拠点となる施設（市役所，市民センター（支所，まちづくりセンター）など） |
| 6 大きな大会が開催できるスポーツ施設 |
| 7 インターネットによる届出・申請 |
| 8 その他（ ） |

Ⅲ 合併後の呉市のまちづくりについて

問 47 旧呉市と近隣8町が合併して約10年が経過しますが、あなたはどのように感じますか。
（○はいくつでも）

- | |
|----------------------------------------------|
| 1 福祉などの行政サービスが充実した |
| 2 合併前までにできなかった施設等の整備ができた |
| 3 様々な公共施設を利用できるようになった |
| 4 歴史や文化，観光地，特産品など，これまでなかった魅力が増えた |
| 5 行政のスリム化が図られ，コストが削減できた |
| 6 地域の声が届きにくくなった |
| 7 合併前ほど施設等が整備されなくなった |
| 8 イベントなどが少なくなった |
| 9 行政への関心が希薄になった |
| 10 税や各種費用の負担が増えた |
| 11 その他（ ） |
| 12 特になし |
| 13 分からない |

IV. 呉市の政策全般に対する満足度・重要度

問 48 次の表は、呉市が行っている様々な行政サービスの項目を示しています。あなたは、これらの項目について、現在、どれくらい満足していますか。また、今後のまちづくりを進めていく上で、どれくらい重要であると思われますか。あなたのお気持ちに最も近いものを、「満足度」・「重要度」からそれぞれ1つずつ選んで、○をつけてください。

項 目	満足度					重要度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
【記入例】健康づくり（ウォーキング大会，健診の受診促進，食育など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
市民生活分野										
1. 市民主体のまちづくり（地域まちづくり委員会・協議会，地域行事（祭り，運動会，町内清掃）など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2. 人権啓発，男女共同参画（人権尊重，男女共同参画に関する講演会など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3. 消防・救急，防災，災害対応（救急・消防活動，浸水対策，急傾斜地の崩壊対策工事など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4. 消費生活，防犯，交通安全（消費生活センター，防犯活動，交通安全運動など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5. 交流・連携，国際化（市政だより，市ホームページ，テレビ・ラジオ広報，国際交流広場など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
福祉保健分野										
6. 健康づくり（ウォーキング大会，健診の受診促進，食育など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7. 子育て支援（保育所，子育て支援センター，ファミリーサポートセンターなど）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8. 高齢者支援（介護予防事業，生きがい活動，いきいきパス（高齢者バス運賃助成）の交付など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9. 障害者支援（障害者の社会参加・自立の支援，交通費の助成など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10. 社会保障（生活保護，国民健康保険，介護保険など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
教育分野										
11. 学校教育（小学校，中学校，高等学校の施設管理，小中一貫教育など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12. まちづくりセンター（旧公民館）活動，青少年育成（講座の開催，青少年の非行防止啓発活動など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13. 文化活動（文化ホール，美術館，博物館の管理・運営，イベントの実施など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14. スポーツ・レクリエーション（スポーツ施設の整備，スポーツイベントの実施など）	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

項 目	満足度					重要度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない
自然環境分野										
15. 森林・川の保全, 公害防止 (河川の浄化活動, 騒音や水質・大気の汚染濃度の測定など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16. ごみ処理, 省エネ・地球温暖化対策 (ごみ処理, 資源物回収, 太陽光発電システム設置助成など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
産業分野										
17. 企業誘致, 新技術の研究開発 (企業誘致, 新産業・ベンチャー企業の育成など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18. 農業, 漁業 (遊休農地対策, 新規参入者や後継者の育成, 特産品のブランド化など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19. 観光 (観光案内・PR, イベント開催, 観光ボランティアの育成など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20. 雇用対策 (就労支援, 雇用環境の整備など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21. 商業 (商店街の活性化, 小売業, 流通業への支援など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
都市基盤分野										
22. 都市機能のレベルアップ (幹線道路の整備, 市役所・市民センターの整備, インターネットによる届出・申請など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
23. インフラ整備 (日常生活基盤) (上下水道, 身近な生活道路, 公園の維持管理など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
24. 住宅, 宅地 (居住環境の整備, 区画整理による宅地開発など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
25. 交通体系 (交通渋滞の緩和, バスなど公共交通機関の運行など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
26. 港湾 (高潮対策, 宝町旅客ターミナルの管理・運営など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
都市経営分野										
27. 行財政改革 (財政の健全化)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
28. 職員の資質向上 (職員の意識改革, 能力開発など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

あなたの性別をお聞かせください。	1 男性	2 女性									
あなたの年齢をお聞かせください。	1 20歳代	2 30歳代	3 40歳代	4 50歳代	5 60～64歳代	6 65歳以上					
あなたの職業をお聞かせください。	1 農林水産業の自営・家族従業者	2 商工販売サービス業の自営・家族従業者	3 自由業（開業医，弁護士等の個人事業者）	4 会社員・団体職員	5 会社役員・団体役員	6 公務員	7 学生	8 家事専業	9 パート・アルバイト	10 無職	11 その他（ ）
あなたの家族構成をお聞かせください。	1 1人世帯	2 1世代家族（夫婦のみ）	3 2世代家族（親と子）	4 3世代家族（親と子と孫）	5 その他（ ）						
あなたの家族（同居）をお聞かせください（該当するすべてに○）	1 0～2歳児	2 3～5歳児	3 小学生	4 中学生	5 高校生	6 大学生	7 65歳以上の方	8 1～6の該当者はいない			
あなたは呉市（合併前の旧町を含みます。）に通算して何年お住みですか。	1 2年未満	2 2年以上	3 5年以上	4 10年以上	5 20年以上						
あなたの通勤（職場）、通学（学校）先はどちらですか。	1 呉市内	2 呉市外	3 なし								
現在お住まいの居住形態をお聞かせください。	1 1戸建て持ち家	2 1戸建て借家	3 分譲マンション	4 賃貸マンション・アパート	5 社宅・官舎・寮	6 公営住宅	7 その他（ ）				

平成26年度 呉市民意識調査結果報告書

発行 呉市

編集 呉市企画部企画課

〒737-8501 広島県呉市中央4丁目1番6号

T E L 0823-25-3225

e-Mail kikaku@city.kure.lg.jp

